



ド  
リ  
ヨ  
ク  
ニ  
マ  
サ  
ル  
テ  
ン  
サ  
イ  
ナ  
シ

努力に勝る天才なし

好文学園女子高等学校  
校長 延原 観司

表紙の写真

好文学園女子高等学校弓道場にて

射手 狩野智美

(弓道部17期主将平成21年卒)



# はじめに

平成19年4月、好文学園女子高等学校（旧大阪福島女子高等学校）の校長に就任し、学校改革に着手して5年が経ちました。民間企業勤務から初めて教育界に足を踏み入れ校長になったため、わからないことや戸惑うことが沢山ありましたが、多くの教職員の理解と協力、そして、保護者会、同窓会の皆様のご支援のお蔭で、少しずつではありますが、改革の成果が上がってまいりました。大変嬉しく思うとともに深く感謝しております。校長としての初仕事であった平成19年度入学式の式辞に始まり、日々の思うところを書き綴り、「校長メッセージ好文木」としてホームページに掲載してまいりましたが、この度、5年分をまとめて冊子にいたしました。ご笑覧賜りますれば幸いに存じます。私は、大学卒業後、総合商社勤務を経て、家業の中小企業経営に携わってまいりましたが、縁あって、三度目の職場として、本校に参りました。転職により失うものもありましたが、それ以上に得るところは大きく、これこそ自他ともに認める天職だと思っております。しかしながら、改革を進める上では相当のエネルギーが必要であり、反骨精神だけが取柄で、生来楽天的な私も、気の沈むことが何度もありました。鬱々とした気分を晴らしてくれたのは、いつも生徒達でした。朝の挨拶での何気ない一言がとてもうれしく感じられました。また、入学当時は手を焼かされたにもかかわらず、卒業時には見違えるほど

成長した生徒たちの姿に、「やればできる」を実感し、新たな勇気をもらいました。今までの人生、失敗や挫折が多かった私ですが、それをなんとか乗り越えることで、人として少しは成長できたと確信しています。進学校でもなく、お嬢様校でもない本校には、大変厳しい環境の下、必死に頑張っている生徒もいます。彼女達に私の経験を基にアドバイスをすることで、勇気を与えたいと思っています。政治哲学者のジョン・ロールズは、努力しようとする意志も恵まれた育ちの産物だと言います。確かに、そう感じずにはおられない場合もあります。しかし、一方で、教師の言葉で蘇った生徒も沢山います。教師や学校は、生徒たちに経済資本を与えることはできませんが、文化資本や感情資本は与えることが出来ます。この二つが備わると経済資本や社会的関係資本の獲得も可能になります。ここにこそ、教育の価値があるのだと思います。容易に諦めてはならないと思います。

「この道より我を生かす道なし、この道を歩む」  
日々是決戦、日々是好日。



平成24年6月吉日  
好文学園女子高等学校  
校長 延原 親司

# 目次

はじめに	1
1 新入生の皆さんのチャンス・メーカーに —平成19年度入学式式辞より—	4
2 Face to Faceの会話が心と心を繋ぐ	5
3 Rule is rule.	6
4 階段に刻まれた言葉	6
5 歴史に学ぶ大切さ	7
6 「身たしなみ」の意味するところ	8
7 努力に勝る天才なし	9
8 樹木たちとの対話	10
9 闘う校長宣言	11
10 年頭所感	12
11 冬来たりなば、春遠からじ	13
12 平成19年度卒業式式辞	14
13 平成20年度入学式式辞	16
14 新緑に想う	18
15 教養ってなに？	19
16 自由と規律	20
17 天災は忘れたころにやって来る	22
18 人付き合いの要諦	23
19 過保護が自立を阻む	24
20 Finishing School	26
21 夏の終わりに	27
22 NHK大河ドラマ「篤姫」の問いかけ	29
23 歴史に学ぶ「まさか」の時代	30
24 オバマを選んだアメリカ	31
25 有為転変と決断の時	32
26 危機の時こそ必要なユーモアのセンス	33
27 犀のごとく独りゆけ	34
28 高まる相対的貧困率	35
29 オバマ新大統領就任演説	36
30 楽観主義が世界を救う	38
31 有終の美	39
32 なぜ日本史を必修にしないのか？	40
33 穩健着実—平成20年度卒業式式辞	41
34 女性の時代	43
35 平成21年度入学式式辞	44
36 我が師の思い出	46
37 紫陽花	47
38 本当に大変な「先生のお仕事」	48
39 好文パーソナルファイナンス講座	49
40 働くということ	50
41 埃を払って誇りを取り戻す時	51
42 サントリ、キリン経営統合に学ぶ	53
43 超人を目指して飛ぶ一本の矢	54
44 高学歴化のわな	56
45 教育の独立	57
46 グランドの芝生化する	58
47 人は変わるもの	60
48 センスの良さ	61
49 世相を斬る	62
50 Pride (プライド)	63
51 横道にそれる授業	64
52 時に感じて涙をそそぎ……	65
53 人生は舞台、人は役者	66
54 すたれるマナー	67
55 「坂の上の雲」を求めて	69
56 2009年を振り返って	70
57 組織と人と	72
58 心の温度を上げる	73
59 受験の思い出	74
60 オリンピック選手の資格	75
61 幸福を足元で育てる賢い人に —平成21年度卒業式式辞—	76
62 戦い終わって日が暮れて	78
63 幸せになるためのクラブ活動	80
64 たくさん失敗、たくさん挫折、そして	81
65 「之を楽しむ者」に感謝	83
66 対話篇	85
67 改めて「品格」を考える	86
68 もしドラ	88
69 満足の創造	89
70 雨の大阪城弓道場にて	91
71 最小不幸社会	92
72 好文カップ・キックベースボール大会	94
73 好文学園のマニフェスト	95
74 リーダーシップを考える	96
75 夏休み雑感	97

100	日本人のころ、日本のちから	143	126	文化祭を終えて	190	150	129	浪速の茶会	199
99	東日本大地震	143	125	調査データから読み取るべき深層	188	149	128	高1ギャップ Part 2	194
98	世相を斬る2	141	124	大卒受難の時代なれど	186	147	127	ちぐはぐな日本	192
97	もう一つの卒業式	138	123	スピーチは難しい	184		126	高1ギャップ	
	—平成22年度卒業式式辞—	137	122	ちよつとこれから厳しめに	181		125	時代劇の衰退	
96	好文学園一期生を贈る		121	嵐の前の静けさ?	180		124	教員の身だしなみについて	
95	義に懲りて膺を吹く	135	120	夏の狂歌一句	178		123	「やさしさ」からの逃走	202
94	二流と三流の差	134	119	おもてなしの心	177		122	理想と現実	203
93	雪の日に	133	118	暑中見舞い	176		121	保護者会	206
92	Nation Builders	131	117	エンジンバラ紀行	173		120	師走	209
91	人はパンのみにて生くるにあらず	129	116	「心の下流化」にストップを	172		119	新春に思う	211
90	教員養成は大学の仕事か	128	115	「心の下流化」にストップを	170		118	「学校評価は進学率で決まる」は正しいか?	213
89	お難様来る	116	114	瘦せ我慢のすすめ	168		117	大学の秋入学を考える	216
88	第二回中学校進路希望調査結果から	126	113	クールビズ再考	167		116	仕事の流儀	218
87	変わる採用環境、変わるべき仕事観	124	112	This time is different?	163		115	歪められた「好文学園	
86	教育相談と就学支援金拡大について	112	111	しあわせの島	163		114	女子高等学校、校長の理念	220
85	忙中閑あり—ばんやりの功用	118	110	「頑張る」を考える	162		113	「常識」について	222
84	新春読書雑感	117	109	「想定外」VS「想定内」	160		112	大学開園	223
83	教育は、義理と人情と浪花節	115	108	生徒指導の要諦	159		111	源として旅立つあなたに	
82	保護者会ハイキング	112	107	クラブ活動を考える	157		110	—平成23年度卒業式式辞より—	225
81	哲学の時代	109	106	小笠原流礼法の授業始まる	156		109	小中学校の留年を考える	227
80	40年ぶりの山登り	107	105	最悪を想定し、楽観的に行動する	154		108	教育資本論	229
79	—大阪府の私学助成を考える	104	104	新年度雑感—変わる教員集団	152		107	「挫折力」を身に付ける	
		104	103	—平成23年度入学式式辞から—	150		106	—平成24年度入学式式辞から—	
78	アンビバレンツな日本	103	102	運命は変えるもの、希望は作り出すもの	149		105	春爛漫から初夏の趣	230
77	文化祭を終えて	101	101	動乱の時代	147		104	コンビニの海外展開加速から半歩先を読む	234
76	学歴ロンダリング!?	99					103	「家庭教育支援条例」の意味するところ	235

## 新入生の皆さんの チャンス・メーカーに

—平成19年度入学式辞より—



新入生の皆さん、ならびに保護者の皆様、  
入学おめでとう、ございます。

本校は昭和12年4月15日、白谷吉五郎氏によ  
り「穩健着実」を建学の精神とし、大阪市此  
花区（後の福島区）に、大阪商科女学校とし

て設立され、今年で70周年を迎えます。

「穩健着実」とは、考え方が穏やかでしっか  
りしており、態度が落ち着いて軽率でないこ  
とを意味し、皆さんが、これからの人生を過  
ごしてゆく上で、極めて大切なことです。

社会に出ますと好むと好まざるにかかわら  
ず、沢山の難問に出くわします。答えは一つ  
でない場合もあります。実社会に教科書はあ  
りません。自分で考え解決してゆかねばなり  
ません。

皆さんのなかには、一見無意味に思えること  
をなぜ勉強しなければならないのかと思っ  
ている人もいるでしょう。数学が嫌いな人や英  
語が苦手な人もいるでしょう。試験で高得点  
を取るのが目的ではなく、不得意科目にも根  
気強く取り組むことによって、考える力を養  
うことが大切なのです。考えることを通じ  
て、問題解決能力やコミュニケーション能力  
が身につくのです。

「人間はひとくきの葦にすぎない。自然の中  
でもっとも弱いものである。だが、それは考  
える葦である。」とは、哲学者パスカルの言  
葉です。「葦」とは、水辺で風にそよぐス  
スキに似たイネ科の植物です。いかにもか弱い

植物ですが、これを人間に例えたのです。

人間より遙かに大きく強い肉体を持った動物  
は沢山いますが、深く思索できるのは人間だ  
けです。だから、地球上で最も栄えているの  
です。考えることをやめるということは、人  
間をやめるということです。

考えるためには学ぶことが必要ですが、最  
近、「学ぶことから逃避」している若者が増  
えています。学ばなければ、世界の広さに気  
がつかず、夢を持てず、働くことから逃避  
してしまうこととなります。

新入生の皆さん、けっして学ぶことから逃げ  
ないで下さい。そして、是非多くの本を読ん  
でください。読書は、他者の豊富な経験や体  
系立った考えを会得できる最も効果的な方法  
です。あなた方一人ひとりには、短所もあり  
ますが、長所もあります。私たちは、その長  
所を見出し、あなた方と一緒に育って上  
げて行こうと考えています。

今年から、建学の精神に加えて、新たに、  
「個性創造」(The Creation of Character)を  
スローガンに掲げました。個性を開花させる  
ためには、基礎学力の充実と、幅広い教養の  
習得が欠かせません。本年から放課後と土曜

日の補習授業を導入し、順次その強化に努めてまいります。

皆さんの中には、中学時代に失敗や挫折を味わった人もいらっしゃるかもしれませんが、諦めないで下さい。私たちは、あなた方が夢と希望を胸に、自分の未来を切り拓いて行けることを心から願って教壇に立ちます。あなた方に多くの機会を提供するチャンス・メーカーになるうと思えます。

過去と他人は変えられませんが、未来と自分を変えられるのです。あなた方の努力次第で、「やれば、できる」と信じて、これからの3年間挑戦してください。

新入生の皆様のご健闘をお祈りし、私の式辞といたします。

2

2007/5/10

## Face to Face 会話が心と心を繋ぐ

新緑の美しい季節になりました。私はこの季節が一番好きです。雨に濡れる若葉の輝き



は生命力の強さを感じさせてくれますし、夏に向けての成長を期待させてくれます。しかし、「五月病」の季節でもあります。4月に新しく入った学生や社員などが、環境になじめなかったり、やる気を喪失したりするスランプ状態に陥りやすい時期なのです。特に最近、人との関わりが上手ではない人が増えてきているように思えます。日本には昔から、「馬には乗ってみよ、人には添うてみよ。」という言葉があります。要は、まず付き合ってみる、話をしてみることだということ

とです。その付き合うきっかけは、挨拶なのです。私は今、毎朝、校門の前に立って、生徒のみなさんに、「おはよう。」と、声かけして出迎えています。一人でも多くの生徒と気持ちを通じ合いたいと願っているのです。すべての生徒が、大きな明るい声で、「おはようございます。」と、挨拶できる日を楽しみにしています。かつて、私が総合商社に勤めて間もないとき、ニューヨークの駐在員とトラブルになりかけたことがありました。当時は今のようにはパソコンが普及しておらず、メールもありません。テレックスという通信方法でした。こちらの用件をテレックスで伝えるのですが、なかなか要領を得た返事がもらえません。だんだん頭にきて、テレックスの言葉もきつくなってきました。ついに先輩に言われて、ニューヨーク支店に電話しました。電話口からは予想外にやさしい声が返ってきました。「何度もテレックスもらって悪いね。ちょっと忙しくてごめん。」この一本の電話で、仕事はスムーズに運び出しました。しばらくして彼が出張で東京本社に戻ってきたとき、はじめて顔を合わせましたが、それ以降、テレックスでのやり取りが格



段に上手く行くようになったのは言うまでもありません。今は携帯メールが主流ですが、顔の見えない短い言葉だけのやり取りは、容易に相手の感情を傷つけたり、誤解を生じさせたりするということを忘れないで下さい。どんなに科学技術が発展しても、心と心を繋ぐのは、Face to Faceの会話なのです。さあはじめましょう！ 明るく大きな声で「おはようございます」に笑顔を添えて…

### 3

2007/6/14

## Rule is rule.

新学期が始まって約2ヶ月が経ちました。中間考査も終わり、一年生も学校に慣れてきたころだと思えます。4月以来毎日、登下校時に服装チェックをしています。挨拶も含め、随分と改善されてきたと思います。そこで、今回は、校則について考えて見ましょう。

校則は、そもそも教育的指導を目的として、

各々の学校の教育方針を投影したものとして制定されています。当然、基本的人権を侵害したり、一般の社会常識から大きく逸脱するようなことは許されませんが、校則は規則正しく秩序だった学校生活を送ることを通じて、市民としての良識を養おうとするものであり、学校はその訓練の場だといえます。しかし、最近はこの「一般の社会常識から大きく逸脱した」ということの見極めそのものが難しくなっています。例えば、髪の色や制服のスカートの丈など、ファッションに影響されやすく、社会常識のほうで寛容なケースには、正直言って随分悩まされます。しかし、何事も基礎、基本ができていないと上手く行かないものですし、応用もできません。そして、基本の練習というのは大体が単純で面白くないものです。したがって、校則もまた然りではないでしょうか。

良識ある市民として将来、社会に受け入れられる為の訓練である学校生活を律するきまりが、面白からうはずもなければ、斬新である必要もありません。男子学生の丸坊主頭に戻るのは必要ありませんが、社会で認められているより、少し厳しい基準が妥当ではない

かと思えます。

消費社会に慣れきったあなた達の中には、お金さえ出せばどんなサービスも受けられるし、気に入らなければ、何でも拒否する自由があると勘違いをしている人はいませんか。「自由」、「権利」、「義務」の意味も自分たちに都合の良い使い方をしていませんか。自由を謳歌する権利は、自分の義務を果たし、他人の権利を尊重できる人へのみ与えられるものなのです。このことは学びの中から認識できることなのです。学ぶとはまねるが語源です。学びの途中にあるみなさんは、先ず、ルールに従って先人のやり方を真似ることから始めなければなりません。だから私は、Rule is rule.と言い続けようと思います。

### 4

2007/7/11

## 階段に刻まれた言葉

私が卒業した中学校の裏手には、弥生時代の遺跡がある会下山えげやまという小さな山があり、



ハイキングコースになっています。私が中学生のときには、体育の時間のマラソンでよくこの会下山に登ったものです。校舎から会下山の入り口までかなり急な階段があり、一段一段に文字が刻まれていました。文字を繋げると、「苦しみを乗り越えてこそ、人として成長する」という言葉になりました。いつも一文字、一文字、唱えるように口に出して登っていったことを今でもよく覚えています。昔から、「苦は楽の種」と、言います。世の中は相対する現象や概念から出来ています。プラスとマイナス、昼と夜、暑さと寒さなど。苦があればこそ楽があります。不安があるから安心を感じることができません。我慢するから楽しさも倍増するのです。最近ほ、

この苦しさ、不安や我慢などから、ひたすら逃げよう、避けようとしていて、一步も前に進めず、立ち尽くしてしまう、とても「傷つきやすく、折れやすい」繊細な人が多いように思えます。小説家の五木寛之さんは、大切なことは、「あきらめる」事だと、対談集「弱き物の生き方」に書いています。「あきらめる」とは、明らかに究めることで、現実を直視すること。究極のマイナス思考から出発せよと言います。また、不安を感じるからこそが人間の本当の姿であり、不安を受け入れることで、不安は希望になり、人を支えてゆく力になるとも。五木さんは12歳のころ、満州でソ連軍の侵攻に遭い、病気で寝ている母親をソ連兵が軍靴で踏みつけて乱暴狼藉を働くのを見て、現地の学校の校長をしていた父親が、無抵抗で見ているしかないという状況に遭遇しています。その後も幾多の過酷な経験をするのですが、それだけに、彼の文章には、人間の弱さを知り尽くした上での優しさと強さを感じます。「強くなければ生きられない。優しくなければ生きる価値がない。」とは、私の好きなことばです。強さと優しさという一見対立するように見えるもの、どう両立さ

せるかが人間力なんでしょうね。久しぶりにもう一度、会下山への階段を登ってみようと思います。

5

2007/8/21

## 歴史に学ぶ大切さ

8月6日は広島に、9日は長崎に原爆が投下された日です。毎年この時期になると、慰霊祭が行われます。井伏鱒二の「黒い雨」、中沢啓治の「はだしのゲン」はこの原爆体験を描いた小説です。野坂昭如の「火垂の墓」を読んだり見たりして涙を流した人は多いでしょう。ナチス・ドイツ政権下の捕虜収容所体験を描いたヴィクトル・E・フランクルの「夜と霧」も読み継がれてきた名著です。私たちはこのような本を読んだり、ドラマを見たりする事によって、過去に何が行われたかを知り、戦争の悲惨さと愚かさに改めて気づきます。塩野七生さんの「ローマ人の物語」を読みながらカエサルリーダーとして



の偉大さと、ローマ帝国の寛容さを知れば、現代の帝国、アメリカの世界戦略との比較にも大変興味深いものがあります。信長、秀吉、家康の三人は、経営者はいかにあるべきかを論ずるときに、必ず出てくる人物です。以前、テレビの番組で、東大生の「過去のことを勉強する歴史なんか学ぶに値しない」と、言うような発言を聞いた事があります。東大生も落ちたもんだと情けなく思ったものです。彼は、「歴史を学ぶ」ことと、「歴史に学ぶ」ことの違いをわかっていなかったの

です。受験勉強でのみ、世界史や日本史を学んできた弊害でしょう。日本では受験のための歴史勉強はほとんどが年表の暗記と言ってもいいような無味乾燥なものです。欧米では違います。歴史上の人物になりきって自分の意見を書かせたり、自分ならどのような政策をとったか、その理由は何か等、論述させるのです。ここには、過去の歴史的事実をしかりと押さえること、すなわち「歴史を学ぶ」ことから、その歴史的事実からの教訓と現代的意義の発掘という「歴史に学ぶ」ことへの移行があります。時には一人の傑出した英雄が時代を変える場合もありますし、大衆が時代を変えるときもありますが、歴史に学ぶという事は、人間を学び、人間に学ぶという事です。歴史の主人公はあくまで人間なのです。アメリカの経済学者、ガルブレイス教授の「バブルの物語」には、バブル経済がどのように膨らみ、どのようにはじけたかが、オランダのチューリップ投機から現代の不動産投機まで詳しく書かれています。全く同じ歴史は繰り返されませんが、人間は同じような場面で同じような行動をとるものだという事が良くわかります。西洋の諺にいわ

く、「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」と。歴史に学ぶことは、人間通になることです。

6

2007/9/06

## 「身だしなみ」の意味するところ

広辞苑によると、「みだしなみ」とは、「身嗜み」と書き、①身の回りについての心がけ。頭髮や衣服を整え、ことばや態度をきちんとすること。②教養として、武芸・芸能などを身につけること。また、それらの技芸と、あります。本校では、4月からこの「みだしなみ」の良くない生徒には辛抱強く繰り返し繰り返し繰り返し注意を喚起し、直すよう指導してきましたが、まだ理解が足りない人がいますので、改めて私の考え方を述べたいと思います。学校は「学ぶ」ところです。学びたくない人は来る必要はありません。その人の生きる道は他にあります。身なりを整え、丁寧な態度・言葉遣いをもってこそ、人からもの

を教わる、学ぶ姿勢というものです。クラブ活動の武道や技芸においてあたりまえのことが、教室においてないがしろにされていることは情けない事だと思えます。「みだしなみ」を整える事は、これからすることに對する真剣さを表すことです。進学や就職時の面接で、だらしない格好や横柄な態度を取ったならば、真面目に勉強や仕事をしようしているとは誰も考えません。当然、合格できません。自分自身が損をするだけではなく、そのような生徒が街を歩くと、学校全体の評価が低くなります。その結果、真面目に進学や就職をしようと努力している人たちにまで大きな迷惑をかけることになるのです。「あのよ

うな服装や態度の生徒がいる学校から、人は採りたくない。」と、なつてしまい、指定校や求人を取り消しにつながります。他人の選択の自由を奪う事になるのです。自分自身の人生を棒に振るのはその人の勝手といえましょう。他人の人生まで奪う権利は何人にもないのです。ですから私はいつまでも身嗜みを整えない生徒を許すわけにはゆかないのです。「みだしなみ」が良くないからといって、決してその人の人格を否定するもの

ではありません。茶髪や埴輪ルック（ズボンの上にスカートをはく）の子供でも、心根の優しい人はいます。でも残念ながら、「人は見た目が9割」なのです。第一印象で判断されて道を閉ざされてしまつてよいのでしょうか。短いスカートをはいたり、茶髪にしたり、汚い言葉を使う自由と「自立して社会に貢献できる」生きがいある人生への切符と、あなたならどちらを選びますか。



7

2007/10/15

## 努力に勝る天才なし

人の交わりには必ずから気心の合う合わないがあるが、それもみな不思議な縁によるものといわれます。私がフアミリー・カンパニーの役員をしていた時、メイン・バンクの担当者に面白い若者がいました。事務所に来てもあまり仕事の話はせずに、世間話を好むタイプで、私たち年長者から色々話を聴きたいという姿勢でした。普通、担当が転勤すれば付き合いはなくなるものですが、彼とは気が合い、今まで十数年にわたり続いています。彼は昨年、30歳後半で、大手一流銀行を中途で退職し、神戸大学の法科大学院に行き、司法試験（日本で最難関の国家試験）合格を目指すことになりました。銀行在籍のときは、選抜試験に受かりロンドン大学のビジネススクールに留学しMBA（経営学修士号）を取得しています。法科大学院受験時のTOEIC（国際コミュニケーション英語能

力テスト)の得点はなんと満点だったそうです。これだけ聞くと、すごく頭の良いエリート像が目に見えそうです。でも違うんです。本人には少し失礼かも知れませんが、決してエリート然とした感じではなく、むしろほのぼのとした雰囲気を出すタイプの人です。彼は高校を出て一旦、自動車工場で働いたそうです。工場での流れ作業に飽き足らず大学進学を志し、私立大学の文学部に入ります。彼の話によれば、この時点で、アルファベットをAからZまできちんと書けなかったそうです。大学に入り、英語に興味を持ち英語のクラブに入り、毎日2時間読んだ、2時間書き、2時間話し、2時間聴いたそうです。つまり、毎日英語を8時間勉強し続けたそうです。その甲斐あって、英語の達人となり、かれの経歴では正直言って、入るのが難しい大手銀行に入行できたのです。採用担当者もなかなか見る目があったなと思います。ロンドン大学ビジネススクール留学後、ニューヨーク支店に転勤となり、彼の地でバリバリ仕事をしていた時に、あのニューヨークのツウインタワー、世界貿易センタービルに航空機が突っ込んだテロ、9・11に遭

遇しました。80階のオフィスから階段を降りきり、ビルから離れたとき、まだ多くの同僚が残るビルが崩壊したそうです。その後日本に戻り、仕事を続けていましたが、拾った命、もう一度自分の力を試したいと思ひ、奥さんと小さな子供もいるのに、一流銀行でのある程度確保された生活を捨てて、司法試験に挑戦することにしたのです。彼はきっと成功すると思います。そしておそらく良い弁護士になると思います。彼は元々「頭が良かった」から、ここまで来たのでしょうか。確かに頭は悪くはないでしょうが、何よりも人一倍の「努力家」であることは間違いありません。私は彼を見ているととても励まされます。よき友人を持つ事は人生の宝です。発明王エジソンは、「天才とは1%のインスピレーション(靈感による思いつき)と99%の努力である。」と、述べています。「努力に勝る天才なし。」ですね。

今、私の庭で桜がちらほら咲いています。こんな時期に桜なんてと、思うでしょうが、これは十月桜という種類の桜です。秋から冬にかけて花を咲かせ、春には満開になります。「一葉落ちて天下の秋を知る。」と言いますが、桜が咲いて秋を知るのもいいものです。10年ほど前の夏、信州の山小屋で暫く過ごしたことがありました。日中でも林の中に一歩入ると気温が下がりがり涼しく、夜は高い木々に包まれてぐっすり眠る事ができ、木の有難さを実感しました。森や林のなかでは、植物が細菌等の微生物を抑制する化学物質であるフィトンチッドを発生しこれが森林浴効果をもたらすそうです。それ以来、すっかり木の虜になり、殺風景だった小さな庭に少しずつ色んな木を植えてゆきました。着物の袖を広げたようにドレープが美しいヒマラヤ杉、幹の皮がどんどん剥がれて赤みを増し

8

2007/11/15

## 樹木たちとの対話

ながら成長する赤松、春には白い花を咲かせるなんじやもんじや、5月ごろ花を付ける采振木、紅葉や楓、樺などは夏には青葉で木陰を作ってくれ、秋は色とりどりで目を楽しませてくれます。あずきなしの木には赤い実をついばみにシジュウガラやメジロ、ヒヨドリなどが遊びに来ます。春から夏にかけては、つくばいに水を張っておくと、小鳥が行水に来ます。先日も低い樅の木に鳥がきれいに巣を作っていたのを発見しました。もう子育てを終えた空き家のようにでしたが、なんだか嬉



しくなり、そのままにしています。小さな空間ですが、木を植えたことで世界が変わりました。落葉樹は葉を落とすと同時に新しい芽をつけています。常緑のシイなどは一斉に古い葉を落としやわらかい若葉に替わります。常に新陳代謝を繰り返して成長してゆく樹木たち。人もかくありたいと思います。幹が分かれている木は、どちらかの幹が弱ってくる場合があります。思い切って弱ってきた方を切りますと、木が元気を取り戻します。花のつけ方も年によって違います。一昨年の春は山桜と十月桜は沢山花を咲かせてくれましたが、今年はさっぱりでした。まだ植えて3年ぐらいですから、本調子ではないのだろう、力をためているんだろうと思っています。子供の成長を見守るような気持ちです。枯れてしまった木もありますが、そのときは土地に合わなかったのだらうと思いつつも寂しい気持ちになりました。「それぞれ多少の我慢を強要され、そして競争しながら実は限られた空間で共生している。これが健全な生物社会の姿である。」とは、植物学者の宮脇昭さんの言葉です。今では少なくなった鎮守の森の雑木林こそ、最も理想的な植物の生態的な最

適域だといえます。小さな庭の樹木たちとの四季折々の対話は、教わる事が多く楽しいものがあります。西行法師は「願わくば、花の下にて春死なむ、その如月の望月のころ」と詠み、念願どおりの終焉を迎えたと言います。私も西行法師にあやかりたく、いまだか細い山桜の成長を楽しみにしています。

9

2007/12/14

## 闘う校長宣言

いよいよ12月、今年も残り少なくなってきました。来年度の生徒募集に向けた学校説明会もいよいよ大詰めとなりました。今年の参加者は毎回昨年を上回っており、特に保護者の参加が多く、本当に有難く思います。それだけ多くの方が本校に関心を持って下さっているのでしょう。私は教職にはありませんでしたが、生徒として、社員として、経営者として、そして、親として歩いてきた中で、何よりも「努力」の大切さを身にしみて感じ



ています。その気持ちを率直に表して、保護者の皆様に、教育の目的が「自立」であること、何をするにも「型」が大切で、基礎学力と社会に通用するマナーと教養が不可欠であることを、繰り返し、お話しさせていただいておりますが、皆さん熱心に聴いてくださっており、大変有難く思うとともに、責任の重さに身が引き締まる思いでおります。様々な理由で退学してゆく生徒を見送るのはさびしいものがありますが、一方で、入学当初とは打って変わり、やる気を出して登校してくる生徒の輝く笑顔に出会うととてもハッピーな

気持ちになります。イギリスの教育哲学者 ウィリアム・アーサー・ワードは次のように言っています。「凡庸な教師はただしゃべる。優れた教師はみずからやってみせる。本当に優れた教師は生徒の心に火をつける。」なかなか含蓄のある言葉です。私もひとりでも多くの生徒の心に火をつけることが出来るように日々精進を重ねてゆきたいと思えます。新生、好文学園に対する期待に応えるべく、そして「努力する人が報われる学園」を目指し、恐れず、怯まず、囚われず、学園の改革に進めたいと思います。

10

2008/01/11

## 年頭所感

元旦の日経新聞一面トップ記事は、新しい年の先行きを予測する上で、大変興味深いものがあります。今年には「沈む国と通貨の物語」と題し、BRICs諸国の台頭と日本の

地盤沈下、円の価値の低下についての特集でした。この記事を目にし、11年前、1997年の元旦のやはり一面トップ記事、「2020年からの警鐘」（日本が消える）を思い出しました。当時はバブル崩壊後のいわゆる失われた10年の真只中で、秋には山一証券の自主廃業や北海道拓殖銀行の経営破たんがありました。また、神戸で児童殺傷事件が起こった年です。登り坂と下り坂の他に「まさか」という坂があると、言われますが、その後はまさにこの「まさか」のオンパレードでした。そして着実に日本社会の劣化が進んでいます。11年前と比べると、世界情勢にも大きな変化の兆しが感じられます。政治経済における中国のプレゼンスの高まり、中東諸国、ロシア、ブラジルなど資源国の著しい経済成長。一方、スーパーパワーとしてのアメリカは、基軸通貨ドルの信認に翳りが見えています。米ソ対立からアメリカの独り舞台を経て、米・欧・中の三極時代に向かっていきます。情報通信技術の進歩は留まるどころを知らず、ますます便利になる反面、デジタル・デバイドと言われる情報新技術を使いこなせるかこなせないかによって生じる経済

格差やマルクスが資本論のなかで述べた人間疎外の状況が顕著になってきました。年間3万人を超える自殺者、青少年のうつ病など先進国の中でも結構深刻な社会状況を呈しております。高学歴化の進展に伴う学力の低下、マナーや社会常識の劣化は、行過ぎた豊かさが、「衣食足りて、礼節を知る」を乗り越えて、「豊かさに敗れる」状態をもたらしているのではないのでしょうか。渡辺京二氏の「逝きし世の面影」(葦書房)には、明治初期のジャパノロジスト、チェンバレンの次のような言葉が紹介されています。「この国には



貧乏人は存在するが、貧困なるものは存在しない。」平成日本は、貧困なる精神に覆われています。もう一度謙虚な気持ちに立ち返り、努力と勤勉、思いやりと情熱を取り戻さねばならないと思います。そして厳しい現状を直視し、「最悪を想定して、楽観的に行動する」ことこそ、国家が、組織が、個人が、競争社会を生き抜いてゆく知恵ではないのでしょうか。

11

2008/02/04

## 冬来たりなば、 春遠からじ

受験の季節、本校でも今年はセンター試験に挑戦し、一般入試にチャレンジしている生徒がいます。二年半、目一杯クラブ活動に汗を流し、就職予定を急遽変更し、三年生の夏休みから大学受験に向けた猛勉強を開始しました。かなり遅いスタートでしたが、放課後、講師の先生に英語を見てもらい、予備校に通う半年を駆け抜けました。一月末から二

月半ばにかけての二週間が勝負です。「勉強がおもしろくなりました。夜遅いのが少ししんどいですが、楽しいです。」と、笑顔で話す彼女に、30年前の自分の姿がダブりました。私は勉強嫌いでしたし、要領も悪かったので、浪人し漸く大学に入ることができましたが、英語、国語、日本史の勉強は、今思い出しても確かにやりがいがあり、楽しかったです。「わかること、できることが勉強を楽しくする」とは、まさにその通りだと思います。一方で授業が解からないことはつらいです。高校の時、数学が全くできませんでした。まじめにやろうともしていなかったのも事実です。そのせいか、未だに試験の夢をよく見ます。授業に出てなかったり、解からなかったり、「ああ、このままでは単位を落としてしまう。どうしよう。」と、そこで目が覚めます。理数科が弱くなっている日本の教育を変えねばならないという議論を聞くたびに、耳が痛くなります。わが身を振り返ると、彼女は偉いなどつくづく思います。厳しい寒さの中、必死でペンを走らせている姿が目につかびます。「頑張れ、頑張れ」、祈る毎日です。



## 平成19年度 卒業式式辞

三年生のみなさん、ならびに保護者のみな様、ご卒業おめでとうございます。今日は朝から雷が轟き雨が降りましたが、春雷は春の到来を伝え、農作物に恵みの雨をもたらす大変めでたい雷とされています。みなさんの卒業式にふさわしい一日の幕開けであったと思います。私が学校長としてみなさんに接することができたのは、わずか一年でしたが、校門での挨拶、授業参観、クラブ見学を通して、沢山のひと話をする事ができ、大変有意義な一年であったと思います。昨年四月から毎朝夕、校門指導を行ってきました。急に厳しくなったことに戸惑いを感じた人も多かったと思います。しかし、君たちの将来を見据えた指導であったことを理解してください。外部評価は着実に高まっています。「学校の雰囲気が変わりましたね。挨拶をしてくれる生徒が増えましたよ。」と、褒めてくだ



さるお客様が多くなりました。学校とは何でしょうか。校舎のことを指して言うのでしょうか。教職員のことでしょうか。学校とは生徒そのものです。学校の評価が高まったという事は、あなた方生徒の評価が高まったという事に他なりません。きちんとした挨拶と身だしなみは、社会人として不可欠の要素であり、自分を高め、自分を大切にすることに他なりません。どうかこのことを忘れないで下さい。

さて、日本は戦後の右肩上がりの高度経済成

長を経て、少子高齢化の成熟社会へと足を踏み入れました。一方、情報技術の進歩は、グローバル化とポータル化を推し進め、世界的な格差社会、競争社会の出現を見るに至っております。発展途上国と言われた中国やインドの追い上げも激しく、以前はかなり高度な知識や技術が要ると思われていた仕事ですら、これらの国々の人に取って代わられています。アメリカでは簡単な税務申告の業務は、インドで行なわれ、当局との難しい交渉が必要なものがアメリカ本国の税理士が担当するようになっていくようです。これからみなさんはこの競争社会で生き抜いてゆかねばなりません。そのためには、専門技術を身につけるだけでなく、常に自分の頭で物事を考えること、他者とのコミュニケーション能力を高めること、そして、社会に通用する常識と教養を身につけることが大切です。人間は社会的動物であり、他者との係わりの中で生きてゆくものですから、摩擦やストレスは付き物です。これらから逃げ回るのではなく、これらと上手く付き合うことを考えるべきだと思います。私たちには幾つになっても知らないことは沢山あります。「無知の知」、

「知らないということを知る」ことから、常に学ぶ姿勢が生まれます。慶応義塾の創立者、福沢諭吉は、「学問のすすめ」を著し、「人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と、言うが、世の中には富める人と貧しい人がおり、賢い人と愚かな人がいるではないか。これは学ぶと学ばざるとによりて出来るものなのだ」と、言っています。また、「出来難きことを好んで之を勤むるの心」の大切さを説いています。ある生徒が、私に次のような話をしてくれました。「クラブ活動を通



じて、自分がこれでいいだろうと思ったことを、顧問の先生から、まだまだ十分ではないと、何度も指摘されてきましたので、出来なくとも諦めず、何度も挑戦する癖がつきました。ですから右も左もわからずに大学受験体制に入った時も、わからなかった勉強がわかるようになったことが嬉しく、挫けず挑戦できました。勉強が楽しくなりました。」と。この生徒は、3年生の一学期まで、しっかりとクラブ活動を行い、夏休みから急速、大学受験に向けて猛勉強を始めました。かなり出遅れたスタートでありましたから、第一志望には手が届きませんでした。第二志望には見事一般入試で、合格を果たしました。「大学に入ったら、今度は海外留学も目指します。」と、夢を語るその眼差しは、冬の青空の如く、澄み渡り凜としておりました。教師とは教え、教わるものだということを、実感いたしました。これこそまさしく福沢諭吉の説く、「賢人と愚人と別は学ぶと学ばざることによりて出来るものなり」、「出来難きことを好んで之を勤むるの心」の実践ではないでしょうか。そしてもう一つ大切なことは、容易に「諦めない」と、言うことです。我が校

歌にも「真理の底を究めなむ」とあるとおり、物事を明らかに究め尽くしたその先にこそ、諦めはあるべきです。一年生の時からこつこつ勉強してきたにもかかわらず、三年生の二学期になって、重い病気に倒れながらも決して諦めずに頑張り、今日の卒業式に参列した生徒がいます。その諦めない強い意志と頑張りにより深い敬意を表するとともに、一日も早い全快を心から願うものであります。本校は4月から好文学園と名を変えますが、好文学園の新しいキヤラクターや応援歌も君たちが残してくれました。吹奏楽部の復活や生徒会の活性化にも尽力してくれたのは君たち三年生です。このような素晴らしい生徒を大阪福島女子高等学校の最後の卒業生として送ることが出来、私は誇りに思います。これからも「学ぶ」姿勢と向上心を持ち、競争社会を生き抜いて下さい。「強くなければ生きられない。優しくなければ生きる価値がない。」私の好きなレイモンド・チャンドラーの言葉を添えて、君たちの未来に幸多かれと祈りつつ、私の式辞と致します。

## 平成20年度 入学式式辞

新入生のみなさん、保護者のみなさま、ご入学おめでとうございます。新生、「好文学園」へ、ようこそお越しくございました。お祝いを申し上げるとともに、心から歓迎いたします。昭和12年の設立以来71年目を迎え、



「好文学園」と校名を変更いたしました本校は、今、改めて女子教育の重要性を強く認識しております。日本は先進諸国の中でもひときわ少子高齢化が進んでいる国です。女性の社会進出は否応無く促進されるでしょうし、時代を担う子供たちを慈しみ育む母親の役割がより重要になってくることは論を俟ちません。「自立して、社会に貢献できる女性を育てる」ことこそ本校の使命と考え、教職員一丸となって使命遂行に邁進する所存です。

さて、私たちを取り巻く環境は、世界の趨勢であるグローバル化により、「1億総中流社会」から「競争社会」、「格差社会」へと変貌を遂げつつあります。東京学芸大学の山田昌弘教授は、ニューエコノミーの進展が職業の二極化をもたらし、高度成長期に見られた、職業の保障や階層上昇期待が失われ、将来不安とやる気の喪失が蔓延し、「勉強しても仕方が無い」と言う諦めが、学力低下を招いていると指摘されています。この諦めは正しいのでしょうか。本校はこのような社会の空気に対し、はっきりと「NO」と言います。「文を好めば則ち梅開き、学を廃すれば則ち梅閉づる」の故事に倣い、校名を「好文学園」に

改めた趣旨はそこにあります。古今東西いついかなる時も、人は学びを通じて進歩と発展を確かなものとしてきました。学びを忘れたとき、それは人がサルに戻るときです。勉強しても仕方が無いということはありません。それは努力しない人の言い訳に過ぎません。階級社会の象徴のように言われる英国においてすら、教育による階層の移動は、日本より大きくなっています。皆さんの中には、難関大学進学を夢見て本校に入学してきた人もいれば、中学時代に挫折を感じ目標を失いつつ



も本校を選んだ人もいるでしょう。私は、どの人にもはっきりと言えます。「学べば人生が変わる」と。私は1年間、この目で見てきました。気付きを通じてまじめに努力した生徒がどれだけ成長したかを。好文学園はあなた方にチャンスを与え、ともに学び、夢をかなえることができる学校です。学ぶとは勉強だけを意味するわけではありません。読書や部活、学校行事を通じて、知識を増やし、広く世界に目を向け、コミュニケーション能力を養って下さい。

太平洋戦争さなか、アメリカ人のルース・ベネディクトは、日本研究の書「菊と刀」を書きました。そのなかで、西洋が、神に対する罪の文化であるのに対し、日本人は他者に対する恥の文化を大切にすると分析しています。私はどちらの要素をも併せ持つ道徳心が必要だと思っていますが、最近、人の目すら気にせず、外でも自分の家の中で寛いでいるような行動をしている人をよく見かけます。電車の中で化粧をすることが、恥ずかしいと思わない空気、いつでもどこでも平気で、飲み食いをしたり、携帯でおしゃべりしているにも注意しにくい空気、これを学校に蔓

延させてはなりません。私はこれにも「NO」と言います。日本は世界第二位の経済大国になりましたが、礼儀作法や学ぶ姿勢を忘れつつあります。まじめでなくなりつつあります。まじめさを小ばかにし、一攫千金を夢見る軽薄な風潮は、けして人を幸福にはしません。明治初年といえは今から140年程前になりますが、そのころ貧しかった日本を訪れた外国人チエンバレンは、日本人の礼儀正しさや勤勉さに感心し、「この国には貧乏人はいるが、貧困なるものは存在しな



い」と、言いました。経済的に貧しくとも、自然との共生の中で、協力して働く姿に、精神的な豊かさを感じたのです。これに反し、今の私たちは、豊かさに敗れつつあります。好文学園は、原理・原則に返ります。しっかりと基礎学力をつけます。礼儀やマナーも身につけていただきます。けっして難しいことでも堅苦しいことでもありません。人として、女性として、将来社会に出てきちんと生きて行けるための基礎を学んでください。穏健着実な人生を歩めるように。今日から私と一緒にあわてず、あせらず、ゆっくりとしかし着実に歩いていきましょう。校長室はいつもオープンです。悲しいとき、困ったとき、いつでもお話を聞きます。皆さんが好文学園の第一期生として本校での有意義な3年間を過ごせることを祈りつつ私の式辞といたします。

## 新緑に想う

新緑の季節となりました。この季節、花粉症でお悩みの方も多と思いますが、私はこの眩いばかりの芽吹き季節が大好きで胸が躍ります。桜が散り始めると紅葉が若葉を出し始めます。縮んだグーを大きなパーに、手



を広げてゆくようで、葉が出揃った時は「やった」と、言う感じがします。校長室の前の運動場にイチヨウの木が5本あります。今はどれも同じように青々と葉を付けていますが、同じ条件と思われる場所に植えられているにもかかわらず、葉が出る時期には遅い早いがあります。北館の前の藤棚の藤も、今年には白い花をつけています。下に入るとほのかに匂います。前の事務局長から、「藤だと聞かされていたんですが違うみたいで、全然花をつけないんですよ。」と、聞いていましたので、これまたちよつと嬉しい気がします。しかし、この藤棚、新館の建設と東館の解体が終わり、運動場整備に入る時、取り壊す予定になっています。我が身の運命を悟り、有終の美を飾らんと花を咲かせたとすれば、哀れに思います。完成した弓道場の芝生も、東館の二階、三階あたりから見ると、夜ライトに照らされてきれいです。弓道部員はこれから芝生の手入れが大変です。しかし、誰からかは忘れましたが、「世の中に雑草と云うものはないんですよ。みんな名前をもっている植物です。」と、教わったことがあります。新校舎がだいぶ出来上がってきまし

た。中を覗いてみましたが、ちよつと狭い感じがします。運動場の広さを確保する要望が強かったのでやむを得ず、以前の校舎の幅にしましたが、一日の中で最も過ごす時間が長い場所をもっと広くしたかったと思います。運動場の確保もさることながら、木と緑はもっともつと増やしたく考えます。自然と共生していた人間が文明に押しつぶされています。携帯で人を傷つける言葉を送り合う暇があるなら、芝生の運動場で、バトミントンに興じたり、大きな桜や紅葉の木陰でみんな



## 教養ってなに？

お弁当を食べられたら、どんなにか心が和むことでしょうか。花が咲いても気がつかず、枯れ葉が落ちるからといって色づく前に枝を切る、何とも趣の無い世情。「いとおかし」が解せるかどうかは日ごらの生活環境に大きく左右されます。教科書で教えて解るものではないですね。

私は本校の教育方針の重点項目の一つに「女性としての教養とマナーの習得」をあげていますが、先ごろ、ある教員から「校長の言われる教養とは何を意味するのですか」と、言う質問を受けました。生徒からの質問なら解るのですが、教える立場の人間から今更こんな質問をされるとは驚くとともに、現代は教養から程遠いところにあるのだなと痛感した次第です。そこで、今回は「教養とはなにか」改めて私の考えをお伝えしたいと思います。

います。芸術や文化に精通しているという意味で「教養のある人」とか「教養豊かですね」等と使われる場合がありますが、広辞苑によれば、教養とは、単なる学殖・多識とは異なり、一定の文化理想を体得し、それによって個人が身につけた創造的な理解力や知識のことを言うとあります。狭義の意味での教養は、ラテン語の *Artes Liberales*、即ち英語の *Liberal Arts* を指します。日本では一般教養などと訳されますが、実際は、古代ギリシャ・ローマ時代に主流であった言語に関する三教科、文法・論理学・修辞学と、自然を讀み解く四教科、天文学・算術・幾何学・音楽の七教科のことです。これらを学ぶことによつて、人間を知り、自然を知り、生きる羅針盤としたのです。そして、教養は英語の *Culture* (文化) やドイツ語の *Bildung* すなわち英語では *Biding* につながり造り上げるという意味にもなります。従つて、教養の目的とするところは、ただ単に難しい学問を修めたり、芸術・文化に精通したりすることではなく、それらは手段とはなり得ますが、自分を修めることであり、しっかりとした考え方を持った自立した人間を創り上げることだ

と言えます。ですから、高学歴でもなく、伝統芸能や文化に造詣が深くない市井の人のなかにも教養人はいるのです。きちんと挨拶ができ、質素でも身嗜みがよく、人の話をよく聞き、人に親切で、そして自己の信念を持っている人。有難いことに、私たちは学ぶチャンスを与えられているのですから、それを最大限活用し、真の教養人を目指さなければもったいないと思います。私はここからの世の中は、英語力とコンピュータリテラシそして金融知識が三種の神器になると思っていますが、ただ単に英語が上手い英語屋ではだめです。自国の文化や伝統、思想をどれだけ理解しているか、そして寄つて立つ軸を持っているかが大切であり、そのバックボーンが



あつて初めて対等に外国人とコミュニケーションができます。以前、ある商社マンから聞いたのですが、海外駐在時、スペインの皇族の方と話をする機会があり、日本の歴史の話になり、その方から、「関が原の合戦のときの、石田三成の心境はどうであったと思われるですか？」との質問を受けて、驚いたとのこと。ここまでではないにしても、ビジネス仲間でも、政治や経済問題について話をする場合、日本人としての意見を求められます。ですから、日本人としての自覚が無いと、話ができません。私たちはもっとよく自分の国のことを知る必要があります。これも教養人として必要なことです。だから、歴史に学びなさい、本を読みなさいと、勧めているのです。私がよく使う「努力する人が報われる学園を目指して」に関しても、「努力する人が報われる」とはどういうことかよく解らないとの意見がありました。「努力する人が報われる」ということは「努力しない人は報われない」ということに他なりません。一所懸命に頑張っている人と、いい加減にしている人が同じ評価を受けるのはおかしいと思います。私は努力を問うていますが、現実の

社会はもっと厳しく成果を問います。私が総合商社に勤務していたとき、上司から、「額に汗して成果なしやだめなんだよ」と、しばしば注意をされたものです。考えてみれば、私たちは小学校のころから今に至るまで外部の評価を受けてきています。それによって、入学試験や入社試験の合否が決まりました、会社に入ってから昇進や給与、ボーナスに差がついたり。しかし、これと無縁の社会が存在しています。子供たちに競争社会で生き抜いてゆける力を授けることが私たちの使命だと考えておりますが、現実の競争社会に子供たちを送り出す者が、自らは評価されていないと言うのは矛盾ではありませんか。説得力がありません。ここに私が言う、教育現場も実社会から遊離してはいけぬ理由があります。先生方にはもっと実社会に精通していただきたく考えております。私が教育方針を定めて、既に1年以上経過し、その意味するところを十分理解し、多くの先生方が一生懸命努力されており、外部からも先生方の変化を賞賛する声があります。誠に嬉しい限りです。先生が変われば生徒が変わり、学校が変わります。でも、慣れ親し

んだ環境から脱し、長年やってきた方法を変えたくないのが人情です。「人は自分が見たいと思うものしか見ないものだ」とは、カエサルという言葉です。「敵は自らの心の中にあり」だと思います。変化に対応する柔軟さと勇氣もまた教養の一つではないでしょうか。

16

2008/05/09

## 自由と規律

ゴールドンウィークの休み中に、岩波新書の池田潔著『自由と規律』を読みました。以前、藤原正彦氏が『国家の品格』のなかで紹介されていた本で一度読んでみたいと思っておりました。この本は、戦前イギリスのパブリックスクール、リース・スクールからケンブリッジ大学に学びその後ドイツのハイデルベルグ大学で学んだ著者の経験に基づき、戦後間もないころに書かれたものですが、当時同様に教育再生議論が盛んなわが国において、今日的意味のある名著だと思います。戦



前におけるイギリスのパブリックスクールは特権階級のエリート養成校であり、ほとんどの生徒がケンブリッジかオックスフォードに行きました。この両大学は800年の歴史を持ち、日本における東京大学、アメリカのハーバード大学と比べても別格の超名門大学といえます。このような極めて特異な環境での経験が、今の日本の一般的な教育に参考にはならないのではないか、別世界のお話ではないかと思われる向きもありましょうが、教育の原理・原則を見事に言い表わしてお

り、豊饒の海に溺れそうになっている現代日本のわれわれにこそ学ぶべき示唆に富んでいると思います。ワテルローの戦いでナポレオンのフランスを破ったウエリントン公爵の有名な言葉、「ワテルローの戦勝はイートン校の校庭において獲得された」が、パブリックスクールへの最大の賛辞と言えましょう。パブリックスクールの生活は全寮制で規則も厳しく、勉学とスポーツの文武両道がモットーです。池田氏は慶應義塾大学の教授でしたが、「かく厳格なる教育が、それによつて期するところは何であるか。それは正邪の観念を明らかにし、正を正とし邪を邪としてはばからぬ道徳的勇気を養い、各人がかかる勇気を持つところに、そこに始めて真の自由の保障がある所以を教えることに在ると思う。」と言う恩師、小泉信三氏の言葉を紹介しています。同じくパブリックスクールのハロー校の博物学教師ピーター・ブレナンの自叙伝から、第一次大戦時の次のようなエピソードが紹介されています。ブレナンが教える子の英伯爵の一人息子と自転車旅行に出かけた途中、宣戦布告の報に接するやいなや、二人はロンドンに取って返し、入隊を希望しま

す。生徒はまだ16歳であったため一旦は入隊を認められませんが、何度も申請の列に並び、ついには入隊を許されます。それから四年後、一人は片脚となって帰り、一人は遂に還らなかつた。ここに社会的に恵まれ指導的立場に立つべき人間の果たすべき義務、即ちノーブレス・オブリージの精神を見て取ることができます。池田氏は言います。「彼らといえども、もとより進んで苦痛を求めものではない。事情が許せば安楽な道を選ぶことは勿論である。ただ、常に百年の利害を冷静に判断して、空しく一日の苟安を憚む愚を知り、知れば万難に打克つて困難な道をゆく決断をもっているのである。」イギリス人はスポーツ、それも団体競技を好みますが、パブ





リックスクールにおいてもスポーツは不可欠の要素です。彼らは忠誠心を涵養する手段を運動競技に求めており、個人的な利害、肉体的苦痛を犠牲にして自分の属するチーム全体の利益に奉仕することがスポーツの真の精神だと考えられています。トラフアルガー海戦に臨んだネルソン提督は、将は将として、兵は兵として、各々与えられた任務を忠実に遂行すること。「如何なる」ではなく「如何に」仕事をするかを求めたと言います。パブリックスクールの教師は自らもパブリックスクールの教育を受け、オックスブリッジに学んだものが多いと言います。決して高い給料ではありませんが、それを一生の仕事として終わるそうです。「混乱の時代、小人は小金を作る夢をみ、大丈夫は時代を作る夢をみる」とは、まさにこのことを指すのでしよう。

る善政であり、校運の興廃は校長の人に懸かっており、優れた学校には必ず優れた校長がいるといわれる所以であると述べています。

「スポーツマンシップとは、彼我の立場を比べて、何かの事情によって得た不当に有利な立場を利用して勝負することを拒否する精神、すなわち対等の条件でのみ勝負に臨む心掛けを言うのだろう。」「自由は規律を伴い、そして自由を保障するものが勇気であることを知る。」という池田氏の言葉は、なんとも含蓄深いものではありませんか。

17

2008/05/20

## 天災は 忘れたところに やって来る

ミャンマーでのサイクロンによる被害が報じられたばかりにもかかわらず、今度は中国四川での地震で多数の死傷者が出ています。彼の地の方々には心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。寺田寅彦氏は「天災と国

防」のなかで、「文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその激烈の度を増す。」と、述べています。阪神淡路大震災以来、東京や大阪での地震発生時の被害の想定が行なわれ、ビルが林立し、住宅が密集する都会での地震では、甚大な被害が予想されます。本校においてもここ数年、校舎の耐震補強が何度も話題に上っていたようですが、御多分に洩れず私学の厳しい財政事情のなか判断が先送りになっておりました。生徒と教職員の生命の安全を確保することを最優先にすべきであると考え、一昨年の夏に耐震検査を実施し、その結果に基づき、新校舎建設を断念しました。そして今、工事真っ最中であり、8月上旬の竣工、9月使用開始の予定です。13年前、1月17日午前5時46分、震度7の揺れを感じ、傍らに寝ていた娘の上に思わず覆いかぶさったあの日を思い出します。その娘も、高校1年となりました。そのころは思いもありませんでしたが、今私には守るべき760名の娘がいます。新校舎の完成が待ち遠しいところです。震災まで、活断層の話など聞いたことは無く、関西に地震は無いと思っていました。多くの人がそう思い込んで

いたのではないでしょう。また地震後には「これだけ大きな地震が起きたのだから、当分は大阪や神戸では地震は起きない」などという人もいました。これらは結局、根拠の無い安心感なのです。かつて、アメリカの

FRB議長、アラン・グリーンスパン氏は、上がり続ける株式市場を「根拠なき熱狂」と称し、注意を促しました。しかし実際にナスダック市場が半分以下にまで暴落したのはずつと後のことでした。ここには共通する教訓があると思います。通念は得てして間違っており、人がこうあつてほしいと思う期待感と現実の違いと言うこと、そして、蝶の羽ばたきが嵐を巻き起こすまでにはタイムラグがあるということ。昨年亡くなったノーベル経済学賞受賞者、ミルトン・フリードマン博士は、サッチャー改革とレーガノミクス（レーガン大統領による経済政策）の産みの親といわれますが、「経済学的方法論で重要なのは、数学的・幾何学的にいかにも複雑で精緻なモデルをつくるかではない。予測がどこまで正確なのか、その一点に尽きる。」と述べています。客観的な情報を収集し、分析し、予測し、解決策を見出すと言う論理的思

考こそが、生きるための力になるということだと思えます。教育の目的も論理的思考を身につけさせ自立できる人を育てることに尽きることと思います。

18

2008/06/16

## 人付き合いの要諦

私の友人の衆議院議員、矢野隆司氏は、博学多才の好男子ですが、今東光氏の研究家でもあります。「今東光」といっても今の方はご存じないかも知れませんが、中尊寺の貫主を務めた天台宗の大僧正で、直木賞作家、型破りな参議院議員として活躍したお坊さんです。矢野氏から送られてきた国政報告誌に、この今東光大僧正の次の句の紹介がありました。「人と契らば 浅くちぎりと末とげよもみぢ葉を見よ 濃きがまづ散るものに しろ」なかなか含蓄のある言葉で、人付き合のポイントをついた名言だと思えます。特に最近学校においても友達関係での悩みや



もめごとが増えています。携帯を使いたいじめも頻発していますが、今回は友達関係について私の考え方を述べてみようと思います。「新しい友達をたくさん作って」とか、「親友を持つ」とか、生徒に向かって話をするときに使う定番ですが、これが結構プレッシャーになる場合があるのではないかと思うのです。「たくさんの生徒に囲まれていつもわいわいやっている子がいるのに、私はひとりだ」と、感じる子もいるでしょう。大人でもパーティーや懇親会で、親しい人がいない

場合はとても居心地が悪く、早く終わらないかと思うことがあります。これが一時のことではなく毎日いるクラスだと非常につらいということとはよくわかります。私の大学生の息子ですら、自分にはあんまり友達がいなくてこぼします。私から見ればかなり社交的な息子ですから、適当に仲良くやっているはずですが、「親友」とか「たくさん」とかにこだわります。私自身振り返ると、その時々で気の合う友達やいわゆる親友といえるような友人は持っていました。しかし、学校が変わったり、職場が変わったりすると、疎遠にもなり年賀状だけの付き合いという場合が多くなります。「一生を通じての心の友や親友」なんて、正直言つて私にはいません。それを苦にも思いません。だからといって私が根暗なわけではありません。自他共に認める社交的な性格です。人間好きでもあります。だからこそ今の仕事に就いたので。上述の今東光大僧正の言葉どおり、色んな人とあっさりしたお付き合いをし、いつでも話せる関係を長く保つておくこと、深く付き合いすぎるとお互い傷つきあう場合もあり、太く短く終わってしまう確率が高いと、考えれば良いのではな

いでしょうか。たくさんの友達を作ったり、親友を作ることが目的化しては苦痛以外の何物でもありません。それはあくまで結果論でよいと思います。大切なことは揺るぎない自己を確立してゆくことです。「死して後己む」と言うように、人間死ぬまで勉強ですから完成はありませんが、何か一つは、自分の信念というか、心のよりどころは見つけられるはずで。それを中心に据えて、人との出会いや別れを繰り返しながらコミュニケーション能力に磨きをかけてゆけば、孤立することは無いと思います。私は、本が好きで小さいころから偉人の伝記や歴史書などを読んできました。そのなかで自分の指針とすべき考え方が徐々に形造られてきたと思います。それを一言で表すと反骨精神だと思っています。学生時代を過ごした「都の西北」のそば屋に「花に嵐の喩えもあるさ さよならだけが人生さ」という井伏鱒二の書が架かっていたのを今でも覚えています。「人生は短い、愛別離苦は世の常だ。だからこそ精一杯人生を生きようではないか。」と言う風に私は理解しています。

電車の中で本を読むことは難なく出来ますが、英語を聴くのは結構むずかしいものです。それは、車内放送があまりにも頻繁で、集中して聴き取ることを邪魔するからです。「ドアが閉まります。指を挟まれないようにご注意ください。」「この電車は〇〇行き急行電車です。次の停車駅は△です。」「車内での携帯電話のご使用は他のお客様の迷惑になりますのでご遠慮ください。」「お体の不自由な方や妊婦の方には席をお譲りください。」「まもなく△駅に到着いたします。」「まもなくドアが開きます。ドア付近のお客様はご注意ください。」などのアナウンスがひっきりなしに聞こえてきます。「ちよつと黙ってくれ。」と、言いたくなります。しかし、私たちはこのような状況に慣れっこになっていています。とくに違和感を覚えていないのではないのでしょうか。私は数年前まで年に2〜3回用が

19

2008/06/25

## 過保護が自立を阻む



あつてスイスに行つており、ジュネーブから  
エイグルという小さな駅まで毎回片道1時間  
半ほどの列車の旅をしましたが、車内放送は  
ほとんどありません。出発前にどこ行きの列  
車でどこに止まるかのアナウンスがあります  
が、止まる駅に近づいてもアナウンスがない  
場合もあります。また、ドアは自動で閉まり  
ますが、降りるときは自分で開けます。うか  
うか寝ていようものなら乗り過ごしてしま  
います。かつて民主党代表の小沢一郎氏が「日  
本改造計画」の巻頭で、アメリカのグランド

キャニオンと日本の同じような景勝地の違い  
について書いていました。

グランドキャニオンには柵も注意書もない  
が、日本ではやたらと柵をめぐらし、危険を  
知らせる注意書や看板が設置されており、自  
己責任という概念がないのではないかと。こ  
の自己責任という言葉はその後イラクにおけ  
る日本人質事件で議論を呼ぶことになりま  
したが、私が言おうとしていることは少々  
意味合いが異なりますので、ここではそれに  
は触れません。私が言いたいのは、私たちは  
日常生活の中であまりにも注意を喚起されな  
がら生活しているのではないかと、即ち過保護  
な状態にあるのではないかとということです。  
つい最近もこんな経験をしました。梅田のヨ  
ドバシカメラの北側の道をウエスティンホテ  
ルに向かつて歩いておりました時、何箇所か  
ある横断歩道に沢山のガードマンが立つて交  
通整理をしていました。信号機があるのです  
からそれでよさそうなのですが、わざわざ  
「今、赤信号ですからしばらくお待ちくださ  
い。」と、言つて大きく手を広げて制止しま  
す。信号が変わると、「青になりました。ど  
うぞ急いでお渡りください。」と、これまた

手を振つて急かたてます。至れり尽くせりで  
す。また、「危険ですから道路は横切らない  
で下さい。」と言うアナウンスをするのです  
が、それを尻目に何人も大人が道路を横切  
るのです。この様子をしばらく眺めながらホ  
テルに向かいましたが、一生懸命働いておら  
れるガードマンさんには悪いのですが、なん  
だかものすごく無駄なことをしているように  
思えました。中国や台湾では車に轢かれた人  
間のほうが悪いという話を昔よく聞いたもの  
ですが、それは極端にしても、日本のこの状



況もこれまたあまりにも過保護と言えるのではないでしょうか。「過ぎたるは猶及ばざるが如し」で、注意しすぎ、構い過ぎは、考える力を衰えさせ自立を阻んでしまうとされています。しかし、残念ながらもますますこの傾向に拍車がかかっています。大学全入時代を迎えて、高校や中学の復習までやるリメディアル教育が盛んになってきましたし、企業の新人教育も私が入社した30年前とは違って、手厚くなったようです。指示待ち人間が増えていきます。「自分で勉強しなさい。」とか「先輩のやり方を盗め。」ではもうやっていけない時代なのでしょう。そしてこれは自分の努力の足りなさを棚に上げて、悪いのはすべて他人という思考回路を生んでいるようにも思えます。それを真に受けた回りが助け舟を出すのでそれに甘えてしまうことになり、いつまでたっても負のスパイラルから抜け出せないケースもあるように感じます。

「獅子は子を千尋の谷に落として鍛える」との故事を持ち出すのは時代錯誤かもしれませんが、少しは突き放し、自分の頭で考えさせることが必要だと思えます。しかし、「親学」などという言葉が流行る時代はちよつと情け

なさ過ぎやしませんか？ テレビが普及し始めたころ、評論家の大宅壮一氏は「一億総白痴化」説を唱えましたが、インターネットと携帯電話が普及し、「ことば」の価値が見失われている昨今の世情を、草葉の陰から見守る大宅さんは何と表現することでしょう。

20

2008/07/18

## Finishing School

日本と同様に、昨今は欧米でも羨の大切さが見直されつつあるようです。英国の新聞、Financial Times（フィナンシャル・タイムズ）は、Finishing School（フィニッシング・スクール）が再び脚光を浴びていると報じています。Finishing Schoolとは日本語では花嫁学校と訳されていますが、教育の仕上げとして、美しい姿勢、心構え、態度、話し方、テーブルマナー等々を教える学校です。フェミニズムや女性の大学進学率の上昇により、フィニッシング・スクールは衰退の一途をた

どっていました。ここに来て、見直されています。

普通の少女が突然ヨーロッパの小国のプリンセスになるという映画The Princess Diariesの影響もあり、プリンセスのような歩き方、話し方、食べ方を習うために、休暇を利用して、航空運賃別で12000ドルを支払って、ロンドンのフィニッシング・スクールに学ぶ裕福なアメリカ人の少女たちが増えているそうです。インターネット長者のJohn Marshall氏は、「多くの仕事が技術や本から学ぶことに取って代られる現在、唯一安定するのは、社会的なスキルからもたらされるものだと思う。従って、自分の子供たちには美しい姿勢、公の場での話し方や身嗜みを習わせたい。批判的な考え方とマスメディアだけが跋扈する世界に子供たちを解放することに懸念を抱く親が増えている。」と、述べています。単に伝統的ヨーロッパの貴族的な優雅さを伴ったマナーへの憧れだけではなく、実社会で役に立つスキルを身につけさせたいとの親の願いがあります。若い女性だけでなく男性に対しても社会に適應できるマナーや人間関係の構築方法を教えています。企業が、少

しばかり頭が良くて技術に長けている者より、礼儀正しく、きちんと自分の意見や考えをプレゼンテーションできる能力をもった人材を求めていることが、その背景にあります。学校教育が勉強にのみ重きを置き、若者が企業の多様な要求に応えることが出来なくなっており、その溝を埋める役割を果たしているのです。スイスのモントルーにあるフィニッシング・スクールにはアメリカだけでなく、南アメリカやヨーロッパ、アジアからも生徒が集まっています。ヨーロッパ式のエチケットに特化した授業ですが、異なる国籍を持った子供たちは互いの国のマナーをデイスカッションを通して理解してゆきます。彼らはプリンセスになる教育を受けているのではなくありません。中流階級の子供たちですが、親世代がそれをもう教えることが出来ないのです。すべての人が大学に行つて勉強することに向いているわけではありません。

1980年代、大学の代わりに1年間フィニッシング・スクールに通い、料理や裁縫、ワイン・テイステイング、フラワー・アレンジメントを学び、現在ロンドン南部で託児所長をしている女性は、フィニッシング・ス

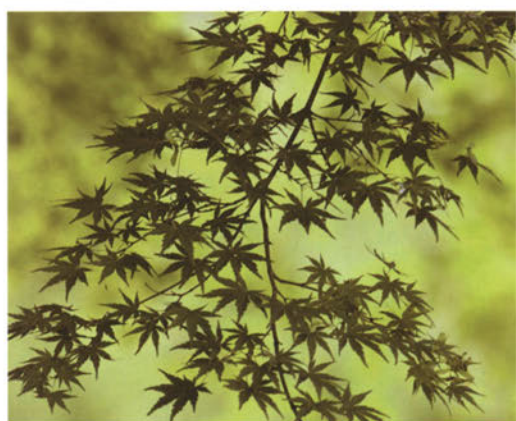
クルの実際的な教育は疑いなく有益であったと述べています。この記事には、クレイ射撃や乗馬、フェンシングそしてクッキングをしている写真が掲載されていますが、頭の上に本を載せて階段を下りる練習風景があります。先日、本校の来年度学校案内用の写真撮りをした際、階段を教科書を抱えて談笑しながら下りてくるシーンがありました。見ておきますと、足の裏をべたべた付けてはたばたと下りてくるので、つま先に比重を置いて軽やかに下りなさいと教えたばかりでしたので、いずこも同じだと思わず笑みを洩らした次第です。

21

2008/09/03

## 夏の終わりに

福田首相が就任一年を待たず、国会運営に支障をきたし自民党内からの批判や公明党の支持を得られず辞任しました。昨年は安倍首相が病気を理由に辞任。同じような状況が



起きました。安倍さんはかなり精神的に参っておられたようですし、福田さんは、「自分は不利な状況下で精一杯やったのに、皆で足を引っ張るとは、腹に据えかねる」と、言わんばかりの辞任会見でした。お二人とも気まじめで少し線が細いようにお見受けしますが、政治の世界はストレスフルでよほどタフでなければ生き抜いてゆけないものなのでしょう。現代はストレス社会と言われ、小生からサラリーマンまでうつ病になる人が増えています。それだけ社会が生きづらく

なったといえればそれまでですが、景気循環と同じ発想で、時代そのものに鬱的な時代と躁的な時代があると考えられることも出来るのではないのでしょうか。作家の五木寛之氏は、これから半世紀ほどは世界的に「鬱の時代」になると言います。池田内閣の所得倍増計画に端を発した高度経済成長期の日本はまさに「躁の時代」。「一億総中流」からバブルへ突き進みました。1980年代、日本は「もはやアメリカに習うことはない」と豪語していた時代です。世界的に見ても大英帝国やパクス・アメリカーナのように唯一の超大国が世界を力強くリードした時代、経済発展著しい時代はたしかに「躁の時代」と言えます。アメリカの絶対優位が揺らぎつつあり、EUと中国のプレゼンスが高まり、三極体制への移行が現実のものとなりつつある今、そして、少子高齢化と成熟社会を迎えたわが国の先行きを予測するとき、「鬱の時代」に入っただという五木さんの話には説得力があります。「鬱」というとネガティブなイメージしかありませんが、しかし、もともと「鬱」は、「鬱蒼とした森」とか「鬱勃たる闘志」など草木が茂るさまや物事が盛んなことを表すこ

とばで、エネルギーを内に秘めたポジティブな側面も持っています。「鬱を力に変えよ」と、五木さんは言います。人は誰しも大なり小なり鬱状態に陥ることがあります。鬱の状態になるのは、エネルギーがあり物事を考えている証拠であるから、雌伏の時と前向きに捉えれば良いのかもしれない。最近はずいぶん神科の領域で色んな名前の病気が出来ています。素人ながらも「それは病気がなくなっていくの持ちようの問題ではないのか。何でもかんでも病気にし過ぎているのではないか？」と思うことが多々あります。精神科医の香山リカさんが私のこの疑問に答えてくれていました。医学の分野では精神科は軽んじられてきたそうで、何とか科学として認められようという遺伝や統計学を持ち込んで理論武装をしてきたそうです。本来は哲学的要素が強く、人生経験を踏まえたプロの精神科医の腕の見せ所であった分野ですが、「二週間以上、気持ちが悪く落ち込み食欲が減退し、仕事にも勉強にも身が入らず、人と会うことを避けるような状態が続けば、それはうつ病と診断する」というアメリカ精神学会の基準がグローバルスタンダードになり、大学出たての若い医者にて

も簡単に診断が下せるようになったということです。科学を導入して病気を量産されてはたまりませんね。もともと、「鬱状態」と「うつ病」の区別は必要です。すべて「心の問題」では片付けられない場合も確かにありますから、慎重な対応が必要なことはいうまでもありません。ただ、どう見ても「鬱」であることを認めてもらうことで安心してしまうようなところ、「鬱」を錦の御旗にするケースも多発しているそうです。リラクゼーションに通うように気軽に心療内科を訪れるOLが増えています。また、「うつ病」の診断書を出して会社を休職しながら、気晴らしにイギリスの語学学校に短期留学なんていうのもあると聞けば、何をか言わんやです。グローバル化や情報化が競争社会を演出している側面があり、ストレスが溜まる時代であることは事実だと思いますが、どんな時代であってもストレスはあるものです。明治時代だって同じようなものじゃなかったのかと思います。夏目漱石の小説など読めば、「高等遊民」と言うフリーターやニートのような主人公がたくさん出てきますし、太宰治に至っては相当な鬱でしょう。

鬱状態に陥ることを恐れたり忌避したりするのではなく、陥ったときにどう対処するかが大切です。私は悲しい時には本を読んで、思索に耽ったのですが、今の若者は、失恋しても、ただただ落ち込むか、自分がいかに辛いかを人に訴えることはしますが、なぜ彼氏と、彼女と上手く行かなくなったのか、その原因はどこにあるのか、自分に悪いところはなかったかなどじっくりと自分を見つめ直すことができません。狭い自分の知識の中で堂々巡りを繰り返して、他人を責め自分の不甲斐なさを嘆きつつ消耗してゆくケースが実に多いのです。本を読んで、自分と同じ状況に陥った人がどういう解決を図ったかとか、自分ほど不幸なものはいないと思っていたが、もっと大変な境遇にあった人もいることを知り、励まされたとか、そういった経験を持つとうともしません。口すっぱく、「本を読みなさい」と、いい続けていますが、馬を水飲み場に連れてゆくことはできませんが、水を飲まずことまではできませんね。親として教師としては、「何とかしたい」と、強烈に思うのですが、そこは、その子の、その人のやる気に任せざるを得ません。季節に四季がある

ように、国や人生にも四季があるでしょう。いつも春や夏とは限りませんし、それを自分で選ぶこともできません。秋や冬にもそれなりの過ごし方はあるものです。夏の熱狂から覚めて読書しながら冷静に自分を見つめなおす秋の紅葉（効用）もいいものじゃないですか。鬱の時代を迎えるなら、私たちは静かに秋に足を踏み入れてゆく覚悟を決めるときかもしれません。

22

2008/09/26

## NHK大河ドラマ 『篤姫』の問いかけ

私は従来から歴史物が好きでNHKの大河ドラマの愛好者ですが、今年の『篤姫』は久しぶりに見ごたえのある大河ドラマです。視聴率も非常に高く20%台を維持し続けていると言います。時代背景は幕末動乱期で話題に事欠かないのですが、坂本竜馬や西郷隆盛、勝海舟などおなじみの英雄たちに比べると知名度は低く地味な存在の人物で、私自

身、篤姫のことはほとんど知りませんでした。知らないの逆に見てみようと思ったのですが、なかなか面白いのです。薩摩藩主島津家の分家の姫に生まれ、名君の誉れ高い島津斉彬に見出されその養女となり、幕政改革のため次の將軍に一橋慶喜の推す目的で、13代將軍徳川家定の御台所となります。最初は心を閉ざしていた家定が篤姫に心開き、篤姫も島津家の人間ではなく徳川の人間になりつつあるとき、頼みの綱の斉彬が逝去し、また家定も早世します。紀州藩から14代將軍となった家茂が公武合体で迎えた皇女和宮との間では嫁姑の確執も起ります。徳川幕府の崩壊と明治維新へと動く激動の時代を生きた人物です。結局は薩摩藩も徳川幕府も無くなってしまいます。彼女の一生は見方によれば時代に翻弄された悲劇的なものだったとも言えるかも知れません。しかし、彼女は自分の運命に挑戦し続けます。島津本家の養女に上がることが決まったとき、彼女の乳母が言います。「女の道は一本道。迷わずあなた様の道をお歩きなさい。」小気味良い言葉ではありませんか。天晴れこの上ありません。私が座右の銘の一つにしている江戸時代の陽明



## 歴史に学ぶ 「まさか」の時代

学者、熊沢蕃山の「憂きことのなほこの上に積もれかし、限りある身の力ためさん」を地で行く人生です。バブル崩壊から失われた10年を経て、グローバル化とボーダレス化で誰でも容易に様々な情報にアクセスできる時代、世界はフラット化しましたが、垂直方向の深みと高みを失いました。とことん考えること、努力し積み重ねることが無意味だと思わされています。「ニートやフリーター」、「下流社会や格差社会」という言葉が氾濫し、「なぜ若者は3年で会社をやめるのか」が問われるなかで、一国の首相がわずか1年で政権を投げ出し迷い道状況が2度も繰り返されている現状に痛烈な批判を浴びせているように思えてなりません。

昨年夏、フランス大手銀行BNPパリバ傘下のファンドが価格下落により運用を停止

し、資金を返還すると発表しマーケットに動揺が走ったのをきっかけに、アメリカの低所得者向け住宅ローン、サブプライムローン問題が大きく取り上げられました。当初は、そんな重大な事態に至ることはないだろうと言うのがマスコミ等で主流を占めていた見解だったと思います。それが1年後、大手証券会社リーマン・ブラザーズの破綻と最大手保険会社AIGの政府による救済に発展し、その影響はアメリカのみならずヨーロッパ、アジアへと世界的な広がりを見せています。今まで好調であったアイスランドは国家非常事態宣言を行い、ロシアから資金援助を受けると言います。イギリスも大手銀行8グループに総額6兆円を超える公的資金の投入を決めました。元FRB議長、アラン・グリーンスパンは「100年に一度の危機」といい、1929年の大恐慌の再来との見方も浮上しています。実は私はこのような事態が惹起される可能性をまったく予測していなかったわけではありません。むしろ場合によっては充分起こりうると考えておりました。なぜなら、私は以前にガルブレイス教授の『バブルの物語』を読んでいたからです。1637



年のオランダのチューリップバブルから1929年のウォール街の大暴落まで、人間心理は変わらないことがわかりました。また、今までにない新しい金融商品が出来た場合、そしてそれが世の中の考え方を変えるような素晴らしいものだと言われる場合は要注意であると言う教授の指摘は、1998年夏のロシア危機に端を発したヘッジファンド、LTCM (Long Term Capital Management) の破綻を説明するのに役立ちました。LTCMはチームの中に二人のノー

ベル経済学賞受賞者を抱え、高等数学と統計学を駆使したデリバティブ（金融派生商品）を武器に、驚異的なパフォーマンスを上げていたのです。最高の頭脳が編み出した完全無欠と思われた理論は、歴史における不確実性と人々の不安心理にあっさり敗れ去ったと言えます。「上がったものは下がる、下がったものは上がる」は市場の鉄則です。アメリカの不動産バブルについても、為替の専門家、若林栄四氏の『黄金の相場学』を読み、2007年〜2008年に破裂する可能性があること、金利上昇が2006年にピークを打ち、アメリカ経済が2010年にかけてリセッションに陥ると言う彼の予測が日増しに高まりつつあるのを感じていました。「下り坂、上り坂の他にもう一つの坂がある。それは「まさか」だ。」と、言います。人生にはこの「まさか」や危機はつきものと心得るべきでしょう。日ごろから社会事象に関心を持ち、研究をし、準備と心構えをもっていれば、いざという時にもあわてる事はありません。危機を100%回避することができなくともダメージを最小限に食い止めることは可能ですし、諦めもできます。学ぶという

ことはこういうことだと思えます。

24

2008/11/07

## オバマを選んだ アメリカ

WASP（白人でアングロサクソン系プロテスタント）こそが一等国民とされ、過去の奴隷制度という歴史の汚点を、人種の坩堝という活気に変えて発展してきたアメリカではありませんが、人々の深層心理に横たわる根深い人種差別意識は、我々にはなかなか理解できないと思います。そのアメリカに1776



年の建国以来始めての黒人系の大統領が誕生しました。これは何を意味するのでしょうか。大統領選挙の中盤戦までは、専門家の間では、人気は民主党のオバマ候補だが、結局は共和党のマケイン候補が大統領に選出されるとの観測が強かったように思います。理由の一つは実績であり、もう一つは人種です。しかし、9月以降の世界的な金融危機に直面し、世界の超大国アメリカの屋台骨が大きく揺れだしました。近年のアメリカは製造業は空洞化しており、金融と軍事で世界に君臨しておりました。その一方の金融が不動産バブルの終焉によるサブ・プライムローン問題発生源により危機的状況に陥り、世界まで巻き込んでしまったのです。また、世界最強の軍事力を保持しているとはいえないもののアフガンとイラク派兵は巨額の出費と多数のアメリカ国民の犠牲を伴っているにもかかわらず、両国の政治的安定がいまだに見られなばかりか益々複雑化しているという現実があります。超大国アメリカによる一国支配にほころびが始め、アメリカ衰退論が主流を占めてきました。この危機感が、良し悪しは別として、アメリカの根幹をなしていた

WASP至上主義、人種差別を突き崩してしまつたと言えるのではないだろうか。アメリカはローマ帝国に擬されることがあります。「ローマ人の物語」を書いた塩野七生さんは、ローマは征服した属州の文化を尊重し自治を許し、比較的寛容な政策で持つて帝国を維持したと言いますが、アメリカはアメリカの価値観を世界に押し付けてきました。グローバル・スタンダードとはアメリカン・スタンダードでした。しかし、帝国崩壊の危機に際して採つた方策は似ているかもしれません。ローマも生粋のローマ人ではなく属州出身の皇帝を選んだことがあります。ただ、アメリカの学歴重視は変わっていないのではないのでしょうか。オバマ氏は名門コロンビア大学を卒業しハーバード法科大学院修了、その妻ミシエル夫人も名門プリンストン大学に進学し後にハーバード法科大学院に進学しています。恵まれない家庭に育つても、マイノリティ出身者でも、高い志と学歴を持てば、大統領も夢じやないことを証明したのです。アメリカは政治経済的にも社会的にも病みつたあるかもしれませんが、学問の力が階層移動の有効な手段となつているといふ点ではいま

だアカデミズム健在と言えるのではないのでしょうか。アメリカの第三の力の源、高等教育の質は世界屈指です。翻つてわが国を見ると、文部科学省が、大学一年生の補習に力を入れる大学に補助金を出すと決めるほど知の衰退は著しいものがあります。21世紀はアメリカの時代ではなくなるかもしれませんが、決して日本の時代にはならないのではないかと、そんなふうに見えるなりません。嘗て日本人で最もノーベル経済学賞に近いと言われたロンドン大学名誉教授の故森嶋通夫さんは、今の若者から日本の将来が予測でき、日本は没落するのではないかと危惧されてきました。その確率が日増しに高まつているように感じます。

25

2008/11/26

## 有為転変と決断の時

以前にも書きましたが、今年の大河ドラマ『篤姫』は実に面白いです。今週は、徳川討

伐に東征を開始した皇軍参謀の西郷吉之助に、篤姫からの徳川慶喜の助命嘆願の手紙を届けに、嘗ての老女、幾島が出向く場面がなかなか圧巻でした。西郷は先代藩主島津斉彬に見出され、英明の誉れ高い一橋慶喜を次期将軍にし、雄藩合議で外国からの脅威に耐える政府を作るため、篤姫を13代将軍の御台所にしようします。その輿入れ一切を取り仕切つたのが西郷でした。薩摩藩の中でも身分の低い武士であつた西郷や大久保は、当時、分家筋の姫君であつた篤姫に声をかけられただけで嬉しく、その人柄に惹かれ忠誠を誓つたものです。それが時代が変わり、その篤姫の嫁ぎ先である徳川將軍家を滅ぼさねばならぬと言うのですから、歴史とは皮肉なものです。西郷は涙を流しながら篤姫からの手紙を読みます。幾島が篤姫の気持ちをかつて頂けたかと問うたとき、西郷が言います。「それとこれとは話が違います。徳川を打たねば日本は変わりません。」と。この場面、私は司馬遼太郎の小説『峠』の主人公、河合継ノ助の「人間は立場である。」と言う言葉もまたしかり。みなそれぞれ立場で決断

を迫られます。西郷は東征軍大参謀として、トップとして泥をかぶり責任を果たそうとします。人物の生き方に学ぶことこそ歴史を学ぶ意義だと思います。だから歴史は意味深く、興味が尽きない分野なのです。価値観は変わるものです。つい最近まで、アメリカは世界の標準でした。小さな政府、規制緩和、金融工学、自由競争こそが国と個人の発展に寄与するのだと宣伝されてきました。しかし、サブプライムローンに端を発した世界金融危機の中で、アメリカは共和党に変わり民主党のオバマを大統領に選り、政府の介入を許す政策への転換が予想されます。ケネディ時代のガルブレイス、レーガン時代のフリードマン、そして今度はクルーグマンと、政権を支える経済学者の思想も大きな政府と小さな政府の間を行き来します。どちらが絶対に正しいということはありません。経済は生き物であり人間の心理によって動きますから、自然科学と同じような公式はないはずですが、あたかもあるが如くに錯覚させたのはデリバティブなど金融派生商品を開発し、金融を工学にまで高めようとした野心家の失敗だと思えます。政治も経済も大きく揺れ動きま

す。大切なことは自分の生き様を早く見つけること、信念を、哲学を持つことでしょう。「何のために生きるのか。」この永遠の課題に答えようともがきながら。

26

2008/12/10

## 危機の時こそ必要な ユーモアのセンス

麻生政権の支持率が急落しています。安倍さん、福田さんに続き短命に終わるのでしょうか。どうもお三方とも人気先行だったようです。麻生総理は定額給付金問題で考えが大きくブレたり、漢字の読み間違いが多すぎたりと、私自身、他山の石と心得るべき教訓をたくさん残してくださっております。帝国ホテルのバーで毎晩飲んでから帰ることに對して記者から問われたときに逆切れしたと報じられたこともありました。私も以前よくホテルのバーを利用していましたので、麻生総理のお気持ちにはよくわかります。むしろそんなことをあげつらつて、庶民感覚がないという

マスコミの貧困さにこそ腹が立ちます。しかし、逆切れは少々大人気ないように思えます。特に、麻生総理が宰相吉田茂のお孫さんであることを考えますと。吉田さんは日本のチャーチルとも言われ、貴族趣味的なところもありましたが、非常にユーモアのセンスをもった日本人には珍しいタイプの政治家でした。マッカーサーにGHQの意味 (General Headquarters 連合国総司令部) を教わって、「ああ、そうでしたか。私はてっきりGo home quickly」の略かと思っていました。」と、言ったり、農林省の統計を元に米軍に食糧援助を陳情したが、餓死者がほとんど出なかったことをマッカーサーに糾弾されて、「日本の統計がそれほど正確なら、あんな戦争は始めなかつたし、始めたとしても負けはしませんでしたよ。」と、切り替えしたり。マッカーサーもこれに對して剥きになる反論はせず、「こいつ、上手いこと言うな。なかなか食えん奴だ。」と、思っただろうと推察します。日本が太平洋戦争で完膚なきまで打ちのめされ、連合国に占領されているその時、その占領の最高責任者と対等に渡り合った敗戦国の首相の矜持を感じます。イギリス人は



ユーモア (Sense of Humor) を大切にすると  
いわれます。「ユーモアとは、いったん自  
らを状況の外に置き、対象にのめり込まず距  
離を置くことで、人生の不条理や悲哀を鋭く  
嗅ぎ取りながらも、それをよどみに浮かぶ泡  
と突き放し笑い飛ばし、陰気な悲観主義に沈  
むのを避けようとするイギリス人の知恵であ  
る。」と、作家の阿川弘之さんは解釈されて  
います。イギリスという国は気候が良くあり  
ません。ロンドンは夏でもなかなかすつきり  
と晴れて青空が広がることは稀です。屋上に

ガラス張りの温室のような部屋を作っている  
家を見たことがあります。わずかでもよい天  
気の日にはそこで日光浴を楽しむのだと聞き  
ました。また、七つの海を支配した大英帝  
国は、衰退の一途をたどってきたといっても  
過言ではないでしょう。山登りに例えるな  
ら、イギリスは第一次世界大戦後ずうつと下  
り坂を歩んできたと言えます。しかし、なか  
なか上手に下りてきたと思います。下手をす  
れば谷底にまっさかさまに落ちていたかもし  
れません。この下山には、我慢とある種の諦  
観が必要であったでしょうが、決して後ろ向  
きでは成し遂げられないものだと思います。  
それが出来たのはイギリス人がセンス・オ  
ブ・ユーモアを持っていたからではないで  
しょうか。サブプライムローンに端を発した  
今回の金融危機で、麻生総理は「日本の経験  
を世界に披露し、参考にしてもらおう。」と、  
言われましたが、日本の80年代バブルがはじ  
けたあとの失われた10年を省みますと、あの  
時のわが国の対応は、ツー・レイト (Too  
遅すぎる) と批判され反面教師にはなれ  
ど、他国に見習って頂けるような立派なもの  
では決してなかったと思います。それに比べ

ると、イギリスのブラウン首相は即座に大手  
銀行に6兆円に上る公的資金投入を決め、ア  
メリカのお尻を押ししました。どうやら役者が  
違うように思います。歴史と伝統そして王室  
と皇室をとともに戴く島国なれど、大人の国と  
こどもの国の違いがあるように思えます。挫  
折を体験する中で一条の光を求め続けること  
の大切さをイギリス人はユーモアを介して体  
得しているのかも知れません。

27

2009/01/14

## 犀のごとく独りゆけ

昨年(2008年)の好文木1月号の年頭所感を読み返し  
てみると、今、世界が、日本が直面している  
危機的状況を予想していたものとなっていま  
す。100年に一度と言われる金融危機は  
世界的景気後退の長期化を予測させていま  
す。日本産業界のシンボリック的存在のトヨタ自  
動車も販売不振により、2009年3月期  
連結営業損益が戦後初の赤字になる見通しで

す。昨年後半からは「派遣切り」がマスコミでも大きく取り上げられ、製造業への派遣社員制度導入の見直し論が出ています。就職も長い不況を超えて、ここ数年は売り手市場と言われましたが、急ブレーキがかかり、内定取り消しで学生が泣かされています。新自由主義を御旗に、金融工学を武器にグローバル化が進んできましたが、本家本元のアメリカ発の金融危機が、その価値観に疑問を投げかけ、今まで良しとされていたものがことごとく否定されかけています。日経新聞紙上には「不確実性」という文字が目立つようになり、ました。歴史を振り返ってみますと、1978年に「不確実性の時代」を著したハーバード大学のジョン・ケネス・ガルブレイス教授は、民主党ケネディ、ジョンソン政権下で経済顧問として活躍し、アメリカが豊かな社会であり続けるためには、公共投資や教育投資が必要だと説きました。共和党レーガン政権においては1980年「選択の自由」を著したシカゴ大学のミルトン・フリードマン教授の新自由主義が主流となり、規制緩和と自由競争、自己責任が豊かな社会を築くとされました。ソ連との冷戦に勝利したア



メリカは唯一の超大国として世界に君臨し、その価値観を世界基準にまで高めました。そして今またオバマ新政権で政府の役割を重視する伝統的民主党の政策に戻りつつあります。IT化がインフレなき成長をもたらすとの楽観論が支配したときが頂点だったのでしょうか。バブルは崩壊し、いつか来た道に戻りました。「上がったものは下がり、山高ければ谷深し」です。揺り戻しは得てして行過ぎますので、それを見た人はパニックになります。このような時こそ付和雷同の愚は避け

ねばなりません。物事の本質を見極めることが必要です。そのためには勉強し自分の頭で考えるしかありません。その先にはじめて自分なりの哲学を持つことが出来、自信が生まれます。悩み続けながらもそれに収斂してゆく生き方こそ大切だと思います。人の意見に左右され、「皆で渡れば怖くない」タイプではなく、ただ独り、黙々とある方向にゆつくり歩いてゆく犀のような生き方を、ブツダは「犀のごとく独りゆけ」ということばに託したのでしよう。今年はこのことばをじっくり噛み締める一年になりそうな気がします。

28

2009/01/19

## 高まる相対的貧困率

世界第一の経済大国アメリカや第二の日本は先進諸国の中でも極めて豊かな国だというのが当然ですが、1月14日の日本経済新聞で、国立社会保障・人口問題研究所の阿部彩室長は、日本は相対的貧困率（所得が分布の

中央値の半分に満たない人の比率)が15%と、OECD諸国の中でメキシコ、トルコ、米国について高い水準にあり、特に子供の貧困が深刻であると論じています。中でも母子世帯の貧困率は6割と、突出して高い数字を示しています。国立教育政策研究所の調べでは、親の社会経済階級と子供の学力が正比例しています。東大生の保護者の平均所得は高いと言いますが以前から聞いていましたが、ついに東大は年収400万円以下の家庭の生徒の学費を無料化する方針を打ち出しました。アメリカでも経済的に苦しくとも向上心のある優秀な学生を集めるため、ハーバード大学が同様の措置を講じています。経済的に貧しくとも、教育を受ける機会が平等に与えられる社会でなければ、階層の固定化を招き、社会の活気を失わせることに繋がります。アメリカでは小中学生の肥満が増えているそうです。貧困層の多く通っている学校給食においては、コストが安く、おなか一杯になり子供が好むハンバーガーやスパゲッティなどが中心になっているからです。日本においてもファーストフードの普及により、若者の健康に心配があります。朝ごはんをき

ちんと食べてこない生徒は多く、昼もコンビニ弁当やインスタントラーメンという子が沢山います。親が食事に気を配ることができない家庭が少なくなっています。勉強に取り組む以前の準備段階から崩れてしまっており、その原因の一つが経済格差であることは間違いないと思います。かつては、貧しい家庭の子供でもしっかり勉強し豊かな階層へ這い上がるのができましたが、上がろうとしても上がれない、また上がろうとも考えない傾向が強くなっています。これを放置しますと、貧しきものはますます貧しくなる絶対的貧困化が進む社会となってしまう危険性を孕んでいます。大学進学率が50%になり、高学歴社会が到来したとたんに、教育の価値が薄れ、格差拡大の社会になるとすれば、歴史の逆行と言わざるを得ません。景気後退の中、2兆円の定額給付金の是非が議論されていますが、経済的に厳しくてもやる気のある若者が社会に出て活躍できるように十分な教育が受けられる仕組みづくりにお金を使ってほしいものです。

世界中の歓喜の声に迎えられアメリカ合衆国第44代大統領にバラク・オバマ氏が就任しました。彼の自叙伝『マイドリーム』には、若いとき、雑誌ライフに載った青白い顔をした黒人の写真を見、それが実は化学療法で白くなろうとして失敗したのだと言うことを知り、強烈なショックを受けたことが書かれています。自由・平等を声高に宣言するアメリカは奴隷制度と人種差別という原罪を背負ってきました。公民権運動を展開し凶弾に倒れたキング牧師の「I have a dream」の演説を聴き、(I have a dream. That one day on the red hills of Georgia, the sons of former slaves and the sons of former slave-owners will be able to sit down together at the table of brotherhood.) その時がいつかはやってくるのだらうと信じ続けてきた人々にとつて、喜びはいかばかりであったことでしょう。雄

29

2009/01/23

## オバマ新大統領 就任演説

弁の誉れ高いオバマ氏の演説に注目が集まっていたようですが、奇をてらうことなく非常に真面目な内容だったと思います。100年に一度と言われるアメリカ発の世界的経済危機のなか、世界の命運を一手に担い就任した47歳の黒人系大統領に私も心から応援を送りたいと思います。彼の演説を見てみましょう。That we are in the midst of crisis is now well understood. 先ず、危機の真只中にあるということを確認します。On this day, we come to proclaim an end to the petty grievance and false promises, そして、不平不満や非難の応酬に別れを告げ、因習を打破すべき時だと訴えます。Our journey has never been one of shortcuts or settling for less. 今まで歩んできた道、アメリカの成功には楽な近道はなかったと論じます。不断のためまぬ努力によってこそアメリカの現在の繁栄が勝ち取れたと言うのです。Starting today, we must pick ourselves up, dust ourselves off, and begin again the work of remaking America. 今日からもう一度始めよう。埃を振り払い立ち上がり、アメリカの再建のために。What is required of us now is



a new era of responsibility. 今、われわれに求められているのは新しい「責任」の時代である。これはケネディ大統領の「国が何をしてくれるかではなく、君たちが国に何が出来るかを問いたい」という有名な演説を思い起こさせます。(And so, my fellow Americans, ask not what your country can do for you. Ask what you can do for your country.) 現状認識と問題点の検証、解決策の提示と改革への強い意欲。要求するだけでなく自覚と責任を問われるのは、世界の超大国アメリカ

のみならず、企業でも学校でも個人でも全く同じです。オバマ新大統領の演説は、アメリカ国民に向かってのみなされたものではなく、全世界のあらゆる国の、あらゆる人種の、あらゆる世代の人々へのメッセージだと思えます。彼は、「母は、人として成長するには、きちんとした価値観を持たねばだめだよと、よく言っていた。」と述べています。南部の子供たちが、お金持ちの白人の行く学校のお古の本を使って勉強し、医者、弁護士、科学者などになったと言う話を母親から聞いた際に、早起きして勉強することを嫌がっていた自分を恥ずかしく思ったそうです。「我われは堂々と美しく、その逆境を生きるのだ」という彼の母のことは印象的です。世界が歓呼を持って迎えたアメリカ初の黒人系大統領バラク・オバマの誕生は、このような彼の母親の教育力の賜物といえるのではないのでしょうか。



## 楽観主義が 世界を救う

日経ビジネスに「心の経済学、恐慌と鬱の経済学」と題した興味深いレポートが載っていましたので、紹介したいと思います。このレポートは経済産業省の関沢洋一調査官と精神科医で千葉大学の清水栄司教授のお二人の手によるものです。経済全体がパニックに陥る「恐慌」と最近ビジネスマンに蔓延する「鬱」は、マクロとミクロの違いこそあれ、ともに心理学的には同じメカニズムで動いている。2008年10月の自動車販売台数が米国で前年同月比36・7%、日本では27・3%と大幅に減少しているが、これは消費者の買い控えによるもので、それは景気が悪くなり、所得が減るかもしれない場合によっては解雇の憂き目に会うかもしれないという不安から来ている。市場の参加者の不安が自己実現的な予言として作用するすなわち、起こるかどうかわからない危機を自ら現実にし

てしまっている。恐怖や不安が消費を抑制し、それが経済の縮小を招き、所得も減少する。これが恐怖と不安の実現へ向かうというまさに負の連鎖。恐慌も鬱も英語では同じ「デプレッション (Depression)」と呼ぶ。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (LSE) の研究によると、鬱と慢性的な不安による経済損失はGDP (国内総生産) の約1%と試算されており、日本に当てはめれば年間約5兆円の損失が発生していることになる。このような恐怖を含めた否定的感情 (鬱、不安、怒りなど) を正常に戻すのに認知療法を中心とした心理的取り組みが役に立つ。不安を起こしているほとんどの思考の原因は、非常に偏った考え方を信じ込んでいることにある。たとえば、「景気が悪くなるとリストラが行なわれ、自分もクビになるかもしれない。そうなると生活が厳しくなり、家族にも愛想をつかさね、生きてゆけなくなる。あああーどうしよう。」と。しかし、「リストラが実施されても自分がその対象となるかわからないし、万一そうなくても捨てる神があれば、拾う神ありで時間をかければ次の仕事が見つかるだろう。失業保険にも入ってい

るし、なんとかなる。」と、肯定的に考えれば違った展開もあるというものです。ビジネス社会のみならず、学校においても鬱の子供が増えています。それが不登校にもつながります。特に子供はたとえ勉強が出来る子でも、まだまだ社会的な知識や視野は狭いので、ものの見方がより一層偏りがちです。エリートで順調に来た人は大きなショックにあっけなく折れてしまいます。昨年も大蔵官僚から政治家になった方が自殺しました。一方、挫折ばかりでくるとこれまた、希望が見いだせなくて諦めの底に沈みっぱなしで浮上せずということにもなりかねません。とかくこの世は住みにくいのですが、この認知療法というものも簡単に言えば、「ものは考えようだ」ということをいかに上手に理解させ、否定的な考え方を前向きに変えさせるかということではないでしょうか。私が尊敬する常盤木学園の長野校長は伝記を読むことを勧めておられますが、私も随分色んな人の伝記を読んでも励まされてきました。まじめに一生懸命努力して生きがいを見つけたひとの話をじっくり読んで考えることが、負のスパイラルに陥る危機から脱する最良の方法だと思

ます。これこそ独りで出来る認知療法だと思  
います。人生を肯定的に見る事が必要です。

ただ、根拠の無い楽観主義は取り返しのつか  
ない失敗を誘発するものですからいただけま  
せん。現状分析をきちんとし、最悪を想定し  
た上で、楽観的に行動することが大切なので  
す。このレポートは次のように結んでいま  
す。感情は伝染するといわれる。恐怖は人々  
の間で増幅するかも知れないが、逆に楽観的  
な人々が増えれば楽観主義が社会に広がって  
ゆくかもしれない。特に、リーダーの楽観  
主義は大変な好影響をもたらす。ロナルド・  
レーガン元大統領は就任直後の81年3月、拳  
銃で撃たれて手術室に運ばれる際、執刀する  
医師団に「君たちが共和党员だといひん  
だ  
が」と冗談を飛ばして周囲を安心させた。

31

2009/02/19

## 有終の美

この時期になると「有終の美」ということ

をつくづく考えさせられます。卒業してゆ

く生徒の姿に満足もさせられ、失望もさせら  
れます。今までクラブの厳しいトレーニング  
に耐え、挨拶も服装も生徒の模範となる部類  
の生徒だったのに、クラブを引退し、卒業が  
確定すると急に態度が変わる子がいます。こ  
のような生徒を見ると、今までの姿は何だつ  
たのだろうか。嫌々ながら指導に従っていた  
のだろうかと思うと、情けなくなります。一  
方で、全く変わらな最後まできっちりして卒  
業してゆく子を見ると、よくぞここまで育つ  
てくれたと、嬉しいを通り越して有り難く思  
いますとともに、指導に当たった先生に感謝  
の念が湧いてきます。企業でも3月は移動や  
退職、転職の時期です。残っている有給休暇  
をきっちり消化して辞めてゆく人もいれば、  
3月31日まで通常通りに勤務し、仕事が終わ  
わってから上司、同僚、後輩に丁寧に挨拶を  
して去ってゆく人もいます。仕事に対する姿  
勢、生き方の問題だと思います。人の品格と  
は一時的なパフォーマンスや派手な業績では  
なく、こんなところに現れるのではないで  
しょうか。中川財務大臣がG7後の記者会  
見の醜態によって辞任に追い込まれました。



日経新聞の「春秋」は、「身から出た錆」と  
論じています。ルース・ベネディクトはその  
著『菊と刀』のなかで、「刀を帯びる人間に、  
刀の煌々たる輝きを保つ責任があると同時  
に、人はおのおの自己の行為の結果に対し  
て、責任を取らなければならない。自分と刀  
の同一視による自己責任の態度こそが日本人  
の文化だ。」と、述べています。「魚は頭から  
腐る」と言います。世界的金融恐慌の心配も  
さることながら、日本という社会が頭から腐  
りつつあるとしたら、国家百年の計も危うく

なります。他山の石とせねばなりません。校長が腐れば、学校が腐ります。学年主任が腐れば学年が腐ります。担任が腐ればクラスが腐ります。大なり小なりトップの役割は非常に大きいのです。数年前、ある大手都銀のパーティーで新頭取の挨拶を聞いて幻滅したことがあります。「私が頭取になっても○銀行は何ら変わりません。」と、切り出されたのです。ご本人はお客さまへの対応に何ら変化はありませんと、言いたかったのでしょうか、当ても不良債権処理等で銀行業界激変の時だっただけに、何とも頼りなくトップとしての気概が伝わらないスピーチでした。昔はたとえ毀誉褒貶があっても大銀行のトップにはそれなりの顔がありました。銀行名からそのトップの名前と顔が浮かんだものです。今は銀行のトップどころか閣僚の顔も浮かばなくなっていました。「憂愁の眉」はいただけません。

32

2009/02/27

## なぜ日本史を必修にしないのか？

文部科学省の学習指導要領で選択科目となっている日本史を横浜市が平成22年度から全市立高校で必修科目として取り入れることを決めました。大変喜ばしいことだと思います。文科省は世界史を必須にしたり、小学校から英語を入れようとしたり、国際化を標榜していますが、真の国際化とは、世界史に精通し英語をコミュニケーション手段として駆使することができることを言うのではなく、自国の歴史や文化をしっかりと学び、日本人としての目を通して世界を見る人間を育てることだと思います。外国人との会話や議論では、議論の対象となっている事象に対して、日本人としてどう考えるかを問われる場面が多々あります。例え英語力が少々お粗末でも、内容が深ければ彼らは大いに尊重してくれます。逆にいかにネイティブに近い英語を流暢に話しても、内容が皮相では決して尊



敬はされません。信じる宗教とともに自分の国の歴史や文化により形作られたバックボーンがない人間は信用されないといても過言ではありません。日本人は宗教的には極めて淡泊です。つつい平気で無宗教だと言ってしまうですが、これは危険だそうです。信じることが無い人間を彼らは信じません。一理あります。ですから、仏教徒だとか神道ですと言っておいたほうが無難だと聞きました。実際、生活の各所で仏教的あるいは神道的な影響を受けていますから嘘をつくことにはなりません。そして自分の生まれ育った母国の歴史や文化を知り、それに愛着をもって

かどうか。人と話をする時に、自分の学校や会社、生まれ故郷や国のことを悪く言う人は、気の毒な人だと思ふとともに、そういう人の言うことを信用しようという気にはならないものです。日本には自分の国を悪く言うことを飯の種にしている知識階級といわれる人種がいますが、残念なことです。そういう人たちに限って、現代の尺度で過去の出来事を評価するという方法論の間違いを犯します。また、学校で歴史を教える場合、古代から現代へと順に進みますが、大抵、時間切れで太平洋戦争までは行き着きません。今、生きていく私たちにとつと最も関係の深い事象を学ぶことなく終わり、縄文や弥生時代の遺跡の話に時間を費やすから、歴史への興味があります。失われるのだと思います。歴史を年代を逆行して教えていってもよいと思いません。また、何年に何があったという出来事を追うだけでなく、NHK番組「その時歴史が動いた」のように、人物に焦点を当て、人はいついかなる時に何を考えどう行動したかを学ばせることが最も大切だと思います。それこそが歴史を学び、歴史に学ぶ醍醐味です。教育基本法や学習指導要領で愛国心を育

てようというのも、本末転倒の話で、楽しい家庭、美しい町、美味しい食べ物、心安らぐ人情に触れれば、誰だって自分の国を好きになるのは当たり前の話です。日本はそういう国であると思いますし、またそういう国であるべきだとも思います。それを感ぜさせる体験をさせることこそ必要なのではないでしょうか。それにはまず、子供たちにもつと自国の歴史や文化を学ばせる必要があります。高校での日本史の必修化を強く望みます。

33

2009/03/02

## 穏健着実

—平成20年度卒業式式辞—

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。保護者のみなさまにも心からお祝いを申し上げる次第です。

さて、みなさんが本校を巣立ってゆくこの2009年という年は、歴史的に大きな意味を持つ年になるかも知れません。それは、パラダイム（その時代を支配するもの）の見

方）の大転換の年になる可能性が高いからです。長期間続いた世界的好景気が昨年アメリカ発金融危機の広がりにより100年に1度といわれる世界的な金融恐慌状態になっています。日本でも企業業績の急激な悪化は人員削減等雇用に影響を与え始めています。売り手市場といわれた就職戦線、いわゆる就活もしばらくは厳しいものになると思います。戦後永らくパックスアメリカナ、すなわち超大国アメリカによる平和と繁栄の時代が続いてきました。90年代のIT革命に



よる情報化の進展は、グローバル化とボーダレス化を通じ、アメリカンスタンダードがグローバルスタンダード、すなわちアメリカの考え方が、世界基準であるという意識を高め、世界のアメリカ化はますます進みました。しかし、今回のサブプライムローン問題をきっかけにした金融恐慌はそのアメリカ流の考え方が間違いではなかったのかという疑問と反省を世に問うています。その結果、奴隷制度と人種差別というアメリカの背負ってきた原罪を一拳に振り払う勢いで国民の圧倒的支持を受け民主党的バラク・オバマ氏が初のアフリカ系大統領に就任しました。アメリカ社会の軋みの大きさと、改革を求めたエネルギーの強さを窺い知ることができます。価値観が大きく揺らいでいるのです。みなさんはこのような時代にこれから社会に出てゆくことになります。しっかりとした考え方を持たないと到底生きてはゆけません。では、しっかりとした考え方は何でしょうか。それはものごとの本質を見抜く力です。サブプライム問題は、今まで借りたお金の返済が滞ったことがあったり、定職についていなかったりする信用力の低い人に住宅資金として多額

のお金を貸し付けた結果、起りました。お金が返ってこなくなるリスクが高いことはわかりきったことです。でも、リスクが高いからリターンも高いと考え、また、景気もいし、住宅価格も当分は上がり続けるし、皆がやっているから大丈夫だろうと思っただん貸し付けたのです。日本では「円天」などの詐欺まがいの行為が後を絶ちません。「確実に年利が36%」とか「1年で倍になる」とか、普通預金の金利が0.02〜0.03%の時代に、あまりにもうますぎる話です。それでも多くの人が騙されて被害にあっています。あなた方は社会に出ると、今までのような過保護状態ではいられません。学校では騙したほうが悪いと言えますが、社会では騙されたほうが悪いといわれてしまいます。自分で考え、自分で学ぶことが自分の身を守ることにつながる大切なことなのです。表面に現われた現象だけに惑わされることなくものごとの本質を見抜いてゆく力を身につけてください。まさにこれからが本当の勉強なのです。人間は死ぬまで学び続けなければなりません。いままではそのための基礎を学んで来たとに過ぎません。「夢を持って」と言われる反

面、「そんな夢ばかり追っついてはいけない」とも言われます。そのころは、「現世を忘れぬ久遠の理想」ということです。すなわち、現実を直視し、理想を高く掲げ、日々努力することが大事なのです。努力なくして夢は叶いません。「自分探し」をするのではなく、「自分造り」をしてください。ぶれないしっかりとした考え、周りの空気に流されない落ち着いた態度を身につけること、それこそが競争社会を、不確実性の時代を生き抜いてゆくための必要条件です。それはまさに、あなた方の目の前に掲げられている「穏健着実」の意味するところでもあります。私が、好文学園最初の卒業生のみなさんに改めて贈りたい言葉、それは72年前、大阪商科大学校として産声をあげた本校の建学の精神「穏健着実」であります。「穏健着実」の言葉を胸に刻み、あなたがたそれぞれの人生をやさしく毅然と歩いてください。これからの皆さんの活躍と幸せを心から願いつつ、私の祝辞と致します。

## 女性の時代

昨年10月1日付の総務省推計人口統計（確定値）によると、日本国内の女性の人口が2万7000人減少したと伝えていきます。これは入国者数から出国者数を引いたもので、日本女性の海外流出が加速しているのではないかとのことです。国際化の進展に伴い、転勤や留学で男性は以前から海外流出していますが、ついに女性も活発に動き出しているのかと頼もしく思います。実際、私の周りでもこの種の話をよく耳にするようになりました。長年海外で勉強している息子の友人にも女性が結構います。これがまたみんな優秀なのです。ドロップアウトする男子学生を尻目に、経済学、社会学、生物学を学び卒業を果たし研究所に勤めたり、国連が最悪レベルの人道危機と位置づけるスーダンのダルフルで支援活動を行ったあと再び英国の大学で国際政治を学ぼうとしたり。勉強意欲が旺盛で

あるだけでなく、勇気を感じます。かつて一橋大学の教授が自分の研究室に優秀な中国人青年が学びに来、彼が香港でビジネスを始めるとき、その会社に研究室から何人かの日本人学生を勉強のために送ろうと希望者を募ったら、手を挙げたのはみんな女子学生だったという話を聞いたことがあります。男子学生に声をかけたら、「お母さんに相談します。」との返事が返ってきて哑然としたと。その先生は「男の子は大事に育てられすぎで、乳離れしていないが、女の子はあまり期待されずに育ったのでかえって自立心が育ったのだと思う。」と話しておられました。早稲田大学の今年の卒業生総代は昨年に続き法学部3年生の女性です。履修に必要な124単位をすべて80点以上で取得すれば3年での卒業が認められるシステムになったそうです。卒業後、彼女は東大の法科大学院に進み司法試験を目指すとのこと。英国の中学では女子校のほうが共学校より学力が高いという調査結果も出ています。欧米のレイディファースト、騎士道における女性崇拜に対し日本は男尊女卑だと言われてきましたが、実態はまったく逆ではないかと思えます。昨年の大河ドラマの

主役だった篤姫や「おんな太閤記」のねね、春日の局、今年の「天地人」のお船など、男性を立てながらも実は上手くコントロールしてきたのが日本の女性ではなかったか。そして、男性に劣らぬ胆力を備えていた女性が実は政治を司っていたといっても過言ではないのではないか。こう考えますと、昨今の男社会日本の凋落にも頷けます。女性の時代とともに日本の再生が始まるのかもしれませんが。私たちはその日本女性を育てる大切な役目を負っているのだと思います。



## 平成21年度 入学式式辞

新入生のみなさん、保護者のみなさま、ご入学おめでとうございます。好文学園へようこそお越しくございました。ここから歓迎いたします。

さて、みなさんは、チャールズ・ダーウインという人をご存じですか。NHKで彼の名前に因んだ「ダーウインが来た」という番組がありますね。大自然の中の生き物たちの生態を特集するとても面白い番組です。ダーウインは進化論を唱えたイギリス人の自然科学者です。「生存競争に努める生物のうち最も環境に適した形や性質をもつ物が生存の機会を保障される」という進化論の基本的な考え方は、イギリス海軍の測量船ビーグル号に乗船し、南米からオーストラリアやニュージーランドを周り生き物の生態を研究した結果から得られたものと言われています。今年2009年はそのダーウイン生誕200周年



年にあたり、また彼の代表的著作「種の起源」出版150周年に当たります。彼の進化論は哲学や経済学にも影響を与え、「適者生存」という言葉が生まれました。「強いものが生き残るのではなく、賢いものが生き残るのでもない。変化に対応できるものが生き残れるのだ。」という考え方です。今年1月、アメリカでは「CHANGE」（変化）を掲げたバラク・オバマ氏が第44代の合衆国大統領に就任し、世界的金融危機で傷ついたアメリカの再生に挑戦を開始しました。どうやら

2009年は「変化」がキーワードになる年だと言えるのではないでしょうか。みなさんもまたそれぞれの母校を卒業し好文学園という新しい変化した環境に身を置くことになりました。本校の建学の精神やルールを十分理解し新しい環境に一日も早く慣れてください。私たちが暮らす世界は競争社会であり不確実な世界でもあります。これは大自然の中の生き物たちと同じ状況と言え、あなた方にとって最も大切なことは、このような社会で自立して生きてゆける知恵と力を身につけることに他なりません。社会に出ると教科書はありません。自分で状況を判断し、どうしたらよいか考えてゆかねばなりません。変化に対応できる柔軟性と基礎力が必要になります。高校3年間はそのため重要な訓練期間です。早寝、早起き、朝ごはんなどの基礎的生活習慣を身につけることで肉体的にも精神的にも健康な状態が保てます。高校生にふさわしい服装は学ぶ時のけじめです。マナーを身につけることは良き市民としての必須条件です。勉強やクラブ、生徒会活動を通して困難な課題を克服できた時の喜びや達成感を実感することで、自信を得ることが出来ます。

このようなプロセス（過程）を通じて自分を鍛えてゆく中で、自分はこういうふうに住きたいとか、人間はこういうふうに住きねばならないとか考えることができ、それぞれの夢も見えてきます。私たちはともすれば、近道をして要領良く結果を得ようとしがちですが、遠回りを勧めます。世の中には「無駄の効用」ということがあります。一見無駄なように見えることが実は後で振り返ると大変有益であったということです。ダーウィンはエジンバラ大学で医学を学び、ケンブリッジ大学でキリスト教神学を学びました。彼自身は

両大学で得るものは特になかったと述懐しているようですが、この一見無駄に思えた時期の勉強や多くの人々との交流がその後の大生物学者ダーウィンの輝かしい実績に結び付いたと言われています。ですから、「私は文科系に進学するから、数学や理科は勉強しない」とか「理科系に進むから社会科はいらない」とか言うことなく、幅広く教科を学んでください。本もたくさん読んでください。音楽や美術鑑賞もいたしましょう。今はIT化が進み、携帯やパソコンであらゆる情報が手に入ります。テレビを見れば世界の隅々の

様子がわかります。わかった気分になるので。しかし、実際に体験しなければ、頭で理解できていても、身にしみてはわからないものです。

もう25年ほど前のことになりましたが、私が商社勤務をしていた時、初めてニューヨークに出張しました。朝の通勤時、よく晴れた日もかかわらず摩天楼がそびえ立ち太陽を遮るニューヨークの街を歩き、あらゆる人種の人々が足早に仕事に向かうなかに自らを置いたとき、そして日本人の私に地下鉄の駅を尋ねる



人に出会った時、アメリカの巨大さと多様性そして活力を肌身に感じ、「こんな国と戦争をしたんだから負けたのも当然だな。」と、思ったものです。あの感覚はテレビやインターネットからでは湧いてきません。若いあなた方は、大変柔軟な頭と鋭い感性を持っています。「何でも見てやろう。なんでも経験してやろう。」と、チャレンジ精神を発揮してください。視野が広がれば広がるほど、選択の幅も広がるものです。私がとても残念に思うことは、努力しても無駄だと思ひこんでいる人がいることです。確かに、努力した人が全て報われるとは限りません。可能性も無限ではないでしょう。しかし、努力せずに報われることもありません。成果を上げている人には必ずそれなりの努力の跡が見られます。そうであるならば、最初から諦めて何もしないより、努力したほうが報われる確率は高まるではありませんか。「天は自らを助ける者を助く」と言います。これからの3年間、努力の成果を信じて、前向きにそして楽観的に歩んで行ってください。皆さんが答えてくれたアンケートを読み、好文学園での新しい生活に期待をかけていることがよくわか



## 我が師の思い出

りました。私たちはその期待に応えるべく全力でみなさんを応援いたします。3年後の卒業式にみなさんの満足した笑顔に出会えることを楽しみにしつつ、私の式辞といたします。

今年は大学のゼミの恩師の七回忌にあたるのでゴールデンウィークのどこかでみんなで集まり先生の墓参に行こうという話になり、5月3日、東京は小平にある都立小平霊園に参りました。私たちは1981年の卒業生ですから、卒業後28年が経っています。同期のゼミ生は総勢16名ですが、11名までは常時連絡が取れる状況で、年に一度はそのうちの何人かで集まりを持っており、非常に結束の強いメンバーです。恩師、堀江忠男先生は1936年、ナチス・ドイツの政権下で行われたベルリンオリンピックに日本サッカー



チームの一員として参加、帰国後、朝日新聞外信部勤務を経て母校の早稲田大学の教授となりました。堀江先生は近代経済学の立場からマルクス経済学を批判するという特異な分野を研究されておられました。私は経済学部にもかかわらず、あまり経済学そのものには興味を持てなかつたので、3年のゼミ選択時に、当初は無難な「経済学史」を取ろうと思っていました。ところが、初めて堀江先生の「社会主義経済学」の授業に出席したとき、先生に強く惹かれゼミを変更したの

です。堀江先生は片手を腰に当てまさに口角泡を飛ばすがごとく大きな声で講義を始められ、大教室の片隅でしゃべったり、遅れて入ってきたりする学生に向かつて、「就職のために優の数が欲しければいくらでもやる。だが私の授業を聞きたくないやつは出てゆけ。ドイツの大学では遅れてきたら教室には入れない。」と一喝されたのです。また、「マルクスが真理だといい、レーニンが正しいといっても、堀江忠男は間違っていると言う。」と言われた時は、学問的なことは何も分かってはいませんが、胸のすく思いがしたものです。「未だにこんな教授がいたのか。」と、感動を覚えました。学問に対する情熱と確固たる自己に対するプライドを感じました。今の早稲田大学は良くも悪くも洗練された学生が増え、慶応と見間違える場合もあります。応援部の存続も危ぶまれているそうですからバンカラのイメージは遠い昔のことのようにですが、28年前はまだまだ慶應との違いははっきりしておりましたし、学生服に学帽姿の学生も結構いました。それでも堀江先生は異色でした。ゼミでは幹事を仰せつかったものの、勉強のほうはさっぱりで、良い季節

の今頃などは、日当たりのよい窓辺に陣取って、資本論を開けながらも先生や熱心なゼミ生の話を聞きながら転た寝をしていたものです。ですから、剰余価値とか絶対的貧困とかいう言葉はいくつか覚えていますが、学問はしていなかったのたいたいした卒論も書けませんでした。堀江ゼミの名誉のために申し上げますが、私のような学生ばかりいたわけではありません。友人の中には早稲田でトップクラスにしか与えられない小野梓賞をもらった者や学問の道に入りアジア経済研究所においてアフリカ経済の第一人者になった者もあります。先生は永らくサッカー部の監督もされておられました(岩波ジュニア新書から『わが青春のサッカー』が出版されています)。信濃追分の夏合宿時に65歳を超えられた先生がサッカーゴールにバナナシユートを決められた時はみんな感服したものです。先生のお兄様は共産党の理論家で大月書店から全集も出ていたそうで、若いころは日本でも革命が起きると教えられていたそうです。早稲田高等学院から早稲田大学に進み、五月晴れの平和なキャンパスを見渡した時、「これで本当に革命が起きるのか?」と疑問をも

ち、マルクスの資本論を原書から読み勉強を始めたといいました。また、ベルリンオリンピック参加のため入社を半年遅らせてもらいに朝日新聞を訪ねた折、緒方竹虎主筆(後の自由党総裁、緒方貞子さんは竹虎氏実子の妻)から2・26事件当夜、朝日新聞を襲撃した反乱軍将兵に悠々と対応し一歩も中に入れなかった話を直接聞いたとおっしゃっていました。先生自身も学生運動華やかなりし頃、政経学部長として学内に缶詰になりながらも徹底的に学生と議論されたと聞きました。教育の真価は学校で習ったことをすべて忘れてしまった後に残るものによって決まると思います。その一つは人としての生きざまではないかと思えます。勉強はしませんでしたが、先生の傍で経験談を伺ったり、考え方を聞いたりするなかで、不肖のゼミ生であつた私にも堀江先生の真摯な学問探究心から発する情熱が影響を及ぼし、自身の生き方にひとつの指針を与えてくれたような気が致します。

25年前、私の結婚式で校歌「都の西北」を歌い二番で終ろうとしたとき、「だめだ、だめだ、三番まで歌え」と、叫ばれた先生の声か

今も耳に残っております。そう、「途中でやめるな。最後まで完走せよ」と。墓石には先生の好まれた言葉、「真理は単純にして平凡である」が刻まれています。

37

2009/06/10

## 紫陽花

校庭の一角に紫陽花が咲いています。今日は雨に濡れて花弁の青と葉の緑が一段と鮮やかです。新校舎建設を機に校内緑化を進めることにし、50坪ほどの庭を造りました。その庭で紫陽花が1年目の花をつけているのです。2年前、私が本校の校長に就任した時の印象は、殺風景な学校でした。少ないながらも一応の緑はありましたが、とりあえず植えたというような感じ、街路樹のイメージで、おおよそ女子校に相応しいものではありませんでした。入学式直前に、外廊下にプランターを並べたり、玄関に花を植えたりして、新入生を迎えました。全教室にミニバラなど



の小さな植木鉢を配りもしました。担任と生徒が一緒になって世話をし、結構長い間花を咲かせていたクラスもありました。その生き残りの一株が新しい庭に安住の地を与えられ真紅のバラの花を咲かせています。学校が楽しくして仕方がない所であればよいのですが、なかなかそう思う生徒が少ないのが現実です。共同生活が苦手な子やストレスに弱い子が年々増えているように思えます。そのような中、学校に憩いの場所があれば、生徒はホッとするだろうと思ひ、運動場の隅に庭を

造ったのです。以前の古いイメージを払拭しモダンに生まれ変わったレストラン。その屋外にはウッドデッキを設け、そのウッドデッキの前に庭を配しました。私はこの庭を「テラスガーデン・パンセ」と名付けました。雨の日にはレストランのカウンターチェアに腰掛けながら、晴れた日にはウッドデッキのテラスからこの庭の緑を眺めながら思索に耽るのも乙なものじゃないでしょうか。庭にはまだ小さいながらもクスノキ、モミジ、カシ、ハナミツキなどの木々が植わっています。鳥や蝶も来るようになりました。生徒たちもこの場所を気に入ってくれたようで、先日の3年生の卒業アルバムに載せる写真撮影時には人気スポットになっていました。テラスから踏み石の上を歩いて体育館に行く生徒の足取りも心なし軽やかに見受けられます。放課後、テラスで寛ぐ生徒に出会ふと嬉しくなります。藤原正彦さんは「国家の品格」のなかで、天才の出る風土の条件の一つにイギリスやアイルランドの自然や建築物、特に美しい田園風景など美の存在を挙げています。美しいものに触れ感動することは感受性を豊かにし、脳を活性化するのもかもしれません。

8月末にはグラウンドも一面芝生が出そろった予定です。中堅女子校に向けて環境整備が進んでいます。紫陽花は年々株が増えダイナミックな花を咲かせるようになります。3年後、5年後、そして10年後が楽しみです。テラスガーデン・パンセの植物たちとともに、好文学園の生徒が大きく育ち、学校が繁栄する日を夢に見て、梅雨が明けたら水遣りの日々がまた続きます。

38

2009/06/22

## 本当に大変な 『先生のお仕事』

校長に就任し二年が経ち、「校長先生！」と、呼ばれることに特に違和感を覚えなくなりましたが、当初は少し気恥ずかしく感じました。永年、会社勤めをしており弁護士や税理士を「先生」と呼ぶことはあっても自分が「先生」と呼ばれることはなかったからです。しかし、今ではこの尊称を遠慮なく受けるとともに、責任を果たそうと奮闘の毎日を送つ

ています。医師、弁護士、公認会計士・税理士など先生族には各々専門知識や技術力が求められます。教師に求められる能力は大別すれば授業力（教科指導力）と生徒指導力の二つです。授業力は知識とスキルの問題で他の先生族と同じです。外科医の上手な手術が患者の命を救います。弁護士も裁判に勝つことで依頼人は満足を得ることができます。教師も解らないことを解るようにさせたり、難関大学に合格をさせるような上手な授業ができれば授業力はOKです。難しいのは生徒指導力です。校門での挨拶、身だしなみ指導に始まり、授業中の態度や問題行動に対する指導、多発している携帯サイトを通じての生徒間トラブルの解決など教師の一日は実に多忙です。最近では、心の病に悩む生徒が多く、保健室と連携をとりながら心療内科医の役割まで果たさなくてはなりません。これにクラブ指導が入れば、ほぼ年中無休です。時間的余裕がなければ創意工夫や独創性が出ないのですが、本さえ読む暇もない先生も大勢います。その上、できる先生にはあらゆる仕事が集まります。そして昔のように「人間、根性だ。しつかり頑張れ。」と、叱咤激励すれば

すむというものではなく、子供の家庭環境、友人関係などバック・グラウンドにも精通し、きめ細かく辛抱強い指導が必要です。生徒の閉じた心の扉を開かせ、前向きな人生を歩ませるためには、指導する先生の人生観や人柄がますます大きな影響を与えます。労働者感覚でやってもらっては子供を幸せにはできません。自分の子供ですら育てるのに苦労するのに他人の子供の面倒をとことん見ようとする「先生のお仕事」は本当に大変なのです。少子化と差別化が進み学校も倒産する時代が来ました。潰れなくて休みも多いし、上司にガミガミ言われず、ノルマもないし、会社勤めはしんどいから、教師にでもなるかといういわゆるデモシカ先生ではとても務まら



ない時代になりました。給料の多寡より、本当に子供を育てることに生きがいを持てる人しか務まらない職業、まさに「聖職」だと再認識される時が来たように思えます。「安易な気持ちで教師になると、大変なことになりますよ。」

39

2009/06/30

## 好文パーソナル ファイナンス講座

IMF（国際通貨基金）は、中国のGDPが今年中に日本のGDPを抜き、世界第二位になる可能性が高いと発表しました。1980年代初め、21世紀は日本の時代と言われていたのですが、今は中国とインドといわれています。しかし、1970年代半ば、当時の著名な地政学者は、21世紀初めまでに世界経済を支配する工業国として、中国でもインドでもなくフランスを挙げていたそうです。そして、1920年代の専門家の予想では、豊富な資源に恵まれたアメリカカアル

## 好文パーソナルファイナンス講座

アメリカの高校生が学んでいる  
経済とお金の話



Copyright © 2009 by the author. All rights reserved.

ゼンチンでした。アメリカにある人種問題がないことでアルゼンチンを推したヨーロッパの知識階級も多かったようです。未来の歴史的出来事を予想することの難しさを、19世紀ドイツの宰相オットー・フォン・ビスマルクは、「天才的政治家に出来ることは、歴史という遠い馬のひづめの音を聴き、通り過ぎようとする騎手にとびかかって服の裾をつかむことだ」ということばで表したと、グローバル金融ストラテジスト、デビッド・スミックは「世界はカーブ化している」のなかで書いています。ただとびかかってつかむことになるのは着物ではないことは確かなように思えますが。

今朝のニュースで、(財)日本生産性本部の

アンケートによると、今年の新入社員の83%がデイトより残業を取ると回答し、これは1972年の調査開始以来最高となり、残業を断りデイトを優先するとした17%との差も過去最大と報じていました。昨年からからの景気の悪化に敏感に反応しているようです。どちらの話も先行きの不透明観や不確実さを物語る例といえます。私は今年から総合的学習の時間に「好文パーソナルファイナンス講座」と名付けた経済と金融の授業を受け持っています。生徒に身近な社会の仕組みと正しいお金の知識を身に付けさせるとともに、ファイナンス理論の根幹をなす「不確かさとの付き合い方」を教えようと思っています。アダム・スミスの「国富論」とチャールズ・チャップリンの「モダンタイムス」の類似点を話し、勉強する意味を語ります。インフレ、デフレからバブルの物語を話します。「起業家」(アントレプレナー)の項では、獨創性、決断力そして変化への柔軟な対応につき話をしました。変化について、スミックは次のような歴史の中で発せられた名言を紹介しています。ベンジャミン・デイブレイリは「変化は不可避であり、変化は不変である」

と言い、ヘラクレイトスは「変化以外に永久不変なものはない」と宣し、ウインストン・チャーチルは「向上するとは変化すること、完全になるとはたくさん変化すること」と述べ、アルビン・トフラーは「変化は「人生に必要なもの」にとどまらない。変化こそ人生なのだ」と付け加えていると。

40

2009/07/06

### 働くということ

経済危機の影響で高卒の求人が激減していると新聞は伝えています。高学歴化が進み大卒に職場を奪われている高校生にとっては泣きつ面に蜂です。IT化が進展し社会が複雑になったため、高度な知識や技術が求められるので高等教育を受けた人材でないと就職が難しいのだと言えば、もつとも聞こえませんが、額面通りには受け取れません。ものを知らず破廉恥な行為に走る大学生のニュースを聞くたびに、最高学府の大衆化の弊害を、

規制緩和による無節操な大学の増産を、そして、即戦力を言うあまり大学からアカデミズムを遠ざけ、技術や知識の切り売りに傾斜させた企業の責任を痛感します。会社も指示待ち人間と我慢ができず叱られればすぐやめちゃう若者に困惑気味です。科学技術の進歩と豊かな社会がひ弱な若者を増産しているといえないでしょうか。だからこそ私は働くというこの意味を高校でしっかり考えさせるべきだと思います。働くとは「傍を楽にする」ことだと言います。しかし、自分を楽にすることしか考えていない人が結構多いのではないのでしょうか。仕事には、やりたい仕事とやりたくない仕事そしてやらねばならない仕事があります。企業ならやりたくない仕事も業務ならやらねばなりません。それが企業社会の常識です。他校の校長先生とお話をする機会が多いのですが、学校というところは随分と違うようです。「それは自分には向きません。」とか「できません。」がまかり通ってしまいます。仕事を頼めば、「それは命令ですか？」と聞いてくる者さえ。私も民間企業に勤めていましたが、上司から言われたことに、こんな聞き方をしたことはありません

ん。抽象論が多く具体性に欠け、出来ない理由は山ほど言う傾向が強いとのこと。我が家の近くの理容室はいつも入口に面白い言葉を書いてあります。ある時、次のような言葉が書いてあったので思わず書き留めてしまいました。「言い訳は具体的、判断は直感的、予測は抽象的、結果は必然的」言いつて妙ですね。学校は、お互いを「先生」と呼び合う特殊な職場、おまけにお客様はつねに子供、お山の大将になるのも領けます。上司から厳しく叱られたり注意されたりしたことなく十年一日のごとく過ごせる「和をもって貴し」の職場、臨機応変とかスピーディーとか言うことばが最も似合わないところですよ。しかし、ここで学び教えられた子供たちが大学にそして社会に出てゆくのですから、心してかからねばなりません。私は校長に就任以来、学校は実社会からかけ離れてはいけない、教師は先ず良識ある社会人でなければならぬと言いつつ続けてきました。幸い本校には打てば響く、真の教師魂、生徒の心に火をつけようという仕事を厭わぬ多くの教師がいましたので、2年間で「それは本当に生徒のためになるか」を問いながら改革前進できる体制になってき

ました。4S、PDCA、タイム・マネージメントなどの概念を丁寧に教えながら社会の常識にあわせた進路指導、将来像の構築を目指す「好文未来学」構想がこのような本校の教員たちの中から生まれました。生徒にこれを教える限り、自分たちの日ごろの仕事でもこれを実行しなければ説得力がありません。授業開始と同時に教室に入り、生徒の服装、机の整理整頓をチェックから始まり、教室を見回って帰宅するまで身をもって示すこと。働くということは、真剣に生徒に向き合う先生その姿勢が物語るものだと思います。

41

2009/07/15

## 埃を払って誇りを 取り戻す時

城山三郎原作「官僚たちの夏」のテレビドラマが始まりました。敗戦後、日本再建のため産業振興に命をかける昭和30年代の通産官僚の姿を描いたドラマです。学生時代、私はずいぶん城山作品を読みました。「毎日が日

曜日」、「総会屋錦城」、「鼠」、「男子の本懐」、「落日燃ゆ」、「雄気堂々」、「冬の派閥」等々。中でも私は「落日燃ゆ」が印象に残っている。歴史的評価の分かれる元総理広田弘毅を扱った小説ですが、外務省で干されていた時詠んだ「風車、風が吹くまで昼寝かな」は不遇を託った人間には励みとなる一句だと思え、難局に組閣を拜命したとき、「万歳はするな」と言った心境にも共感を覚えます。数年前、関西の実業家、松本重太郎を描いた「気張る男」のテレビドラマ化を記念して、NHK大阪で行われた試写会に招待いただき、試写後に城山氏のお話を聞いたことがありました。そのとき城山氏もお歳を召されたように感じ、少しさみしく思ったのですが、亡くなるまで日本と日本人の将来を憂いて警鐘を鳴らし続けておられました。城山作品を通じて読み取れるメッセージは、人としての生き方、男の矜持とでも言いましょうか、主義主張、党派にかかわらず信念を貫いて生きた男の生きざまを問うものだったと思います。今回ドラマ化なった「官僚たちの夏」は、とかく官僚批判が喧しい昨今、戦後日本の復興に果たした官僚の役割とその熱意

を思い出させ、みんなが燃えていた時代にタイムスリップさせてくれます。主演の通産官僚風越信吾（後の事務次官佐橋滋がモデル）役の佐藤浩市や堺雅人、高橋克美などなかなか良い味を出しています。池内信人（後の総理池田準人がモデル）役の北大路欣也は私の好きな俳優の一人ですが、少し前にテレビドラマ化された「華麗なる一族」の万表大介のイメージとダブってしまうのが玉に瑕です。第一話は通産省主導で進められた国民車構想がテーマでした。当時、アメリカとの差は歴然、ゾウとアリののようなもの。アメリカから来たディーラーが「日本に車は造れない。おもちやと安物のブラウスを作っていればいいんだ。」と、言ったのをばねに「アメリカ人に出来るのが日本人に出来ないわけがない。」官僚と自動車会社の社長が力を合わせて国民車の開発を行います。蟹江敬三扮するアケボノ自動車社長朝原太一が疲労のため亡くなり、その葬儀に赴いた風越に、社長の妻弥生（市毛良枝）が朝原の日記を見せます。当初、無謀な試みだとしり込みしていた朝原ですが、風越たちの熱意に動かされ開発に乗り出した経緯が克明に書かれており、大変感

動的な場面でした。54年の時を経て今日、アメリカ、デトロイトの自動車産業が、GMがチャプター11を申請し事実上の破綻から国有化での再出発となり、壊滅状態になるとは誰が予想したでしょうか。東洋の奇跡と呼ばれた日本の発展はこのように国民一体となった負けじ魂のなせる技だったと言えます。90年代の株と不動産のバブルがはじけ「失われた10年」と呼ばれた時、太平洋戦争の敗北により失われた資産価値を上回る損失を被ったこと、パラダイムの転換ができなかったことを称して第二の敗戦と言われました。この敗戦から十分立ち直ることなく今回の世界同時金融危機に飲み込まれてしまいました。ハングリー精神を失い、文句と批判に明け暮れる昨今の多くの日本人に、繁栄の上に積もった埃を振り払い、それぞれの誇りを取り戻さなければ明日はななく次に進むことができないことを、このドラマは物語っているのではないのでしょうか。

## サントリー、キリン 経営統合に学ぶ

昨日の日経新聞は、一面トップでサントリーとキリンが経営統合に向けて交渉に入ったことを伝えていきます。サントリーは明治32年（1899年）、鳥井信治郎氏がワインを製造する鳥井商店として創業。二代目社長の佐治敬三氏は信治郎氏の次男で、中学時代から母方の親類の佐治姓を名乗り、現在に至るまで経営は「鳥井・佐治」の両家が務めてきた日本を代表する同族の非上場企業です。一方のキリンは日本におけるビール生産の草分け的存在で、幾多の変遷を経て1907年三菱財閥傘下の麒麟麦酒として誕生し、永らくビール首位を維持してきた非同族の上場企業。企業文化の全く違うこの二つが経営統合を決めたのには、日本のみでは需要の拡大が期待できず、中国を含む世界戦略を考える上で、生き残りをかけた強者連合しかないとの判断であったと思われる。キリンホール

ディングスの加藤社長に転機が訪れたのは、1987年、ライバルのアサヒビールが辛口の「スーパードライ」を発売し、市場シェアを爆発的に伸ばし、盤石であったキリンの地位を脅かした時だったといえます。このころ私は東京青山の伊藤忠商事に勤務しておりました。ある夕方、仕事帰りに先輩に誘われてシーアイ・プラザ（伊藤忠本社敷地内にあるレストラン等が入ったエリア）のバブに行きました。「延原君、このビール旨いぞ、ちよつと飲んでみろ。」と、勧められて口にしたのがスーパードライでした。確かに宣伝文句どおり、辛口ですっきりしたのどごし、実に旨いと感じたのをよく覚えています。テレビCMには国際ジャーナリスト落合信彦氏を起用。ヘリコプターから颯爽と降り立ち、ウォール街を闊歩し、外国人と身振り手振りを交えて堂々と話すバイタリティー溢れカッコいいイメージで売上に貢献したと思います。伊藤忠はサントリーとも取引がありましたので、一階のロビーでサントリービール祭りが行われたことがありました。佐治社長がカウボーイハットをかぶり、お得意のローハイドを歌って場を盛り上げ、トップセール

スに徹しておられたのを懐かしく思い出します。「ドライ戦争」に敗れて半世紀ぶりに首位から転落した原因を「お客様本位と品質本位という本来の理念が劣化し、会社がお客様から離れてしまった」からだ、と、加藤社長は分析しています。伝統のラガービールにこだわり生ビールに後れをとった反省でしょう。アサヒは徹底的に消費者の好みを調査し、それに合わせた商品開発をしました。ビールはラガーという常識を覆したのです。そして万年2位から念願の首位に立ちました。サントリーは、佐治敬三氏が社長時代の昭和38年、信治郎氏は「何もいわん。やってみなはれ」と、ビール事業への再参入を応援し、46年目の平成20年12月期にようやく念願の黒字化を果たしました。いつまでたつても黒字にならないビール事業に撤退論が何度も浮上しましたが、そのたびにビール事業成功はトップの悲願だとしてこれを退けてきました。これは非上場の同族経営だからこそ長期的な事業育成ができた好例だと思えます。少子化と競争激化に苦しむわたしたち学校にとつても、サントリーやアサヒに学ぶべき点は多々あります。生徒や保護者のそして社会のニーズに応



## 超人を目指して飛ぶ 一本の矢

えているか。授業力、生徒指導力を常に磨く努力をしているか。こだわり、諦めぬ努力、ニーズに敏感になることなど示唆に富むヒントがいっぱい詰まっています。そしてそのサントリーですらキリンとの経営統合に踏み切らざるを得ないという現状、そして追撃するアサヒの次なる戦略を考えると、変化への対応力を自問自答しなければなりません。

7月30日、好文学園が大阪代表として団体戦および個人戦に出場していた全国高等学校総合体育大会弓道競技大会（いわゆるインターハイ）の応援に奈良県立橿原公苑第一体育館に参りました。前日の試合で、団体は残念ながら予選敗退、個人も二名の出場選手のうち、一名のみが準決勝に進んでいました。私はこの生徒の応援に出かけたのです。試合では四本の矢的を狙いますが、決勝に進む

には三本以上を当てねばなりません。要は一本しか外せないのです。彼女の放った一本目の矢は的をわずかに外れました。あと三本全てを的に当てねばなりません。後がないのです。一本目が当たっている者との精神的な余裕には大きな差があります。ストレスがかかります。緊張が走ります。しかし、彼女は見事に残り三本を当て、決勝に残りました。私はそれを見届け夕方の会議に合うよう会場を後にしました。2時間半の会議を終えて校長室に戻ると、机の上の携帯にメールが届いておりました。弓道部顧問の佐藤教諭から、「先程はありがとうございます。お陰さまで伊藤は五位入賞でした。」私は直ちに返信しました。「おめでとう。小泉流に言うなら、「痛みに耐えてよく頑張った！感動した。」の一言につきます。またひとつ弓道部から勇気を貰いました。有難う。」3年生で主将の伊藤さんは昨年の六位入賞に続き二年連続入賞を果たしました。腰痛に苦しみ、違うようにしながら通学し、勉強に弓道に必死に頑張ってきました。いま一つ波に乗りきれないチームを引っ張るものの、団体戦では取え無く予選敗退、残るは自分一人、好文学園

弓道部の威信をかけて、腰の痛みに耐えながら背筋を伸ばして弓を引く、天晴なる根性。私は入賞もさることながら、彼女が身をもって弓道部員に主将かくあるべきという手本を示してくれたことをとても嬉しく思い感動しました。インターハイ中、選手は本校で合宿をしておりまして、早速翌朝、弓道場に彼女を訪ねると、腰が痛くて起き上がれず、合宿部屋で横になっているとのこと。しばらくして様子を見にゆくと、広い和室でひとり痛そうにうつ伏せになっていました。「お疲れ様。頑張ったな。」と声をかけると、「こんな恰好のままですみません。」と弱々しい答えが返ってきました。その姿を見た時、私は思わず目頭が熱くなりました。そして、「ありがとう。しばらく休んで。」と言葉をかけて部屋を出ました。上司に怒られたから会社をやめるとか、自分にあつた仕事がないとか文句ばかりで根性のない男が多くなった日本において、弱冠18歳の乙女がこんな頑張りしていること、それが本校の生徒であること、涙が出るほど嬉しくてうれしくて。本校の弓道部は今年、創部20年目、総勢40名、過去、団体ではインターハイ2回、全国選抜大会3

回の優勝と、個人ではインターハイ、全国選抜大会での優勝を始め十数名が入賞実績を誇ります。また、技能優秀校にも数度選ばれており、大阪のみならず全国からも注目されているクラブです。しかし、ローマは一日にして成らず、ここまでの道は決して平坦なものではありませんでした。佐藤教諭が5名の部員から活動を始め、2年前、私が校長に就任したころまでは、まだ旧校舎の屋上のシートテント張りが道場でした。夏は蒸し風呂ですし、冬は寒風吹きすさむなか、生徒たちは練習に励んでいました。定期考査中は短時間の練習の後、みんなで試験勉強をしていました。学校見学会や諸行事についても他のクラブの先頭に立って汗をかいていました。先輩が後輩の面倒を見、クラブ全体で動く体制がきちんと確立されています。また、卒業生の訪問してくれる人数、回数ともに他のクラブとは比較にならないほど多いのは、如何に弓道部の結束が固いかを示す好例だと思えます。経済的に厳しい家庭の子もいますが、就職して初任給をもらうと、今までお世話になったからといって、少ない給与の中から在学中の合宿費用を持つてくる者や練習してい

る後輩たちにお菓子や飲み物の差し入れを持ってきてくれる者が沢山います。弓道を通じて技術だけでなく心を学びとってくれたことが嬉しくてなりません。これがまた後輩たちへの良き教育になるのです。新校舎建設が決まった時、弓道場の場所を運動場の一角に確保することに対して、「なぜ、弓道部だけ優遇するのか」、「運動場が狭くなる」など反対する意見も聞かれましたが、やはり新弓道場建設を決断して良かったと思っています。それだけの価値のあるクラブです。同じ武道でも、剣道、柔道と異なり、弓道には鬨う相手がいません。相手は自分自身。極めてストイックな武道です。「日本の弓術」という本が岩波文庫にあります。明治末に日本に留学したオイゲン・ヘリゲルというドイツ人の哲学者が、弓聖と呼ばれた阿波研造氏に師事し弓道を習い、弓道と禅の類似性に言及しています。「的に当てようと思うな」、「体の力を抜いて」という師匠の言葉が合理精神の塊であったドイツ人、ヘリゲルには最初は解らなかったようで、「的に当てるために矢を射るのではないか」、「全身に力を込めねば強く引けないではないか」と、悩んだと言います。

しかし、「的に迫ってくる」という表現などは、大学時代に習った、「飛んでいる矢は止まっている」という弁証法的考え方に似ており、禅や武士道精神も一種の哲学なのだから、ついにはドイツ人哲学者にも理解できたのではないかと思います。ヘリゲルはドイツ敗戦後、占領軍に恩師からもらった弓まで奪われてしまう憂き目に遭いますが、超然として静かな死を迎えたそうです。日本人以上に日本人らしい彼の生き方には一種の無常観と美意識を感じます。新しい弓道場の壁の一角に私が贈った哲学者ニーチェの言葉が掲げられています。「君は君の友のために、自分をどんなに美しく装っても、装いすぎるということはないのだ。なぜなら、君は友にとつ



## 高学歴化のわな

て、超人を目指して飛ぶ一本の矢、憧れの熱意であるべきだから。」日々新たな自分を求め、前進する乙女たちに幸多かれと祈りを込めたメッセージです。

全国学力テストを受けた小学校6年生の成績が保護者の年収によって大きな差が出ました。所得が高いほど成績がよく、正答率で20%もの開きがみられます。そして残念ながら、経済格差が学力格差につながり、将来の進学や就職を左右しています。大卒と高卒、中卒との給与格差、大学の格差による就職可能企業の格差等々。家が豊かでないために、勉強の場を奪われ、将来の活躍の機会も奪われることは、社会的にも大きな損失であり、教育の機会均等が求められます。しかし、高校への進学率が97%、大学進学率も50%となり高学歴化が進み大学進学が当然になり、大

学に行つてまで勉強したくないのに大学を目指す指さねばならない世の中というのも考え直すべきではないかと思えます。本校も以前は商業高校でしたので卒業後就職する生徒が多く、優秀な子は大手銀行や生保に採用されていました。しかし、今では、高卒の採用は業種、職種ともかなり限られています。例え、簿記の資格をとつても希望する企業での経理事務の求人がないのですから、資格取得の意欲も失われます。かつては大手銀行にも高卒の支店長がいましたし、支店の課長クラスには優秀な高卒の実務者がいました。ところが今は大卒でなければ採用されません。一定の基礎学力があれば、あとは社会に出て実践のなかでスキルアップできることも多いはずです。

イギリスでは中等教育の期間に16歳でGCSE (General Certificate of Secondary Education) という義務教育終了検定試験が行われ、大学進学希望者は中等教育の上級課程に進みシニアスクールの二年間(日本の高校2年、3年生)でGCSE—Aレベルに挑戦します。一方、日本で言う専門学校に進学し職業訓練をしたいものはGCSEテストを

受けた後、Further Education Collegeに進みます。日本のように否が応でも高校3年間勉強して卒業し18歳にならないと専門学校に行けないということはありません。イギリスの大学は1960年代に出来た新しい大学を含めて、また1992年の法改正による大学以外の高等教育の一元化による大学の増加を経て120校ほどで、一校を除き全て公立です。サッチャー政権下、経済発展のため高学歴化を推進し大学進学率は60%と高くなっていますが、この中にはフルタイムの学生の4割近くに相当するパートタイムの学生も含まれており、日本と異なり生涯学習機関としての性格が強くなっています。勉強しないと卒業ができず、35%ほどが中途退学しています。日本は中途退学率10%と先進国では最低です。ちなみに退学率が最も高いのはアメリカで50%を超えています。言いかえれば、日本ではあまり勉強しなくても卒業できるといふこととなります。大学設置基準の緩和により現在約750の大学が存在していますが、半分が応募定員不足に陥っていますが、大学生のレベルは学力でも倫理面でも低下していることは昨今のニュースで明らかで

す。大学間の二極化も拡大しています。大卒という資格、いわゆる学士の資格と能力とが一致しなくなっています。大卒者の粗製乱造が起きているのではないでしょうか。目的意識を持って本当に大学に行って勉強しようと思っている人が大学に行き、勉強より実社会に出て働きたいという人にはそれが可能になるコースをきちんと用意すること、即ち職業専門学校のような教育機関を作り（既存の専門学校や大学からの移行も含め）、企業もそこから一定の職種の雇用を受け入れる体制を



再構築すべきだと思います。名ばかりの大卒よりはるかに優秀な人材を獲得することもできると思います。そして大学は高等教育研究機関としてもっとアカデミズムにシフトすべきだと思います。大所高所から世の中を考えることができるリーダーの育成の責務を果たすべきではないでしょうか。制度が変わらない限り、将来の職業選択の幅を広げるため、大学への進学を勧めざるを得ないのが現実ですが、みんながみんな大学に行く、形ばかりの高学歴化は人的資源の無駄使いのような気がしてなりません。経済学で節約のパラドックスを表す「流動性のわな」という言葉がありますが、今の日本の高等教育は「高学歴化のわな」に陥っているといえないでしょうか。高学歴化が経済発展に寄与し、各人の幸福の増大につながっているのかどうか疑問に思います。

45

2009/08/30

## 教育の独立

「二国の独立は国民の独立に基づき、国民の独立はその精神の独立に根ざす。而して国民精神の独立は実に学問の独立によるものなれば其の国を独立せしめんと欲せば必ず先ず精神を独立せしめざるを得ず。而してその精神を独立せしめんと欲せば必ず先ずその学問を独立せしめざるを得ず」これは、1882年10月21日、東京専門学校（後の早稲田大学）開校式典の祝辞の中において、小野梓が述べたことばです。小野梓は英米に留学し憲法、法律、社会文化に精通し、近代日本の行政や司法制度の確立に尽力した若手官僚であり、大隈重信の右腕でもありました。当時、大学ではいわゆる御雇外国人教師による外国語によって授業が行われていました。これでは西欧の学問を西欧の言葉で伝えるだけで、受け売りにしかならず、自国の状況に比して評価し考えることにはなりません。小野は東京専門学校の授業はすべて日本語で行うことで、「自学」すなわち自分の頭で考えることの大切さを説いたものといえます。政権選択がキーワードとなった衆議院議員総選挙の投票日を明後日に控え、景気刺激策や社会保障、格差是正等が争点となるその陰で、国家



を敵視し、責任を取らない教育を推進してきたと言われる団体の長が新政権の中枢に入るのではないかとの憶測も飛び交っており、気になる場所です。高校までの学校教育における授業では、教師が生徒に知識を伝承し正解を教えるというトップダウン式の教育がなされます。基礎学力をつけるためにそれは必要なことだと思えます。しかし、世の中には確かさに満ち溢れており、正解が一つという訳にはゆかないものですから、自分の頭で考えることが必要になってきます。自分の頭で考えるためには身に付けた基礎知識が歪んだものであってはなりません。理数系ではあまり問題は起こらないと思いますが、文系の教科、特に社会科学では偏った歴史認識を植え付

けてしまう危険性があります。自虐史観か反自虐史観かといった教条的な教え方では物事を多面的にとらえる柔軟頭を持った若者を育成できません。出来るだけ事実を客観的に描写するとともに、その原因についても出来るだけ多くの、そして相反する事柄を列挙することにより、各々に考えさせることが大切です。国際化や愛国心などの言葉が躍りがちですが、考えるプロセスの大切さにまで議論が進まないのが残念です。件の政治家は「政治を抜きに教育はない。教育を語るとき政治を語らなければならぬ。」と、発言したと報道されていますが、事実なら、このような人が新政権で重要なポジションを占め、教育に介入するようなことになれば由々しき事態です。初代会計検査院長などを務めた小野梓は、上記のスピーチの三年後にわずか33歳で早世しますが、「学問の独立」は、1913年早稲田大学創立30周年式典で宣明され、「早稲田大学教旨」に明記され現在に至っています。しかし、繰り返しされる大学生の不祥事を小野は草葉の陰でどのような思いで見つめているのでしょうか。自分の頭で考えることができない若者をこれ以上乱造しないた

めに、今まさに「教育の独立」が求められています。

46

2009/09/10

## グランドの 芝生化なる

去る8月30日、夏休み最後の日曜日、グランドは朝からそれぞれのユニフォームに身を包んだ小学生と保護者で一杯になりました。グランド芝生化完成記念の女子小学生チームによるキックベースボール大会、好文カップが開催されたのです。近隣の四区から八チームが参加してくれた第一回の好文カップは教員、生徒会、クラブ生徒の協力で成功裏に終わりました。ゲーム終了後、校門で見送る本校生徒たちに、みなさん最敬礼でお帰りになりました。グランドの芝生化は近隣に対して砂が飛び迷惑をかけることを第一の目的として実施しましたが、鳥や蝶、トンボが沢山来るようになり、夜には虫の声も聞こえ、雰囲気ぐつと良くなりました。芝生への立ち

入りを解禁した日、一番最初に誰が入るだろうかと興味津津で見えておりますと、私も良く知っている2年生が5人、走り回ったり、靴投げをしたり、転げまわったりし始めました。そのうち「花一匁」<sup>はないちもんめ</sup>をやりだしました。日頃生意気なところもある高校生ですが、童心に帰った様な姿を見て、嬉しくなりました。もつともその連中は放課後、スプリングラーの間を駆け巡り、全身ぼとぼとになり、水も滴るイイ…状態。風邪を引かせないように、弓道部に頼んでシャワーを浴びさせ、美



術の先生からヘアードライアーを借りて服装と髪を整えて帰らせるところまで面倒を見ることになりましたが、今年卒業した生徒が7人、学校に来ており、レストラン前のウッドデッキテラスのパラソルの下に座り、「見違えるようにきれいな学校になりましたね。いいな。」と口々に言いながら、築山と芝生のグラウンドを眺めて話をしていました。以前は本当に殺風景な学校でした。昔、「東京砂漠」という歌謡曲が流行りましたが、グラウンドに部活の生徒がいない時は取り残されたハンドボールのゴールに砂が舞う、まさに砂漠のような味気ない風景でさびしくなりました。年間3万人を超える自殺者を出し続けている日本、学校においても様々なストレスや悩みを抱えた生徒は増加しており、心を癒す、いわゆるヒーリング効果を発揮する校内空間や自然環境は大切だと思えます。芝生化とともに築山設置や植樹も行いました。樹木はまだ小さいので木陰を作ってくれるまでには時間がかかりますが、クスやモミジ、サクラなどが成長し適当な木陰を作ってくれたならその下にベンチを置けば、昼休みや放課後に本を読む生徒もいるだろうかと今から楽しみです。



校舎内にも玄関や一階の階段下におしゃれな輸入家具のイスと机を置きました。生徒たちは気に入ってくれ、おしゃべりしたり勉強したりしています。

高級車のシートのように、お尻から腰、背中をしっかりと支えてくれるイスは子供達もその座り心地の良さを実感しています。芝生や樹木、デザイン性のあるイスや机が直ちに生活習慣の改善や学力向上に効果を発揮するものではありませんが、子供たちが居心地が良いと感じる場所が増えてゆけば、学校全体に

## 人は変われるもの

潤いが生まれ、落ち着きが出てくると考えています。そして、良いものを良いとわかる感性を養うことも教養のひとつだと思います。

今年が彼岸が過ぎてもまだ暑い日が続いています。そんな昨日、放課後レストランで3年生の生徒二人とアイスクリームを食べながら少し話をする時間が持てました。二人とも大学進学を目指して頑張っています。一人はこれから受ける大学名をあげ、全部落ちたらどうしようかと心配し、一人は経済か法律を勉強したいと言っていました。しかし、この二人2年半前入学した時とは想像もできない変わりようなのです。この子たちだけではありません、多くの生徒が本当に変わりました。入学時は学校に来るのがやっつとのような状態で、服装もだらしなく、授業での集中など全く出来ず、抜け出しては「帰りたい。も

ういやだ。」と、駄々を言っていました。生徒相談室で何度も話をしましたし、教室にも入り注意もしました。その子たちが進学や就職に向けて前向きに歩き出しています。こんなに嬉しいことはありません。なかでも強烈な印象は、入学式直後の一泊研修当日のこと。一人の生徒が遅れておりバスに間に合わないで私の車で一緒に連れて行ってほしいとの担任さんからの依頼を受けました。載せていったものの、運動靴の紐は結べないし、カバンから当時は禁止していた携帯電話は出すは、おまけに化粧ポーチまで出してきたのは呆れました。中学時代はかなりいい加減な生活をしていたようで、民間から校長になったばかりの私にはまさに先が思いやられるスタートとなりました。二時間ほどの車中でイソツブの「アリとキリギリス」の話をしたら、「キリギリスって何？」と聞かれたのには参りました。それでも話の最後には、「要は、小さいことからこつこつとてことやな。」と的を射た結論を出してくれました。この子はそれ以降も結構手がかかり、保護者面談に担任と一緒に出て、両親とお話をさせていただいたこともありました。それが今、

進学に向けて準備しています。服装もバッチリです。挨拶も出来ます。試験前には居残り勉強もしています。本当に変われば変わるものです。以前、近畿大学の北口先生に御講演を頂いたとき、「過去と他人は変えられないが、自分と未来は変えられる」このことを言い続けてくださいとおっしゃったことが忘れられません。生まれ変わりが続けることが未来を創造する条件であると言えます。こんなにも大きく生徒が変わりゆくにも関わらず、変わろうとしない、変わらない教員がいることは何とも情けなく、嘆かわしい限りです。私はこの子たちから沢山の希望をもらいました。「やればできるは魔法の言葉、自分サイズの未来を拓く、チャンスメーカー好文学園」、私の作ったこのキャッチフレーズ、間違っではありませんでした。この子たちと過ごせる時間も残り少なくなってきました。少しさびしい気もしますが、第二、第三の「この子たち」が後に控えています。闘いと夢は限りなく広がっています。

## センスの良さ

千船駅から千船大橋を渡って神崎川を左に見ながら本校に至るこの道は本当にゴミの多い道です。以前は何箇所かにゴミ箱が設置されていたのですが、これが逆効果で、生活ゴミまで捨てる有様。校外清掃の生徒たちが片付けてくれました。あまりひどいので市に連絡して撤去してもらいました。そのおかげで少しは綺麗になりましたが、煙草の吸殻とビニール袋やジュースの紙パックなどが捨てられています。特に煙草の吸殻の多さには呆れます。大人がこんな状態では子供たちに公共心を持つと言っても、説得力がありません。そんな情けない大人たちが捨てたゴミを本校の生徒たちは嫌がらずに週2回掃除をしてくれています。一昨年の冬、学校見学会の前日、あまりの汚さに、「中学生や保護者にこの道を通して学校に来ていただくのは如何なものか。ちょっと掃除をしよう。」と私が

言いだしたのがきっかけで始まった清掃が校外清掃として定着したのです。既に150回近くになるうとしています。7月23日の大阪日日新聞にも記事として取り上げていただきました。さて、先日、学校見学会の朝いつものように車を降りて階段を上がり、件の道に出てみますと、またまたゴミが散乱していました。朝からこの光景を見させられると本当に意気消沈してしまいます。学校に着くなり、職員室にたまたまいた弓道部の若い顧問の先生に声をかけて、バケツとハサミを



持って二人でゴミ拾いを始めました。千船大橋にかかった時、顧問の携帯が鳴りました。朝練をしていた弓道部の主将からで、「先生今どちらですか？千船から来た一年生が道が汚いと言っていますが、今日は学校見学会がある日です。朝練をやめて清掃をしようと思えますがいいでしょうか？」とのこと。顧問は「今まさに、校長先生と千船大橋で掃除中や。」と答えました。しばらくして弓道部員が何人か手伝いに来てくれました。以心伝心、この子たちの気遣い、大変うれしく感じました。私はこれもセンスの問題だと思いま



す。「センスのいい服」とか「ユーモアのセンス」という使い方をする言葉、センスは、物事の微妙な感じをさとする働き、思慮、分別を言うたと広辞苑にあります。道が汚いと聞き、見学会に来ていただく中学生や保護者には、いやな思いをさせては良くないと考え、予定にない清掃をすべきではないかと判断し、顧問に許可をとろうとしたこの主将の行為は、まさに「センスの良い」行為ではないでしょうか。センスは最初から備わっているものではなくありません。経験と訓練の中で培われます。クラブ活動で何を学んでいるのか、こんなことから良くわかるものです。試合に勝つためのテクニクだけを学んでいたのではセンスは磨かれません。社会に出て仕事をする場合でも、勉強ができ頭が良いだけの人がいい仕事をするとは限りません。センスの良さは身だしなみに始まり顧客満足度に至るまで不可欠な要素です。

われわれ大人たちも日々センスを磨く努力をしなければなりません。センスの良い教員とセンスの悪い教員どこが違うのか？たぶん、教師という仕事に対する理解度と情熱の差だと思います。

49

2009/09/29

## 世相を斬る

かつて竹村健一氏が「世相を斬る」というタイトルの政治討論番組をやっていました。これにあやかり昨今の世相につき少々思うところを述べてみたいと思います。民主党内閣が発足し、鳩山首相は国連で2020年までにCO<sub>2</sub>の25%削減を宣言し、前原国土交通大臣は八ッ場ダムの建設中止を、亀井金融担当大臣は中小企業の銀行借入金金の元利返済3年間猶予を各々華々しく打ち上げていますが、すべて鳩山内閣のモットーである「友愛の精神」から来るものなのでしょうか。対する野党、自由民主党の谷垣禎一新総裁は「絆」を政治信条に掲げています。そういえば今年のNHK大河ドラマ天地人の主人公、直江兼統の兜の前立は「愛」でした。これには諸説があり、上杉謙信が毘沙門天の「毘」を旗印にしたことから軍神の「愛染明王」か「愛宕権現」の「愛」だというのが多

数説のようですが、ドラマでは民を慈しむ「仁愛」の「愛」という設定になっています。そして主人公の兼統は当然としても、石田三成は正義の武将で、徳川家康は権力亡者の横髪破りのごとく描かれており、家康最良の私としては残念に思いながら見ております。秀吉の遺言（遺児の秀頼を頼むという）をないがしろに専横の限りを尽くす家康を「義」（上杉景勝の旗印）に反する者として討つという理屈ですが、さて当時の状況から見ると、日本を統治する能力を持っていたのはだれなのか、戦のない泰平の世を築く才覚を持っていたのはだれなのか、冷静に考えれば家康において他にはなかったのではないのでしょうか。民を愛するならば家康に与すべしとの合理的な判断もあつたのではないかと思います。秀吉にそこまで義理立てするほどの恩義はなかったと思います。上杉家は秀吉時代に家康と伊達正宗を牽制するために越後から会津へ転封となり120万石の大大名になったにも関わらず、関ヶ原で西軍についたために家康によって米沢30万石に減封となります。伊達が60万石で残ったことを思えば、時代の流れを見誤ったとは言えないでしょうか。政治とは

権力の世界、国際政治は国権と国権のぶつかり合い、外交は机の上の戦争と言われます。

その目的は国家の安寧と国民の繁栄でなければなりません、目的を達するためには観念論だけではなく、それを行動に移した結果の有効性いかんによって明らかにされねばならず、ここにプラグマティズム（実用主義）の必要性が説かれるところです。鳩山首相は「友愛はフランス革命の旗印、「自由・平等・博愛」の博愛のこと。ひ弱なイメージとは異なる力強さを持っている。ナチスドイツ政権下、汎ヨーロッパ主義を唱えたオーストリアの政治家、クレーデンホーフ・カレルギー伯の思想に基づく。」と説明されていますが、与党が「友愛」、野党が「絆」という極めて観念的な旗印。パラダイム（一時代の支配的な物の見方）の大転換期に立たされている国民にとって、耳触りはよいのですが、頼りきれないフアジーさ（曖昧さ）が残りませんか。「兼統、愛で国が治められるかな？」という家康の声が聞こえてきます。

50

2009/10/02

## Pride (プライド)

3年前、私が本校の専務理事に就任した直後、教員とのミーティングの折、「私は自信をもって名刺を差し出せるような学校にしたい。」と申し上げました。すると一人の年配の先生が顔を真っ赤にして、「私はいつも生徒達に自分の学校にプライドを持ってと言っている。私もこの学校にプライドを持っている。みんなどうですか？」と気色ばむ場面がありました。しかしその時はなぜかだれも彼に同調はしませんでした。ミーティングの後、彼は私に「先生、大声を出してえらいすんませんでした。つい興奮して。」とおっしゃったので、「いやいや、気持はわかりますよ。いい学校にしてゆきましょう。」と肩を叩きました。その先生とはその後、気持ちを通じ合うようになり、私の良き理解者として、昨春ご退職されるまで一緒に学校改革に御尽力いただきました。プライドは、一般

には誇り、自尊心、自負心、矜持などと訳されます。しかし、私が大学受験時代から使っている研究社の新英和中辞典を引くと、上記以外に、うぬぼれ、傲慢、思いあがりという意味があります。動詞で使うときの例文として、「He prided himself on being a member of Parliament.」（彼は国會議員であることを鼻にかけた。）が載っています。これには、国會議員としてふさわしい立派な仕事もしてないくせにという批判が言外に含まれています。教師としてやるべき仕事をしっかりとやっていて初めて自分の仕事、自分の生徒、自分の学校に誇りが持てるのだと思います。そうでないならそれはうぬぼれであり思いあがりというものでしょう。この2年間で本校の多くの教員が大変忙しくなりました。毎朝の校門指導に始まる徹底した生徒指導は時には夜遅くまで及びます。賽ノ河原の石積みのようなものです。何度も何度も話しこみ、良くなつたと思つたらまた同じ注意をしなければなりません。授業改善も時にはパワーポイントを使いビジュアルに訴え解りやすい教材を作るには結構時間がかかります。しかし、その甲斐あって、生徒は着実に変わってきました。

した。私の目指す中堅女子校にはまだ手が届きませんが、変化率は驚くほど大きいものがあります。今までの本校をご存じであった近隣の中学校の先生方、町会長さん、研修旅行についていつてくださった旅行会社の添乗員さんあるいは研修旅行中立ち寄ったサービスエリアの担当者の方々からお褒めを頂く変わりよう、これは必死にやってきた教員が一番よく実感していることと思います。「私は好文学園女子高等学校の〇〇です。」と胸を張って名刺を差し出せる教員が増えてきたと思います。もちろん、そのトップは私です。進学実績や生徒数など外部評価や実績では、まだまだ私の尊敬する長野雅弘校長（取手聖徳女子中学高等学校）や木村智彦校長（浪速高校）には遠く及びませんが、校長としての矜持を持って改革を進めています。本校の良さを、特に生徒の良いところをPRできないような教員は本校には必要ありません。なぜならもしそういう教員がいるとすれば、それは真剣に教師としての仕事をしていないからです。学校にこそ「愛」の前立の兜が似合うのです。

51

2009/10/13

## 横道にそれる授業

10月12日、夜10時45分からのNHK、「ザ・コーチ（人生の教科書）」を見ました。日本一の進学校、灘高等学校の元国語教師、橋本武先生（97歳）のお話でした。橋本先生は昭和9年の21歳の時から昭和59年に71歳になられるまで50年間灘高で国語の教師として奉職され、昭和44年、東京大学に130名の合格者を出し、初めて日比谷高校を押さえて東大合格者数日本一になった原動力と言われた方です。さぞかし受験テクニクに優れた授業をされていたのかと思いきやまったく逆の「横道にそれる授業」。詩人、中勘助が大正二年に書いた小説「銀の匙」（岩波文庫）を3年間かけて読む授業です。明治・大正の風物が沢山出てくる話で、当時の駄菓子屋の話が出れば、良く似た駄菓子を探し当て生徒に食させ、その味や感触を実感させ、百人一首が出れば、百人一首大会を開き、風揚げの

場面では教室から出て運動場で凧を上げさせ、まさに横道にそれまくる授業を展開したそうです。入学時の国語が好きという生徒5%は一年後には95%に増えたとのこと。先生は授業を始める一年も前から、ノート作りを始めています。祭りの時に飾る獅子や狛犬の頭部のことを言う「しじんけん」という言葉はいくら調べてもわからず、ついには作者の中勘介氏に手紙を出して聞いたと言います。中氏もこれに丁寧に答えてくださったとのこと。夜中の2時、3時まで家でガリ版を刷ってノート作りをされた結果、三年間が終わると立派なノートが三冊出来上がりしました。橋本先生は自らわからないことを諦めず、わかった時の喜びを体験し、それを生徒に伝えられました。生徒もまた独自の研究ノートを作成してゆきました。生徒の知りたいうことを導き出す授業こそが、東大合格を可能にしたとは意外な感じがしますが、三年間この難しい小説に取り組む中で、知らないこと、わからないことを自分で調べてみる探究する姿勢を培ったと言えます。灘では今でも教科毎にマニュアルはなく、担当者一人ひとりに任せられた授業をしています。学力向上にな

るならどんな授業展開も許される実に自由な学風です。しかし、その分、各教員の授業研究、教材研究は半端なものではありません。番組のコメンテーターとして出演していた武田鉄也さんが面白いことを言っていました。

「知的体力」、「知的肺活力」です。わからないことに出くわした時、知的体力、知的肺活力のある人は、水に潜ったまま沈んでは行かず、何とか水面に顔を出し、息をしようとするものだと思います。橋本先生の授業は知的体力を高めるすなわち知的好奇心を育む効果があったわけです。97歳になった橋本先生、なかなか死に切れないそうで、現代の子供達に理解できるように「銀の匙」の研究ノートを作っておられます。完成したら灘に寄贈したいそうです。そして夢はもう一度、灘高の教壇に立つて授業をしたいと言われました。素晴らしい教師魂です。感服いたしました。灘では国語に限らず、伝説の教師、橋本武に続けとばかり、日夜、教材研究に時間を費やす多くの教師がいるようです。これが灘の伝統だそうです。マニュアルを作らなくとも優れた先輩をみんなが見習おうと努力を重ねる姿はまさに理想的であります。一人で

も多くの生徒の満足度を高めることを目標とする本校においても、いや、本校にこそ「横道にそれる授業」は、必要なのではないのでしょうか。

52

2009/11/06

## 時に感じて涙を そそぎ…

今年もまた庭の十月桜がちらほらと薄いピンクの花をつけています。先日の木枯らしの後、落ち葉の掃除をしていて気がつきました。11月に入り残すところ今年もあと2カ月を切りましたが、世の中すっかり元気をなくしまさに鬱の時代に入った感があります。アフリカ系初のアメリカ合衆国大統領としてバラク・オバマ氏が就任し、世界中から歓喜の声で迎えられたのもつかの間、昨年のリーマンショックに端を発した金融危機は一向に収まる気配がなく、世界中で景気後退を招いています。アメリカの象徴であった自動車産業は壊滅状態で、GM、クライスラーともに

チャプター11を申請し、政府と労働組合の手で再建に着手することになりました。世界最大の資産規模を誇った金融機関シティグループも事実上国家管理になり、株価は3ドル台に落ちています。1980年代に同じく株価が8ドルまで落ち、サウジアラビアなど中東マネーや日本のトップバンクからの資金提供で息を吹き返し、ジョン・リード会長の下、再生を果たしたシティですが、今度も再起なるのでしょうか。金融の産業に占める割合が大きい英国経済の落ち込みも激しいようです。金融市場のウインブルドン現象と言われ、他国の一流金融機関が競って参入したロンドンの金融街シティに元気がありません。ブレイア前首相の下、大蔵大臣として長期にわたる好況を支えたブラウン首相の人氣は低下の一途で、来年度の総選挙での政権交代は必至の状況です。日本ではフラッグシップといわれる日本の翼、日本航空JALがついに金融機関の支援を得られず、国有化されることになりました。トヨタ自動車の豊田社長は自社が企業倒産の5段階のうち4段階にきていると危機感を募らせています。日銀もFRBも英中銀も実質ゼロ金利政策を継

続しており、景気の二番底も噂されています。ドルの信認は低下し1ドル90円のドル安。50円に向かうとの観測もあります。ドル基軸通貨体制の終焉とその後の世界秩序が議論的的です。そこに新型インフルエンザの世界的蔓延が輪をかけ人々の心理にマイナスの影響を与えています。このような状態では来年を明るく見ると予測する人が皆無なのも頷けます。そもそも経済学の前提は、合理的な市場参加者でした。すなわち、人々は合理的な判断をするという前提で経済の状況を説明し、予測しようとしてきましたが、最近では行動経済学や経済物理学という考え方が現れ、人と人の心理的相互作用から経済現象を説明しようとの動きが盛んです。しかし、考えてみればこのような話は何も今に始まったことではなく、500年にわたるバブルの歴史を振り返れば、経済が必ずしも合理的な判断を下す人々によつて秩序だつて動くものではなく、投機的な人の心理で動くことは明らかです。1990年ごろ、皇居の地価は米カリフォルニア州の地価と同じで、東京都の地価はアメリカ全土の地価と同じだったのです。名門コースとはいえたかがゴルフ倶楽

部の会員権が3億円。東京都心の高級マンションが150平米で10億円。今考えれば合理的な金額ではありませんでした。自民党の惨敗で民主党政権が誕生しましたが、私自身は小泉内閣が成立した時のような高揚感、期待感が持てません。小泉政権はアメリカの市場原理主義を信奉し、格差社会を作り出した元凶だと指弾され集中砲火を浴びています。物事にはプラスの面もあればマイナスの面もあります。「改革なくして成長なし」はその通りであり、「友愛の精神を持って……」よりは数段分りやすい前向きな方針だつたと思います。その後の自民党政権が、改革のマイナス面を攻撃されることに怯み、安倍、福田、麻生と言葉を持たない首相が1年毎に交代という中、国民の不満がたまりにたまり、民主党の地滑りの勝利につながりました。民主党バブルが醸成されたと言えましょう。しかし、右から左まで抱え込んだ巨大なバブルはいずれ崩壊するでしょう。世界経済も当分低金利と国債増発が続く、マネーサプライが増加の一途を辿れば、またぞろバブルが発生し崩壊に至る可能性も無しとはいえません。1980年代のバブル時代を経験した人が、

給料も減り、残業代も抑えられ、交際費も使えない昨今の低成長下の儉約ムードに飽き飽きし、バブル再来を望む気持ちも分らぬではありません。しかし、バブルは必ず崩壊するもの。そのあとの凄まじさを思い出すと、「国破れて山河在り」です。好文パーソナルファイナンス講座でこんな話もしないといけないかなと思ひ、晴天の秋の午後、サクラの花を眺めながら、「時に感じては花にも涙をそそぎ、別れを恨んで鳥にも心を驚かす」と時を過ごしたのであります。

53

2009/11/17

## 人生は舞台、 人は役者

先日、96歳で亡くなられた森繁久弥さんは私の好きな俳優の一人でした。森繁さんといえは「社長シリーズ」。映画館で見たものではありませんが、テレビでよく見たものです。高度成長時代の日本の会社が舞台で、ワンマン社長に腰巾着役員や若手改革派など入

り乱れた恋愛ありドタバタありの喜劇でした  
が、根っからの悪者が登場しない後味の良い  
ハッピーエンドの映画でした。竹脇無我さん  
と親子を演じた「だいこんの花」は、私が中  
学生のころに放映されたテレビドラマで、日  
常生活の中での父と息子の微妙な心遣いを描  
いた心温まるホームドラマでした。喜劇やは  
のぼの系の役だけでなく有吉佐和子さん原作  
の「恍惚の人」では鬼気迫るシリアスな役ど  
ころを見事にこなした俳優でした。私が一番

印象に残っているのは戸川猪佐武氏が戦後政  
治をドラマティックに描いた「小説、吉田学  
校」の映画化で、吉田茂を演じた時です。吉  
田茂元首相特有の甲高い声ではなく落ち着い  
た低い声であったことから、逆に本物より本  
物らしい吉田茂だったと思います。政界引退  
後大磯の海岸を着物姿でステッキを握りなが  
ら歩く姿は、大きな仕事をなし終えた自信と  
満足感そしてまだ枯れ切っていない野心への  
未練が混ざり合い、巨星の背中に哀愁を感じ  
るラストシーンでした。久弥という名前は事  
業家であった父親が親交のあった三菱の総  
帥、岩崎久弥にあやかって名付けたさうで  
す。祖父は江戸幕府の大目付職にあったとい

いますからなかなかの家柄だったのでしょ  
う。早稲田大学の商学部に入学しますが、軍  
事教練を拒否し中退したというエピソードも  
あります。このような家庭環境や経験が森繁  
さんの個性のバックボーンになったのだと思  
います。昭和という舞台で様々な役を演じ  
きつた森繁さんの人生はさぞ面白かっただろ  
うなと思います。日経の文化欄で、映画評論  
家の佐藤忠男さんが「森繁久弥さんを悼む」  
のなかで次のように述べておられます。「喜  
劇人には下積みの苦勞が長かった人が多い。  
その苦勞の味をにじみ出せるような役に出  
会ったとき、まるで人が変わったように、人  
生の厳しさをさりげない微苦笑ひとつで表現  
してみせることができる。」この言葉は、「若  
い時から苦しみや悩みを数多く経験し乗り越  
えてきた人は、責任ある立場に立ち大きな決  
断をしなければならぬとき、慌てふためく  
ことなく、人生の厳しさをさりげない微苦笑  
ひとつで表現して見せることができる。」と、  
言い換えることができるのではないでしょ  
うか。「人生は舞台、人は役者」、森繁久弥も吉  
田茂もまさにユーモアに富む人生の名優で  
あったと思います。

54

2009/11/19

## すたれるマナー

通勤電車の中で飲食する大人が増えてお  
り、公共マナーがすたれてきたとニュースで  
報じていました。東京郊外の私鉄の中で  
ジャージ姿の女子大生が熱々のおでんを食べ  
ながら談笑しているのを見かねた高齢の男性  
が「行儀が悪いな。」と一喝したが、平気で  
食べ続けたとか、地下鉄車内で携帯片手にコ  
ンビニ弁当をかき込むサラリーマン、社内で  
立ったままおにぎりを食べるOL、揺れる  
バスの中でホットコーヒーを飲む男性会社員  
等等。東京メトロでは、「家でやろう」シ  
リーズのポスターを、マナー啓発を呼び掛け  
るために作り注目を集めているさうで、電車  
の座席でつゆを両脇の人に飛ばしながらカッ  
プラーメンをすすっているポスターを張り出  
しました。なんとも空恐ろしい限りです。な  
ぜこんなに行儀が悪くなったのでしょうか。  
アメリカナイズされた食べ歩き食文化(?)

の蔓延による影響も大きいと思いますが、要はおとながこどもに注意しなくなったことが最大の原因ではないかと思えます。私がこどもの頃には電車のシートに靴のまま足を上げただけで、「シートが汚れるから足をおろしなさい。」と隣のおじさんから注意されたものです。「割れ窓理論」というものがあります。1970年代にアメリカで唱えられ、1994年、当時のニューヨーク市長、ルドルフ・ジュリアーニ氏が採用し、警察による軽微な犯罪も見逃さない徹底したパトロールによりニューヨークの落書きと犯罪が激減したといわれたことから有名になりました。「ビルの窓ガラスが一つでも割られているのを放置していると、すべての窓ガラスが割られ、ビル自体が壊される。そしてその地域全体の治安が悪化する。」というもので、小さな犯罪の芽を徹底的に摘み取ることで大きな犯罪の発生を防ぐことが出来ると考えられました。これはゼロ・トレランス（不寛容）政策とも呼ばれています。この成果については疑問を呈する向きもあります。ステイヴン・レヴェットとダブナーの共著による「ヤバイ経済学」(Freakonomics)では、中絶が

合法化され崩壊家庭で生まれるこどもたちが減少したことがニューヨークの犯罪の減少の理由であり、割れ窓理論の実践の結果ではないとの見解を述べています。アメリカと日本では確かに社会状況に違いがあります。日本ではこのゼロ・トレランスの考え方を生徒指導に活かす学校もあります。ただしこれはかなり手順を踏んだものであり納得性のあるシステムが組まれています。また、故意に窓ガラスを割る行為は器物損壊で犯罪ですが、身だしなみが悪いとか授業態度が悪いのは犯罪ではありません。なぜそれがいけないのかを先ず理解させなければならず指導する方の説得力が試されます。マナーや社会常識といわれるものは言うはたやすいのですが、身につけるとなると案外難しいものです。良い例が挨拶です。挨拶がコミュニケーションの基本だと言われ大事なこととは分ついても、自分から進んで挨拶できる人は結構少ないものです。駅の改札口で駅員さんの挨拶にあなただは挨拶を返していますか？レストランで料理を運んできてもらったとき、「有難う」と言っていますか？食べ終わった料理を片づけに来てくれたとき、「ちそうさま」と言っ

ているでしょうか？ そんなところで偉そうにしても仕方がないと思う場面によく出くわしますが、他人事ながらとても不愉快な気持ちになります。このようなことは残念ながらなかなか自分で気がつかず、人に言われてはっと気づくケースが多いのです。だから大人は子供に、上司は部下に社会常識やマナーをくちすつばく教えてゆかねばなりません。マメな努力を怠ってきたつけが公共マナーをすたれさせた原因だと思えます。こう考えると、割れ窓理論、ゼロ・トレランスにも一定の意味があると思えます。とくに、こどもには理屈ではなく型から教え、習慣となったあとで、すなわち大人になったときにその意味が分ることだっております。マニュアルや押しつけだけでは良くないでしょうが、理詰めでも埒があかないことだっております。バランスが大事です。小さい時は押し付けに重心を置き、成長するに従って理屈にバランスを移す指導が必要だと思えます。小さいときの押し付け、型の教育が欠落していたがゆえにとんでもない大人が大量生産されているのでしょう。

『坂の上の雲』を  
求めて

NHKドラマ「坂の上の雲」が始まりました。日本騎兵の生みの親といわれた秋山好古と海軍参謀として日露戦争を戦った真之兄弟そして俳人正岡子規の友情を横糸に、明治維新以降の文明開化の政治経済状況を縦糸に、日清、日露の両大戦を超えて西欧列強に肩を並べるべく近代化の道をひた走った日本の姿を描いています。東洋の片隅の小さな島国が封建の世から目覚め、そこを登りつめて行けばきっと手が届くと信じ憧れた欧米的近代国家を坂の上にたなびく白い雲に例えた作者の司馬遼太郎さんは、日本は日露戦争後に変わったと言いました。日露戦争での勝利が軍部や国民の増長を招き、太平洋戦争への序曲を奏でることになったとの司馬史観には賛否両論がありますが、私は明治維新でドイツの立憲君主制を手本とし欽定憲法の下、天皇に軍服をお着せした時から道が定まったので

はないかと思えます。それはさておき、この時代、日本は貧しかったのですが、ひたすら駆け登るべき坂があり、その先には掴み取るべき白い雲が棚引いていました。現在の私たちに求めるべき坂の上の雲はあるのでしょうか。IT革命による情報技術の目覚ましい発展は、グローバル化とポードレス化を推し進め、その結果、アメリカの絶対優位が揺らぎ世界の多極化が進んでおります。多極化は不安定化、不確実性の増大につながっています。戦後、東洋の奇跡と言われる経済発展を



遂げ、世界第二の経済大国となった我が国ですが、来年にはGDP世界第二の地位は中国に明け渡すことが確実になっています。総人口も2004年の12779万人をピークに減少に転じ、2105年には4459万人になります。生産年齢人口も1995年の8717万人にピークアウトしており2105年には2263万人にまで減少します。1920年には11・1人の生産年齢人口（15歳〜64歳）で一人の65歳以上の高齢者を支えていましたが、その比率は2000年では3・9人、2008年には2・9人となっております。（以上出所：総務省、国立社会保障・人口問題研究所）猛烈な少子高齢化です。パラダイムの大転換期にあたり、次なる目標を見つけないければなりません。サブプライムローンに端を発した世界的金融バブルの崩壊によるデフレの渦の中に沈みつつあるのが我が国の現状です。9月29日の好文本「世相を斬る」で述べた予測は現実のものとなりつつあります。鳩山総理の友愛精神は与党の連立を維持するためのみに機能し、国際政治と外交の場ではむしろ有害になっていま



す。日露戦争当時、これ以上のロシアとの闘いは国力の限界にきていた我が国は、アメリカにロシアとの停戦の仲介を頼みます。特使に立った後の枢密顧問官金子堅太郎はルーズベルト大統領とはハーバード大学で共に学んだ仲で、新渡戸稲造の「武士道」をこよなく愛した日本最良の大統領とは馬が合ったと言います。金子は日露開戦に至った経緯をアメリカの政治家や経済人を集めた会合で理路整然と説明し、アメリカの世論を味方につけま

す。アメリカ人気質を知り尽くした金子のまさに机上の戦争は成功を収めます。スタンフォード大学で学んだ鳩山総理には金子堅太郎のような人脈も外交センスもないのでしょうか。日露戦争の戦費調達に駆け回り、イギリスでの起債に成功する高橋是清も、若い時アメリカに渡り英語が出来ないために奴隷に売られそうになりますが、刻苦勉勵の暁に日銀総裁を経て大蔵大臣、総理大臣となります。三等国日本には掴み取ろうとする目標があり、それを実現させる人材がいましたが、一等国となった日本にはその両方ともがないとは皮肉なものです。政治家ばかりではありません。「末は博士か大臣か」という立身出世志向を求めるのは時代錯誤であるにしても、若者の勉学への意欲の低下は憂うべきものがあります。欧米の一流大学で学ぶ日本人は、中国や韓国に比べると質量ともに劣るといのが定説です。豊かな国で育ったのでハングリー精神が無いの一言で片づけていいものではありません。自立と社会貢献の意識を育て切れていない日本社会の在り方が問われているのです。勉強をしなければ将来が拓けない、努力なくしては何事もなし得ない、適度な競争は必要だという原理原則を取り戻すことが求められています。明治初期、福澤諭吉は「学問のすすめ」を著わし、「一身独立して、一国独立す」と説きました。一身の独立は学問を通じての精神的自立と経済的自立にほかなりません。そしてその学問とは高尚な古典や漢文や詩歌の解釈などを指すのではなく、読み書きそろばんを基礎とした実学であり道徳です。少子化による国力の衰退が議論に上りますが、自発的ニートやフリーターが増える日本は、国民精神の脆弱化から国家としての自立が脅かされる危機の深淵に立っているのではないのでしょうか。こんなことを考えながら雨の校門に立っていた時、一人

の一年生の生徒が駆け寄ってきました。「校長先生、期末テストの平均が81なんです。頑張りました。やればできるようになりました。」と。この笑顔、値千金。

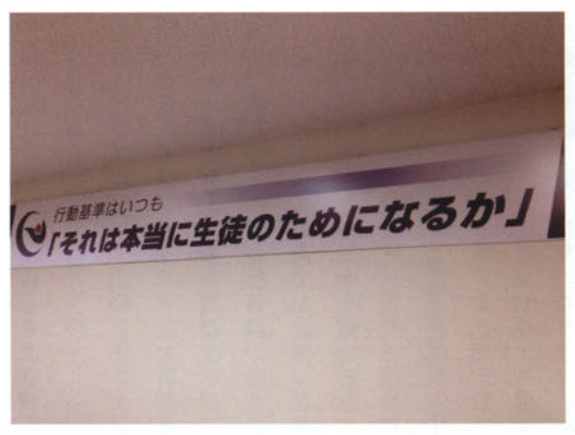
56

2009/12/27

## 2009年を振り返って

世界的な景気後退とデフレ進行に決め手となる対策が見いだせず、景気の二番底を心配しての年越しとなりますが、本校にとっては決して悪い一年ではありませんでした。むしろ一人一人にとって満足ゆく結果を出せた生徒が多かったと思います。マンガアニメコースの一期生となる三年生の中から、第一回スクウェア・エニックス戦・漫画大賞で入選を果たしプロの道へ一步を進めた生徒がいました。インターハイで感動を与えてくれた弓道部主将は筑波大学に合格しました。本校にとっては久方ぶりの国立大学進学です。入学時の想定範囲を超えて大学進学や就職を決

めた生徒が沢山出ました。嬉しい限りです。19日の土曜日が最終回であった学校見学会には過去数年で最高人数の中学生とその保護者の方々が来て下さいました。公立高校の授業料無償化が打ち出され懸念しておりましたが、本校の改革の進展がじわじわと伝わってきたのではないかと思います。日経ビジネスの12月14日号の特集「銀行亡国」のなかに鹿児島銀行の記事がありました。市場が限られている地銀のハンディキャップを強みに変えようとしている永田頭取は、「我々には大きな資金力ものすごい金融技術もないからお客さまと喜びあえる関係じゃないと生きていけない。」と言います。顧客からも「ここま



で現場に密着してやってくれるのか。」と行員の熱意を高く評価する声が多いようです。永田頭取は、「我々は送り人でもあるんです。顧客が倒産しないように考えるのが大事だが、経済も企業も生き物であり、倒産することもある。その時、我々は最後まで看取って葬式も出す。逃げていては信頼されない。」との言葉はとても印象的です。鹿児島銀行の姿勢は本校にも相通じるところがあります。本校も全国区ではなく地域限定の女子校で

結果が退学となろうとも、最後の最後まで諦めるなど言っています。場合によっては私自身が生徒や保護者とも面談をし、その生徒の為になることは何かを話し合います。退学する生徒を見送るのは大変さみしくつらいものがありますが、「先生方にここまでやっていただいて有難うございました。」とお礼を言われずと少しは救われた気持ちになれます。企業では顧客満足度といいますが、本校職員室の壁には、「行動基準はいつも、それは本当に生徒のためになるか」の大きなボードが掲げられています。看板倒れではなく、教員の努力が実をむすび、生徒の満足度が徐々に高まりつつあることを肌で感じる事が出来た一年であったと思います。来年も世界経済は厳しさが続くでしょうが、本校はさらにバージョンアップして生徒満足度No.1を目指して前進します。

## 組織と人と

2010年を迎えました。2月の卒業式は私にとって校長として初めて迎えた新入生たちを送り出す記念すべき式となります。気になる子がまだ数人残っていますが、進路の確定をサポートしたいと思っています。また、公立高校の授業料無償化元年となる今年の新入生の数も私学経営者にとっては大いに気掛かりです。ところで、年末年始は息子がインフルエンザに罹ったこともあり、どこにも出かけず読書やテレビに明け暮れる休日を通り越したなかで、文藝春秋2010年1月号の「特集『坂の上の雲』今こそ読み返す――時代の危機、名参謀に学ぶ」を大変興味深く読みました。「日露戦争時には明治維新の立役者であった伊藤博文、山県有朋、大山巖、児玉源太郎などが現役の大臣や大将として活躍した。彼らは自ら激動の維新に矢弾の下を潜り抜けた経験を持ち、政治も経済も軍

事も分ったジェネラリストとして国の舵を握り、個々の戦闘においても外交においても妥当な判断を下すことが出来たのではないかと彼らが引退あるいは死去し、政治家は政治のことだけ軍人は軍事のことだけしか知らない横のネットワークの希薄なスペシャリストの時代となり、陸軍士官学校や海軍兵学校出身のエリート軍人が主導権を握り、その甘い現状認識と楽観的な将来展望のもと満州事変から日中戦争そして太平洋戦争へと突き進んでいったのではないかと。トップの資質論、戦略論、組織論はいつの時代にも考えさせられる課題です。学生時代就職活動をしていた時、総合商社希望の私は、山崎豊子さんの小説「不毛地帯」の影響もあり、また財閥系への反発もあって伊藤忠商事を選びました。伊藤忠商事は近江商人、伊藤忠兵衛が麻布の行商から築き上げた繊維財閥で、戦後、国際化路線を押し進めて繊維商社から総合社への飛躍の基礎を築いた越後正一氏や、越後社長の下、業務本部を率いた瀬島龍三氏（小説「不毛地帯」の主人公のモデルと言われ、太平洋戦争時の大本営参謀でシベリア抑留後伊藤忠商事で活躍、後、中曽根臨調で土光敏夫

会長を補佐）など強力なリーダーシップのもと発展してきた会社で、組織より人の目立つ会社かもしれません。商社業界の双壁は、「人の三井、組織の三菱」と言われる三井物産と三菱商事です。大学生の就職人気企業ランキングでも常に上位に入っています。三菱財閥は今年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」の語り部、岩崎弥太郎が一代で築き上げた日本最大の財閥で、組織力を活かした経営で大きくなってきたと言われています。一方の三井財閥は江戸時代からの三井呉服商（三井



家)を源流とし財閥を形成してきましたが、三井物産創業者で茶人としても有名だった益田孝や三井物産上海支店で活躍した後に政治家となり満州、中国への進出、いわゆる大陸拡張派の頭目となった森恪もりたかなど個性的なリーダーを排出してきました。国家と企業に思いを巡らす時、一頭のライオンに率いられた100匹の羊の群れは、一匹の羊に率いられた100頭のライオンの群れより強いと言言葉を思い出しました。我々凡人は事が上手くいかなくなると直ぐに組織をいじくることに目が行きがちですが、何よりも最初に関われるべきはトップの資質、肝に銘ずべしと自戒を込めてのスタートです。

58

2010/01/12

## 心の温度を上げる

暖冬と言われるものの流石にこの時期になれば寒さも厳しくなります。ここ数年冷気性気味で、手足がすぐに冷たくなります。肩こ

りや頭痛も頻繁に起きるのはいわゆる未病とのこと。そんな折、斎藤真嗣氏の「体温を上げると健康になる」というテーマの講演要旨を読みました。1950年代の日本人の平均体温は36・89度とほぼ37度、それが今では36度ある人は少なく、中には35度を切る人もいるそうです。現に本校の生徒に聞いてみても、34・85度ですという答えが返ってきました。私自身も37度近くは微熱状態で少ししんどく、36度前半ぐらいが平熱で熱は高くない方がよいと思っていました。しかし、斎藤先生によれば体温は1度下がると免疫力が30%低下するそうで、36・5度ぐらいに保つことが大切だそうです。免疫力が低下すると風邪をひきやすくなったり、ストレスに弱くなったりし、その結果、うつ病や癌にもなりやすくなるそうです。体温を上げるためには早寝早起きと腸管にやさしい食事を選ぶこと、すなわち脂質の高い肉類は避けることが大切だそうです。何より大事なことは筋肉を衰えさせないことです。筋肉はエネルギーを酸性にして体温を上げる臓器なんだそうです。人間の筋肉の7割は下半身に集中しているので、歩く習慣をつけて下半身の筋肉を鍛

えることが一番とのこと。肉体的な健康を保つために体温を上げる必要があるなら、知的健康を保つためには脳の活性化により脳温度(そんなのがあるのかどうか知りませんが)を上げる必要があるのじゃないかと思えます。そのために常に考えることが大切であり、勉強することが必要なんでしょう。そして基礎知識や社会常識を身につけ知識を知恵に変えることで社会的な免疫力が付くのだと思います。歩くことや基礎知識や社会常識などは特別高度なものではなく、まさに常識的なもの。しかし、科学技術が進歩し世の中が複雑になればなるほど、物事の本質が見失われ、難しいものほど高度で精緻なものと言った誤解が生じるのではないのでしょうか。サブプライムローンに象徴される複雑な仕組みの金融商品を生み出した金融工学などはそのよい例ではないでしょうか。原理原則を知り、基本に忠実なる事の大切さを感じます。肉体的温度、知的温度とくればもう一つ大切なのは心の温度。先日ドラマ化されテレビ放映された「筆談ホステス」の斎藤里恵さんの本を読みました。1歳10カ月の時、髄膜炎にかかり聴力を失ってしまいます。いじめや嘲笑に

負けて不良少女として過ごした時期もありましたが、今では銀座一のホステスです。ここでホステスと言う職業の善し悪しを論じるほど私は無粋ではありませんので、あしからず。彼女は聞こえないからしゃべれないのでコミュニケーションは全て筆談です。小さい頃、習字をならっていたので字がきれいなのですが、何より書く内容が心に響きます。仕事に失敗した人が落ち込んで、「辛」というひと文字書けば、一本横棒を付け加えて「幸」という字に変え、「辛いは幸せになる途中です。」と書きます。プロジェクトの夢破れた商社マンが仕事を辞めようかと思うと書けば、「夢に人をつければ、儂いとなります。夢は儂いもの。だからまた新しい夢を見ればいいじゃないですか。」彼女の書く文章にはセールストークでは片づけられない優しさ、温かさ、温度を感じます。小学校の時、ある教師に嫌われ、黒板に「神様に耳を取られた娘」と書かれ、つらい思いを沢山経験してきただけに人の痛みには敏感なのだと思います。この教師とは8年後、ホステスになったときに思わぬ再開を果たしますが、もう教師はやめて別の仕事についていたこと、あの時

はとりあえずの繋ぎで教師をしていたと聞いてホッとしたとの彼女の感想を読んで、このような心ない教師とその心ない言葉に負けずに頑張った生徒との差は人間としては無限大だなと感じました。かつて、「教師も神様ではないので、反面教師って場合もありますから、」という言い訳を聞かされたことがありましたが、やっぱり教師は反面教師であつてはならない、そうなりそうなら潔く辞めるべきだと思います。心の温度を上げるには、失敗やつらい経験をし、人の痛みが分ることが必要であり、これは教師にこそ最も求められる資質だと思います。今日、ある生徒に斎藤里恵さんの言葉をプレゼントしました。「困難のない人生は無難な人生、困難のある人生は有難い人生。」

59

2010/02/05

## 受験の思い出

先日懐かしい方から電話を頂きました。32

33年ぶりでした。私が予備校時代にお世話になった有坂先生です。実は、このころ有坂先生のが無性に懐かしく一度連絡を取りたいと思っていた矢先の出来事だったので、大変驚きました。本校のホームページを見た当時の後輩が先生に知らせたそうです。先生は、東京の大手予備校で25年に亘り名物講師を務められ最近リタイアされたそうですが、生徒から「先生の今までの教え子の中で印象に残っている人はどんな人ですか。」と聞かれるたびに、私のことを話していたと伺い、嬉しく思いました。浪人生だった私は予備校の授業とは別にその先生が主催する国語と日本史の受験勉強サークルに属していました。現役の女子高生もいましたし私のような年長の浪人生もいました。日本史好きのわたしは先生と関東管領について白熱の議論を交わしたり、天皇制について論じたり、単なる丸暗記の受験勉強とは一味もふた味も違った授業でした。話が少しそれますが、私の日本史好きは甲陽学院高校時代、日本史の授業を担当された故中島久先生の影響が大きかったと思います。中島先生の板書は右から左にきちんとまとめて書かれ、話も面白く、にこ

ぼん宰相桂太郎の話はよく覚えています。話を戻します。有坂先生は大変なクラシックファンで、勉強をそつちのので、フルトベングラーが舞台に出てくる足音入りのベートベン第九のレコードを買ってきて聞かせて下さったこともありました。先生はICU（国際基督教大学）出身で、ICU受験対策講座もあり、岩波新書のE・H・カー著「歴史とは何か」を二時間で速読し設問に答えるということもやりました。数学が大の苦手だった私に、「数学やれよ。そして東大を受けろよ。入れるから。」と、おだてるのも上手でした。受験間際には旅館で3人の友人と一緒に勉強合宿もしました。勉強を一段落させ風呂に入っていた時、誰からともなく「故郷」が口をついて出て、「志を果たして、いつの日にか帰らん」のところでは皆しんみりとしたものです。かなり遠回りをして大学に入りましたが、今思えば、有坂先生のお陰で実に充実した楽しい受験生活を送ることができたと感謝しております。先生と生徒の関係で大切なことは何か。単に教科の知識を伝達するだけならeラーニングで十分な時代になつてきました。アカデミックなことに限ら

ず、ものの見方、考え方、生き方に影響を与えるようなコミュニケーションこそが師弟の交わりの醍醐味といえると思います。「よし、これを教えてやろう。」と力まなくても、自然体で自分が楽しそうに教えてゆけば生徒にもその面白さが伝わります。いかにもつまらなさそうに授業をすれば、その気持ちが生徒に伝わり、勉強嫌いを増やすだけ。授業力とはテクニックではなく、その先生がどれだけ自分の受け持つ教科が好きなのかによると言えるかもしれません。

60

2010/02/15

## オリンピック選手の資格

バンクーバー冬季五輪で、スノーボードの日本代表選手が服装の乱れを理由に入村式出席を自粛させられました。この選手、21歳の大学生で、ズボンをずらして穿くいわゆる「腰パン」スタイルだったそうです。全日本スキー連盟からの注意にも語尾を伸ばして

「反省していません。」と答えたと報道されています。選手団として出発時の成田空港での写真を見ても腰パンにサンングラスと鼻ピアスといったスタイル。スノーボード界の朝青龍等と揶揄されています。スノーボード陣は前回のトリノ五輪でも服装や態度の悪さを指摘されていたようです。オリンピックに出る選手に「生徒指導」の徹底が必要になったようで実に情けない話です。本校でもかつては制服のスカートを短くしたり、腰パンならぬ腰スカートにしたり、ブラウスのボタンを大幅に外したり、ピアスや化粧をしたりといった生徒が多く、注意してもなかなか良くなりませんでした。私が校長になったとき、生徒指導の徹底を命じました。それと同時に、怒鳴りつけるような力技で従わせる指導は心を変えることができないからやめるように言いました。なぜそうしなければならぬかを解るまで説明し、厳しくとも丁寧な生徒指導を継続的に行うことを指示しました。そして私があるの先頭に立ちました。この本質を理解するというのは結構難しいものです。最近の学園ドラマをみれば、女子高生のスカートはミニが当たり前。ブラウスは胸元を開けて、ス

カートの上に出すスタイルです。きちんとした服装をすることがダサく、だらしのない恰好がファッショナブルだとの印象を与えていません。制服の持つ意味がわかっていません。制服やユニフォームはそれを着用する集団の統制をとるためのものであり、行おうとすることに対する姿勢を整えるためのものです。したがって、制服の着方に個性は不要なので、問題のスノーボードの選手は、日本選手団の一員として着る制服の意味がわかっていません。また近代オリンピックの創設者クーベルタン男爵の言葉「オリンピックで重要なことは勝つことではなく、参加することである。人生で大切なことは成功することではなく、努力することである。」をも多分知らないのではないか、すなわちオリンピックの持つ意味を知らないままオリンピック代表選手になってしまったのではないかとも思います。彼を選手団の一員として、腰パン、サングラス、シャツ出し、鼻ピアスの姿で出国させた監督にこそ「喝！」です。本校のクラブ顧問にはありえない大失態です。NHK大河ドラマ「龍馬伝」、先週は黒船来航に遭遇した龍馬が「アメリカの進んだ文明に剣は役

に立たない。千葉道場で剣の修行に励んでも意味がないのではないか。」と悩む場面でした。龍馬は苦悩しようやく結論に至ります。「黒船に対抗するのは剣そのものではなく、剣の道を究めることで無の境地にいたる自身である」と。最近不祥事続きの相撲界にもかつては立派な横綱がいました。第35代横綱の双葉山です。常勝の双葉山がついに安芸の海に敗れ連勝が69でストップした時、友人に宛てた電報には「われ未だ木鶏たりえず」とあつたと言います。これはいかなる敵にも無心で、木で作られた鶏のように見えた時、徳が充実して無敵になったという中国の鬪鶏の話に由来します。すなわち自分はまだまだ未熟で木鶏の境地に至っていないとの反省です。この心構えが称賛され今に伝えられています。国技だからとか日本人だからとかは関係ありません。西洋のスポーツも日本の武道もその神髄は自己修養です。しかし、ここにお金が絡むとテクニクに走り勝ちばかりを求めようになる人が出てきます。そしてチャラチャラし出しスター気取りになり横柄な態度になります。そしてそれがその選手の本命取りになる場合が多いのです。私はよく本

校の運動部の生徒に聞くのです。「君たちはこの競技で将来ご飯を食べて行くつもりですか?」と。するとほとんどの生徒は「いいえ違います。」と答えます。そこで、「じゃあ、この3年間のクラブ活動の意味は何なんだろうね?」と聞きます。3年生でクラブを引退する時、この問いにきちんと答えられたら、たとえ優秀な成績を残せなかったとしても合格だと思っています。

61

2010/02/27

## 幸福を足元で 育てる賢い人に

—平成21年度卒業式式辞—

三年生のみなさん、卒業おめでとうございませう。保護者の皆様にもここからお祝いを申し上げます。みなさんはわたしが学校長に就任し初めて迎えた生徒であり、今日のよき日を迎えることが出来、感慨もひとしおです。この3年間を振り返る時、見違えるほどの自己変革を遂げ大きく成長した沢山の生徒の顔が、一人また一人とわたしの脳裏に浮か

できません。今では恒例となっている朝の校門での挨拶もあなたがたの入学式から始めました。寒い朝、眠い朝、しんどい朝から「おはようございます」と声を出して挨拶するなんて面倒臭いと感じた人もいたでしょうし、気恥ずかしいと思った人もいたでしょう。実はわたしも教育現場に初めて足を踏み入れ大勢の生徒に挨拶するのは初めての経験で、最初は恥ずかしく思いました。しかし、あなた方と挨拶を交わすうちに、挨拶はお互いの存在を認め合うサインなのだということが改めてよく解りました。身だしなみも徹底的に指導してきました。折しも今、オリンピック、スノーボードの日本代表選手の服装が物議を醸しています。マスコミや政治家のなかにも的外れな論調が見受けられます。国や学校ごとに特色のある制服やユニフォームはありますが、その着方に個性は不要です。同じようにきちんと着用するのが制服なのですから。どうしてこんなことが解らないのかと思いますが、常識を正しく理解するのは結構難しいのかもしれませんが、学生時代、かなり勉強してきたつもりなのですが、卒業してしまつと習った教科の内容はほとんど忘れてしまつ

ています。余程その分野を活かす職業にでも就かない限り、忘れてしまうものです。微積分が解けなくなつても、仮定法過去が何だつたか忘れてしまったとしても、社会人として普通に仕事をしてゆく上では何の支障もありません。「じゃあ、勉強した意味がないのではないか？」と考えるのは軽率です。NHK大河ドラマ『龍馬伝』、ペリー艦隊の来航を目の当たりにした龍馬が、千葉道場での剣の修行に意味を見いだせなくなり苦悩するという場面がありました。「黒船に、剣で対抗な



ど出来るわけがない。そんな役に立たない剣を学ぶ意味はないのではないか」悩みに悩んだ末に龍馬は、「剣そのもので黒船に対抗するのではない、剣の道を究めることで無の境地に至るその自分自身こそが大切なのだ」と悟ります。みなさんもまた勉強やクラブ活動を一生懸命にやることを通して知識や技術だけではなく、やればできるという自信とチャレンジ精神を身につけることができたいと思います。知識や技術はどんどん進歩してゆきます。そして世の中は方程式通りには動いてくれないものです。学びを厭わない人と厭う人の差は、わからない問題にぶち当たった時、考えることのできる人と投げ出してしまふ人の差となって現れます。これからも常に学ぶ姿勢を持ち続けてください。今年は金融危機の影響から大変厳しい就職戦線でした。有名大学を出てもなかなか就職が決まらない学生が沢山出ました。そんな中、先日の日経新聞では2011年度就職予定の大学3年生にアンケートした就職希望企業ランキングを掲載しておりました。東京海上日動火災保険をトップに銀行や商社が上位に並んでおりましたが、企業は何をもって採用・不採用を決め



るのでしょうか。実は私が就職活動をした30年前も今も変わりはありません。有名大学出身者であることや成績が優秀であることあるいはスポーツに秀でていることも確かに判断材料となりえますが最後の決めては面接官が、「自分はこの人と一緒に気持ちよくそして効果的に仕事をしてゆけるか」の一点なのです。話し方や態度からにじみ出る人柄は一朝一夕に出来るものではありません。面接にハウ・ツー本を読んで臨むようでは就職活動での成功は覚束ないでしょう。日々研鑽を積むことが大切です。本校を卒業し進学する人もまだ進路を決めかねている人も、いずれは社会人として仕事に就くことになりま

す。「職業は人生の背骨」です。これがしっかりとっていないければ豊かな人生は送れません。一足先に社会に出るみなさん、先ずは与えられた仕事にしっかりと取り組んでください。面白くないとかやりがいがないとか早計に判断すべきではありません。組織に属して仕事をするからには思い通りにならないことも多々あります。やりたいことだけが仕事ではありません。やりたくない仕事もあればやらねばならないのも仕事です。「下足番を命

62

2010/03/03

## 戦い終わって 日が暮れて

じられたら、日本一の下足番になってみる。そうしたら、誰も君を下足番にしてはおかぬ」とは、阪急グループの創始者小林一三のことばです。どんな仕事でも創意工夫ができ、ここをこめて一生懸命やっていたら必ずそれを見ている人がいます。そして人は仕事を通して学び磨かれるものです。世の中には現状に文句ばかり言い批判に明け暮れている人もいます。愚かな人は幸福が何処か遠いところにあると思います。賢い人は日々の学びと努力を通じて幸福を足元で育てるものです。賢くそして素敵な女性になつてしあわせな人生を歩んでください。みなさんの健康とご多幸そして益々の活躍をこころから祈りつつ、わたくしの式辞と致します。

に就任して初めて迎えた生徒たちの卒業式ということもあり感慨深いものでした。商社勤務を経て中小企業の経営に従事しており教育には全くの素人が校長を引き受けたものの、当時の学校の様子から生徒指導が最優先課題だと直感し、入学式当日から校門に立ち挨拶と服装指導を始めました。挨拶をしても挨拶を返さない子やひどい服装の子たちを指導しながら「なんだこの子らは」と自分自身の当時に振り返りあまりの格差に呆れたものでしたが、生徒と話をするうちに、解らない、知らないからやらない、出来ないのだからと言うことが解ってきました。一泊研修から様々なトラブルが発生し、授業が始まると学校になじめない、授業をきちんと受けられない生徒が出てきました。担任や生徒指導部長とともに私自身も子どもたちと話をし、彼女らの中に入って行きました。そして私の中には日増しにこの子たちを何とかしたい、このままではもったいない、一人前にして卒業させたいという思いが強くなってゆきました。ベテランの先生方からすれば、新任の素人の校長が細かいところまで首を突っ込んでくるのでさぞ迷惑に思われたことでしょう。一方の私はな

ぜもつと突っ込んだ指導をしてくれないのかとの思いが強くなりました。それゆえに当初は生徒に対する批判であったものが教員に対する不満に変わったのかもしれない。「四角い部屋を丸く掃いてはダメ。隅々まで目を凝らして。」と言いつづけています。こどもたちの多くは私に心を開いて色々話をしてくれました。最初は都合のいい言い訳がほとんどでしたが、とにかくじつじつ聞ききました。私も学校はそんなに好きではなく寒い時は何だかんだと理由をつけて体育の授業を見学したりしていましたので、こどもたちの気持ちも分るところもあります。それにしても我慢とけじめがなさすぎ、打たれ弱い子が増え、従来の指導では効果が無くなったのも確かです。相当手間をかけてやらねばならず、教員の苦勞もわかりますが、それが教員の仕事なのでですから誠心誠意取り組まねばなりません。わたしは自分の経験や思いを一つずつ話してゆきました。ベテランの生徒指導部長がかなりフォローしてくれました。「校長先生の思いはこういうことなんや、わかるか」と、生徒のこころの扉を開いてくれました。一旦扉が開くとコミュニケーションが成り立

ち、徐々に生徒は変わってきました。もともとビジネス社会に身を置いていた私ですから、礼儀やマナーは人一倍うるさいのですが、それを大上段に振りかざしても生徒は従いません。校長室でお昼を一緒に食べたりお菓子を食べたりしながら話を聞くことも多々ありました。それを楽しみにくる生徒がいます。これをよく思わない教員もいることは分っています。しかしわたしはこれは望ましい事ではないが必要なものだと考えています。そのかわり、服装を正して行儀よく食べ



させますし、生徒も机を拭いてゴミはちゃんとゴミ箱に捨てて帰ります。このなかの会話から大学進学を決めた子もいました。生徒や保護者に手紙を書いたり、保護者面談をしたり、不登校気味になった生徒を駅まで迎えに行ったり、とにかく自分に来ることは何でもやりました。本来は校長がやるべきことではないかもしれませんが、私は自分が職員室に掲げた行動指針「それは本当に生徒のためになるか」の率先者でなければなりません。教員のメンツより生徒ファーストです。校長は中小企業の社長と同じで、常に現場を回り現場を知り指示を与えることが大事だと思います。またトップセールスマンでなくてはなりません。そのためには自校の生徒に精通していなければなりません。先日、公立高校で永年講師をやられている30代半ばの先生と話す機会がありました。その先生曰く、「自分の中では生徒指導はだんだん厳しくなっています。言うことを聞かずに逃げる生徒は追いかけてでも何とかさせようとするのですが、追いかけるとまた逃げるのです。」失礼ながらわたしは「それではトム（ネコ）とジェリー（ネズミ）ですね。」と笑ってし

まいりました。この先生はとても真面目で一生懸命にやっておられるのですが、目線が高いのだと思います。「ドイツ・ニーランドのスタッフのようにこどもにはこどもの目線に合わせよう！自分がしゃがんで話をしないと理解してくれませんよ。それとこどもにはそれぞれ色々な事情やバックグラウンドがあるのでそれを調べたうえで適切なアプローチをされたらいかがですか。」とアドバイス申し上げました。私も含め多くの教員は比較的恵まれた環境で育っています。しかし、生徒の中には大変厳しい環境にいる子もたくさんいます。そのなかで反抗的になる子もいれば感心するほど健気に頑張っている子もいます。この子たちが様々な障害を乗り越え、本校を無事に卒業し、進学にあるいは就職にと進めるようにサポートするのが我々の役割です。一年生の二学期ごろにはもう駄目かなと思った子たちが、挨拶もし、身だしなみも良くくなり、進学や就職を決めて卒業してゆきました。本人からも保護者からお礼の言葉を頂きました時は、少しは人の役に立てたかなと嬉しく感じました。「校長先生の前では良い子ぶっていても、通り過ぎた後にべロを出し

ていましたよ。」と言ってきた人がいました。「覚悟の上。一度や二度で分って改心してくれるとは思っていませんよ。」と答えました。子育てってそんな簡単なものじゃないですからね。とにもかくにも第一期生の子育てが終わりました。夕方、教頭が初の生徒による学校評価を持ってきてくれました。3年生のなかでもっとも評価が高かったのは、入学当時に問題山積で私が当初から何かにつけ指導をしてきたコースでした。「生活の規律に関する指導がされている」という項目で最高点であると同時に「入学して良かった」でも最高点でした。日暮れの校庭に立ちながら、「気持ち、伝わったな。」と少し胸を張りました。

## 63 2010/03/24 幸せになるための クラブ活動

本校は以前から運動部奨励生制度を持って運動部のクラブ活動に力を入れており、インターハイや全国大会への常連で優勝経験豊富

なクラブもあります。しかし、3年前、私が校長として本校に来た時、一部のクラブ生徒には「部活さえ一生懸命していればそれでいい。」といった風潮も無きにしも非ずで、クラブ活動のみならず勉学においても全ての学校生活において本校の模範生となるというこの制度の趣旨が有名無実になりつつあることを大変残念に思いました。私は「勝つことだけが目的の部活は意味がありません。勝敗は時の運。部活を通じて心を磨いてほしい。」と、改めてクラブ顧問をお願いをしました。顧問との話し合いや部員同士の相談もあったのでしよう。次第に校外清掃や学校行事にも進んで力を貸してくれるようになりました。先日、運動8クラブのキャプテンが「部活を通じて何を後輩に伝えたいか。そのために自分たちはどうあるべきか。」というタイトルで作文を書いたというので、見せてもらいました。印象に残った部分を少し長く紹介します。「言葉で教えるというのがありますが、先ずは自分自身が見本となって行動している姿を見せるのが一番だと思います。先輩がしていないことを後輩がまねるはずがありません。」「先輩は、私たちにわか



りやすい言葉ではなく深く重い背中で語ったのだ。果たして私たちは背中で語れているだろうか、答えは「できていない」だ。「言葉だけではなく行動でも示していただきたいので、私たちも同じように示していきたい。」、「他人よりも2倍、3倍努力をし、やらされる3時間よりも自ら進んでやる1時間の価値を知り、—敵は相手ではなく自分であることを知り、己に勝てる人間になり、失敗を人のせいにはせず—。」なかなか良く分かっていません。これを聞くと耳が痛い大人もいるのでは

ないでしょうか。そして最後に「目先の勝ち負けだけでなく、自分たちが将来、幸せになる為のクラブ活動作りをしていきたいと思えます。」という文章を読んだ時には、思わずわが意を得たりと、膝を打ちました。この子たちの顧問はしっかりと指導をしてくれているなと感じました。山本五十六（太平洋戦争時の連合艦隊司令長官）は「やってみせ、言ってみせて、やらせてみて、ほめてやらねば、人は動かす」と人材育成の要諦を示しました。多くの幕末維新のリーダーを育てた吉田松陰もまた言行一致を旨としました。その結果、武蔵の野辺に朽ちる身となりましたが、そこに松陰の教育者、師としての真骨頂があるのではないのでしょうか。生徒は教師が思う以上にその背中を良く見ているものです。野辺に朽ちるまでと言うつもりはありませんが、相当の覚悟で生徒に接することが出来なければ生徒の心を打つ教育は出来ないと思います。また、本校は女子校ですから、クラブ指導においても女性らしさを忘れさせない指導をしていただきたいものです。プレーの時は元気で凛々しくとも、その他の場面では女性としての良識を持った立ち居振る舞い

ができるように指導をしていたきたく思います。そして名実ともに彼女たちが代表的好文レディとなってくれることを期待しています。

64

2010/04/09

たくさん失敗、  
たくさん挫折、  
そしてたくさん感動を  
—平成22年度入学式辞から—

新入生のみなさん、入学おめでとうござい  
ます。保護者の皆様にも心からお慶びを申し  
上げます。さて、新入生のみなさん、義務教  
育を修了して高校に進んだみなさんはいよいよ  
よ大人への準備期間に入ったと言えます。今  
から約2500年前の中国の思想家に孔子  
と言う人がいます。孔子の言葉を後に弟子が  
まとめ論語と言う書物が出来上がり、世界中  
で読まれています。その論語の中に「われ十  
有五にして学に志す」で始まる有名な言葉が  
あります。十有五とは15歳、ちょうどみなさ  
んと同じ年齢ですね。孔子は人格がどのよう  
に育まれてゆくか、その過程を述べているの



ですが、学業はその一要素にすぎません。現代社会においても、知識を知恵に変え、多くの人とコミュニケーションを図り、変化に対応できる柔軟な頭を持つこと、人から慕われる人間的魅力を備えることなど、総合的な人間力を養うことが求められます。わたしはそれは挑戦と挫折を繰り返すことで一生かかって獲得できるものだと思います。みなさんの平均寿命は86歳です。これから70年の長い人生があります。その長い人生の中では何度か失敗や挫折を経験することでしょう。失敗を

糧にして学び、次に活かすことこそ真の学習であり大切なことです。思い返してみれば、私自身、成功より失敗の方が多かったかも知れません。中学受験では成績が振るわず志望校を受験することもできなかった私は捲土重来を誓って勉強に精を出しました。その甲斐あって高校は見事志望校に合格できましたが、高校に入ってからすっかり安心してしまい、勉強もしないまま大学受験を迎え、ものの見事に失敗しました。東京での予備校生活を経てようやく志望大学に合格できましたが、かなり遠回りをいたしました。大学卒業後、社会人になって会社に入り上司や先輩の厳しい指導のお陰で失敗を乗り越えてここまで来ることが出来ました。私は自分の経験から、「楽は苦の種、苦は楽の種、やはり努力なくしては何事も叶わない」ということを身にしみて学んできました。東京での予備校生活を振り返るとき、辛いことも多々ありましたが、先生や友人に恵まれ、受験勉強はもちろん様々な社会勉強もすることが出来、大変充実した日々を送ることが出来たことを懐かしく思い出します。その時の経験が後で大いに役立ちました。人生は順風満帆に行くに越し

たことはありませんが、なかなか思い通りに行かないものです。急がば回れと言います。時には遠回りも止むをえません。その途中できつと掴みとれる何かがあるはずですが、私も高校受験と予備校時代は必死で勉強しました。若い時にはどこかで一度は勉強でもスポーツでも芸術でもいいですから、本気で精いっぱいやったという経験をもつことは、必要だと思います。容易に物事を諦めない粘りと自信を身につけることが出来ます。科学技術の進歩は大変便利な社会を作り出しましたが、その一方でストレスの多い社会にもなったと言えます。このような社会を生き抜いてゆくためには、困難を乗り越えることができる打たれ強さが必要です。テレビでもおなじみの脳科学者の茂木健一郎さんは、人格を磨くためには感動することに尽きるといいます。脳の中にはドーパミンという神経伝達物質があり、この物質が出ると嬉しいと感じ、同時にその前にやっていた行動が強化されるそうです。お医者さんに命を救われると、感動した多くの人は勉強を一生懸命にしています。自分もお医者さんになろうとするケースがありますね。プラズマテレビやデジタルカメ

ラなどみなさんの身の回りの家電製品を製造販売しているパナソニックという会社を知っている人は多いと思います。プロゴルファーの石川遼選手が所属している会社でもありません。世界有数の大会社ですがこの会社を作った松下幸之助と言う人は家が貧しく、お金もなく、学歴もなく、体も弱かったと言います。このような無い無いのひとがどうして事業を成功させることが出来たのでしょうか。幸之助さんの伝記を読みますと、感動したという体験をたくさん持ち、自らもそうありたいと実践し、苦難を乗り越えたことがわかります。視野を広げるために読書は効果的な手段であり、読書を通じてハンディキャップを克服した人々の生き方に触れることは現状から脱却し飛躍する勇気を得る一助になると思います。感動するとはどういうことでしょうか。読んで字のごとく感じて動くということだと思います。感じるだけではないかもしれません。大学卒業後ずっと会社で働いてきた私が3年前にこの学校の校長を引き受けたきっかけも実は感動からなのです。この学校のある先生とある生徒たちに感じて動かさ

れたのです。みなさんも好文学園での3年間、勉強にクラブ活動にそして様々な学校行事に積極的に参加することを通じて、たくさん失敗をし、たくさん挫折を味わいそしてたくさん感動を経験してください。そのなかから将来の夢や目標を見つけ出してください。好文学園はそのチャンスをみなさんに提供できる場であると信じて疑いません。ただし、幸運の女神には前髪しかないといえます。チャンスを逃がさないように上手くつかんでください。自分の前を通り過ぎてからはつかめません。3年間のみなさんの健闘を祈りつつ私の式辞と致します。

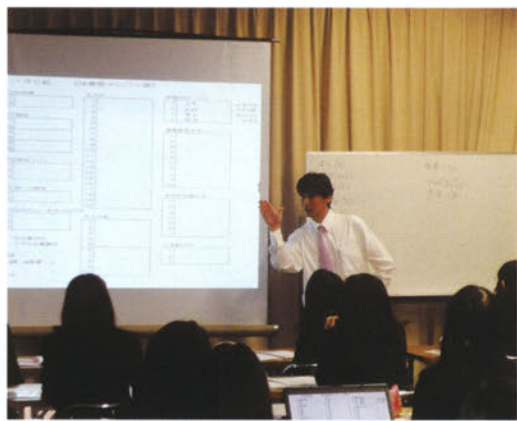
65

2010/04/16

## 「之を楽しむ者」に 感謝

4月13日から一泊二日の新入生オリエンテーションが京都のレイクフォレストリゾートで行われ、私も同行し、13日の夕食までをともにしました。片道約1時間半のバスの旅

を終えた新入生はゴルフ場が広がる緑豊かな施設に到着すると直ちに大広間に集合し、本校の教育方針である「自立した、社会に貢献できる女性」になるための具体的な方策として、PDC A、4S、ホウレンソウなどを社会での仕事を例にとつて説明を受けます。そのあと、身だしなみや授業態度に関する教員による寸劇、エチケットマナー劇場があり、校歌練習と続きます。全体集会が終わると昼食はさんで各クラスに分かれて小会議室でのホームルーム、ここでは全体会での趣旨を



担任の独自の取り組みで補強します。夕方のクラス対抗ドッジボール大会まで、緊張の連続です。少しやんちゃな生徒には担任と生徒指導部長が小まめに注意をします。自分の未来を書く作文の時間、不安にかられ涙ぐんだ生徒には他の生徒が声をかけてくれますし、別室で生徒指導部長が話を聞き、適切なアドバイスをします。今まで閉じこもっていた殻から出て行く方法を教えます。生徒は涙を拭きながら真剣に話を聞いています。そして笑顔に変わり、今教わったことを先ずやることを未来の作文に書きました。そして元気にクラスの仲間のところに戻ってゆきました。この施設の担当部長さんが教員にコーヒーを持ってきてくださいましたが、そのとき「既に何校かの高校さんをお迎えしましたが、好文学園の生徒さんが一番良く教育されています。」と褒めてくださいました。私が校長になってから4回目のオリエンテーションですが、褒めていただいたのはこれが3度目です。

校長就任2年目の研修旅行では永年お世話になつてゐる添乗員さんから「学校、変わりましたね。先生方の動きが全然違います。」と

言われました。3年目の昨年は、私たちが施設に到着し大広間に集合するのと入れ違いに研修を終えてチェックアウトされようとしていたある高校の校長先生から「うちの生徒指導はもっとしっかりしないといけませんな。おたくはよく指導できていますな。」と嬉しいお言葉をいただきました。この校長先生は私たちの行動を見て「あれはこの学校や、整然としとるやないか。聞いてこい。」と、担当教諭を本校の教員のところに寄せられたのです。そこで私がご挨拶に伺った次第でし



た。この3年、好文学園の学年団と生徒指導部の動きは見違えるほど変わりました。理事長・校長の教育方針をよく理解し、創意工夫をもって実践に生かそうと努力する先生が増えました。14日にバスで戻ってきた11名の学年団を慰勞すべく、私は近くのケーキ屋に行つてケーキを買い、事務所に頼んで紅茶を用意してもらいました。教頭が、「みんなあんまり疲れたような顔をしていませんね。元気な顔ですね。」と言いました。本当はクタクタだつたと思います。でも研修中も「全てをこなすには時間が足りませんよ。」と言いながらも笑顔でキビキビ動いていた教員たちは自ら楽しむがごとくにみえました。今年も担任を外れて副担になつた若い先生は、「担任はいいですね。担任に戻りたいです。」と言いながら各クラスの部屋を回っていました。「子曰く、之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず」という論語の一節が頭をよぎりました。

## 対話篇

先日、今年卒業して短大の英米文化学科に進学した生徒が、研修でグアムに行つて来たと言つてお土産のチョコレートを持って訪ねて来てくれました。生憎3年時の担任が出張中だったので私が彼女と話をしました。卒業してまだ二カ月ほどですが、すっかり落ち着いて大学生らしくなりちよつと驚くとともに嬉しく思いました。この子も本校入学時は学校が嫌いで生徒指導で随分面倒を見させてもらった一人でしたが、将来、航空会社かホテルで働きたいという希望をもって英語の勉強に精を出しています。「3年前とは見違えるようになったな。」と言うと、「福島（好文学園に校名変更前の大阪福島女子高等学校のこと）には中学の担任に勧められて入学したけど、あんなに生徒指導が厳しいとは思わなかったの、本当にやめたくてしかたがなかった。」とのこと。「君たちが入学してきた

4月から僕が新しく校長になって、生徒指導を厳しくしたからね。君らが聞いていた学校とはだいぶ違っただろうね。しかし、今になってみるとどう？福島に来て良かった？と水を向けますと、「本当に良かったと思うわ。」と言いながら、校長室から開け放たれたドア越しに職員室を見ながら、「先生たち結構遅くまでいるんやな。」と、以前は指導される側で気にも留めていなかったことが、余裕をもって見れるようになったようでした。「結構遅くまで皆仕事しているよ。教材研究している先生もいるし、生徒や保護者対応を協議している先生もいる。家庭訪問に行っている先生もいるしね。」と説明すると、「先生って大変なんやね。私も教職を取ろうかと思つたけど、短大だから授業が結構詰まっているので諦めたけど、それでよかったですわ。30人のクラスで29人が良い子でも一人の大変な子がいたら私なんか担任出来ないと思う。」と言うので、「何を言ってるの。君らのクラスは逆やったやないか。20人の内、真面目にやつてたのは一人二人。あとは大変なやんちゃばかりで苦労したよ。」と言うと、笑いながら大きく頷いていました。「そんな

君らに朝から学校に来るよう電話したり、辛抱強く指導してくれたり、家庭訪問もしたりと、担任の守分先生（1年時）と野川先生（2・3年時）は一生懸命やってたんよ。自分のことでも面倒すらちゃんと見れない親が多いこのご時世に、他人の子の面倒を一生懸命見ようとするのは、こどもが好きで、その子らに少しでも幸せになってほしいと願い、そのために尽くすことに生き甲斐と使命感を持っているからやで。そういう人しか先生にはならねへんね。一生懸命やったからって給





料増えるわけでもないし。先生というのはほんまに大変よ。」と、説明すると、「私には出来へんわ。きつと途中で投げたわ。守分先生、ほんま根性あるわ。偉いわ。」とすっかり感じ入っております。「しかし、良く頑張ったよな、君らは。変化率が大きいだけにほんとに嬉しいよ。何度も挫けそうになりながら3年間全うし卒業して進学したという実績は自信につながったと思うよ。これからの人生でも辛いことや困難はいっぱいあると思うけど、きつと乗り越えて行けるよ。」と励ますと、「そうやね、人生辛い事も結構ありそうやね。楽しいことばかりやったらいいのにな。」としみじみ言うので、「楽しいことばかりやったら、楽しい事が当たり前になり、そのうち楽しくなくなるよ。辛い事があるから楽しさも倍増するんじゃないか。」と私。その後、今年から1年生は土曜日授業があることに驚いたり、オリエンテーションが密度の高い内容なっていることにも感心したりと話は続き、ふと時計を見るともう9時、2時間ぐらい校長室で話をしていました。「そろそろ帰ろう。」と声をかけ、千船駅から阪神電車で隣同士で座り梅田まで出まし

た。大勢の人でこった返す大阪駅と阪急百貨店の間の横断歩道を一緒に渡っていると、「先生とこんなふうにしてるなんて何か変やね。」と、ちよつと照れくさそうに言いました。阪急電車の改札に向かうエスカレーターで別れ際、「じゃ、またね。元気で。」と声をかけると、ニコツと笑って手を振り元気に去ってゆきました。「今日は良い一日だった。」と、ほのぼのした気分で私は家路を急ぎました。

67

2010/05/07

## 改めて「品格」を 考える

本校には自分自身でマナーを見つめ勉強における正しい生活習慣を身につけるための「グレイスノート(Grace Note)」があります。校章と校訓の紹介にはじまり生徒心得や生徒会規則などを網羅したいわゆる生徒手帳の部分と「自立した社会に貢献できる女性」になるためのコンセプト・基本方針と学習・

生活の記録や復習プリプリと称した家庭学習マニュアルから成るノートです。コンセプト・基本方針では生徒それぞれが描く自分サイズの未来像に向けてコミュニケーション能力、問題解決能力、自己表現能力を開発するための実践事項が提示されています。会社での事例を取り入れてPDCAや4S、ホウレンソウの必要性を説明するなかなか良くてきた内容です。このノートは岡田教諭(現2学年主任)と八尾教諭(現1学年主任)が苦労の末に作成してくれました。そして命名者は上品とか気品、品格、品性ということを前面に出したいという岡田教諭です。少し気負い過ぎかなとも思いましたが、校名も新たに好文学園に変更し心機一転女子教育に邁進したいというやる気に敬意を表し、岡田先生の案通りグレイスノートに決めました。「品格」という言葉は、藤原正彦さんの「国家の品格」が火付け役となり、「女性の品格」や「会社の品格」、「人間の品格」など様々な「品格」本が出ましたのでブームのような感がありますが、明治初めの文明開化時にもこの品格に言及した本がベストセラーになっています。イギリスはスコットランドの作家、サミュエ

ル・スマイルズの「自助論」(Self Help)を訳した中村正直の「西国立志編」です。スマイルズは「世の中で真に権威と呼べるのは品性である」と言い、「品性の持つ力は肉体的な強さの十倍も威力を発揮する。」とのナポレオンの言葉を紹介しています。品性のバックボーンは言行一致であり、誠実な言葉、誠実な行動が品性の基本になっているといいます。マニフェストの生みの親でイギリスの首相を務めたロバート・ピールの気高い品性を、彼が亡くなった数日後にデューク・ウエリントンが議会での追悼演説で称賛したとの記述を読むと、昨今の普天間基地問題で、言葉は丁寧ですが屁理屈としか思えない独自の理論を展開している鳩山首相とのあまりの違いに愕然とします。スマイルズはさらに述べています。「職業は人を尊くはしないし、人をいやしくもしない。人が職業を尊いものにもし、またいやしいものにもするのである。職業が人の品格の高い低いに関係のない事を知るべきである。」そして品性を磨くにはとにかく良い習慣を身につけることで、「習慣は真珠の首飾り、結び目をほどけば、ことごとく抜け落ちてしまう。」、習慣の付け始めが

肝心で油断禁物であると。「品格は第二の天性」とも言いますが、習慣づけることによって始めから備わっていたように身に着くということとです。生まれや育ちが良くとも、習慣づけでなければ品格は備わらないと言えます。本校のグレイスノートの趣旨はまさにこのスマイルズが言っていることを実践してゆこうというものです。また教師についての次の指摘も意義深いものです。「いい教師は自分で学ぶことの大切さを知っている。だから生徒に自分の力で苦勞して頭を働かせて学識



を得させることを自らの義務にしている。」自分でやってみて初めてわかることですが、私自身、好文パーソナルファイナンス講座を持ち50分授業を行う時、時間内にあれもこれも教えたいと焦るとどうしても詰め込みの一方的な講義になってしまい、生徒たちは静かですがつまらなさそうに聞いていることがあり、後味が悪い経験を何度かしています。内容を2回に分けるぐらいの気持ちの余裕をもって臨み、質問したり考えを聞いたり双方の展開をすると授業自体が盛り上がります。生徒は考えることが嫌いなようでも、考えさせるように持って行けば、結構考えて良い意見を言うものです。また、自分の経験から失敗と遠回りを推奨している私にとつて、「人は勝利よりも失敗から学ぶことが多い。これはこういう方法でできるという方法は、出来ない方法を沢山見つけ出した末に発見するものだ。だから一つも失敗、誤りを犯さない人は、何ひとつ発見できない。」とのスマイルズの言葉は大変有難い応援歌です。それにしても国のトップがあのような有様では「国家の品格」はどうなるのでしょうか。

## もしドラ

今、「もしドラ」が話題になっています。

「AKB48」のプロデュースをしていた岩崎夏海氏が出した小説です。「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら。」というのが正式なタイトルです。都立高校の野球部の女子マネージャーがひよんなことからピーター・ドラッカーの「マネジメント」を読み、これを参考にしながら弱小チームを甲子園にまで導くという青春ストーリーです。主人公の女子マネージャー、川島みなみはAKB48のメンバー小説が売れているのはドラッカーの「マネジメント」という、経営学の名著を読みながら野球部のマネジメントをしてゆくという一種の経営書となっているからでしょう。ピーター・ドラッカーはフォードの大量生産方式が定着し出した1909年、オーストリア・

ハンガリー帝国の首都ウィーンに生まれしました。政府高官であった父の影響でジュネパーターやハイエクなどの当代屈指の経済学者や精神分析の権威フロイトなどがホームパーティーに来る恵まれた環境に育ち、知的好奇心を高め、経営学の父と呼ばれるようになりました。ドラッカーは企業であろうと学校や病院であろうとあらゆる組織には、存在する目的と果たすべき役割があると言います。組織は、社長から主任に至るまで、明確な目標を必要とし、各段階でのマネジメントにはその権限に見合った成果が要求される。マネジメントとは、成果に対する責任に由来する客観的な機能であると定義しています。マネジメントの役割は①自らの組織特有の使命を果たすこと②仕事を通じて働く人を生かすこと③社会に貢献することの三つ。企業の使命と目的は顧客を満足させること。「もしドラ」の主人公みなみはドラッカーの「マネジメント」を何度も読み返しながらチームの運営を行います。「顧客とは誰か」の問いに、野球部の顧客を野球部員、保護者、学校関係者とし、目的を感動を与えることと定義します。「真のマーケティングは顧客からスター

トする」ことから、野球部員の本音を引き出すためのお見舞い面談作戦を実行します。「働きたいを与えるためには仕事そのものに責任を持たせなければならない」ので、部員の特性を分析し適切な役割を与え、その成果に責任を持たせます。「イノベーションとは、価値である。その戦略の一步は、陳腐化したものを計画的かつ体系的に捨てることである」から、ノーバント・ノーポール作戦を打ち出すとともに失敗を恐れない攻めの野球に転じます。「人事に関わる意思決定こそ最大の管理手段である」において、主将の抜擢人事を行います。この小説を通じて我々が再認識すべきは、マネジメントは企業特有のものではなく、あらゆる組織において必要なものであり、責任と成果の重要性です。かつて私が校長として本校に赴任し学校改革に着手した頃、「学校と企業は違う。成果主義はなじまない。」という一見もつとも思える抵抗を受けました。確かに学力向上だけが学校教育の目的ではなく、人間教育となればその成果は一生かかって達成できるものです。しかし、上記のような反論は、やるべき努力をしていない人間がその成果を批判されることを

予見して使う逃げ口上だと退けました。「マネジメント」で、ドラッカーは、「全人格の発達という学校の目的は、定量的にはつかめない。だが、「小学三年までに本を読めるようにする」との目標は具体的である。容易に測定できる。かなり正確に測定できる。」と述べています。本校では挨拶の励行や身だしなみの指導において、スカートの丈をきちんとさせること、靴のかかとを踏ませないことなどを目標に指導を徹底してきました。学年では遅刻・欠席の数値目標も自発的に掲げていますし、クラブ活動入部率も100%を目指して動いています。教職員の人事評価制度も本年度から本格導入を致しました。各人の年間目標には具体的に成果が測定できるものを書いていただいています。「マネジメントは、生産的な仕事を通じて、働く人たちに成果をあげさせねばならない。」のです。出来なかったことができるようになった、分らなかったことが分るようになったことを通じて生徒の満足度が向上することこそ、成果であると考えています。生徒指導部や教務部あるいは各学年での目標管理と成果のレビューが徐々に定着してきました。それに従って本

校の生徒の態度、行動も変化を遂げています。私は努力を何よりも重視していますが、プロとしてはドラッカーが言うように「成果よりも努力が重要であり、職人的な技能それ自体が目的であるかのごとき錯覚を生んではならない。仕事のためではなく成果のために働き、贅肉ではなく力をつけ、過去ではなく未来のために働く意欲を生み出さなければならぬ。」と思います。これこそ私が目指す、生徒と教員双方にとってチャンス・メーカーとなる好文学園の姿です。（本校のキャッチフレーズ、「やればできるは魔法の言葉、自分サイズの未来を拓く、チャンス・メーカー好文学園」）「企業の目的の定義は一つしかない。それは、顧客を創造することである。」そして「市場動向のうち、もつとも重要なものが人口構造の変化である。」少子化の進展によりようやく学校においても危機感が醸成されマネジメントの重要性が認識されるようになってきたと思います。「わたしの思いを分ってください。努力していきますから長い目で見てください。」などというのがまかり通っている政界の先生方、特に鳩山総理には「もしドラ」の一読をお勧めしたいものです。

天候不順で雨や寒い日が多かった5月が終わり梅雨前の初夏のさわやかな日々が続いています。昨年夏に完成した天然芝のグラウンドは2年目を迎え、昼休みともなると先生と一緒に芝生の上でお弁当を食べたり、バレーボールを楽しんだりする生徒が多くなりました。ウッドデッキのテラスではグループでいつも同じ席に座りお弁当を食べている生徒がいます。白い花の咲いたクローバーを摘んで、ネットクレスを作っていた生徒もいます。緑化が子どもたちに安らぎをもたらしていることは間違いありません。生徒たちとともに行動してくれる先生も増え大変有難く感じます。今年からはエコ活動にも力を入れることにしました。ペットボトルのキャップとアルミ缶のプルタブを集めて、それぞれ車いすとポリオワクチンの普及に役立てようとしています。また、校内から出る紙ごみは非常に多

69

2010/06/03

## 満足の創造

いのですが、これを集めて古紙会社に販売し、その代金で花の種や苗を購入し校内緑化を進めるという試みもスタートし、すでに僅かですが収入を得ました。担当を引き受けてくれた保健体育の先生の几帳面な仕事ぶりに大いに助けられています。学校も組織で動かないと成果が出ないのですが、協働の精神が薄いという欠点があります。自分の仕事の範囲を勝手に決め込んでしまいがちですが、この保健体育の先生は労を厭わず小さなことからコツコツと工夫しながら仕



上げてくれていますのでスムーズに事が運んでいます。教員が創意工夫することで新しい試みを実践し、子どもたちを巻き込んで行くことが学校におけるイノベーションだと思います。学校は先ずは勉強するところですが、勉強以外の楽しみの多さが予備校や塾と違う学校の良さのパロメーターかもしれません。そしてそれらを通して学ぶことのほうが実社会では役に立つ場合があります。楽しみには勞せず楽しめるものと面倒な作業や苦勞をした暁に心が満ち足りて安らぐ楽しみがあり



ます。後者の楽しみを自発的に求めようとする子どもは少数派だと思います。軽薄な面白さに満足してしまいがちですが、低いレベルから高みを目指すようにリードするところに教育の機能があるのだと思います。「満足の創造」です。文化祭や体育祭も日頃の教育の集大成を表現する大切な機会です。少し高いハードルに挑戦してこそ得られる満足と感動があります。ひとえに教員の指導力に懸かっています。①目標設定とその説明②準備・段取り③適材適所の役割分担④適切な指導と生



徒との協働⑤完成までの各段階での検証等、

P D C A サイクルをきちんと回せるかどうか成否を分けます。「生徒のみなさんが聞く耳を持たなくなってしまう」と愚痴るようでは退場やむなしとなるでしょう。

〔国民のみなさんが聞く耳をもたなくなってしまう〕鳩山首相の退陣の弁)

70

2010/06/14

## 雨の大阪城 弓道場にて

近畿地方が例年より遅めに梅雨入りした昨日の日曜日、雨の降る中、朝から大阪城弓道場に向かいました。平成22年度春季大会第三日で全国総体団体代表決定戦の日でした。今年には沖縄で開催されるいわゆるインターハイの大阪代表を決める試合です。毎年この時期に行われ、大阪高体連の弓道専門部長の職にある私はこの大会に出席し、試合の検分と表彰ならびに講評をする役目を仰せつかつております。弓道を嗜んだことのない私です

が、本校の弓道部顧問の佐藤教諭が大阪高体連弓道専門部委員長の職にあつたため委員長職を出している学校の校長が専門部部長になる習わしから私にお鉢が回ってきたものです。何分私は40歳でテニスを始めるまで、小さいころから体育は嫌いで運動は苦手な方でしたから、大変な役を任されたものだと当初は困惑いたしました。しかし、立ち居振る舞いが美しく、「凛とした」という言葉がいかにもふさわしい弓道は「静中の動」といわれ、相手のない自分との闘いの武道であり、見るのが楽しみになってきました。観客も的に当たった時に「よーし」と大きな声援を送り、皆中（4本の矢が全体的を射る）したときに拍手をするのみで、静かに見守る姿勢も落ち着きがあつてよいものです。以前、大相撲の朝青龍の態度が問題になったことがありましたが、弓道では、選手も上手くゆこうが失敗しようがガッツポーズなどはもつてのほかで、首を傾げたり表情を崩すことさえ礼法違反とされます。物事に動じず心を平静に保つ気概が尊ばれます。今まで4回ほど大阪城弓道場に参りましたが、昨日は初めての雨の試合でした。時折強く降る雨が風にあおられて

射場内にある公文席に座っている私の顔にも当たりました。当然、射位に立つ選手の袴は風になびき、雨は頬を打ちます。表情一つ変えることなく、足踏み、胴造り、弓構え、打起し、引分け、会、離れ、残心の射法八節といわれる動作を粛々とこなしてゆきます。矢道の芝生の緑が雨にぬれて光っています。すーと清涼な風が吹いたと思った時、矢は弓を離れるに向かつて一直線に飛んで行きパンという音とともに的中します。研ぎ澄まされた静寂が「よーし」という声援によって破れます。はつと現実に引き戻される瞬間です。私は試合が終了した後の講評では、勝者を称えることはもちろんですが、圧倒的に多数である敗者に対して勇氣と希望を持ってもらえるような話をするように心がけています。昨日は行きの電車の中で読んだピーター・ドラッカーの『プロフェッショナルの条件』のなかで、彼の人生を変えた7つの経験に載っていた19世紀の作曲家ヴェルディの言葉を引用しました。ドラッカーはヴェルディが80歳のときに書いた最後のオペラ『ファルスタフ』を聞いて感動し、既にワグナーと肩を並べる身でありながら80歳という年齢でなぜ

並はずれて難しいオペラを書くという大仕事に取り組んだかの問いに答えた彼の言葉を知ります。「いつも失敗してきた。だから、もう一度挑戦する必要があった。」ドラッカーにとってこの言葉は心に消すことのできない刻印となったと言います。そしてかれは一生の仕事が何になろうとも、いつまでも諦めずに、目標とビジョンを持って自分の道を歩き続けよう、失敗し続けるに違いなくとも完全を求めていこうと決心します。このドラッカーのエピソードを紹介することによって、「良く負ける者は良く勝つ者であること」、「失敗を生かすことこそ成功へのパスポートであること」を選手のみなさんに伝えることにしたのである。弓道は心を鍛えることを最も重要視する武道であり、「人如何にあるべきか」と自問自答する禅につながる思想を持っているともいわれます。弓道をするとは哲学することとも言えるかもしれません。まだ若い学生にはそこまでの考えはないと思いますが弓道を通して人間としての幅を広げていってほしいと願っています。

71

2010/06/18

## 最小不幸社会

私の予想通り、「友愛」の小鳩は見る間に失速し急降下で沖縄の海の藻屑と消えました。次に登場した菅総理は「最小不幸社会」を指すと言います。この言葉を聞いた時すぐに、「最大多数の最大幸福」という言葉が頭に浮かびました。これは、18〜19世紀に活躍した功利主義で有名なイギリスの思想家ジェレミ・ベンサムが唱えたもので、「幸福の源は個人の幸福・快楽であり、その総和が社会全体の幸福になる」という考え方で、アダム・スミスの「神の見えざる手」同様、個人の幸福と利益追求が社会全体を良くするという産業革命期の気炎が伺えます。バブルが崩壊し、20年近くもデフレ基調が続き、どうも元気が感じられない最近の日本、中流層の消滅や国債の信用リスクが話題に上るなかでの「最小不幸社会」、もはや「最大多数の最大幸福」を目指すより少しでも生活水準を落

とさないように、出来るだけ不幸を感じる人を少なくすることしか出来ないのかと受け取れ、少し物足りなさを感じました。また、増税で、医療や福祉・介護分野への税金の重点配分で雇用を拡大し経済成長を達成するという考え方にも疑問が残ります。老人大国となり病院や福祉施設に人が溢れる社会での経済成長はイメージ出来ないのです。事業仕分けでスーパーコンピューター開発予算を審議した時、「一番でなくてもいいんでしょ？」との運動議員の質問が物議を醸しました。長期的な教育力、科学技術力の育成ということと短期的な費用対効果意識がかみ合っていないかのように思うとともに、個性や創造性を言うわりには、何だか負け犬根性のように気になりました。スマップの「世界に一つだけの花」が流行ったときに、その歌詞から「No.1よりOnly One」と、多くの人が言い出しましたが、「そのエリアでNo.1のことをOnly Oneと言うんだ」と、今度中国大使になる伊藤忠商事の相談役の丹羽宇一郎さんが苦言を呈されました。言葉は本来それが意図したことは異なり、自己を正当化したり慰めたりする場合に使われることがありま

すが、これはどうも潔さに欠けます。「Only One」にはその傾向を感じます。また言葉にはやる気を鼓舞するものとやる気を喪失させるものがありますが、「一番でなくてもいいんでしよう?」は、その後者でしょう。そして言葉はとり様によっては何とでもとれるものです。「幸せな家庭はみな似通っているが、不幸な家庭は不幸の相もさまざま」といいま  
す。「最大多数の最大幸福」を目指すより「最小不幸社会」を目指すほうが難しそうです。様々に違う不幸を各個撃破してゆく内に財政が破たんしてしまわないか、弱者救済がその枠を超えてごね得が横行し意欲を削いでしまわ  
ないか心配です。今年3月に来日したハーバード大学の学長が「日本の学生や教師は海外で冒険するより快適な国内にいることを好む傾向があるように感じた。」との感想を述べて  
られたことに、ハーバード大学出身で元三菱商事社長の横原稔氏が懸念を表明されて  
いました。これにはハーバード大学で学ぶ日本人が激減しているという背景があるので  
す。1992年から1993年にかけてハーバード大学の学部と大学院で学ぶ日本人は174人  
いました。これが2008年から

2009年には107人に減少しています。一方同時期の中国人留学生は231人から421人へ1.8倍増、韓国人留学生は123人から305人へ2.5倍増です。2009年度の学部生だけを見ると、日本人は5人に対し中国人は36人、韓国人は42人  
います。アジアからの留学生枠が決まっている中で、日本人より優秀な中国人や韓国人の留  
留学生の割合が増加しており総体的に日本人の数が減っているようです。また、TOEFLの試験形式が変更となりより高  
度な英語力が必要となったことやアメリカ全  
国共通試験「SAT」の読解や数学や論述、志望動機を書くエッセーで躓く日本人が多い  
ようです。ただ、最近では進学高校から東大や京大ではなく欧米の一流大学を目指す生徒も  
少しずつ増えてきているようで、海外留学向  
けの教育を取り入れる高校や予備校も出てき  
ています。韓国や中国では優秀な学生は欧米  
の大学に留学するのが当たり前になっており  
韓国のサムスンなどは海外留学生の採用を積  
極的に増やしているようですが、日本では国  
内大学の新卒を重視する傾向に変わりがあり  
ません。企業も国際化を叫ぶわりには従来型

の発想での新人教育から大きくは抜け切れず留学生を有効に使いきれていないところに課  
題が残ります。また、以前私が勤めていた総  
合商社においても海外勤務を嫌がる社員が増  
えていると聞きます。グローバル化の進展が  
益々進むのに反比例して日本人の内向き化が  
進んでいる象徴的な言葉が「最小不幸社会」  
のように思えてなりません。本校は改革4年  
目を迎えましたが、資金量が豊富な大規模学  
園でもなく、偏差値の高い進学校でもありま  
せん。言わば先進国ではなく発展途上国です  
が、新興国の仲間入りをしようと頑張ってい  
ます。幕末・維新のころ海外雄飛を夢見た日  
本人が沢山いました。津田塾の創設者である  
津田梅子は満6歳でアメリカに渡り10数年を  
過ごしました。私は本校において一人でも多  
くの勇氣を持って挑戦する女性を育てたいと  
考えています。前途多難ではありますが、  
「最大多数生徒の最大満足度」を目指したい  
と思います。



## 好文カップ・キック ベースボール大会

今日は7月4日、日曜日、昨日来の雨があまり、予定通り第二回好文カップ・キックベースボール大会が開催できるとのメールが朝6時半に生徒指導担当の佐藤教頭からもらいコーンフレックの朝食を済ませ学校にかけつけました。グラウンドでは既に弓道部員が雑巾を踏んで芝生に残っている水を吸い取ってくれていました。準備が終わると教室で期末考査の勉強です。職員室には教務担当の三宅教頭が6時半から陣取ってくれていました。生徒会主任や弓道部顧問など自発的に手伝いに来てくれた若手・中堅の先生たちが準備に忙しく立ち働いていました。昨日も遅くまで仕事をしていた事務所のIT担当者も駆けつけてくれました。チームごとの写真を撮り、パソコンに落とし印刷して、記念品としてパネルに入れてプレゼントします。笑顔で小学生を迎える教職員、皆が自分の学校の為

にという気持ちで一つになっています。まったくもって本当に嬉しい限りで有難い事です。この好文カップ・キックベースボール大会は、昨年夏、グラウンドの芝生化が完成したことを記念して地元の女子小学生チームを招いて開催したのが始まりです。今回は初回より2チーム多い10チームの参加で選手だけで200名近くになります。保護者もたくさん応援に来ておられます。今日はこの他に第一体育館と第二体育館を使って、地元のママさんバレー、西淀CLUB CUP バレーボール



大会も開催されていますし、弓道場では住吉弓友会の月例会が開催されています。第二体育館下の駐輪場は溢れんばかり、総勢500人の来校者で、学校施設はフル回転です。日曜日でも学校に活気があふれているのは良いものです。本校は今まで地元密着型の学校とは言えませんでした。外部と関わることを面倒だと考えていたのではないのでしょうか。私は少子化のなか生徒確保が喫緊の課題であり、教育力の向上を柱にした学校改革に踏み切りましたが、学校を地域に開放することも推進することになりました。校舎やグラウンドだけでなく生徒や教員が変わったということも学校に来ていただいて始めて分って頂けました。その機会を出来るだけ多く持ちたいと思いました。また、一人の高校生を教育するのに年間約100万円かかると言われ、公立は全て税金でこれを賄っています。私学では授業料収入だけではとても賄えきれないのが実態で、学校に経常費補助金が給付されており、税金が投入されています。学校施設を地域に開放することはこの点からも必要だと考えたのです。そして出来るだけ多くの外部の方の目から学校を見ていただき忌憚ない意見

を伺うことで更なる学校改革のヒントを頂こうと思いました。入試広報の担当者をお願いし、学校案内をママさんバレーチームのお母さん方に配ってもらいました。サービストともに宣伝も忘れません。芝生のメンテナンスをお願いしている阪神園芸の担当者も様子を見に来てくれました。資金的に厳しい私学の状況をよく理解してくれ、可能な限りの協力をしてくれている会社であり担当者です。日曜日にも関わらず雨の後の芝生の状態が気になって学校まで足を運んでくれる仕事熱心さには頭が下がります。10人足らずの教職員の働きのお陰で大会はスムーズに進んでいきます。「人の気持ちを気にしなければならない状況は、最悪の人間関係である。このような症状をもつ組織は、だいたいが人員過剰となっている。人の気持ちを傷つけぶつかり合い足を踏むのは混んでいるからである。」とは、P・Fドラッカー「マネジメント」の一節です。少なくとも今日の本校のメンバーにはこの心配は当てはまりません。

73

2010/07/10

## 好文学園の マニフェスト

昨今、世の中を繁々眺めておりますと、「職業は人を尊くも卑しくもしない。人が職業を尊くしたり卑しくしたりする」のだなあとつくづく感じます。私は好文学園で学ぶ子どもたちがどのような職業に就こうとも、経済的・精神的自立を確かなものとし、少しでも世の中の役に立っているのだと思える人間になってほしいと思っております。本校には難関大学を目指す生徒もいれば、マンガ・アニメが大好きな生徒もいます。学力その他の面で多様な生徒たちが一つ屋根の学園で共同生活を送っているわけです。それぞれが多少の我慢を強要され、そして競争しながら限られた空間で共生しているまさにミニ社会であり、植物学者の宮脇昭さんの言葉を借りるならば、植物社会における「生態的な最適域」といえ、健全な生物社会の姿だと思えます。このコミュニティの中で、恐れるべきは失敗

や挫折を経験することではなく、そこから学びとらないことだということをしっかりと教えております。「しあわせな家族はみな似たようなものだが、ふしあわせな家族はその相もさまざま」といいますが、本人の責めに帰すことのできない不利な環境下で諦めムードに浸りやる気をなくしているのどもを見ると胸が痛みます。そのようなことも格差社会に置き去りにするのではなく、インスパイアー（inspire）し、好文学園をきちんとした形で卒業させ、自立路線に乗せることが我々



の使命であり、好文学園の存在意義であると考えております。そのために生徒のみならず教師もまた同じように自己管理目標を設定しPDC Aサイクルを回すことを習慣づけ、自分の描く目標に向かって努力する姿勢を養おうとしています。全人格の発達という学校教育の大目標は定量的には掴むことはできませんが、「きちんと挨拶ができ、身だしなみを良くする」ことや「中学校の英文法をマスターさせる」ことなどの目標は測定可能です。効率ではなく成果を求めています。そして私が最も重要視していることは生徒とのコミュニケーションです。ダメなものはダメだと言えるプリンシプルある指導を徹底するとともに、生徒の置かれた環境や状況をよく理解し、各々に適した指導、生徒の心を動かす指導を心掛けています。生徒との話には時間を惜しまず、私自身の受験や企業での失敗や挫折の話を織り交ぜながら、「こうしなさい。」ではなく、「こうした方が上手くゆくと

動と恋愛の狭間で悩んでいる相談、家族と自分の事情で学校に来る意欲が無くなってきた生徒の相談、特進の勉強とクラブ活動の両立が難しくクラブに行けなくなった生徒の相談など、様々な相談に進んで応じております。校長室は生徒に対しても保護者に対しても常にオープンです。全てが上手くゆくとはいませんが、この姿勢が校長として本当に生徒の為になると信じているからです。

含めて考えると、選挙で問われているのは個々の政策もさることながらトップのリーダーシップであると思います。政策に関しては皆が納得し全会一致を求めるところ無理があります。「役員会で役員の全てが賛成する議案には、社長は反対すべきであり、また逆に皆が反対した場合には、社長は断固実行を決断すべきだ。」と言われますが、これは「安易で無難な道を選んでいては企業は生き残れない。現状維持は脱落であり、常にイノベーションが必要であり、時にはリスクを取る覚悟もいる。」ということ。政治家にも企業人にも同じことが言えると思うのですが、政治家の場合は政権を維持することが目的化しがちであるので、大衆迎合になりやすいと言う欠点があります。今回の選挙においてもどの党もタレントやスポーツ選手など有名人を候補に立てていました。プロの政治家ではなく一般庶民からあるいは多種多様な分野から選ぶ方が民意を反映しやすく改革につながるという理屈はもう通用しないのです。結局は政党の数合わせに使われるだけです。組閣が行われ新しく大臣になる人が「これからしっかりと勉強をして、」などとは

しば記者会見で言いますが、大臣は言うに及ばず一般の政治家もなつてから勉強しますで困ります。それなりの見識がある人がなるべきであり、これから勉強すると言う人に国民の税金で給与を支給したくはありません。談合や汚職などのマイナスの面にばかり目を向けて、政治のプロフェッショナルをないがしろにすると、世界の中でますます埋没してしまうと思います。作家の塩野七生さんは「ローマは、知的水準ではギリシヤに及ばず、体力でもカルタゴに劣っていたが、総合力で大帝国を築いた国と思う。日本は各々の分野では優れた人がいるがその力を上手く結びつけることが出来なかつた国として覚えられないのではないか。」というようなことを言っておられます。経営学者P・F・ドラッカーは「リーダーとは、目標を定め、優先順位を決め、基準を定め、それを維持する者である。」といい、①リーダーシップを仕事と見ること②リーダーシップを地位や特権ではなく責任と見ること③信頼が得られることの三条件を示しています。そして、「リーダーに関する唯一の定義は、つき従う者がいること」であり、「リーダーシップは賢さに支えられるも

のではなく、一貫性に支えられるものである。」といます。小泉総理以降のここ数年のリーダーの一年ごとの交代の原因をこの言葉ほど良く説明してくれるものはないと思います。教師から政治家になっている人もいますが、政治家は大卒のシステムは触れませんが、本当に子どもたちを自立に導き幸せに近づけるのは現場にいる教育者しか出来ないことであり、現場を去つて教育を論ずるのは本当に生徒のためを考えてではなく、他に理由があるのではないかと思います。

創造的破壊の言葉で有名なオーストリアの経済学者シュンペーターは「あなたは何によつて知られたいか？」との質問に、若い時は「ヨーロッパの美人を愛人に、ヨーロッパ一の馬術家として、世界一の経済学者として知られたい。」と答えたそうです。何年か経ち、同じ質問をした時、「今は、一人でも多く優秀な学生を一流の経済学者に育てた教師として知られたいと思っている。」と答えたそうです。ドラッカー曰く、「本当に知られるに値することは、人を素晴らしい人に変えることである。」このエピソードを考えると教育現場にいた人が政治家になつてやろうと

していることはシュンペーターの真逆ではないかと思えます。私たちはゆとり教育やエリート教育の是非を論じる前に、目の前の子どもたちにしっかりと向き合うことが必要であると思います。素晴らしいとまでは言えるかどうか、自信がありませんが、少なくともこの3年間、本校は入学時と比べて大きく成長した生徒たちを何人も卒業させることができたと自負しています。そして今も生徒を養えるために日々教育活動に励んでいます。「自立した 社会に貢献できる女性を育てる」ことが、生徒の幸せにつながり、それが本当に生徒のためになると信じる多くの教員の各々の分掌でのぶれない一貫性のあるリーダーシップの下で。

75

2010/09/03

## 夏休み雑感

夏休みが終わり二学期が始まりましたが、過去113年でもっとも暑いと報道されて

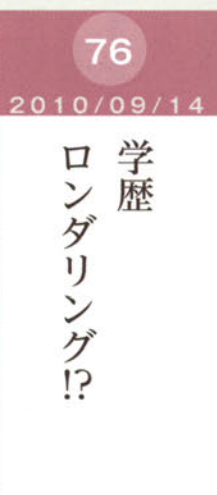
いる夏は当分続きそうです。先日、保護者会から各クラブにスポーツ飲料の差し入れを頂戴しました。お心遣いに感謝致します。新学期を前に、近隣の中学校では始業式当日の天候が気になっていました。校庭での長時間の式に生徒が耐えられるかどうか心配されていたと聞きました。幸い本校では始業式会場の第一体育館に冷暖房機が設置されていますので問題なく式を終えることが出来ました。本校でも3年前までは校庭で行っていました。長時間の式になると生徒を座らせるのですが、スカートを穿いたままグラウンドに座らせると、とても見苦しい恰好になります。暑い時は気分が悪くなりますし、寒い時は、肩をすぼめ、セーターの袖をひっぱり、がたがた震えながら話を聞くことになり、話に集中することができません。そこで、姿勢を正してきちんと話が聞けるように、入学式と卒業式同様に、体育館に椅子を持ちこんでの始業式、終業式を行うことにしました。学年ごとのロングホームルームも体育館で行うケースが多くなりましたので、体育館の耐震補強工事時に思い切って数台の冷暖房機を設置しました。最近では気候変動で以前では考えられ

ないような猛暑や寒波が襲いますので、この処置は正解だったと思います。さて、夏休み中、8月7日、高3の娘とともに母校の大学のオープンスクールに行ってきました。懇切丁寧な学部の説明を聞きながら、我々の時にはこんななかったなと羨ましく思いました。校舎も次々に建て替えられ、モダンできれいになっていました。蛮カラな校風が薄れ、学生も小ざれいになったように見受けられました。もともと男子が圧倒的に多く、女子学生は少なかったのですが、女子の姿も多く、聞けばみんなけっこう真面目に勉強をしているようです。もう一度大学に戻って勉強してみたい気分になりました。8月28日、今度は、卒業35年目になる我々56回生のホームカミングデーの誘いに応じて、久しぶりに高校の同窓会に出かけました。基調講演では、51回卒業で大阪大学理事・副学長を務めておられる西田正吾氏のお話を伺いました。先生によると、ご自身が担当されている学生を見る限りでは、昨今言われるような学力低下は感じられないが、研究力は確かに落ちているとのこと。即ち、与えられたことはきちんとこなせるが自分から進んで研究しようとはし

ない学生が増えており、海外からの留学生がキャリア形成の為に積極的にサポートを求めてくるのとは対照的だとおっしゃっていました。また、海外留学の話が出て断る学生が多く、内向きで冒険心が欠如しており小粒化しているとも話しておられました。そしてこれからは世界の中の大阪大学を目指し国際化を進める方針で、英語による授業も検討しているそうです。同じアジアでも香港やシンガポールは英語が公用語になっており、優秀な留学生や海外の学者を呼び込むためにも日本語だけの授業はハンディキャップとなりません。最近では秋田の国際教養大学や立命館アジア太平洋大学の国際経営学部、早稲田大学の国際教養学部など授業を全て英語で行うところも増えて来ました。しかし一方で、『日本辺境論』の著者の神戸女学院大学教授内田樹先生は、ご自身の経験から、現在の大学1年生の学力は1950年の中学3年生レベルだと述べておられます。過去10年での私立大学の開学が120校あり、全国に773大学が存在します。進学率も50%を超えました。1950年では10%程度、私が大学に入学した1970年代後半では20%台です。

大学に入りやすくなったことに原因があります。これからは大学間格差が益々広がり、底辺校の大学は存在意義を問われることになりそうです。話は変わりますが、この夏は悲惨な事件も多発しました。大阪での二児を置き去りにし餓死させた母親の事件や年老いた痴呆の母親に虐待を繰り返して死に追いやった事件、あるいは高齢者の生死不明から発覚した年金搾取など世代に関わらず日本人が劣化しているように思えてなりません。しんどいことや面倒なことを避ける傾向が強くなり、避けるだけではなくその原因を削除してしまおうとする非人間的な行為に容易に走っています。24時間営業のコンビニで何でも簡単に買うことができ、インターネットからあらゆる情報が瞬時に入手でき、解らないことも手軽に調べることができ、この文明がもたらしてくれた利便性が人間の思考を単線化しているのかもしれない。グローバル化の進む世界ではコンピューターリテラシーと英語力をして金融の知識は三種の神器だと思えますが、それは基礎が出来た上でのことではなければなりません。小中学校から英語やコンピューターを教える必要はないのではないで

しょうか。小学校の時は、しっかりと国語を学ばせ、本を読ませ、辞書を引かせることが大切です。最近は電子辞書流行りですが、これは忙しいビジネスマンが使うべきもので、少なくとも中等教育までの児童・生徒には辞書を引かせる方が身に着くと思います。面倒な作業から本当の学力は付くもので学問に王道はないのです。そして教科書のない社会での困難、問題に立ち向かう思考力や忍耐力も面倒な作業から養われるものだと思います。初等教育や中等教育においてはこの作業をきっちりとやってゆかねばならないと考えます。そうでなければ日本人の劣化に歯止めはかからないでしょう。



経済雑誌の週刊ダイヤモンド2010年9月18日号の特集記事「壊れる大学」は、大学淘汰が本格化してきたことを裏付ける例や

データが満載されており、4年生大学の数は1992年度の523校から2010年度には778校まで増え、大学進学率も92年の26%から09年度には50%に届きました。一方で、1990年代初頭、200万人いた18歳人口は今では120万人まで激減しています。大学数が約50%増しで、進学率も倍増、人口は40%減なので、大学全入時代と言われるのも頷けます。定員割れの大学が続出し、40%が赤字法人というのにも納得がゆきます。しかし、このことは既に良く知られていることでもあります。今回の特集の中での驚きは、「驚愕の学歴ロンダリング」という記事です。不正なお金を海外の銀行等を通して不正の痕跡を消して資金洗浄することをマネーロンダリングと言います。これは立派な犯罪行為ですが、ここで言われる「学歴ロンダリング」は、不正行為ではありません。三流の大学を出ても一流の大学の大学院を出ることで、最終学歴を上げることを言い、大学入試で満足ゆく結果が残せなかった人が、奮起して猛勉強し、一流大学の大学院に入学しめでたく卒業証書を手にするには、褒められるべき事であっても

責められるべきものではないはずですし、ロンドンダリングと言われる筋合いはないはずで  
す。まさに、努力の結果なのですから。しかし、その大学院に入るための試験が一流大学の名にふさわしいものでなければ話は変わる  
かもしれません。筑波大学と千葉大学の理系学部出身者が東大大学院に合格し、一流会社  
に入社できた顛末を「学歴ロンダリング」案  
して東大卒の学歴を手に入れる方法教えます」という本にして出版しています。二人の  
感想によれば、「専門科目の試験は大学の一般教養レベルで高校生でも解ける問題がほと  
んど」あるいは、「運転免許と同じ」とのこと。ご本人たちはその出身大学に対して「国立  
立大学だが、一流と言えない中途半端さ」とのコンプレックスを持っていたと言うことで  
すが、世間から見れば十分すぎるほど立派な学歴だと思えます。そんな難関大学に入れた  
学力を持っていた彼らだから東大の大学院の試験もやさしかったのかと思いきやそうでは  
ないようなのです。実は、天下の東京大学大学院においても「落ちるほうが難しい」と言  
われているようなのです。東大、早慶も大  
院の学生集めに四苦八苦で面接や小論文だけ

で合格できるところが複数あるのです。また、大学院受験予備校なるものもあるとは  
少々驚きでした。その予備校講師の赤田達也先生によれば、工業高校卒業後、ブルーカ  
ラーの仕事を続けていたが、学部を飛ばして大学院に進学した男性や商業高校卒業後に起  
業し成功し中堅校の社会人枠を目指したが叶わず、大学を飛び越して大学院に進んだ女性  
経営者、また三浪までして目指した早稲田に受からず中堅大学に進学したものの、諦めき  
れず、早稲田の大学院に滑り込んだ現役大  
生がいたとの話。大学院と言うのは、大学を卒業し、さらにその学問領域を深く研究し  
たいと思う人が行く、アカデミズムの最高峰と  
言う従来の考え方を覆す話にならず驚き  
を覚えました。

赤田先生は1991年に文部科学省が大学  
審議会答申で、大学院の量的整備の必要性を  
訴えたことが大学院拡充の原因だと指摘して  
います。大学院受験は大学受験と違って知名  
度が少なく、「面接だけで東大、京大、早稲  
田、慶應に入学」、「非大卒でもいきなり大  
院」といった実態は知る由もないわけです。  
早速、欧米の大学院はどうなっているのか、

友人の外国人に聞いてみました。アメリカではハーバードでも2〜3ヶ月の短期講座があ  
るようですが、正式な大学院の修士課程、博  
士課程とは完全に区別されています。イギ  
リスでも学部での成績が上位でなければ大  
院には進めません。日本のこのような選抜方法  
で入学できた学生がその大学のレベルに相  
応しい大学院での研究成果を上げるとはちよ  
つと考えられません。企業が一流大学の学生  
を探りたがるには理由があります。一流大  
院に入学し卒業したということは、真の能力は  
図れないが、一応それを達成するために一定  
の努力をしたことの証となるいわゆるシグナ  
リング効果を認めているからです。しかし、  
このシグナリング効果が大学院卒でウイ  
ンドウ・ドレッシング（粉飾）されていると  
した。 「学歴ロンダリング」なる言葉が生まれ、  
「決して東大卒の学歴を手に入れる」という  
本まで出るようになります、おそらく今後は  
企業の採用担当者も大学院への進学ルートを  
検証し、学部卒と同等には扱わないように  
なるのではないのでしょうか。日本の難関大  
院が世界で通用する大学を目指すために国際  
化を進めようとしていることは前回の好文  
で書き

ましたが、言行に不一致があるように思えません。今年も新卒の就職難が続いているとのニュース報道の中で、大学でもっとビジネスに直結する勉強をさせねばならないと言うふうな発言をしている大学教授がいましたが、私はそれはちよつと違うのではないかと思えます。これ以上大学が専門学校化する必要はないと思います。私が就職活動をした時は、

企業の受け付けは正式には大学4年生の9月からでした。もつとも実際には夏休み前位から企業の先輩訪問は始っていました。内定は通常は10月末ごろでした。ほとんどの学生は10月~11月中に内定が決まり翌年の3月卒業まで4~5カ月ほどしかありませんでした。それが今は3年生の春から就活が始まるのです。短大などは1年生の12月頃から始まると言っていました。こんな状態で落ち着いて勉強など出来ようはずありません。企業も大学も国際化と世界に通用するコミュニケーション能力や応用力のある人材を育てることを求めています。大学入試選抜方法や大学院の状況、そして企業の採用、学生の意識、それぞれに随分ギャップがあるように思えます。暑い中一生懸命何十社もの企業訪問

を繰り返して、それでも内定が1社ももらえていない学生が多いと聞くと、気の毒でなりません。それぞれお題目は立派なのですがどうも小手先のテクニクに走り過ぎているように思えてなりません。

77

2010/10/06

## 文化祭を終えて

10月2日、尼崎のアルカイックホールにて本校文化祭、「好文明華祭」の第一日目が開催されました。予選で勝ち抜いたクラスによる合唱、ダンス、演劇とクラブによるパフォーマンスの二本立てのプログラム。アルカイックホールでの文化祭は昨年引き続き2回目でしたが、どの出し物も、昨年より出来栄が良くなりました。各々の衣装も去年に比べると統一感もあり正直少し垢抜けたなと感じました。また、お芝居の背景設定やストーリー展開にも工夫が見られました。ホールの二階席は約380名の保護者でいっぱい

いになり、みなさんとても楽しんでくださいました。ダンス部のパフォーマンスの間に3年生の代表がクラブへの思いを語りました。「趣味程度で始めたダンスでしたが、入部した後、当時の3年生が卒業すると部員がいなくなり、残った私たち3名で試行錯誤を重ねるうちに一生懸命になり、部員も増えて大会にも出場できるようになったと思ったらもう引退と言う3年間でした」との彼女の言葉から、達成感と充実感を読み取ることができ嬉しく思いました。と、言いますのも、私





は、二年半前入学したてのこの生徒に「学校見学会のときから校長先生の話を聞いていい学校だと思って入学したのに全然違うじゃないですか」とクレームされた苦い経験があったのです。原因は同じクラスの生徒のこと、クラスを乱す問題含みの生徒が一人いたのです。「そのことは聴いているので、先生も対応するから」と返事をしたものの、私の話を信じて夢を抱いて入学してきた生徒にそう言われてショックでした。保育コースに属するこの生徒は、人懐っこい性格で校門での挨拶時に言葉を交わしたりするうちに、ちよくちよく校長室にやって来るようになりまして。いよいよ進路決定時期になった先日、大学のAO入試を受けるとのこと、校長室で夜の8時まで志望動機の清書をしており、その間付き合っておりまして。あちこちの大学のオープンスクールに向き、行きたい大学を見つけたようで、本校での3年間を満足して終えてくれそうに感じていたところです。校長室はオープンと言う私のメッセージに比べて、沢山の生徒が校長室にやってきます。単なるご機嫌伺いで来るケースは稀で、大抵は学校の決まりや先生に対する不満



や文句を言いに来ます。「自分のことを棚に上げて良く言うよ」と思う時は、少しお説教をしますが、「それは一理あるな」、「なかなか鋭い指摘だな」、「子供と言えども全てお見通しだな」と感じることも多々あります。クレームこそ改善のチャンスだと思っています。さて、文化祭二日目は、翌3日校内で開催し、1000名を超えるお客様に来ていただきました。午後からは生憎強い雨模様となりましたが、午前中は、天然芝のグラウンドに

設置したステージでの合唱を堪能していただくことが出来ました。同窓会、保護者会そして連携大学さんの協力もあり、成功裏に幕を閉じることができました。この文化祭を二日に分け、校内とアルカイックホールと言う外の施設を使って行うアイデアは、「高校生にふさわしい文化祭らしい文化祭を考えてほしい」との私の強い要望に対して、生徒会主任の福井先生が中心となり考えてくれたものです。当初は、立派なホールでそれに見合うだけのステージができるか危惧する向きもありました。現に昨年は、リハーサルが準備不足でホールのスタッフのみなさんにご迷惑をかけたもりました。しかし、その反省を踏まえた今回は、大きなトラブルもなく、また、内容も上述の通りさらに充実したものとなりました。それなりのステージを用意すれば、それなりの成果が上がると言うことが分りました。照明や音響が整い、スモークも効果に使えるホールや天然芝のグラウンドは生徒のやる気に火をつけたと言えるのではないのでしょうか。来年度はアルカイックでの本格的な演劇と校内展示のレベルアップを図りたいと考えています。

アンビバレントな  
日本

先月の好文木「学歴ロンダリング」の中で、企業は新卒採用開始時期をもっと遅らせるべきだと書きましたが、商社の業界団体である日本貿易会が新卒採用開始時期を学業に支障がないように大学4年生の夏以降にすることを決めたとの新聞報道に接し、さすが商社だと、かつて一時期身をおいた業界の決断を歓迎しています。さらに慾を言えば、新卒、既卒の区別撤廃を打ち出したら、なお良かったと思います。景気低迷が続く中、大卒の就職活動が厳しさを増していますが、就職先が決まらずに卒業した既卒者のハードルはさらに高くなっています。少しでも有利な新卒の肩書を維持させようと、学費負担を減らしたうえで留年できる制度を導入する大学も現れているそうです。私はこういう安易な発想には賛成できません。既卒者は新卒者より劣ると言う固定観念を変えてみてはどうでしょう

か。前に就活してどこからも内定をもらえなかった人間はダメなんだという考え方には一理ありますが、逆に新卒者が全て優秀かと言えば、そうでもないでしょう。既卒者にも色々ありますから、中には掘り出し者もいるかもしれません。大手企業の人事担当者は、「最近の若者は覇気がない。言われたことはそれなりに出来るが、自分から意欲的に取り組もうとはしない。リスクを取ろうとしない。冒険心がない。」などと嘆くのですが、このような社会経済状況に中でこのような採用方法をとれば、そういう新入社員が多くなるのは当然の帰結のように思います。手前みそで恐縮ですが、昔はわが母校早稲田大学は、ともに卒業したら出世しない、中退する奴が価値があるなどと言われておりました。これは、作家やジャーナリストで中退して大成した人が結構いたからです。新卒、既卒、卒業、中退各々そのこと自体に価値のある無しを置くのではなく、その内容が問題です。大学進学率が20%位の時と今のように大学の数も多くなった上に進学率が50%を超えた時とはそれぞれの持つ意味も違ってきて当然だと思えます。複雑系の社会になったの

であれば、それに見合った複眼で見る採用制度を再構築する必要があると思えます。日米比較でよく言われるのは再挑戦できる社会かどうかです。中小企業の経営を例にとると、日本では銀行融資を受けるためには、土地や建物を担保に供するとともに、社長の個人保証を要求されます。万一、会社が左前になり借りたお金が返せなくなったら、個人の家屋敷も差し出さねばなりません。今まで良い思いをしたんだから、失敗したら全部吐き出すのが当然だと考える向きもありますが、これでは「他人の不幸は蜜の味」の低俗な域を出ません。やり直しがきく社会システムがなければ、誰も冒険はしませんし、リスクを取ろうとはしません。ロー・リスク社会はロー・リターン社会です。このあたりを鋭敏に子供たちは嗅ぎ取っているのではないかと思えます。簡単に物事を諦め、努力を惜しむ傾向が強いのは、「やれば出来ると言うけれど、一回失敗者の烙印を押されたら容易に這いあがない社会だ」と感じている節があります。リーマンショック以来、アメリカ社会は、強欲資本主義との批判を受けています。確かにCEOの年収が何十億円、何百億円と言わ

れ一般社員の1000倍にもなると言うのは行き過ぎでしょうし、AIGのように破綻し政府の支援を受けているにもかかわらず、社員に多額のボーナスを支払うとなれば批判も当然だと思います。

しかし、マイナス部分のみを取り上げて、アメリカのシステムすべてを否定するのは頂けません。日本では社長と一般社員の年収格差はおおよそ40倍位ではないでしょうか。しかし、社員の画期的な発明に対するインセンティブは極めて少なく、青色発光ダイオード(LED)の特許を巡る裁判で、元の勤務先を訴えた現カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授の中村修二さんの事件は記憶に新しいところです。今年のノーベル化学賞には北海道大学名誉教授の鈴木章さんと米パデュエ大学特別教授の根岸英一さんのお二人が選ばれ、日本の化学力の高さをマスコミはこぞって宣伝していますが、根岸さんは日本での研究の限界と日本の若者の内向き志向に不満と警鐘を鳴らしておられます。根岸さんがかつて勤務されていた帝人の同僚の方が、米ペンシルベニア大学留学から帰国後、同社に復帰したものの「帝人のスケールを超える人間

だ」と再度の留学へ送り出したと述べておられますが、このような優秀な人を日本の企業が日本の大学と協力して育て上げることができず、頭脳流出を許してしまったのは誠に残念だと思います。そしてこの傾向は今も続いているだけではなく、海外に1カ月以上長期派遣する研究者の数もピーク時の半分の3739人なっています。一年以上に限ると僅か373人です。ハーバード大学を筆頭に海外の一流大学への留学生が激減していることは以前にも述べました。このようなグローバルな視点から考えますと、既卒者が就活で不利にならないように学費負担を軽減し、留年出来る制度を導入するなどと言う姑息な手段に終始している我が国の現状はあまりにもお粗末ではないでしょうか。弱者救済の名の下、伸びる人を伸ばしきれないシステム、失敗や挫折にめげず果敢にリスクを取って挑戦しようと思えるシステムを構築できない限り、日本の再浮上は難しいのではないのでしょうか。大学も企業も、国際化や創造力が重要だと言っていますが、実際には和を乱さず、スタンドプレーをしない従順な人間のほうが組織では歓迎されているのではないで

でしょうか。折角海外に留学し、一流大学のMBAを取得し、力を発揮しようと思気揚々と帰国したものの、それに見合った仕事を与えられなく、外資系に移籍したり起業したりするケースが良くあります。このいわゆるアンビバレンツ(「独」Ambivalenz)全く正反対の感情を同時に持つ心理状態)な雰囲気、不確実性の高まっている社会に蔓延すると、アクセルとブレーキを同時に踏ませるようなもので、若者は立ちすくんでしまいます。巷ではドル暴落、アメリカの時代の終焉が叫ばれています。が、国の発展は経済力に大きく依存し、経済力は教育力に正比例すると思います。そうであるなら、まだまだアメリカの時代は続き、真に危ぶむべきは日本ではないかと思つてしまいます。

79

2010/10/12

卵が先か、  
鶏が先か？

—大阪府の私学助成を考える—

先週土曜日、大阪私立中学校高等学校芸術

文化祭典が新大阪のメルパルクホールで開催され、本校の吹奏楽部が出演したので応援に参りました。本校の吹奏楽部は出来てまだ2〜3年の若いクラブです。最初は数人から始めました。十分な楽器もなく、壊れた楽器を修理したり他校から借りたりしながらも少しずつ力をつけてきました。ようやく25名ぐらいの部員数となり、地域のイベントにも進んで参加しています。生徒たちが頑張っているのはもとより、吹奏楽部を指導している若手教員の高先生と品川先生の努力のお陰と感謝



しております。翌日曜日は御堂筋KAPPOで書道パフォーマンスに出演する書道部の応援に行きました。これもまた初めての参加で、準備段階で紙の一部が破れてしまうというハプニングにあい、書き上げた後の紙が上手く立ちあげられず少し残念な結果に終わりました。片づけて着替えのために引き上げて行く生徒の後ろ姿も寂しそうです。しかし、私は、このような晴れ舞台にどんどん参加し経験を積み、他校からも学ぶことを通して成長していったほうがいいと思っています。今まで本校では運動部に比べ文化部の活動が低調でしたが、女子校として、吹奏楽部や書道部が活躍するようになり大変嬉しく思います。事業やプロジェクトを成功させる三要素として「ヒト、モノ、カネ」と言われますが、クラブ活動についても同じことが言えます。「子供たちの自主性を重んじて」というフレーズがよく使われますが、しっかりした指導者が基本をたたき込み、向上心を煽ることが出来ねばそう簡単に自主的にレベルアップするものではありません。また、楽器や筆など最小限の道具を与えてやらなければ、スキルは伸ばせません。クラブ活動一つをとっても教育

にはお金がかかるということが分ります。高校生一人を育てるのに年間100万円弱かかると言われています。欧米には学費と寄付金で運用し国や地方自治体からの補助は受けていない文字通りの私立学校が沢山あります。我が国の場合は、学費や寄付だけではとても賄えず、相当の補助金すなわち税金を頂いています。ちなみに大阪の私立高校の授業料の平均は年間55万円です。一部の有名大学とは違い寄付金などはほとんどないに等しいと思いますので、かなりの部分を補助金に頼らざるを得ないのが現状です。従って、私学と言えども経営者は、学校は国のものと言う覚悟で経営をしなければならぬと思います。大阪府の橋下知事はバイタリティーあふれ改革を進めておられる日本でも数少ない期待の持てる政治家だと思っています。「公立も私立も競争をしてお互いを高めあうことが生徒の為になる教育の質の向上につながる」というお考えには、基本的に私も賛成です。「多額の経常費補助金をもらいながら、経営者が高い給与をとっているのはおかしい」という考えにも全面的に賛成いたします。今話題のハーバード白熱教室のマイケル・サンデル教

授が東京大学で行った講演をテレビで見ました。その時、オバマ大統領給料とイチローの年俸を比較し富の分配として正義に照らして公正かどうかのディスカッションがありました。その時には論点になっていませんでしたが、私はお金をもうけて良い職業とそうではない職業とがあると思っています。そして、教育や医療で金儲けをしようとする輩を軽蔑しております。但し、その職業的役割から、現場で働く教師や医師の給与は、出来る限り一般よりは高めにすべきだと思います。「成果を上げている学校とそうでない学校を同列には扱えない」という考えもその通りだと思います。ただ、その「成果とはなにか」に対する踏み込みが浅薄のように感じます。新聞報道によると、従来の複雑な経常費補助金制度を改め、生徒一人当たり約28万円の一律補助に切り替え、その上、東大・京大など難関大学への進学率や甲子園出場などスポーツや芸術で優れた成果を上げた学校にはさらに上積みをするという案が検討されているようです。現在の補助金制度を見ると、進学やスポーツに実績を上げて、生徒数が多い学校への補助金が少なく、生徒数が少ない学校へ

の補助金が多い事から、努力する者が報われないとの判断のようです。しかし、この考え方は果たして正しいのでしょうか。同じレベルの生徒を指導するのに他の条件を同じとした場合に、学力でもスポーツでも大きく差が出たとしたら、それはおそらく指導者である教員側、学校側の授業力、指導力の差と言えると思います。しかし、生徒のレベルも違い、施設や備品にも違いがある場合、限定された項目の結果のみを見て努力した学校かサボっていた学校かを判断するのは公正とは



いえないでしょうか。教員が自分の努力不足を棚に上げて、生徒に責任転嫁するようなことは言語道断ですが、もともとそれなりの学力を備えたそれなりの家庭のこどもが入ってき、学校の勉強とは別に塾や家庭教師の力で進学を伸ばしている学校もあります。正直言って、学校の勉強だけで難関大学に進学できている生徒は少数ではないでしょうか。また、生徒数は多いが大量に入学させて、十分な指導もせず大量の退学者を出しながらもそれなりの在校生数を保っている学校もあれば、少ない生徒数でもきちんとした指導をしてほとんど退学者を出していない学校もあります。どちらが生徒の満足度を高めているのでしょうか。進学率もスポーツも実績を上げ生徒数が増えている学校は、過去に努力をしたから現在があるとも言えることも事実ですが、今そうでない学校が努力次第で変わることを否定することはできません。ベンチャー企業の危機を支えるのに金融支援が欠かせないように、このような学校にこそ補助は必要なのではないのでしょうか。また何より世の中の需要は進学校やスポーツ奨励校ばかりではないと言うことです。人様に迷惑を

かけず、自立して少しばかりは社会に貢献で

きるような人間を育てることが教育の目的だと私は思っています。そういう目的に向かって努力し、実績を上げているかどうかを検証することこそが、真に求められているのだと思います。そうでなければ生徒数さえ確保すればよいと言う本来の趣旨とは異なる結果を招き、逆に教育のレベルを下げる学校も出かねません。あらゆる組織は2…6…2の法則が当てはまると言われます。優秀な上位2割と劣等な下位2割、そして中間の6割。この中間6割を如何に上位の2割に近づけるか、補助金制度改革にこの観点をしっかりと入れていただきたく思います。お金をかけたから良い教育ができると言うものではありませんが、良い教育をしようと思えばお金がかかると思うことは世界の常識でもあります。

80

2010/11/09

## 40年ぶりの山登り

11月7日の日曜日、11月末に予定されている秋の保護者会のイベントの下見に、生徒会主任で保護者会もサポートしてくれる福井先生とともに芦屋のハイキングコースを歩いてきました。今回のハイキングは、私が以前、好文木に書いた「階段に刻まれた言葉」がきっかけで、会下山に登ってみたいとの保護者会役員さんからのリクエストに応じて担当の安田先生が企画されたものです。そこで地元に住んでいる私が案内をすることになりました。2〜3時間で行ける会下山から風吹き岩に登りロックガーデンから高座の滝に降りるコースを考えたのですが、ロックガーデンから高座の滝へは急な岩肌ゆえ、降りるより登る方が楽だとの知人のアドバイスに従い、コースを逆に辿ることにしました。朝9時40分に阪急芦屋川駅を出発し、芦屋川の西岸を高座の滝に向かって登りました。勝手知ったる道ですが、最近では犬の散歩も家の周りをぐるっと回る程度で済ましがちであり遠出をしていませんでしたので、久しぶりに駅から滝までを歩くと、息が切れ汗をかき着いたセーターを脱ぎました。途中で野生のイノシシにも出会い（私の家の前にも時折現れま



す）20分ほどで高座の滝に到着。日曜日と言うこともあって、中高年の男性や女性、小学生ぐらいの子供を連れた家族や、若いカップルなど大勢の登山客がいました。最近では若い女性の登山ブームで山ガールという言葉が流行っています。それらしき人たちもいました。会下山には息子が小さい頃、犬を連れて登ったことがあります。高座の滝からロックガーデンへは中学時代に登って以来ほぼ40年ぶりのチャレンジでした。ゴロゴロの岩場を登り始め後ろを振り返りますと、ひつ

きりなしに人が登ってきます。何だか芥川龍之介の小説「蜘蛛の糸」を連想させる光景でした。この間、福井先生は地図を片手にコースの確認に余念がありません。「これは結構厳しいですね。保護者のみなさん登れますか?」と、ちよつと心配顔。岩また岩の難所には所々ロープや梯子が設置されており、急斜面を登ること1時間、ようやく風吹き岩に到着。紅葉には少々早いものの、芦屋の街と海を一望できるパノラマが広がっていました。鳥のさえずりも聞こえ清々しい気分でした。若いボーダーコーリを連れて登っている人もおりましたが、犬の腰が悪くならないか人ごとながら気になりました。ここまで登ると汗だくです。速乾性の下着を着てくるべきだったと思いました。汗を拭きアクエリアスを飲み景色を堪能して、今度は会下山目指して下山です。少し行くとネコが悠然と岩場に座っていました。福井先生は野生の猫ですねと言っていました。が、芦屋山猫なんていませんし、まったく普通の縞縞の猫です。なんてこんな山の上にいるのだらうと不思議に思いました。ネコを捨てるのにわざわざこんな山の上まで登って来るもの好きはいないでしょ

うから、自分で登って来たのでしょうか。栄養状態も悪くなく元気そうなネコでした。私たちが近付くとその場から離れたましたが、満足そうな顔をして物思いにふけているように見えたそのネコのこと、が妙に気になりました。が、思いを残し歩みを止めました。多少の岩場はあるものところどころ平坦な山道もあり、歩くのがぐんと楽になりました。「校長はテニスをされているんですね。私は車通勤して校内を歩くだけなんで、やっぱり何か運動した方がいいですね。」と、福井先生。私は、2000年頃からテニススクールに通っています。最初は息子のスクールの送り迎えに行っていたのですが、コーチに勧められて自分がやることになりました。



スポーツ嫌いの私でしたが、40歳を過ぎて始めたテニスは続いています。今回山登りをすると家内に言いましたら、「あら、それは良いわね。またお友達ができますよ。趣味がテニスと登山なんて英国紳士みたいでカッコいいわよ。」などと冷やかしました。数年前の2年間ほどは体調も良く、夏休みは朝から夕方までコートにいました。しかし、会社をやめ校長を引きうけてから、週休は1日取れば良い方で忙しく精神的にも疲れることが多く貴重な休みの日曜日の朝が起きられなくなり、ついに昨年1年は休会してしまいました。しかし、逆にこれがストレスになってきたので今年夏から無理はやめなさいと言う娘の反対を押し切って再開しました。再開初日、休んでいた割にはストロークも決まり友人からも「1年ぶりとは思えませんが、大丈夫ですね。」と、お褒めの言葉に気を良くしたのもつかの間、ゲームでポジションに着いた途端にぎっくり腰になりかけあわてました。たった1年でもこの年になると使わない筋肉が弱くなってしまおうのです。やはり継続が大事だと実感しました。学校は日曜日でも色んな用事が入るので毎週は行けないので

すがこれからも続けようと思います。福井先生と山道を歩きながら色々考えました。私は小さいころから虚弱体質で扁桃腺を腫らしては熱を出していました。小学校へ通う道も駅から家までも坂道が多い町に住んでいたので、歩くことには慣れていました。福井先生の話では、本校でも昔は甲山や摩耶山登山をしていたそうです。最近の校外学習（遠足）は町中が多くなっています。それはそれで目的をもってやっていますから良いのですが、たまには郊外で空気の良い自然の中を歩



くことが必要ではないかと思えます。私が言うのもおこがましいのですが、ひ弱な子供が増えました。特に精神的に弱い子が多くなったように思えます。理屈は立ちますが我慢や辛抱ができません。登山で少し鍛えた方が良いと思います。先ず連れて行きたい生徒の顔が一人、二人すぐに浮かびました。こんなことを考えながら会下山に入りました。弥生時代の遺跡があり、説明の表示板が幾つか設置されています。会下山を下ってゆくと山手中学校のグラウンドからクラブ活動の生徒の声が聞こえて来ました。いよいよ終点です。中学校の敷地に入らずに山から出る道がありましたが、あえて中学校の敷地に入ってみました。そう、あの「階段に刻まれた言葉」が今もあるかどうか確かめたかったです。テニスコート横の階段は直ぐに見つかりました。「苦しみを乗り越えてこそ人として成長する」言葉の数だけ段はありましたが、残念ながらその言葉は消えていました。少しさみしい気がしました。山手中学校の校門を出て時計を見ると11時50分。約2時間ほどで久しぶりの登山を終えました。保護者会のみなさんにはハイキングと申し上げましたがこれは紛れも

ない登山でした。足に覚えありの保護者のみなさま、どうぞお楽しみに。

81

2010/11/11

## 哲学の時代

「歌は世につれ、世は歌につれ」愛唱されてきた流行歌は移りゆく世の姿を映し出し、その歌にまた世の中も影響を受けるものなのではないが、本にも同様のことが言えると思います。今、大手の書店に行けば、「七つの習慣」(スティーブン・R・コヴィー)、「マネジメント」(ピーター・F・ドラッカー)、「これからの『正義』の話をしよう」(マイケル・サンデル)、「超訳ニーチェの言葉」(白取春彦)などが平積みになっています。習慣は知識とスキルとやる気の三要素から成り、自分のあり方を変えることで見方が変わり、見方が変わることでさらにあり方が変わるとする「七つの習慣」は企業研修だけではなく授業に取り入れている学校もあります。自ら



の組織に特有の使命を果たし、仕事を通じて働く人たちを生かし、自らが社会に与える影響を処理するとともに社会の問題について貢献することがマネジメントの役割であるとす  
る「マネジメント」は「もしドラ」(「もし高校野球の女子マネジャーがドラッカーのマネジメントを読んだら」)のネタ本で、これまで企業のみならずクラブ活動に活かす学校も出てきています。「これからの『正義』の話をしよう」は、ハーバード白熱教室として世界のトップ大学における人気授業を本にしたものです。サンデル教授はこの夏、東京大学でも同じ授業を行いNHKでテレビ放映されました。教授による一方的な講義形式をとらず、学生と教授との対話形式の講義では、事件や事象を多面的に捉えます。正解を出すことを目的にせず、考えることに重点が置かれています。しかし、その考える前提には結構豊富な知識が必要とされます。ハリケーン後の便乗値上げにおける「公正な価格」、リーマンショック後の破綻企業に対する税金投入の是非、腎臓を売る行為や自殺補助の是非、代理出産と親権の問題、アフターマティ  
ブ・アクション(積極的差別是正措置)の問

題などを考える上で、哲学者ジュレミー・ベ  
ンサムの功利主義、ジョン・スチュアート・ミルの自由論、経済学者ハイエクやフリードマンの自由主義、哲学者カントの道徳論やアリストテレスの美徳の考えなどが交差します。「超訳ニーチェの言葉」は哲学者ニーチェの難解な言葉を日常生活の平易な言葉に置き換え、生を肯定的にとらえようとしています。これらの本の特徴は、「こうしたら幾ら儲かる」とか「こうすれば成功する」と言いたいわゆるハウ・ツー(How to)本ではないことです。「七つの習慣」や「マネジメント」は方法論も述べていますが、その目的は人格を高めることであり、経済的な報酬や地位を得るためにどうしたらよいかを教えるものではありません。大切なことは原理・原則(プリンシプル)であり、ものごとの本質をとらえようとするものです。それは各々の言葉に表れています。ドラッカーの「企業の目的は一つしかない。それは顧客を創造することである。」「人間社会において唯一確実なものとは変化である。」「リーダーシップは賢さに支えられるものではない。一貫性に支えられるものである。」という言葉、コヴィー

の「幸福とは最終的に欲しい結果を手に入れるために、今すぐ欲しい結果を犠牲にする」とよって得る果実」という言葉に。サンデル教授は本の最後で、正義に対する三つの考え方を整理しています。①正義は功利性や福利を最大限にすることだとする考え方②正義は選択の自由を尊重することだとする考え方は③正義には自由と公正を確保するために美徳を涵養することと共通善について判断することが含まれるとする考え方、この三つです。そしてサンデル教授自身は③の考えに属するとしています。①の功利主義②のリバタリアニズム(自由至上主義)に対して③はコミュニタリアン(共同体主義)と呼ばれています。これらの考え方は古代ギリシャの哲学者の時代から封建時代を経て自由経済の時代へと社会の各々の発展段階において生まれてきたものです。  
今、日本では責任ある立場の人が発する言葉は風によって四散するタンポポの冠毛よりも軽く、カメレオンの肌の色のように変幻自在です。インターネットの発達で情報は溢れかえっており、間違った情報も多いにもかかわらず、それを信じることから犯罪に巻き込ま

れたり不安が増大したりしています。グローバル化が怒涛の如く押し寄せ、超大国アメリカへの一極集中による安定した世界から多極化への不安定な世界への移行は、原理・原則を見失った人々を難破船の如く翻弄しています。我が国はアメリカの顔色さえ見ておればよかつた時代から、欧米先進国の力が相対的に弱まり、台頭する中国、ロシアなどの新興国との付き合い方を自分の頭で真剣に考えなければならなくなり、外交という他国とのコミュニケーション能力を養成してこなかつたつけが回ってきているように思います。価値観が多様化したと言われますが、むしろ価値観をしっかりと持った人が少なくなつたのではないかと思えます。世の中が複雑になつてきたために選択の幅も増えてきました。そして大切にすべき目的が見えなくなり本来その目的を達成するための一手段にすぎないものが目的化した結果、価値観が多様化したように感じているのではないのでしょうか。サンデル教授の「正義 (Justice)」の授業からは、空気に支配された多数意見が常に正しいとは限らず、多面的な見方から本質に迫ることができると言うことがわかります。「ケータイ

を持ったサル」(正高信男)という本があります。人とのつながりを求めながらも大人になることを拒否し引きこもる現代の若者を家族とのかかわりも含めて分析した興味深い本です。この本を読んだ時、「哲学するサル」を思い出しました。随分昔になりますがソニーのウォークマンのCMで、ウォークマンを耳にじつと音楽を聴くサルが有名になつたことがあります。音楽を聴きながら沈黙考している素振りから哲学するサルと評判になりました。ソニーの凋落、ウォークマンの終焉とともに哲学するサルから携帯を持ったサルの時代になつたようです。失われた20年は経済成長だけでなく若者の精神力をも低下させてきたわけで、その期間は30年、40年の長期になつてしまう可能性があります。80年代、巨大なバブル経済に踊らされ、その崩壊から一転意気消沈したまま世界的景気後退に突入し、政権交代は期待外れで前途に深い霧がかかっているような現在、ものごとをじっくり考えその本質に迫る必要性が高まっています。そのような中でこれらの書物の出版は哲学の時代を予感させる時節を得たものと言えましょう。教育再生も正念場です。大阪

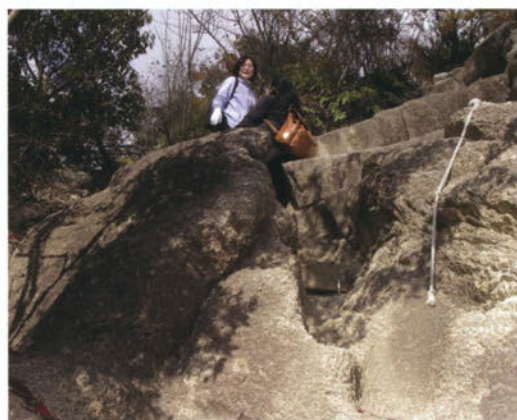
府では、橋下知事が教育の機会均等を掲げ私立高校生に対する就学支援金の拡充と授業料無償化世帯の拡大を推進していますが、それだけで本当に若者の学習力を高め将来の格差は正に効果が期待できるのか疑問に思えます。本質的な問題は別にあるような気がしません。「これからの『正義』の話しよう」の平等をめぐる議論におけるアメリカの政治哲学者ジョン・ロールズの次の言葉はそれを示唆しています。「社会のどこに生まれるかを自分で決められないように、生来の資質も自分では決められない。能力を開花させるために努力すると言う優れた性質を備えているからと言って、それは自分にその価値があるからだと考えるのも問題だ。このような性質は、恵まれた家庭や幼少期の社会環境など、自分の功績とは呼べないものによるところが大きいからである。功績の概念はここに当てはまらない。」

## 保護者会ハイキング

11月7日下見に行った芦屋川ハイキングが11月27日(土)に敢行されました。「ハイキング」と言うよりは「登山」ですという前触れの影響もあってか、また季節がら体調を崩される方もあってか、当日の参加者は保護者6名に教員4名の総勢10名と言う小隊になりましたが、天候は快晴で気温も高め、絶好の登山いやハイキング日和でした。福井先生と下見に行った時は、高座の滝からロックガーデンへの岩場の登りのコースは、失礼ながら運動不足と思える何人かの保護者のみなさまにはきついかもしれないので、「八甲田山」行軍のように会下山から登る班と高座の滝から登る班に分けて、風吹き岩で落ちあい、ともに会下山に下る方法も考えてはおりましたが、少人数になることが分り、先頭に私と福井先生、しんがりに佐藤教頭と岡田先生が付き6名の保護者をしつかりガードすることで

全員での高座の滝からの登山に踏み切りました。阪急芦屋川を9時半過ぎに出発し、高座の滝まで歩き出すと、私と福井先生が後続をだんだん引き離し、ところどころで立ち止まって待つこと数回で、高座の滝に到着。今回は途中で芦屋名物(?)のイノシシには出会いませんでした。

いよいよロックガーデンに挑戦です。保護者の田邊会長は、初めての挑戦にもかかわらず、私と福井先生の間で登られ、常に先頭におられました。私たち三人は結構速いスピー



ドで黙々と登ります。後続部隊では最初はにぎやかな話し声が聞こえておりましたが、段々寡黙になり遅れがち。それを佐藤教頭と岡田先生が「落ちたら丸い人は海まで転がりますよ」と冗談を飛ばしながら励ましてゆきます。

登り始めて約1時間、頂上の風吹き岩に着。心配しておりましたが保護者のみなさん、なかなかの健脚ぞろい。記念撮影の後、福井先生がリュックに入れて運んできてくれたフルーツワインで軽く乾杯。急なご病気で



入院加療中の保護者会担当の安田先生の一日も早いご回復をお祈りいたしました。

予想より早く前半を終了したので、昼食場所に時間変更の連絡を入れ、会下山に向かって下山。途中会下山から上がってきた中年男性登山者に「もう帰るの?」と呆れられる始末。私たちがのように高座の滝からロックガーデンを通り会下山に下りるケースはまれで、せめて岡本方面、遠くは有馬方面まで足を伸ばす人が大半。「いや、初心者なもので」と挨拶を交わし、登りとは打って変わって歩きやす

い森の小道を「ある日、森の中、くまさんに出会った」とつぶやきながら歩みを進めました。

会下山遺跡を見学しながらここでも記念撮影。社会科の先生が3人もいたのに、誰からも詳しい説明を聞けなかったのはなぜかな? 専門外と言うことでしょうか。

卒業生と言うことで無断で山手中学に入らせていただき、田邊会長が好文木でお読み下さったあの階段にご案内。既に「苦しさを乗り越えてこそ人として成長する」の文字はないものの、ここでも記念撮影。グラウンドでクラブ活動中の先生に挨拶して山手中学の正門を出て、山芦屋町を通り、途中で滴翠美術館



に立ち寄りました。鴻池銀行、三十四銀行とともに三和銀行をつくった山口銀行の創業者の屋敷跡にある私設美術館で茶道具の収拾で有名。随分昔、高校生の時、当時の御当主が亡くなられ父の代理で告別式に伺って以来の訪問でしたが、常設展は展示点数も少なく、ちょっと残念でした。美術館を出て、阪急芦屋川駅に向かって下り、昼食処のトルコ料理店サクルエブに到着。店長のシエネル・コヌックさんは日本語が流暢でとても気さくなトルコ人。岡田先生とは馬が合ったようで会



話が弾んでいました。「久しぶりに埴輪ルックにしていた生徒がいたので注意した」との佐藤教頭の話に、「ああ、あれはカッコ悪い。スカートの下にもんぺみたい。トルコの学校であんなみっともない格好をしていたらブツ飛ばされますよ」とコヌックさん。「もんぺ」を御存じなのに一同驚き。生徒指導を厳しく行い身だしなみも相当改善したものの、寒くなるとスカートの下にジャージを穿いたり、ブランケットを巻き付けて歩いたりする生徒が僅かですがまだ出て来ます。見た目を気にすることがなく、公の場も自分の部屋も区別できず同じと考えるけじめのなさには困りものです。こんなことは高校生にもなつて学校

で教えることではなく、小さい時からの家庭教育のなかで教えておいていただきたいのですが、残念ながらそれが出来ない家庭があるのが現状です。OECDによるPISA（学力到達度調査）で日本の順位後退が話題になり久しいですが、家庭教育の世界ランキングをつけたとしたらもつとひどい事になるのではないかと憂慮しています。ソニーの創設者の井深大氏はその著書「幼稚園では遅すぎる」のなかで、「本当に必要なのは、知的教育よりも、心の教育であり、私が問いたかったのは、そのために母親が果たす役割の大切さだったのだ」と語っています。人間の能力は0歳から3歳までの時期に形成されるとし、親のしつけや働きかけがある環境、子供を見守る姿勢の大切さを説くこの本からも女子教育の大切さを痛感いたします。そんな真面目なこともちよつと考えながら、カレーやシチュー、ケバブなど口当たりの良いトルコ家庭料理を頂き、「次回は安田先生の全快祝いを兼ねて有馬まで足を伸ばすのもいいね」などと早くもやる気満々の意見も飛び出し楽しいひと時を過ごしました。そして午後3時ごろ保護者会秋のハイキングは恙無

く終了いたしました。参加下さった保護者のみなさま、お疲れ様でした。ロックガーデンの岩を登る苦しみを乗り越えて、まさに「やればできる」を実感いただけた一日ではなかったでしょうか。みなさまの健康増進の水先案内を務めさせていただくことができ、大変嬉しく思っております。



## 教育は、 義理と人情と浪花節

校長になって4年目になりますが、いつ頃から生徒の夢を見るようになりました。挫折しそうになっている生徒のことが気になっていると夢に出てくるようです。自分自身が試験に落ちたり、単位を落としそうになる夢を未だによく見る私です。学校が嫌いだっただが校長になるとは世の中わからないものです。挫折する理由は、勉強ができない、友人関係が上手く結べない等様々ですが、家庭や育ってきた社会環境が大きく影響している場合が決して少なくありません。自分の責任に帰さないことが原因で、頑張れない子供を見ると、希望を持つことができる人とできない人がいると言う希望格差をつくづく感じ、暗澹たる気持ちになることもしばしばです。私たちの仕事は、成功体験のない子供が、挫折を乗り越え失敗から学ぶことで希望を見つけることができるようにする道案内だと思っ

ています。ですから、あの手この手で係わって、満足して卒業して行った生徒が元気な顔を見せに学校に戻ってきてくれた時ほど嬉しい事はありません。彼女たちの頭には、本校での厳しい指導の思い出が強く残っており、「しんどかった」、「いややった」と正直に感想を漏らします。しかし、彼女たちとの話の端々から、それが今の自分に役立っていることとは誰よりもよくわかってきているなということが伺い知れます。まさに「良業は口に苦し」を実感する至福の瞬間です。



玄田有史さんは『希望のつくり方』という著書の中で、アンケート調査を通して次のように述べています。「就職してからの挫折体験によって働く人を三種類に分けると、約5割が挫折を経験しなかった人、約1割が挫折を経験して乗り越えられなかった人、そして約4割が挫折を経験して乗り越えてきた人で、この4割の人が希望を持って仕事をしている割合が最も多い」わたし自信、受験や仕事で挫折や失敗が多かっただけに玄田さんの主張には大変納得のできる点が多く、いちいち頷きながら読みました。

道案内役であるわれわれにとって最も重要なことは、コミュニケーションだと実感しています。同じ生徒、同じ保護者に話をしていてもコミュニケーションがうまく取れる人と取れない人がいます。いくら正論を理路整然と述べても、相手の心に響き、心を開かせることができず、逆に一生懸命に言えば言うほど、強く弾き返されてしまいます。経営学者のドラッカーが言う「無人の山中で木が倒れたら、音はするか？」が問われるところです。コミュニケーションは聴いてくれる相手がないと成り立ちません。そして、相手が理解

できる言葉で話さなければ成り立ちません。相手が理解できる言葉とは、相手の事情をよく分析理解した上で、相手のことを思う気持ちが込められた言葉です。「木は光を浴びて育ち、人は言葉を浴びて育つ」と、言います。本校の様々なルールは、教育理念である「生徒に夢と希望を与え、自立した 社会に貢献できる女性を育てる」ことを実現するための手段です。ですから、ルールを守らせることは確かに大切なのですが、それが目的化してしまうと、画一的な指導に陥る危険性があります。「人を見て法を説く」ことが肝要です。ここが教師の腕の見せ所でもあり、教師の教師たる所以であると思います。生徒指導の上手な先生の横にいて、生徒や保護者の話に立ちあいますと、本当に勉強になります。決して否定からは入りません。よいところを先ず褒めて、悪いところは事を分けて丁寧に指導します。生徒や保護者の話を最後まで聞きます。相手によって当然話の内容や言葉も変わります。テクニックではなく、本当に相手のことを理解しようとしていると分らせる気持ちもついています。ここにマニュアルはありません。教師の人生観でぶつかっ

てゆきます。本気でぶつかれば大抵は生徒も保護者もしつかりと受け止めてくれます。そして何よりも当の生徒が教師の力量を見抜いています。

物事の道理、人の行うべき正しい道、これすなわち「義理」、いつくしみの心、なさけない心のつながり、「人情」、そして、合理的ではない心のつながり、これすなわち「浪花節」、これあってこそ信頼は生まれるものだと思います。ウイリアム・アーサー・ワードの言う「本当に優れた教師は生徒の心に火をつける」ということを、私なりに言い換えるならば、「教育は、義理と人情と浪花節」じゃないかなと思います。

大塚初重氏と五木寛之氏は対談集『弱き者の生き方』の中で、「平和に見える私たちの目の前で「心の内戦」のようなものがくり広げられているのではないか、その大きな要因に、想像する力の欠如があるのではないかと問題提起しておられますが、「心の内戦」に立ち向かうことが多くなった教師にも想像力が求められています。生徒が元気がなくなったり、急に学校を休みがちになったりするには、必ずそれなりの理由があるはずで

す。私への報告書を見ると、中には、「はっきりした理由は無いが、」と書かれたものもありますが、それはご自分がその理由を見つけていないだけで、理由が無いのではないと思います。友達関係、家族関係など情報を収集して理由を想像することから、解決策が見出されるのですが、その努力を怠っているとかわざるを得ません。

さて、先日、保護者懇談の折、とても良いお話を伺いました。「うちの子たちははげっしていきのいい子ではなくご迷惑をおかけしていること重々承知しておりますが、朝、家を出る前に、「ハンカチ持った？ちり紙持った？そして、やさしい気持ち持った？」と、言って送り出しています。ですから、出来は悪いですが、やさしさは何よりも大切にしていくれていると思っています。」また、「夕飯はいつも家族をろって食べるようにしており、一日あった出来事をみんな話合います。一人の子が仕事で遅くなるとその子を持つので、全員の食事時間が少し遅くなることもありますが、」とおっしゃっていました。このお母さんは朝から晩まで一生懸命に働いておられます。昼間に仕事を入れると、小さな子が病

気になったりした時、病院に連れて行かねば

ならず、仕事に穴をあけてしまうので、夜に仕事を入れていくそうです。「人に迷惑はかけたくないのです。自分の仕事に責任を持ちたいのです。」ともおっしゃってられました。子育てと仕事の両立という難しい問題に、このように明るく前向きに取り組んでおられるお母さんにお目に懸かれお話を伺うことができ、本当に感心するとともに身の引き締まる思いをいたしました。このようなお母さんのいる家庭には「心の内戦」は起こり得ないと思います。そして私たちはこのような思いで子育てをしてられるお母さんのお子さんを預かっているのだと言うことに思いを馳せねばならないと思います。真剣勝負です。日々は決戦、日々は勉強、日々是好日。

84

2011/01/08

## 新春読書雑感

あけましておめでとうございます。新年の

お慶びを申し上げます。温暖化傾向の昨今には珍しい寒波襲来で、底冷えのする寒い年末年始でしたが、みなさまいかがお過ごしでしたでしょうか。何より寒さに弱い私は、正月を前に少しく庭の落ち葉掃除をした後は、読書三昧で過ごしました。以前に好文木の「横道にそれる授業」でご紹介した中勘助の小説『銀の匙』（岩波文庫）を実際に読んでみました。元武家の息子が伯母さんの愛情に包まれて過ごした子供時代の思い出を自伝風に綴った小説です。少しひ弱な少年の微妙な心情が描かれており、自分の子供時代にだぶらせながら読みましたが、時代背景が明治で、馴染みのない言葉が沢山出てきて、何度か註に当たらねばならないのが少し面倒ではありましたが。灘の橋本武先生が3年間かけて授業で読ませた教材としてはなかなか渋いと思いました。そしてジェームズ・コリンズの『ビジョナリー・カンパニー』②、③（日経BP社）。これは『ビジョナリー・カンパニー』の続編で、②には飛躍の法則、③には衰退の五原則という副題が付いています。ビジョナリー・カンパニーとは卓越した未来志向の偉大な企業という意味です。アメリカの多くの企業の

成長度合いをデータから読み取り取捨選択して選ばれた18企業に共通するパターンを調べたもので、医薬品のメルク、コンピュターのIBMとヒューレット・パッカー、洗剤など家庭用品のP&G、そしてソニーなど我々に馴染みのある会社も取り上げられています。特にリーマン・ショック以来、グリード・キャピタリズム（強欲資本主義）などと言われ、利益第一主義で会社は株主のものという考え方がアメリカ流だと喧伝されて来ましたが、ここで取り上げられた企業の経営理念や時々のCEO（最高経営責任者）の決断を見ますと、昨今批判に晒されている市場原理主義とは全く違う企業の姿が浮かび上がってきます。どの会社にも単なるカネ儲けを超えた基本的価値観と目的意識があること、ビジョン策定より前に、バスに乗せる人と降ろす人の選択、即ち適切な人材の選定をおこなっていること、ビジョンを持ったカリスマ的指導者は必要ではないこと等等、巷間の俗説を覆すものが多く、目から鱗が落ちました。この4年間の改革を振り返り、われながら結構好い線を行っているかと自信を持てる点がある一方、不足前を反省する点もあ



り、公私入り乱れた激しい生存競争に突入する教育界において陣頭指揮を執らねばならない私にとって、年の初めに誠に相応しい経営哲学書であったと思います。ビジョンナリー・カンパニーで今年の戦略に思いを巡らせた後、趣を変えて、加藤周一の『羊の歌』、『続羊の歌』（岩波新書）を読みました。資産家の一族の中で育った著者の半生の回想録で、1919年の羊年生まれであったことからこのタイトルがつけました。日露戦後、陸軍将校を退役し実業界に転じ第一次大戦中にもうけ、その後の恐慌で資産の大部分を失い、晩年はあまり豊かではなかった祖父を中心とした一族の生活を縦糸に、第一高等学校、東京帝国大学の学生時代の友人や恩師、太平洋戦争後のフランス留学時の様々の国の男女との交友を横糸に、戦後リベラルな評論家の代表者となった著者の個人的な考え方が形成されてゆく過程が解る興味深い本でした。生まれ育った東京渋谷や疎開先の信州の追分、軽井沢、はたまた留学先のパリ、留学時の訪問先のスイス、ロンドン、エジンバラなど、私自身も訪れたことがありその雰囲気解るだけに紀行文的な読み方も出来まし

た。年に三日しか雨が降らないと言われたマルセイユを彼女とともに訪れた時、晩秋の雨が降り注ぐ海岸で漏らされる感想、「若い恋人たちと老人にとっては、すべての日が貴重なので、天気や環境はどうあってもよいのかもしれない。一方にとっては、未来があまりにも長いから、他方にとっては、未来があまりにも短いから。」は、未来があまりにも長い人たちを前にしている未来があまりにも短い世代に年々近づきつつある私にとって、特に印象に残った箇所でありました。本から知識を得ることより、知恵と勇気をもらうことが多くなってきた自分はたぶん幸せなんだろうと思います。

85

2011/01/12

## 忙中閑あり

—ぼんやりの功用

年が明けると入試が近付き、中学校からの教育相談が本格化します。この2〜3日である程度、受験者数が掴めます。大阪府橋下知

事の就学支援金拡大により、私立志向が若干強まるのではないかとの見通しが一般的ですが、もともと公立志向の強い地域ゆえ予断は許せません。知事は、公立と私立を同じ土俵に上げて切磋琢磨し教育の質を向上させようと考えておられるように承っておりますが、公立には残業という考えがありませんが、私立は民間企業と同じと見なされ、残業につき厳しい指摘が労働基準監督署からなされ、同じ質量の教育サービスを提供するにもコスト面で大きな差が出て来ます。また、公立にも統廃合はありますが、閉鎖された学校の教員は別の学校に回されますが、私立は経営が傾き廃校となれば、教員は即失業の憂き目にあります。従って、同じ土俵での勝負とは言えないのが実情です。しかしながら、教育内容の優れた学校にはお金を出しても子供を通わせたいと言うのが親の気持ちであり、子供も教育環境の良い学校に行きたいと考えるのは当然のことですから、まだまだ発展途上の本校においては、制度変更を嘆いてばかりいても仕方がなく、自らのスキルアップに努めるのが肝要と心得ております。また、学校に直接下される経常費補助金の配布方法が生徒一

人当たり一律の約28万円に変更となりますので、生徒数が少ないと補助金も少なく、直ちに経営に影響が出るのです。教育の質を高めつつ生徒数も増やしてゆかねば学校の存在が危ぶまれる厳しい時代になりました。新年の挨拶として教職員のみなさんにはこの厳しい現状認識を持っていただきつつも、本校の教育理念実現のために地道に凡事徹底のPDCAサイクルを回し、日々是改善を積み重ね、在校生と保護者の満足度向上を期していただくようお願いを致した次第で



す。年末年始の読書も読みっぱなしにはせず、経営に活かすべき良きアイデアは直ちに実行すべく、準備を進めております。それにしても気になります。今日も何度も入試広報室を訪ね、中学校からの相談件数を確認に行きました。

大学生の就職戦線が冷え切っているとの話題が尽きません。一方で、昨年の新入社員の半数が半年経って転職を考えながら働いていると言うデータも報告されております。ここ数年の傾向として、企業は即戦力を求めて来ました。グローバル化を進めるために英語力が必要とされ、採用や昇進にTOEICで一定以上の成績を課す企業も増えていきます。大学の進路指導は至れり尽くせりとなり、大学の就職予備校化に拍車がかかっているように思えます。いや、実際に就活の予備校もあるそうですから、驚きです。企業は論理的思考力がありチャレンジ精神のある人材を求めているはずですが、逆にマニュアル化された学生を大量生産する結果となっているように皮肉です。私が就職活動をしたのはもう30年ほど前になりますから今とは事情は随分違いました。オフィシャルな就活解禁日は大学4

年の10月1日でしたので、4年生の夏休み前からの企業訪問が主流でした。今のようにな年の秋・冬からということはありませんでしたから、腰を据えて勉強(?)に励めました。総合商社志望の私が、運よく第一志望の伊藤忠商事から内定をもらったのは、10月末ぐらいだったと思います。入社試験は今のようにな英語や数学の筆記試験など一切なく、数回に亘る面接のみでした。内定後は翌年の4月の入社まで、あとで試験をするからと言って自分で勉強するように簿記の本を渡されましたが、あまり良く理解できず、試験も合格しなかったように思いますが、別にそれでどうといったことはありませんでした。英語についても英会話学校のベルリッツに通わされましたが、大した試験も行われず、入社後はもっぱらOJT (On the Job Training) で直属の先輩から厳しい指導の下、仕事を覚えて行きました。そもそも私はあまり出来が良くなかったもので、こっぴどく叱られていました。理解が遅く、しびれを切らせた教育担当の先輩に怒鳴られ殴られそうになったこともありましたが、近頃のように「パワハラだ」などは考えもませんでした。正常な自己責

任意職が働いていたのでしよう。課長に朝から晩まで一週間叱られっぱなしになった時には、さすがにめげて家内に愚痴をこぼしました。同情してくれると思ったのですが、「それはあなたが悪い。」と言われ、逆に論されたこともありました。当時の副社長からは、「最初の10年位は、会社は君たちに給料を払いながら仕事を教えてあげることになる。11年目位からようやく会社に利益をもたらしてくれると考えている。」と言われ、「君たちは普通にやっていたら全員、課長にはなれる。」とも聞いていました。私は7年で家業を手伝うために退社したので給料分食い逃げしてしまつたようで申し訳ない気持ちも今でも持っています。結果として、同期で残っている全員が本社の課長にはなれなかつたと思いますが、会社は社員教育について辛抱強く長期展望を持って対処してくれたと思います。仕事の基本を叩き込んでくれたこの7年間のお陰で曲がりなりに今私のがあると、当時の先輩方には心から感謝致しております。当時、海外出張と海外駐在に行くための二種類の英語の試験がありました。私は駐在前に退社しましたが出張には何度か出向きました

ので、出張用の試験は受けて合格してました。サンフランシスコに駐在が決まった隣の課の先輩は、駐在に必要な試験に合格しませんでした。が、駐在に出て、ひと仕事終えて数年後に帰国しました。帰国後もう一度試験を受けたのですが、また落ちたと言う話を聞きました。英語はコミュニケーションの手段だと言う実証例だと思いますが、大らかな時代でもありました。

大学時代も就職を意識し出したころからは多少は積極的に授業に出ていましたが、授業に出ずに本を読んだり、高田馬場や新宿で友人と飲みながら議論したりしていたものです。試験前にノートの貸し借りをして、一夜漬けで本を読んで、あるだけの知識を振りしぼり答案を書いたものです。これに比べると今の大学生の方がしっかり授業にも出席し、TOEICも受け、真面目に勉強しているのではないかと思います。30年前の大学進学率約20%、大学数は約420校、2010年は、それぞれ50%超と778校で、大学の大衆化が一段と進んでいるとは言うものですが、大学の就職予備校化とマニユア

ル化が進めば、創造力のある、打たれ強い人材はますます減るのではないかと思います。世の中、始めから目から鼻へ抜けるような優秀な人間ばかりいるわけではなく、実践で鍛え経験を積むことで人は育つものだと思います。企業の姿勢が大学にもさらにその下の中等教育にも影響を与えています。高校でもキャリア教育が花盛りです。

夏目漱石が明治44年に『道楽と職業』と題して明石で行った講演録を読みますと、面白い事に100年後の今と同じようなことを言っています。当時は日露戦争後のインフレ時代で、現在の長期デフレとは異なりますが、大学を卒業しても就職できない学生が多く、中には2〜3年下宿に引きこもっている者もいたそうです。漱石の小説の主人公にはこういういわゆる高等遊民、今でいうニートが沢山出て来ます。「職業も細分化し種類が増えているので職にありつけそうなものだが、」と漱石は言います。そして、大学でも「職業学」を教える講座を設けるべきではないかと言っています。まさにキャリア教育をしろと言っているわけです。労働需給ギャップが拡大し失業率が上がるとこういう話になるのか

などと思います。漱石はこの講演で、職業とは人のご機嫌をとることで報酬を得るもので、道楽とは自分本位にやるものだと言っています。芸術や文学などは人の機嫌を取るためにやるものではなく自分を満足させるためにやるものでその代わり実入りは少ないと言っています。漱石の個人主義の片鱗が伺われます。そう考えますと、教師と言うのは道楽ではありませんが、職業と言うには俗物的に過ぎる感じがします。また昨今は職業が細分化しすぎて専門バカが増えているから、人はもう少し小説でも読んで人間通になった方が良く、ということも述べています。7〜8年前でしょうか、ある大手銀行のロンドン支店長経験者の方から、「経済学部や経営学部を出た学生より、文学や心理学をやっていた学生の方がコミュニケーション能力が高く、仕事ができる。」という話を伺ったことがあるのを思い出しました。即戦力という考え方自体、考え直す必要があるのではないのでしょうか。急いで仕事を仕損じると、思うのです。

漱石は、文明が進み科学技術が発達するに従い人間が機械に使われ疎外されてゆくという

ことを予測しています。携帯電話とメールの普及は、便利を通り越して不必要な交信を生みだし、自らもめぐりを創り出しているようなところがあります。友達からのメールに直ぐに返事をしないと干されてしまい虐めにつながる等は、全くナンセンスな話です。昔の黒電話ならダイヤルを回しているうちに怒りも収まったかもしれません。一呼吸置くと言うことが出来ました。先行きが不透明で変化の激しい時であるからこそ、余裕ある時間を持つことが必要だろうと思います。

そう思っている矢先に、辰濃和男著『ぼんやりの時間』（岩波新書）に出会いました。辰濃氏は、朝日新聞社で永年『天声人語』を担当したジャーナリストですが、「ぼんやりする時間を持たたことで、自分の中の生命力、野生、創造力等を育むことができたと確信する。」と述べています。山でも野原でも公園でも街の何処かでも例えば、大きな木の下で木漏れ日を浴びて何時間でもぼおーっと鳥のさえずりを聞きながら過ごすようなそんな時間の大切さ、日常の中の非日常的な時間。実は私もこの「ぼんやり」が大好きです。先日の休日も、書齋で本を読みながら、目が疲

ると庭を眺めていました。誠に小さな庭ですが、雑木林ふうに木を植えたので、鳥がたくさん来ます。その日はヒヨドリがアズキナシの木の高い実を啄みにやってきました。あのキーキと鳴く声と折角つけた実を無造作に次から次へと口に入れて行くのを見ると何とも厚かましい奴だなと思います。ツバキが花をつけると、開く前に突っついてしまうので、いつも悔しい思いをします。あまり良い印象を持っていない鳥でしたが、ちょうどその数日前に、NHKでヒヨドリが冬の北海道から一斉に隊を組んで津軽海峡を渡り本州に移動するドキュメンタリー番組があり、それを見ていました。荒れ狂う波間に姿を隠しながら海面すれすれを飛ぶ姿は、悲壮感さえ漂う雄々しいものでした。海面ぎりぎりを群れをなして飛ぶには理由があるのです。天敵のハヤブサが、自分が海に突っ込んでしまうため、急降下して襲うことができないのです。一方、ヒヨドリは荒れる大波に呑まれないのかという点、強い季節風が波に当たりヒヨドリを浮揚させるそうです。庭でのんきに赤い実をつまんでいる厚かましいヒヨドリにこんな一面があると思うと、「こいつも偉いんや」

と思わずつぶやいてしまいました。手水鉢に入れた水を飲みにもズが来しました。何度かくちばしを付けた後、近くのマキの木の枝で暫く休んでいました。飛び立つのを待って、寒いのを我慢して庭に出て、次に来るお客の為に、汚れた水を換えてやりました。これまた小さな手水鉢ですが、きれいな水で溢れるまで満たすと、揺れる水面と地面の苔とのコントラストがとても美しく感じられます。日がない日眺めていても飽きないでぼんやりできる場所です。これが私にとってもっとも手軽な気分転換の方法です。鬱になるのは真面目で几帳面で仕事熱心な人が多いと言われますが、とことん突き詰めてしまいうからなのでしょう。楽天家の私でも最近は大に急降下で落ち込む時があるのですが、水面に突っ込みますに浮上しています。それはこの「ぼんやり」の功用「だと思っています。「ぼんやり」は私にとって大波に呑まれる前に浮揚させてくれる季節風なのかもしれません。

86

2011/01/15

## 教育相談と就学 支援金拡大について

私学への就学支援金拡大の影響がどのように出るか、期待と不安をもってこの数日を過ぎましたが、ほぼ受験者数が固まってきた。専願、併願ともに昨年より随分増えております。例年になく併願者の戻り率を読み難いので最終の入学者数は解りませんが、かなり増えるのではないかと考えています。本校の立地は阪神電鉄千船駅下車、千船大橋を大阪側に渡ってすぐで、神崎川の東岸に接しておりますので、大阪府内のみでなく、尼崎や西宮等兵庫県からの通学生も沢山おります。過去4年間、生徒指導の徹底を基礎に学校改革を進めてまいりました成果が、じわじわと浸透してきたように思います。昨日も中学2年生の生徒さんから次のようなメールが学校に届きました。「母の知人の姪御さんが卒業生で、先生方が熱心だと聞きました。JR東西線一本で通えるのでとても興味が

あります。御面倒でしょうが、資料をお願いいたします。」このような問い合わせが増えており大変嬉しく思います。地元の中学校の生徒さんで、1年生の時から本校の学校見学会に親子ともども参加して、ついに今年受験と言方もあります。お母様は本校の卒業生なのですが、二年前にはじめて学校見学会にお越しになった時に、たまたま私がおかけしましたところ、学校の変わり様に驚いておられましたので、改革の趣旨をお話申し上げたところ、すっかり新生、好文学園のファンになってくださいました。千船駅近くで数十年学習塾を開いておられる先生からも、「パンフレットで学校の良さを謳われてもどうしても割り引いて考えますが、自分は、千船駅を乗り降りする好文生を目の当たりにしているので、最近の変わり様を見て、安心して生徒に薦められます。」と言ってくださいました。大変有難い応援だと感謝致しております。

一方で、大阪府在住の方にとっては、橋下知事による就学支援金拡大が、私学を選択する大きな理由になったことは間違いない事だと思えます。本校のみならず他校においてもこの傾向が顕著であろうと推察いたします。

僥倖に恵まれた側面があることをしっかりと認識せねばならないと思っています。

知事のメッセージを拝読いたしますと、「就学支援金を拡大することで、経済的に豊かになくとも、よい教育が受けられる道を開き、いわゆる階層移動を促進する効果がある。」とお考えが見てとれます。「教育による階層間の移動」(Social Mobility)を容易にするため、ハーバード大学が所得に応じて学費の無料化を実施しており、東京大学も同じような施策を講じ始めました。ただこの考え方は対象者に勉学の意欲があるということが大前提になります。中学卒業生のほぼ全員が高校に進学するなかでは、勉強意欲があつての進学ばかりではなく、「皆が行くから」とか「先生も親も高校ぐらい出ておきなさい」というので、とりあえず行く。」という子供も多いのが実情です。従って、制度を整備しても、勉強意欲、なぜ勉強するのか、という学ぶことの価値を理解させなければ、必ずしも期待される階層移動効果は大きくは出ないと思います。ロンドン大学名誉教授の故森嶋通夫さんは、勉強したくない、それより早く社会に出て働きたいと考える子供を、無理に大

学受験に駆り立てる必要があるのか、大事な青春時代を無駄に過ごさせる必要はなく、イギリスの教育制度のように、高等教育を受ける道と職業訓練に行く道を早期に分けた方が良いのではないかとの意見を持つておられました。高等教育と中等教育では本来持つ意味が異なりますから、同列に論じるわけにはまありません。しかし、高校進学について、準義務教育と見なしてよい状況下での生徒たちの意欲の低下は、中学、小学校、そして幼児期の家庭教育にまで遡って考えねばならぬ根の深い問題だと思えます。現場に立ちますとその辺りの細かい景色が見えてまいります。しかし、モチベーションの無い者にモチベーションを持たせる、即ち心に火をつけることこそ教師の役割でありますから、私たちは、不条理な社会状況にめげることなく、全身全霊で子供たちに、時には保護者にも、しっかりと向き合つてゆかねば、子供たちの幸せな人生を確かなものとする意味での「教育による階層移動」を達し得ないと考えています。そしてそれは政治家には出来ない、教師にしか出来ない崇高な仕事であり、苦楽しい(くか出来ない崇高な仕事であり、苦楽しい)くるたのしい…苦しさもあるがその先の楽しさ

は格別)その仕事を与えられたことに感謝するものであります。

世間では、「タイガーマスク」が話題になっています。福祉施設などにかつての人気漫画タイガーマスクの主人公伊達直人を名乗るランドセルや鉛筆など入学を前にした子供たちへのプレゼントが届けられ、この運動(?)が全国に広がっています。この漫画は私が中学生のころにテレビで放映されたものです。善意の輪が広がることは大変結構なことですが、なぜ単なる匿名ではなく、「タイガーマスクの伊達直人」を名乗るのか、しつくりこないところもあります。タイガーマスクのことを考えておりましたら、小学校のころに、アニメーションではなく実写版で「七色仮面」というのを朝早くからやっており、これを見てから学校に行っていたことを懐かしく思い出しました。1959年から1960年に初放映されたようですから、私が見たのは再放送だったのでしよう。変身術に長けて悪を懲らしめる単純明快なお話でした。「♪夢は七色、きれいな虹の、みんなで呼んでる幸せを、一七色仮面のおじさんの本当の顔はどれでしょう♪」というのが主題歌でした。

## 変わる採用環境、 変わるべき仕事観

学校を問わず、コミュニケーションが不得手で精神的にもひ弱な子供が増えています。上述のように目的意識も希薄化しています。これは成熟した文明社会がもたらす宿痾だろうと思います。ですから今時の教師は、ある時は英語の先生、そしてまたある時は大岡裁きを行う裁判官、そしてまたある時は心理学者か心療内科医などなど、多様な役割を果たさなければなりません。好文学園は特進コースからマンガアニメコースまで七つのコースを用意して、「教育は義理と人情と浪花節」を掲げる校長を筆頭に熱意あふれる七色仮面のおじさん（おにいさん？おねえさん？）が、「自立した 社会に貢献できる女性」を目指すみなさんをお待ちしております。

1月18日の日経新聞夕刊が、「大卒者内定率最悪68%（昨年12月1日時点）」と報じる

一方で、1月19日の朝刊は、「既卒者の採用拡大」を一面トップで報じています。これは昨年末に厚生労働省が雇用対策法に基づく「青少年雇用機会確保指針」を改正し、少なくとも卒業後3年間は既卒者も新卒者枠で応募可能にすることを企業の努力義務としたことに依ります。企業側も就活解禁日の変更とともにようやく重い腰を上げたようです。18日の日経は、「育てグローバル人材、内向き学生刺激」と題し、経団連による海外留学生向け奨学金制度の創設と日本IBMなどの大手企業による中国、インド等新興国から幹部候補社員の採用促進を伝えています。1月20日の朝刊では「ソニー新卒3割外国人」の見出しで、2013年をめどに日本の新卒採用に占める外国人の割合を30%まで高める方針で、中国やインドのアジアの優秀な学生を採用する予定であることが報じられています。また、1月17日の読売新聞朝刊は海外留学生の減少とグローバル企業における海外勤務を敬遠する若手社員のことが記事になっています。富士重工業では海外研修制度の応募者が減少しており、大手石油元売りでも拒否反応が強いと。産業能率大学の調べでは

2010年新卒の49%が海外で働きたいと思っていない。高学歴化の進展による大卒者の増加と日本企業の国内生産縮小による採用の減少とのギャップが拡大するとともに、豊かで便利な日本に慣れた若者の安楽志向が強まっています。しかし一方では、アジアで起業し、アジアを舞台に活躍する日本人が出現し「和僑」ネットワークを構築しつつあります。先日のNHKクローズアップ現代で、特集をしておりました。世界各地に散らばって活躍する中国人を華僑と言うのに倣い、アパレルメーカーや建築設計会社を立ち上げて、中国などのアジア市場で活躍している日本人を「和僑」と呼んでいるのです。いままでは工場のラインのような単純労働に外国人の採用が進んでいましたが、幹部候補の外国人採用が増えれば、どちらつかずの日本の若者はサンドイッチ状態ではじき出されてしまうという危機感を持たなければいけないと思います。バブル期以降、仕事に対する考え方が甘くなったように思います。また、セクハラやパワハラという言葉が一人歩きを始め、若者を甘やかす方向に向かっていないでしょうか。無茶な長時間労働を強いたり、人

格を貶める罵詈雑言を繰り返したりなどして、人を自殺や病気に追いやる行為は社会通念に照らして当然許されるべきものではありませんが、セクハラやパワハラを適用する範囲が広がり、屁理屈がまかり通るような状態は問題です。仕事に向かうと鬱状態になるが趣味や旅行には元気に参加するという新型うつについても、過食や家族関係、愛情の希薄さ等が原因だと言われているようですが、それは会社の仕事とは関係のない事であり、以前なら退職を迫られても仕方がないと思いますが、今は病気として上司や同僚にその人への対応につき配慮が要求されます。「仕事は楽しんでするもの」、「明るく楽しい職場」、「自分を活かせる仕事」など理想論が声高に喧伝されるに従い、「鬱」が増えていると言った言い過ぎでしょうか。そしてその対策として精神科医やコンサルティング会社による研修が花盛りです。マッチポンプとみるのは穿った見方でしょうか。本校でも私が校長に就任する前は、おしゃべりをやめない生徒を教室から出したら、その子の学ぶ権利を侵害することになるとか、立たせたらそれは体罰になるとか言われなかつた、遠慮をして

いた教員もいました。「権利の上に眠るものは保護されないのです。他の真面目に勉強しようとしている生徒の権利はどうなるのですか。」と、言いました。今は流石に、運動会の徒競争で手をつないでゴールさせることはないと思いますが、先日始まった、江口洋介主演の公立小学校が舞台のドラマ「スクール」にも出てきたように、男の子も女の子も差別（これは差別ではなく区別だと考えますが）せずに「さん」付けて呼ばないといけないというようなことに象徴される全くおかしな文化が蔓延しています。（逆に私は校内放送で生徒の名前を呼び捨てにしていたので、「高校生ともなれば立派なレディだから、さん付けて呼んでください」とお願いしました）永年、社会の常識とかけ離れた教育をしてきた付けが回ってきているのではないのでしょうか。「王様は裸だ」と言える人がいないことは恐ろしい事だと思います。山本七平のいう「空気」の存在を感じます。日本は、右肩上がりの成長時代から、少子高齢化と成熟社会の到来により、これから徐々に下り坂を降りねばならない厳しい時代にさしかかっています。日本社会全体が過保護な政策を転

換しないと、結局、日本人を不幸にしてしまうように思います。グローバル企業の外国人採用枠の拡大は、その「空気」に「水を差す」良い刺激になるかもしれません。やっぱり日本は外圧がないと変われないのでしょうか。日産自動車「GTR」の開発責任者の水野和敏氏は日経ビジネスのインタビューで、仕事について次のように語っています。「プロは自分が楽しむより客をたのませろ。人の為に尽くせるのがプロ。自分の為に楽しむのは趣味だ。仕事を楽しむなんてありえない。仕事は苦しいもの。その先に楽しみがある。お客が楽しむ姿を見て楽しめ。喜んでくれるお客の顔と払ってくれる対価こそ仕事の成果。自分は潰瘍にも円形脱毛にもなり、鬱度を測れば90%だろう。」仕事というものの本質を的確にとらえていると思います。私は本校において新たに常勤講師や専任教諭を採用する場合、私学の置かれた厳しい現状をお話し、それでも私の教育方針に賛同し、一緒に人を育てるといふ困難な仕事にチャレンジする気概があるかどうかを、現時点でのスキルよりも情熱に重きを置いて判断しております。「教師も労働者ですから」という言葉は



## 第二回中学校進路 希望調査結果から

ど嫌いなものはありません。本物の教師は労働者感覚ではできません。今年も価値観を同じくする同志を何人か迎えることができそうで大変嬉しく思っています。新入生も増えそうですね。ようやく回り出した重い弾み車が加速しそうです。

いよいよ明日から入学願書の受付が始まります。これに先立ち大阪府の中学校による第二回の進路希望調査結果が21日に発表されました。橋下知事の就学支援金拡充策の影響で、私立高校専願率は22%を超え、データのある過去10年で最高となりました。傾向としては専願が増え、併願が減り、合計では昨年並みかやや下回る学校が多かったようです。その中で本校は、専願193名(前年比51%増)、併願269名(前年比21%増)と専願、併願ともに増加すると言う有難い結

果となりました。しかし、この数字だけを見ますと、本校の募集人員280名に対する専願率は69%ということになり、依然少ないのではと思われるかもしれませんが、本校では兵庫県からの通学生が全体の35%以上上っており、発表されたこの数字に兵庫県が加わりますと、専願だけで十分に募集人員を超えてまいります。最終的に新入生は350名前後になるのではないかと予想しております。就学支援金拡充が追い風になったことは間違いないと思いますが、平成19年に学校長に就任以来、生徒指導の徹底を期し、教職員一丸となって地道な努力を続けてまいりました成果もお認め頂いたものと受け止めております。保護者のみなさま、好文学園はこれからも改革の歯車を止めることなく、学力向上に力を注ぐとともに、女性としてのマナー教育を推進してまいりますので、どうぞご安心してお嬢様をお任せください。受験生のみならず、体調管理を万全にし、最後までしっかり勉強をして本校の受験に臨んでください。2月10日、校門でお目に懸かりましょう。

## お雛様来る

今朝から同窓会のみなさまがお越しください、校長室前のホールにお雛様の飾り付けをして下さいました。男性の先生が、楽しんで手伝ってくれました。微笑ましい限りです。このお雛様は、昭和19年に本校を卒業された玉井美恵子様から御寄贈頂きました。私はこの4年間の学校改革のなかで、常に女子校らしさを追求してまいりました。そして、文化の香りと和みといった雰囲気や学校に満ち渡るようにしたいと考えております。季節を表す飾り付けをと思い、一昨年の12月には少し大きめのクリスマス・ツリーをポケットマネーで購入し飾りました。登校してきた生徒はとても喜んでくれました。昨年は合唱部が、そのツリーの前で朝のミニコンサートを開いてくれました。クリスマス・ソングが聞こえる中、ツリーを見上げながら登校してくる生徒の姿など、数年前までは考え



られなかった光景です。今年からは念願のお雛様が飾れるようになりました。以前、近隣の女子校にお伺いした時、玄関にお雛様が飾られているのを見て、本校でもこういうことができたらなあと一緒にいた教頭に話しました。それなりのお雛様を新たに用意するとすると、ポケットマネーの範囲では収まりきれません。保護者会の田邊会長にも相談いたしましたところ、新しいものもよいが、卒業生のかたからご寄付いただけるなら、その方が思いがこもっていいのではないでしょう

かと、アドバイスを頂きました。そこで、同窓会の坂根会長にお話を申し上げ、同窓会の会員の方で、お雛様を寄贈していただける方がいらつしやらないかお尋ねしていただくことになりました。坂根会長は年賀状一枚一枚にお雛様のことを書いてお尋ね下さったそうです。正直、ちょっと難しいかなと諦めかけておりましたところ、玉井様から「もう数年出していないお雛様がありますが、よろしかったらお使いください。」との有難いお電話を頂戴いたしました。教頭がご自宅まで伺い、頂戴してまいりましたお雛様の箱を開け、お内裏さまとお姫様のとても美しいお顔を見た時は、「やったー」と思いました。次々に現れるお道具類の素晴らしさにも感激いたしました。正直、これほど立派なお雛様を頂戴できるとは思っておりませんでしたので、嬉しさと感謝の気持ちでいっぱいです。早速、生徒たちが写メール片手に集まっています。好文学園の一期生の卒業式に間に合えばとの保護者会田邊会長の願いも叶いました。入学試験の願書受け付けもあと2日となりましたが、既に応募人員280名を遥かに超える314名の専願が集まっており

ます。併願も400名を超えること確実です。沢山の新生が迎えられそうです。さすがの悲観論者の私も、「こいつあ春から縁起がいいわえ」と、歌舞伎の名せりふで見得を切りたい気分です。これも本校を応援して下さい。中学校や塾の先生方、地域の皆様そして同窓会、保護者会のお陰と心から感謝致しております。好事魔多しと、申します。気を緩めることなく、凡事徹底し親身の指導で好文レディを育ててまいる覚悟です。



## 教員養成は大学の 仕事か

中教審に設置された「教員の資質能力向上特別部会」に参加した大学教授の経過報告が1月31日の日経新聞、教育欄に「教員養成、大学に改善迫る」と題して掲載されています。今まで教員養成は大学に、研修は教育委員会に任されていたものを養成から定年までの教職生活全体を視野に生涯学習を考えねばならず、①教職生活全体を通じて資質能力の向上を図る新たな免許制度の創設②教員養成を「修士レベル」に引き上げる③教職課程の質の確保④現職教員研修の体系化、高度化、実質化を実現する教育委員会と大学の連携・協力の検討、が要点だとしています。背景には、大学の「教育力」に対する不信があり、学部4年間で達成できる「教員としての必要な資質能力」の内実を明確に提示し、かつ育てていると自信を持って主張できるかを自問しなければならぬだろうとも述べていま

す。昨今の教員による不祥事の頻発やうつ病での休職や不適応による退職の増加を見るにつけ、教員の質が問われ、このような改革案が出されたことは理解できます。しかし、そもそも学部の4年間で、「教育力」や「教員として必要な資質能力」をどこまで養うことができるでしょうか。経営学部やMBAを出たからと言って一人前の経営者になれるでしょうか。司法試験に合格し司法修習を終えたからと言って法曹として一人前と言えるでしょうか。大学教育は各々の道に進む基礎的な勉強に過ぎず、その応用は社会で実際に仕事をしながら身につけて行くものだと思います。「日々の教育活動の中で学校と教員が直面している教育活動を解決できる明確な道筋であり、大学には相当の覚悟が必要だ。」と筆者は述べていますが、小説よりも奇なる事実が溢れる日々の教育活動を解決できる明確な道筋などないと思います。教員として大切な資質は、先ず、常識ある社会人であること、そして授業力と生徒指導力だと考えます。常識ある社会人となる教育は大学がすべきものではありません。授業力や生徒指導力も相手があつて初めて成り立つものです。こ

のようなコミュニケーション能力は教えて上達するものではなく、失敗や挫折を経験して徐々に身につくものです。もともと教員としての基本的な資質に欠ける人間を選別することは出来ると思いますが、4年や6年の大学教育で十分な教育力を備えた教師を養成することはどだい無理な相談だと思います。学校教育を取り巻く諸問題についてのケース・スタディなど、大学で行える学部生への教育にも限界があると思います。一人前の教師になるには現場で鍛えるしかありません。人は仕事で磨かれるものです。教育期間を修士レベルに引き上げるより、その二年間を民間企業での仕事体験に振り替えた方がよほど為になると思います。ここ数年で本校は大きく変わり、以前とは全く違う学校になっていますが、まだまだ世の多くの学校は、校長をトップにした鍋蓋組織で、指揮命令系統が無く、互いに先生と呼び合い干渉を嫌う傾向があります。その上、入学式に始まり卒業式に終わる一年の繰り返しですがマンネリ化と前例踏襲主義をもたらしています。組織で仕事をすると文化が無い学校に新卒で入り、教育担当者もなく、PDCAの考えもない中で仕事

をしていては、降りかかる難問難題に対応できないのは当然だと思えます。世間知らずの教員が世間の荒波にもまれて苦悩している子供にどうアドバイスができるというのでしょうか。母子家庭で二つ三つの仕事をパートナーで掛け持ちし、朝から晩まで働き詰めの母親の気持ちや付度することや、厳しい生活環境下で希望すら持てない子供たちに「頑張れ」の掛け声だけでは解決策とはならないということなど、大学院では勉強できません。子供を教える育てるという役割を果たそうとすれば、社会と隔絶してはならず、自らも失敗と挫折を経験し乗り越えながら、悩みながら、必死で生徒に立ち向かう覚悟が必要です。私は昨今の資格ブームを斜に構えてみておられます。不況の影響で就活が厳しく、手に職を付ければ食いはぐれが無いと考えるのも無理からぬことですが、資格を取ればそれで一人前に仕事ができるかと考えるのは安易すぎます。一枚の資格証明や免許はその仕事をやってもいいと言う許可書であり、その仕事が多分できるとの保証書ではありません。教員の免許更新制度にしても運転免許の更新ぐらいの意味しかなく、授業力の向上や教師としての幅を広

げる効果等期待できず、時間とカネの無駄遣いだと思えます。本当にダメな教員は退場させれば良いだけの話です。問題が起きるとその根本にメスを入れずに、それを解決するためと称して次々に新しい仕事をつくる「官僚機構の肥大化」の一つに感じます。文部科学省が31日に2月1日付けで任命する第6期中央教育審議会の委員30人を発表し、新たに日本IBM最高顧問の北城恪太郎氏が任命され、会長には新日本製鉄会長の三村明夫氏が再任される見通しです。実業界からの委員の方々から企業等での実習導入案が出ることを期待いたします。そして、大学教育に責任をかぶせるのではなく、教員を育てるのは学校であるという認識に立って、公立学校の組織改革と教員の意識改革を大胆に行うべきだと考えます。未だに国歌斉唱と国旗掲揚に反対したり、職員会議で校長を吊るしあげたりする学校の存在を許しておいて、大学教育を幾ら変更しても立派な教員は生まれえないと思います。

91

2011/02/07

人はパンのみにて  
生くるにあらず

大阪府公立中学校の卒業生数は昭和62年の147907人から平成21年の70813人へと半分以下に落ち込みました。平成22年度は74348人と少し持ち直し平成26年度には77100人と予想されています。即ちここ数年は横ばいから少し上向きとなりますが、平成27年から再び減少し始め、平成31年にはついに68610人と70000人の大台を割り込むことが予想されています。本校生徒総数も平成8年の1567人が、平成19年、私が校長に就任した年には757人まで減少しておりました。平成22年は794人でした。今年度は、850人は超えると思いますが、安定した財政状況下で余裕をもって教育するために1000人を目指しています。私学の校数は94校がほとんど変わっていません。私学の経営が非常に厳しく

なっていることは一目瞭然です。進学で、スポーツで、キャリア教育でと各校各様に工夫を凝らして生徒確保に躍起になっているというのが実情です。沢山の生徒に本校を選んでもらうためには他校にない特徴が不可欠であり、私の前任の校長が決められたマンガ・アニメーションコースの貢献は大きいものがあり、来年度は3クラスになります。マンガやアニメというとお遊びのように聞こえますが、生徒たちは、担当の山口教諭の熱心な指導の下、画力だけではなく表現力と筋書きの完成度を磨き、想像以上に根気よく勉強をしています。既に在学中にプロの道を歩み出した生徒も輩出していますし、公募推薦入試で有名私学に進む生徒もあり、進路にも柔軟性があります。学校全体として最も力を入れているのは生徒指導です。かつては、結論が出てから校長に報告があったものを、問題が発生した時点で報告書を上げさせ、迅速で適切な対応がとれるようにしました。必要とあれば、私自ら対応します。最近では私の出番は少なくなりました。これは各部署の教員がさつちりと動いてくれているからです。不十分な対応しか出来ていないときは、教頭から



指導をしてもらっております。長引く不況と経済格差の拡大、複雑な家庭事情、コミュニケーション能力の低下等々から来る様々な問題に対する解を見出すことは容易ではありません。小学生が鬱で自殺する時代です。苦悩する思春期真只中の女子高中生に夢と希望を持たせ行くべき道を指し示し、生徒をその気にさせるためには、想像力と根気が必要です。つつい、大人目線で、出来ない生徒が悪いと考えてしまいがちです。出来る子は放っておいてもそこそこやれます。出来ない子、や

れない子を出来るようにするのが教師の腕の見せ所です。「そこまでやる必要があるのですか？」と思う教員もいたことでしょうか、本校では一人の生徒に担任、学年、教務、生指、教頭、校長と多くの教員が係わりとことん面倒を見ます。縁あって本校に入学した生徒ですから、間違いは正し、人として成長させて卒業させることが我々の務めです。それができるのなら本校の存在意義は失われません。悩んだ時の判断基準は、職員室の壁に掲げた「行動基準はいつも、それは本当に生徒のためになるか」です。黙っていても生徒がどんどん来てくれた頃に比べれば、財政的余裕が少なくなり、給料は減るし、仕事は増えるし、教職員には苦勞をかけていることは重々承知しておりますが、今は臥薪嘗胆の時です。このような厳しい状況を理解した上で、生徒にとことん係わることに生き甲斐を求め、本校で教員として骨を埋めたいと言ってくれた非常勤講師の先生を何人か常勤講師に昇格させ活躍してもらうことになりました。本当に有難い事です。厳しい時に鍛えられた人間は本物になります。「朋有り遠方より来る、亦樂しからずや」、

久方ぶりである先生が東京からわざわざ本校を訪ねて来られました。隣の芝生は青く見えるといいます。伝統と歴史があり、偏差値も高く、外部評価も高く、傍から見ると羨ましい学校にお勤めです。勉強のできる生徒をとり、受験勉強は各自が塾でやるため、残業もなく、補習もなく、夏休みも生徒同様にとれ、結構なお給料を頂けているそうです。にもかかわらず、ストレスで休職中の先生が大勢いると聞き驚きました。しかし、よくよくお話を伺うと、やる気のある先生にとっては

手足を縛られる学校なんだと感じました。ひとしきり教育談義をした後、授業を見学していただき、生き生きした生徒と教師のやり取りをご覧になり、「いいな。この子らにはまだまだ伸びる余地がありますね。こんなところでもう一度授業したいな。好文学園には教育の原点を感じます。元気を頂きました。明日からまた頑張ります。」と言ってお帰りになりました。とても熱心な先生で、本校に来ていただけたら生徒たちにとことん係わってくれ戦力になる人材だろうなと思いました。物質的に恵まれていても精神的に恵まれない職業となれば、楽でもやりがいのない職場とな

り、本当にしんどいものなのだとつくづく感じました。貧乏暇なしの本校は本物の教師にとってはやりがいのある職場だと思います。

92

2011/02/10

## Nation Builders

オバマ大統領が1月25日の一般教書演説で、韓国の教育とインターネット環境の優秀性を称賛したことが大きく取り上げられました。大統領の演説の中で、韓国という国名が7回も登場したのに対し、日本については全く言及されなかったことから日本パッシングに結びつけるような論調も見受けられました。この件につき、小学校から高校まで日本で過ごし、ソウルの梨花女子大学を卒業したジャーナリスト、趙章恩（チョウ・チャンウン）さんが、「これを機に韓国は本当に優秀な教育国家を目指せ」とのタイトルで一文を寄せているのを読みました。彼女は、オバマ大統領が「韓国では教師が国家の建設者

(nation builders)とよまれており、米国でも教師に対して尊敬の念を持たねばならない」と述べたことに、後ろめたさを感じると言います。それは、韓国の小中高校の教育が大学入試がすべてで、名門大学に何人入れたかで評価が決まってしまう、問題含みの教育制度だと、趙さんは考えているからです。韓国の大学進学率は80%を超えています。以前、本校を見学に来られた韓国の高校の先生方にお話を伺いましたが、大学に行かなければまともな職業に就けないのだそうです。株式時価総額3兆円のソニーに対し、8兆円のサムスは韓国国内の有名大学だけでなく、海外の有名大学やMBA取得者を優先的に採用しています。イギリスの大学で勉強している息子に聞かしましたが、韓国人や中国人の友人は経済的に恵まれていても向上心が高く良く勉強するそうです。日本のセンター試験に当たる修学能力試験日には官庁や企業の始業時間に変更になり、試験に遅刻しそうな生徒をバトカーで送るほどの過熱ぶりです。名門大学に入るために、「私教育」と呼ばれる塾やエラーニング、家庭教師など民間企業による教育が盛んで、韓国の家庭では収入の8割ほど



を私教育につき込んでおり、自分の老後資金を蓄えることもままならず、名門大学に入らず、就職も出来なければ、一家が都市貧民になると言う危機感があるといえます。韓国教育開発院の世論調査によると、3歳以上の子供の私教育参加率は99・8%で、74・3%が私教育費に負担を感じており、42%が私教育費のために生活費を切り詰めており、42・7%は私教育負担が重いために出産を諦めたことがあると答えています。そして、「私教育費負担が出生率低下の主犯である」という

項目に95・8%が「イエス」と答えている韓国の状況には凄まじさを感じます。子供が国語の塾に行っている間に、お母さんは数学の塾に行つて授業を聴きその内容を家に帰つて子供に教えることが日常茶飯事とのこと、日本のお受験を彷彿させます。2009年度に行われた国勢満足度調査では、最も満足度が高いのが57%の経済で、最も低いのは教育の44%。しかし、李大統領が導入した教員能力評価制度、放課後学校実施、就学後学資金返済等の政策は満足度が高かったそうです。ソウル市の教員試験平均倍率は52・9倍、科目によっては140倍というものもあり、医師、弁護士にならび教師という職業の人気と社会的地位が高まっているそうです。このような韓国の受験狂想曲的な教育事情を知ると、受験地獄と言われた頃の日本を思い出します。私自身もその渦中におり、塾や家庭教師のお世話になりましたが、幸いなことに地獄とは感じず、競争心を持つてある意味楽しく勉強できました。それは学校、塾、予備校を問わず、良い先生に恵まれ、努力することの価値を教えていただけだからだと思います。新興国が経済発展を遂げて行く過程で

は、みんなが今日よりも良い明日を夢み高い学歴を求め教育熱が高まります。時の勢いとも言いましょうか、マイナス面はあまり目に入りません。趙さんは、韓国ではまだまだ教師を「先生様」と呼び尊敬しているのが多数派だが、最近ではモンスターペアレントが問題になってきたり、大学に入つてしまうと何をしたらよいのか解らなくなるいわゆる燃え尽き症候群の学生が増えてきたとも言います。成熟するに従い、日本と同じような状況が生まれてきたのかもしれませんが。先進国である欧米では、初等、中等教育における荒廃が問題となり、その改革にエネルギーが費やされました。ブレア政権下の英国における学校評価制度の導入やニート対策はその一例です。しかし、高等教育、即ち大学と大学院における教育及び研究のレベルでは欧米の優位を見ますとハーバード、ケンブリッジ、オックスフォードを筆頭に欧米の大学が上位を独占しています。特にアメリカの大学のプレゼンスの高さが目立ちます。中国やインドも含め世界中から優秀な学生がアメリカに留学している限り、そして英語が世界共通語である

限り、新興国の勃興により経済力と軍事力が相対的に低下したとしても、当分アメリカの優位は変わらないと思います。

我が国は先進国の仲間入りを果たすという目標を達成してしまい、達成感とともに犠牲にしてきたものに対する喪失感が強く表れ、「詰め込み教育とゆとり教育」論争に明け暮れているうちに、初等教育から高等教育に至る全ての段階で金属疲労が起きていると思います。豊かさに慣れ、緊張感やけじめを失った結果ではないでしょうか。堤未果さんの「貧困大国アメリカ」(岩波新書)を読むと、DVやネグレクト、ファーストフードのとり過ぎによる肥満、階層の固定化など他人事ではなく、「今そこにある危機」を感じます。近年、臨床教育学という新しい名称の分野が注目されているそうです。臨床という言葉はもともと医学用語で直接患者の診療に携わらない基礎医学に対して医療現場における実践活動を指します。臨床教育学は、教育現場で実際に起こっているいじめや不登校、児童虐待などの教育上の病理を解明しようとするもので、将来教職に就こうとする学生にとって学校現場で何が起きているかを知る

ことは大変有益であると考えます。現場の教師であるわれわれはまさに臨床教育師です。教育は国家の基盤です。昨今の我が国の政治経済の危機的状況を見るにつけ、指導的立場に立てる人間を育てるエリート教育の必要性を感じるとともに、対局にあり、負の連鎖に沈み込む子供たちに再生の機会を与えるリバイタライズ (Revitalize) 教育の重要性を痛感します。欧米は階級社会であり、伝統的にエリートが社会をリードする構図が出来上がっています。その欧米に比べると貧富の格差が小さい日本の強さは中流階級の層の厚さに負うところが大きかったと思います。これは何も戦後の話だけではありません。江戸時代における徳川将軍家とフランスのルイ王朝やロシアのロマノフ王朝を比較してみてください。ベルサイユ宮殿と江戸城を比べてください。徳川将軍家が日本の金銀財宝を独り占めし栄耀栄華を誇っていたでしょうか。世界の王家と比べれば質素そのものだったと思います。寺子屋制度による一般庶民の識字率の高さは西欧列強に比べて飛び抜けていました。教育の力が日本の繁栄を支えてきました。その教育力に陰りが見え始めて久しく、

下位層の固定化と中間層の没落が進みつつあります。これは間違いなく日本の没落につながります。これは間違いなく日本の没落につながると思います。教育の階層移動効果を再び發揮せしめることこそ、我々に課された使命であると考えます。Nation Buildersの気概を持って、毎日の教育活動に従事し、生徒たちの心にならなければなりません。子供たちの現状は彼ら自身の責任に帰すところ小にして、親世代である我々の責めに帰すところ大であります。だから先ず我々の心の点火が先かもしれません。平和ボケから目覚めねばなりません。

93

2011/02/15

## 雪の日

今年各地で大雪の被害が相次いでおり、該当地域の方々には心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。バレンタインデーの今日、天気予報通り午後から雪が降り始め、芝生のグラウンドは一面の雪景色となりました。



放課後、生徒たちは雪合戦をしたり雪だるまを作ったり大はしゃぎです。風邪を引くのではないかとの心配をよそに、走り回る生徒たちの無邪気な姿に思わず笑みがこぼれます。職員室に向かってドアを開けっ放しにしている校長室から廊下越しに見えるしんしんと降る雪は、私の好きなテレビドラマ鬼平犯科帳のエンディングテーマとともに映し出されるラストシーンの冬景色を思い出させます。私にはあの中村吉衛門演じる長谷川平蔵の人情味ある鬼平が大好きなのです。そしてまた歴史好きの私は、桜田門外の変に思いを致しました。安政7年（1860年）3月3日、今の暦では3月24日、季節外れの大雪の中、時の大老彦根藩主、井伊掃部守直弼が江戸城登城の途中、桜田門外にて水戸藩ならびに薩摩藩の脱藩浪士の襲撃を受け殺害されました。將軍継嗣問題も絡み、幕藩体制の再構築を図ろうとしたものの、勅許を得ずして日米修好通商条約を締結し、安政の大獄により吉田松陰など多くの有能な志士を殺戮した今でいえば守旧派の頭目、敵役として井伊直弼は位置付けられています。当時の世界と我が国の状況を考えると、諸外国からの開国要求を断固

拒否し鎖国を貫き異国を追い払おうという攘夷派の考え方にこそ頑迷固陋で国際感覚の無さを感じます。ほどなく下関で4カ国艦隊に敗れた長州は、尊王攘夷から尊王討幕へと変わり、薩長同盟を経て明治維新となり開国をします。しかしながら直弼は、大獄による言論封殺と有無を言わさぬ反対派の抹殺により恐怖政治の咎めを受け、井伊の赤鬼と恐れられ、恨みを買って非業の最期を遂げました。それに引き換え、將軍継嗣問題での対抗馬であった一橋家から15代將軍になった徳川慶喜は、大政奉還により、日本が幕府と薩長の二つに分かれ内紛を起こすのに乗じる外国の侵略を阻止したとして、名君の誉れが高いのですが、この評価に私は今一つ釈然としないものがあります。要らぬ戦鬪を避けるためと言われますが、大阪城から將軍につき従う多くの將兵を残したまま一人軍艦で江戸に帰ってしまったたり、さつさと蟄居謹慎をしたり、われ関せずのような行動に、ここ数年毎年変わる首相と似たような無責任さを感じ、私にとっては大將としての魅力に欠ける人物です。私は井伊直弼の方に敵役ながらも武士として頑固さ、一徹さと命懸けの美意識を感じ

ます。実に寒く底冷えのする一日、一瞬こんなことを考えながら遠い幕末に思いを馳せておりましたら、何人かの生徒と先生がバレンタインのチョコレートや手作りのクッキーを届けてくれました。夕方には茶道部の生徒が、抹茶とチョコレート入りの和菓子もつけてくれました。冷えた体に温かい生徒の心遣いが沁み渡りました。

94

2011/02/16

## 一流と二流の差

誰が言ったのか忘れましたが、「一流の意味が解る人のことを、二流と言う。一流も二流も解らない人を三流と言う。二流と三流の間はもう無限大の距離だ。」という言葉があります。この歳と立場になるとこの言葉の意味するところが良く理解できるようになりました。ど分野でも一流と言われる人の才能、努力はともに半端ではなく、誰でも到達できる領域ではありません。凡人である私はどの

ような分野でも一流にはなれませんが、一流の人から少しでも学び、何とか二流にはなりたいと常々思っております。また、一流の間は手の届かないところにいるとは限りません。身近なところにも、そして上司ではなく、部下にもいるものです。「好漢惜しむらくは兵法を知らず」とは、八幡太郎義家こと源義家が辞を低くして大江匡房に教えを請うた故事から、謙虚に知識を吸収することが大切だと言う教えです。最近では解らなければ聞く、教えを請うという姿勢が素直にとれる人が少なくなつたように思います。過保護から来る弊害ではないでしょうか。石原新太郎氏の「スパルタ教育」論とまでは言いませんが、教える、教そわるといふ関係には何がしかの厳しさがあつてしかるべきだと考えます。かつて商社に勤めていたころ、課長代理から頼まれたことを担当の女性に指示を致しました。彼女がそれを忘れたのか、できていないことがわかり、課長代理から叱責されました。思わず私は、「その件は〇〇さんにやるように確かに指示したんです。」と、無然とした態度で反論しました。するとすかさず、「何を言ってるんだ。言ったただけではだめだ

ろう。ちゃんとやらすのが君の仕事だろう。」とまたまた輪を掛けた剣幕で叱られてしまいました。その時は、おれはちゃんと指示したのに彼女がやらないお陰でおれが怒られたと、不満を感じましたが、冷静になつて考えると課長代理の言う通りで、自分の詰めが甘かつたと反省しました。これこそまさにPDCAを教えてくれたのです。さて、今なら多くの評論家先生が、次のようにおっしゃるのではないのでしょうか。「それは上司としての指示に丁寧さが足りない。部下が理解できるように仕事の指示を出さねばいけない。それを怒鳴るとはとんでもない。こういう上司がいると会社の人間関係がぎくしゃくする。課長代理研修を行いましょ。」これでは三流ばかりが増えるのじゃないでしょうか。教育には厳しさと気付きが不可欠です。人間はもともと怠惰なものだと思います。ですからビクツとしないと、身につかないものです。甘えの構造下で育つた人間が子供を教育し、その子供が社会人となり、仕事につけば、当然適切な指導はできません。三流の拡大再生産が起こるだけです。学校でも職場でもほとんどの指導者は、その人の成長を願つ

ています。「憎んでは打たぬものなり笹の雪」(笹の上に積もつた雪を打ち払つてやるのは笹が憎いからではなく、笹が折れずにまっすぐに育つようにと思つてのこと。)この気持ちを察し合うところに教育の勘所があると思うのですが、それがわからない人間関係は実に虚しいと思います。

95

2011/02/25

## あつものこ なます 糞に懲りて膾を吹く

2月20日の読売新聞は「懲りないわいせつ教員」と題し、「全国の公立小、中、高校と特別支援学校で、猥褻行為が原因で懲戒処分を受ける教員が相次いでおり、ここ数年は150人前後で推移している。2009年度は10年前の1.4倍に、懲戒免職も2倍に増えている。」と報じていました。事件の4割が勤務先の子を狙っていたとはやるせなげない話です。北海道教委は実際に懲戒免職された教諭の手記を載せた「不祥事防止

リーフレット」を道内の全教職員に配布。教  
え子への強制わいせつ罪などで小学校教諭が  
08年に逮捕された広島教委では、精神科医や  
検察官らでつくる「不祥事根絶対策専門家会  
議」の提言を受けて、研修内容の見直しや相  
談窓口の設置とともに、個別の生徒とのメー  
ルのやり取り禁止も進めるとあります。出会  
い系サイトで児童買春に手を染めた教員がい  
たことや個々の生徒とのメール交換が生徒と  
教師の親密な関係を生むと言う危惧からでた  
考えだと思えますが、私にはこれは現場を熟  
知しない人が「羹に懲りて膾を吹く」ような  
ものではないかと思えてなりません。GDP  
で中国に抜かれ世界で3位になったとは言  
ものの経済大国には違いない日本ではありま  
すが、母子家庭や父子家庭のなかには経済的  
に大変厳しく、生活の糧を稼ぐのに精いっぱい  
いで、子供の面倒を見たくとも見られなくて  
疎かになるケースが多々あります。また、貧  
困が原因で精神的に不安定になった親が児童  
虐待に走ったケースもしばしば報道されてい  
ます。経済的問題が無くとも両親の離婚や再  
婚など様々な理由から家族関係にひびが入る  
こともあります。このような子供にとって厳

しい環境下で、児童、生徒は孤立し、自暴自  
棄になり、非行に走ったり不登校になったり  
します。友達との関係で躰き親にも相談でき  
ず悩んでいる子供もいます。その時、担任や  
信頼している教師からのメールで救われ、立  
ち直る児童、生徒がいることを忘れてはしく  
はありません。最近では、固定電話が無い家庭  
もあります。母親や父親が仕事に出てしまっ  
た後、朝起きられなくて遅刻や休みがちに  
なってしまう生徒の携帯電話に朝早くから電  
話を入れたり、出なければメールを入れたり  
して何とか学校に出てこさせようと努力して  
いる教員は沢山います。困難な問題を抱えた  
生徒とのメールのやり取りの中から、危険を  
察知し、迅速な対応ができる場合もありま  
す。私はFace to faceのコミュニケーション  
が最も大切だと考えていますが、人間関係が  
希薄になっている子供たちの間でメールが主  
なコミュニケーション手段になっていること  
はその善し悪しは別として厳然たる事実なの  
です。面と向かつては気持ちを伝えられない  
子供もメールでは本音を言える場合があります  
。メールをわいせつ行為の道具に使うなど  
言語道断ですが、それを理由に個々の生徒と

教師との繋がりを断ち切ってしまうことは如  
何なものでしょうか。メール等使わなくとも  
信頼に基づく師弟関係は結べますし、本来そ  
れが望ましい事であると思いますが、それが  
難しくなっているところに、科学技術が進ん  
だ現代社会における人間疎外の現実が横た  
わっています。雑草が生えてきたからと言っ  
て除草剤を撒いて良い草まで枯らしてしまっ  
てはなりません。これは学校改革に着手した  
当時、世間の常識とあまりにもかけ離れてい  
た学校システムやマインドを大きく変えよう  
と厳しい変更を実施しようとした時に、ある  
人からいわれた言葉です。自動車と同様に携  
帯メールも「許された危険」といえるかもし  
れません。しかし、機械を使うのは人であ  
り、人の心構え一つで機械や技術は凶器にも  
なれば救命胴衣にもなるのです。過剰反応と  
規制強化は教師を萎縮させ、情熱を失わせる  
ことになるだけだと考えます。

## 好文学園 一期生を贈る

—平成22年度卒業式式辞—

三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。保護者のみなさまにも心からお祝いを申し上げます。今年の冬は全国的に大雪に見舞われ、本校のグラウンドにも雪が積もりました。覚えているでしょうか、みなさんの入学



試験当日も雪でした。新校舎はまだ建設中のみなさんには事務所前の通用口から出這入りしてもらいました。雪かきをしたり、帰りに学校にあるだけの傘をかき集めて配ったりしたことを懐かしく思い出します。そして迎えた4月の入学式、みなさんは新生、好文学園の一期生として本校に入学してきました。「ダメなものダメーNO」と言う好文学園」の教育方針をお話するとともに、「学べば人生が変わる」ということを申し上げました。この三年間に、世界でそして日本で様々な変化が生じました。アメリカではバラク・オバマ氏がアフリカ系初の大統領に就任しました。日本では自民党から民主党への政権交代が起きました。新型インフルエンザが猛威をふるい、みなさんの研修旅行も日程と行き先の変更を余儀なくされました。リーマン・ショックに端を発した金融危機が起り、世界経済が恐慌の淵に立たされました。企業業績の悪化が家計に影響を与え、新卒者の就活は今年も尚厳しいものがあります。尖閣諸島における中国漁船の海上保安庁巡視船への体当たり事件や、北朝鮮の核開発など国家の安全を脅かす事件も頻発しました。児童虐待や



不明高齢者問題など社会の荒みが一段と顕ようになっていきます。かつては「衣食足りて礼節を知る」と言われたものですが、現在の日本は豊かさに敗れてしまったと言わざるを得ません。価値観が多様化しているとも言われますが、原理原則が無く判断基準を失った社会はやがて衰退します。みなさんは、毎朝変わらぬ校門での挨拶や校外清掃、生活習慣の指導を通じて、時には褒められ、時には叱られ、社会の常識やマナーを身につけるとともにコ

コミュニケーション能力を養い大人へと大きく歩みを進めることができたと思います。本校にお越しになるお客様はどなたも口をそろえて、気持ちの良い挨拶をする生徒が多い事に驚かれます。地域の住民の方からも好文学園になって、生徒さんがとても良くなりましたねとおっしゃっていただけるようになりました。本校入学時に抱いていた不安は、「やればできる」という自信に変わり、入学時に思っていた卒業時の自分の姿より、より満足のできる姿で自分が今ここにいることを実感している人も多いことでしょう。「ローマは一日にして成らず」、長い時間をかけた努力の積み重ねが無ければ大事業は完成しません。しかし、崩れる時は一瞬です。ローマ帝国は蛮族の侵入により滅亡しましたが、帝国の末期にはローマ人自身のローマを守ろうと言う気概が失われ、ローマは既に内部から崩壊が始まっていたといわれています。人もまた同じです。挫折と失敗の泥沼にはまり込み、最早過去の人と思われていたウインストン・チャーチルは、ナチス・ドイツがヨーロッパを席卷し、窮地に立たされたイギリスの首相となり対独戦の指揮を執ることになり

ました。イギリスにとって最悪の時期だった1941年、かつて落ちこぼれ生徒として過ごした母校のハロー校を訪れたチャーチルは卒業生に式辞を贈りました。「これが教訓だ。けっして屈服してはならない。けっして、けっして、けっして屈服してはならない。」チャーチルの不屈の精神はイギリス国民を鼓舞し、アメリカの参戦を実現させ、ついにイギリスを勝利に導きました。スケールに違いはあれど、人の一生はいつも順風満帆と言うわけには行きません。本校での三年間においても失敗や挫折を乗り越えて卒業に辿りついた人もいたはずですが、これからもみなさんの人生には様々な困難が待ち受けていることでしょう。長期にわたって悪戦苦闘するに値すると信じる価値観と目標を見つけて下さい。そして、それを容易に捨ててはいけません。失敗は外部の要因からではなく、自身自身の心の弱さと緩みから生じます。成功とは、失敗や挫折に打ちひしがれようとも立ち上がりけっして諦めないで進み続ける時、初めてもたらされるものです。希望がかなうのを願ってただ待つのではなく、自分から動き出すのです。ただひたすら前へ前へと。私も

またみなさんに申し上げます。「これが教訓だ。けっして諦めてはいけない。けっして、けっして、けっして諦めてはいけない。」みなさんの前途に幸多かれと祈りつつ私の式辞といたします。

97

2011/03/08

## もう一つの卒業式

ある通信制の学校の卒業式に参列しました。本来ならば昨年の春に本校を卒業すべき生徒が1年遅れでこの通信制の高校を卒業したのです。この生徒たちが本校に入学したのは今から4年前、私が学校長に就任し改革に着手するまさにその年でした。勉強も校則も緩い学校だと思つて入ってきたところ、新しい校長が着任しており、入学式当日の朝から校門で挨拶と身だしなみの指導を始められたのですから、戸惑い文句を言う生徒が出るのも当然でした。ある時、食堂に行き、ちよつとやんちゃそうな生徒の中に腰を下ろすと、

「先生、この学校のレベルを上げるんですよ。私たち、勉強もあまりしなくてもよいし、ルールもうるさくないって聞いたからこの学校に来たのに、それって詐欺と違う?」と早速クレームを付けて来ました。私は、「レベル上げるのじゃないよ。普通にするだけ。」と答えました。これからが彼女たちとの格闘の日々の始まりでした。毎朝、私と生徒指導の教員が校門に立ち、「お早う」の声かけとともに、服装のチェックを行います。

最初は注意しても素直に聞かない生徒が多く、走って逃げようとするのを追っかけて捕まえることも度々でした。ここで私が教員にお願いしたのは、頭ごなしに怒鳴らず、なぜそうしなければならぬかをきちんと説明し解らせてほしいということでした。校門だけではなく、通学路や駅、電車の中までも指導を徹底しました。そんなある時、生徒会が学校生活についてのアンケートをとりそれを発表したいとのお願いに来ましたので、許可しました。暫くしてアンケート結果を持って生徒が担当教員とともに校長室にまいりました。何だか気まずそうな雰囲気です。結果を見ると、厳しい指導に対する批判が溢れ、

「校長やめろ、〇〇先生やめろ」との記述もありました。〇〇先生とは私と一緒に生徒指導の最前線に立っていた生徒指導部長です。しかし、アンケートを全部読むと、意外にも逆にもっとルールを厳しくすべきだとの意見も結構ありました。だらしのない生徒や態度の悪い生徒がいることに憤慨している生徒も少なくないことがわかりました。「個人名は書くなと言ったのですが、このアンケートの発表はやめた方がいいですね。」と申し訳なような顔の生徒と教員。私は、「いや、約束なのだから発表しなさい。掲示板に張り出さない。校長や生徒指導部長は公職であり、彼女たちも個人の人格を否定しているわけではない。」と申し上げ、この結果は数日間、玄関事務所窓口前の掲示板に張り出されることになりました。「校長先生かわいそうやね。家に帰って泣いていたんじゃない?」と同情してくれる生徒もいましたが、面白いのは教員の反応でした。数人で固まってアンケートを眺めながら心配顔でひそひそ話をしていました。「せっかく人権教育をしているのに、こんなことをされたら、それに反するじゃないですか」との声も聞こえて来ました。私に

はこれのどこが人権侵害なのか解りませんでした。人権教育も民主主義を教えることもそれ自体は大切なことなのですが、市民が革命を起こして勝ち取った欧米とは異なり、上から与えられたり、欧米からの借り物であったりするこういう概念は、どうも我が国では無批判に受け入れられステレオタイプの理解がされがちです。生徒指導の目的はダメな生徒を叱り、批判することではなく、生徒に事の正否を理解させ、良識を身につけさせることになければなりません。それが生徒の自立と幸せに繋がるからです。15歳までマナーや社会常識とは無縁で過ごしてきた生徒にこれを教えて行くのは容易なことではなく時間がかります。それぞれの生徒の生活環境や事情に応じた個別指導が不可欠です。マニュアルがあつてその通りにやれば良いと言うものはありません。教員の中には、公平や平等という概念の呪縛に懸かっている人も多く、特別扱いを極端に嫌う習性があります。これらは面倒なこと、手間のかかることを避ける方便に使っているのではないかと思える場合があります。このような教員の意識を変えて行くのと生徒指導の徹底を同時並行で進めねば

ならず、最初の1年間はなかなかハードでした。しかし、継続は力なりとはよく言ったもので、毎朝、毎夕、指導を続けると、生徒は着実に変わってきます。注意しても逃げずに戻って来るようになったらコミュニケーションが出来た証拠です。件の生徒もこの一人でした。家庭でのサポートはあまり期待できず、生活も不規則で、朝が起きられませんが、ある時、規定と違う靴下を穿いているので、注意をし、買うように言いましたが、なかなか買いません。お小遣いが厳しいののだなと思い、こちらで用意して手に渡るようにしたところ、翌日お礼を言って代金を持ってきました。「いいよ」と言ったら、次の朝、自分で詰めたと言って可愛いお菓子の袋を持って来てくれました。いつもつまらなさそうに下を向いて歩いていましたが、心根の優しい生徒でした。クラスの他の生徒と同じように挨拶や身だしなみは徐々に良くなりましたが、朝がどうしても起きられません。遅刻や欠席が多くなり、欠課時数が溜まってきました。担任の先生が毎朝校門の前で彼女を待ちながら、携帯電話で連絡を取ろうとしていました。家庭訪問にも何度も行ってくれまし



た。私を始め生徒指導部長や学年主任も関わり何とか卒業させたいと応援しましたが、3年生の2学期の終わりについてギブアップしてしまいました。12月25日クリスマス夜の夜だったと記憶しています。保護者とともに退学手続きにきました。その後、クラスの他の生徒はみんな卒業し、進学や就職をしました。それゆえに彼女のことは残念でなりませんでした。一度学校に遊びにきました。私服でしたがきちんとしており、元氣そうでアルバイトをしていると言っておりましたので安

心しました。今年になって通信制の学校から彼女の卒業式の案内が届きました。1年遅れましたが卒業出来たことを知りとても嬉しく、一目顔を見てお祝いを言いたくて卒業式に参列した次第です。1年・2年時の担任と3年時の担任だった二人の先生が祝電を打ってくれていました。この気配り、有難く思いました。彼女とゆつくり話したかったのですが、来客をお待たせしていたので、卒業式が終わると彼女の席に行き、「おめでとう。よく頑張ったね。また、学校に遊びにおいで。」と言葉をかけ、しっかりと握手をして急ぎ戻ってきました。二人の元担任さんに報告をし、三人で安堵の笑みを浮かべたのは言うまでもありません。転退学者数をゼロにしたのはやまやまですが、馬を水飲み場につれて行くことは出来ても、無理に水を飲ませることはできません。どうしても水を飲む気にならない複雑な事情を抱えた生徒が多いのが現実なのです。かつては頭から諦めながらやっていたと思いき生徒指導を「やればできる」に変えて来ました。やるだけのことをやったらたとえダメでも、我々の思いは生徒には通じるはずですよ。そのとき初めて諦めることが

出来ます。私は卒業式の式辞も入学式の式辞も生徒に向かって話すと同時に、教員に向かって話しており、また、自分自身に向かって語っています。今も変わらず朝の校門指導を続けています。4年前と違うのは、身だしなみを注意する件数が格段に減り、ほとんどが生徒との挨拶やおしゃべりに変わった点です。学力にも少しずつ変化が見られます。今までは、関関同立や産近甲龍などの難関大学への進学はスポーツ推薦がほとんどでしたが、今年は特進コースからセンター試験と一般入試での合格者やマンガ・アニメとデザイン美術コースからの公募推薦入試による合格者が出るようになりました。私にとつて学校改革とは、進学校にすることでもなければ、ノルマと効率を重視することでもありません。一人でも多くの生徒が入学時よりも満足度を高めて卒業できる学校、挫折や失敗を乗り越えることの価値を理解することができ学校に変えることなのです。負のスパイラルに陥りそうな生徒に楔を打ち込み、歯車を逆回転させプラス方向に向かわせる、そこに好文学園のレゾナードール (raison d'être 存在意義) があると信じています。

98

2011/03/12

## 世相を斬る2

一昨年、政権交代により鳩山民主党政権が誕生した時、世の中の歓迎ムードに水を差し、この民主党バブルはいずれ崩壊すると書きました。鳩山首相は一年と持たず退陣し、後を継いだ菅首相もいよいよ追いつめられてきました。石原裕次郎の古い歌に「右だろが左だろがわが人生に悔いはない」という歌詞がありました。この政権は右から左まで呉越同舟の政党で、自民党への反発から民主党に投票した国民には悔いだけが残る結果となったのではないのでしょうか。在日外国人からの献金問題で前原外務大臣が辞任しましたが、外国人からの献金を禁ずる趣旨は妥当ですが、わずか25万円で辞任すべきなのか少々疑問に思うとともに、自民党の福田元首相にも同様の問題があったとか、全く目撃鼻くそを笑うの感が拭えません。それよりも韓国で日本政府に対し竹島領有権主張の中止

を求めた声明に共同署名した民主党の土肥隆一衆院議員のほうが国益に対する罪は重いと思います。米軍の普天間基地移転問題に対する鳩山元首相の迷走発言に始まり、この政権の外交音痴ぶりは目を覆うばかりです。累積債務がGDPの200%を超えなんとする国家財政のかじ取りも重要課題です。リーマン・ショック以降続く円高の日本経済に対する影響に関しても議論が分かれるところですが、通貨の価値が他国のそれに比べて高いというのはその国への信頼が高いということだと思います。喜ぶべきこととも言えるのですが、通貨高は輸入品が安く買えるというメリットがある一方で輸出品の価格が上がって国際競争において不利益を被るといふデメリットがあります。もともと高品質高価格でも売れるものを作る、あるいはまた、さらなる効率化を進め価格を下げる等、研究開発努力により状況を変えることはある程度は可能だと思いますが、膨大な累積債務を抱え、税収より多い国債発行、すなわち借金で年間予算を賄っている我が国の財政状況を考えますと、それにも限界があるように思います。さて我が国の円が高くなっているのか安くなっているのかを考え



る時、通常は戦後の1ドル、360円を基準に考えますが、明治維新当時、1ドルが1円から始まったことをご存じの人は少ないのではないでしょう。明治4年（1871年）5月10日、「新貨条例」発布。それまでの幕府発行の大判、小判や藩札、そして維新後の太政官札など統一通貨がなかった我が国では、諸外国との交易に際し、統一通貨の制定と財政再建が急務でした。この任に当たり、「円」を基本とする統一貨幣制度を創り上げたのが大隈重信でした。時に重信、33歳。円という呼称は、当時イギリスが香港ドルの銀貨に表記していた「壹圓」からヒントを得た五代友厚の助言により大隈が決定したものです。（「円を創った男、小説・大隈重信」渡辺房男著）大隈がその存在を知られることになったのは、維新直後の浦上キリシタン弾圧事件においての外国との交渉です。信教の自由を強く主張し、キリシタン処罰に抗議するイギリス公使パークスを向こうに回して一歩も引かなかつたのです。大隈はフルベッキについて英語を習うとともに新約聖書やアメリカ独立宣言も学び、相手とすべき西欧の歴史に精通していました。博愛精神を広

めるキリスト教を認めない日本政府を野蛮国扱いするパークスに対して、その博愛精神のキリスト教徒が何故に宗教戦争を起こし多くの人を殺したのかと反駁し、キリスト教の良し悪しはさておき、国法により禁止していることに文句をつけることが国際法上の内政干渉に当たるといふ論陣を張りました。文明の進んだ西欧列強に怖気づき日本の立場を堂々と主張できない政府高官が多い中、彼の外交手腕は高く評価され、佐賀藩の出身にもかかわらず新政府内で要職に就き、外交と財政を取り仕切り、筆頭参議の地位にまで登ります。しかし、それを妬む薩長閥の策謀により、天皇の東北行幸中に突如参議を罷免されます。世にいう明治十四年の政変です。ここで大きな挫折を味わった大隈は野に下り、立憲改進黨を結成するとともに官学に対抗して東京専門学校（後の早稲田大学）を設立します。野にあること七年、第一次伊藤内閣に外務大臣として入閣し、不平等条約改正に臨みますが、大審院判事に外国人を任命するという条項を盛り組んだことが、国辱的と右翼の反発を招き、外務省門前で爆弾を投げつけられ右足を失います。負傷しながらも口が利け

ることを確かめ安堵したという、雄弁家、大隈重信の面目躍如たる逸話が残っています。明治三十一年（1898年）、自由党の板垣退助と協力して、最初の政党内閣を組閣し、首相となります。（隈板内閣）この内閣は路線の違いからわずか四か月と短命に終わります。再登板は晩年、大正三年（1914年）第一次世界大戦の真つただ中の組閣です。ドイツへの宣戦布告と、中国に対する対華二十一カ条の要求はその後の我が国の中国侵略の発端を開くことになったのではないかと、後世の批判にさらされることとなります。明治の三傑と称される西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允のように早くから薩摩、長州という雄藩を率い尊王攘夷運動に身を投じてきたのではなく、鳥羽伏見の戦い以降、遅れてきた肥前、佐賀藩の出身の大隈は、薩長藩閥政治の対極にある民衆政治家としての人氣が高く、黎明期の日本の貨幣制度の確立に手腕を発揮した若き日の財務官僚としての彼の功績は意外に知られていません。さて、新貨条例発布から140年。1ドルは1円から太平洋戦争の敗戦により360円となり、戦後の高度経済成長を経て、アップ・ダウン

を繰り返しつつも円高に推移し1995年には79円を付けました。しかし、リーマン・ショック後の世界経済の後退と新たな中東・北アフリカ情勢の混乱によりもたらされている80円近辺にある現在の円の水準は、日本の政治経済に対する世界の信頼の証しというよりは、消去法的な投機筋の思惑の反映と考えたほうが妥当ではないでしょうか。「円」の成立の歴史を振り返るとき、党利党略、政争は世の常であり、明治時代も今も変わらぬものの、国の根幹をなす財政と外交が危機に瀕している今、確たる信念と決意を持って臨む政治家が誰一人見当たらない平成日本の不幸を痛感します。

99

2011/03/14

## 東日本巨大地震

3月11日、午後2時半ごろ校長室で4月初めに行う新人教員研修の打ち合わせをしていたところ、大きく長い揺れを感じました。校

長室は二年半前に完成した新校舎の一階に職員室の続き部屋として位置していますが、波間に漂う船のような感覚でした。幸い、追試発表が午前中に終わり、生徒はほとんどおらず、大きな混乱はありませんでした。しばらくしてテレビをつけて東北地方が大変な状況になっていることを知りました。夕方、教頭と警備員さんが校舎の見回りをし、エレベーターや火元の点検を行い、異状なきことを確認しました。被害の実態が明らかになるに従い、宮城県、岩手県を中心に亡くなる方も、行方不明の方の数が増えており、被害に会われた皆様には謹んで哀悼の意を表したく思います。

1995年1月17日、午前5時46分、当時2歳の娘と今は亡き愛犬とともに兵庫県芦屋市の自宅二階の寝室で眠っていた私は、突然襲った強烈な揺れに、思わず娘の上に覆い被さりしっかりと抱きしめました。犬はベッドの上に腹ばいになり張り付いたままで、揺れが収まると私めがけてすっ飛んできました。隣のベッドに寝ていた家内に、「東京は大丈夫だろうか?」と、言ったのが私の第一声でした。隣の自宅で寝ていた小学校一年の息子

は仰向けで手足を伸ばしてベッドに張り付いていました。カーテンを開けて海のほうを見ると、街は異常な静けさで空は紫だったように思います。そのうち神戸方面から火の手が上がるのが見えました。電気もガスも完全に止まると家の中にも寒くて、スキージャンパーの上に毛布を被って震えていました。本校の白谷理事長が亡くなられたとの報はその時ラジオで聞きました。当時、家業の経営に携わっていた私が後年、理事長・校長として本校に来ることになるとはその時は全く予想だにせぬことでした。私は学生時代からしばらく東京におりましたので、地震には慣れていました。客先を訪問していたら揺れを感じ、窓から外を眺めると、新宿の高層ビルの上部がゆっくりと右に左にと揺れているのがはっきりと見えたこともありました。関西は地震には無縁だと勝手に思い込んでいた私は、「どうも最近、芦屋でもたびたび地震があるな」と不思議に思っていた矢先の1・17でした。今回の地震は、マグニチュード9・0の明治以降最大規模で、400キロにわたってプレートがずれ、阪神淡路大地震の700倍のエネルギーだったといえます。



は変わります。A先生の粘りと愛情で進級、卒業できる生徒もいれば、B先生の表面的な指導で早々に退学する生徒も出てくるのです。運が悪かったでは生徒と保護者に申し訳が立ちません。内部の教員の教育や研修に加え、外部から新しい血を入れることで改革はより活性化します。私学には転勤がなくどうしても井の中の蛙になりがちです。目覚めた内部の教員と外部から来た新しい教員が力を合わせ好文学園の改革は進んできました。生徒の態度、身だしなみは見違えるほど良くなり、今年、特進コース一期生からは、和歌山大学（国立）、大阪府立大学、兵庫県立大学（公立）をはじめ、関西学院大学、関西大学、近畿大学、龍谷大学等への合格者を出すことができました。私学を取り巻く環境は公立とのガチンコ勝負となり益々油断できません。自然災害に対しても教育界の環境変化に対しても「常に備えよ」の覚悟を新たにいたしました。

100

2011/03/22

## 日本人のこころ、 日本のちから

大震災から一週間がたちましたが、事態はますます混沌の度合いを深めているように思えます。被災者への救援物資が行き渡らないという問題は阪神淡路大震災時にも起こりました。今回は被災地域が広範囲に渡っている上に、福島原発の事故が重なり、放射能拡散の恐怖と買占め、そして電力不足による停電が、さらに状況を悪化させています。また、円相場は史上最高値を更新し、一時76円台を付けました。これは、震災により日本企業が外貨を円資産に変える動きが出ると読んだ投機筋の円買いによるといわれています。今、我が国は、まさに国難に直面していると言っても過言ではありません。原発事故の今後の展開については厳しい見方をしている諸外国も、日本の将来となると楽観論が少なくありません。米国の著名な投資家、ウォーレン・バフェット氏は、「長い歴史の中で、日本

は常に様々な困難を乗り越えてきた。今回もそうなると思う。」と述べて、日本への投資が減るといふ見方を退けています。英国の新聞、フィナンシャル・タイムズは、「日本は大震災の試練を乗り越えられる」、「日本の奇跡は終わっていない」という社説を相次いで掲載しています。彼らに共通するのは、幕末以降日本が歩んできた歴史に対する、そしてその歴史を創ってきた日本人の特性（真面目さ、忍耐強さ、礼儀正しさ、謙虚さなど）に対する絶大な信頼です。マーティン・ウルフ



氏は、「国は逆境において、その気概を見せる。日本人は今回、間違ひなくそうするだろう。」と書いています。デイビッド・ピリング氏は、今回の震災に対する天皇陛下下のビデオメッセージを、太平洋戦争敗戦時における昭和天皇の玉音放送にだぶらせています。私もまた陛下の異例のメッセージに全く同じ感想を持ちました。遙か戦後生まれの私は、皇室に対してフアナティックな感情は持っていませんが、陛下のお言葉には重みと温かさを感じました。昭和天皇のおそばで戦前、戦中、戦後を過ごされた陛下の国民とともにありたいと願われるお気持ち伝わってまいりました。一方、国の総責任者たる菅首相からは、国民を鼓舞し、安心させるメッセージが発信されたとは言い難く、誠に残念であります。インデペンデンス・デイというアメリカのSF映画があります。エイリアンの襲来に立ち上る元戦闘機のパイロットだったアメリカ大統領がヒーローとして描かれている娯楽大作です。日本には、危機に瀕しリーダーにこのようなヒーローが出ない土壤があります。その代り、優秀な官僚組織や高いモラルを持った国民が社会を下支えしてきたよ

うに思えます。震災後に略奪行為が全く見られないことを各国のマスコミが驚きをもって伝えていますが、どんなに貧しくとも火事場泥棒は人として恥じるべき行為だと我々は考えます。ピリング氏は、地震発生時、逃げる前に、倒れそうになる棚の品物を守ろうとするスーパー店員の姿や交通が遮断されている中、会社に寝泊まりしながら黙々と仕事に向かう人々の姿を例に挙げ、「日本はその国民以外にほとんど天然資源を持たない。奇跡を生み出したのは彼ら日本人だ。世界がうん



ざりするほどの経済停滞に幻滅した時ですら、彼らが別の種類の日本の奇跡を守り通した。」と述べています。このような日本人の勤勉さと忍耐強さはどこから来たのでしょうか。以前にも触れたことがありますが、江戸時代初期の陽明学者、熊沢蕃山が詠んだとされる歌に次のようなものがあります。「憂きことの猶この上に積もれかし 限りある身の力ためさん」蕃山は、父親が浪人となり貧困にあえぐ生活の中、中江藤樹に師事し刻苦勉勵のうちに知行合一の実学を学び、後年、備前岡山藩の池田光政に召し抱えられ藩政改革に辣腕を振るうこととなります。母親が苦労を掛けることを息子に詫びると、「藤樹先生から伺いましたが、机にかじりついて書物を読むだけが修行ではなく、貧乏で悩むこと、困難に陥ること、災厄に出遭うことも、みな修行である。それによって工夫をしなればならないと教わりました。」と答えたというエピソードが伝えられています。騎馬民族に比べ農耕民族で島国育ちの日本人はおとなしく従順で和を尊ぶ民族だといわれますが、教育の果たしてきた役割もまた大きいと思えます。そしてその教育は社会が一体と

なって担ってきました。その社会、家族やコミュニティが崩壊しつつある現在、いつまでも同じ日本人でいられるかどうか危惧するのは私だけでしょうか。そして、いかに国民が忍耐強く勤勉であろうとも、為政者がそれに甘えているようでは国民は浮かばれません。

知行合一の決断力あるリーダーの出現を望んでいるのも私だけではないと思います。阪神淡路大震災で亡くなられた白谷晴雄理事長の遺品を整理していた時、何かの折に生徒たちに話そうとされていたのか、机の中から色紙に書かれた言葉が出てきたそうです。その言葉を添えた追悼のミニメント・プレートが本校の4号館2階ロビーに掲げられています。「白梅は風雪に耐えて花をつけ実をつけます。人生はすべからず忍耐にあり」家族を、家を、財産を無くし、暖房も毛布も不足している避難所で寒い日々を送っておられる被災者の方々に思いを致すとき、その忍耐が報われ、いつの日か新しい花をつけ実をつけられる時が来ますようにと祈らずにはおられません。

101

2011/03/26

## 動乱の時代

阪神淡路大震災を経験した時、活断層マップというのが発行され書店で購入しました。日本に住む限り活断層から逃れて暮らすことは不可能であることがよくわかりました。「これだけ大きな地震が起こったのだからもう当分は同じ場所地震は起こらないだろう」という根拠なき安心感が広がりました。震災の前年に出版されていた「大地動乱の時代」（石橋克彦著 岩波新書）を読んで、それが希望的観測だと知りました。地震学者の石橋氏はこの著書の中で、日本列島が地震の活動期に入ったと警告されておりました。特に印象に残っているのは江戸末期に大地震が毎年のように続けさまに起こり、これが幕府財政の窮乏に拍車をかけ幕府の崩壊につながったとの考察でした。1995年の阪神淡路大震災以降、火山の噴火や地震が頻発しつつに今回の東北関東大地震が発生しまし

た。中国は杞の国の人が天地が崩れ落ちるのを憂えたという故事に基づき、将来のことについてあれこれ無用の心配をすることを、杞憂といいますが、もはや我々は地震などの自然災害について杞憂という言葉は使えなくなっただけかもしれません。本校に来る数年前、長野県軽井沢町の自然環境保護と土砂災害の危険を防止するためにマンション建設に反対し住民運動を展開したことがありました。軽井沢は明治19年にカナダ人宣教師アレキサンダー・C・シヨウが避暑地として価値を見出し、その後別荘地として発展してきた歴史を持つています。別荘住民と地元住民の利害が必ずしも一致しているとは言えず難しい局面もありましたが、当時の田中康夫長野県知事の後押しと英断で、マンション建設を断念させることができました。田中知事は、トレードマークのカモシカをモチーフしたヤツシロ人形を胸につけて何度か集会にも参加してくださいました。当時有名であった長野県庁内のガラス張りの知事面談室に陳情書と署名を届けに行った時、「こんなにたくさんさんの財界のお歴々の署名があるじゃない。マスコミにちゃんと紹介したの？君、大阪人でしょう。

もっと上手にPRしなきゃ。」と、知事と私  
の間に突き出された何本かのマスコミのマイ  
クの下で言われたのは恐れ入りました。マ  
スコミの使い方、PRの仕方などなかなか  
巧みでした。受付では官庁とは思えぬ接客の  
良さに感心し、誠意をもって対応してくだ  
さった管理職の方々には今でも感謝をしてお  
ります。トップが代われればここまで変わるか  
と関心もしました。彼はやはり一国一城の主  
のほうが存在感もあり手腕を発揮できるタイ  
プだと思います。さて、その折の争点の一つ  
に雨水の処理問題がありました。保水の役割  
を果たしていた山を開発しリゾートマンショ  
ンを建設する計画でしたが、雨水を貯めるに  
は十分な貯水タンクを設けるから問題がない  
というのが建設会社の説明でした。過去何年  
間かのデータに基づきはじき出された数字  
でしたが、いわゆるゲリラ豪雨は想定してい  
ませんでした。軽井沢の別荘地には側溝や下  
水道がありません。前年秋の台風時には猛烈  
な雨量で道路が川のようになり床下浸水や浄  
化槽の蓋が開き汚水が溢れる被害も出ていた  
のです。我々は過去のデータでは予想でき  
ない自然の脅威があることを力説しました。

明治43年の大洪水で町内は甚大な被害を被  
り、その後山手に別荘が立てられるように  
なったという歴史もありました。今回の地震  
による津波も「想定外」の規模だったという  
報道がなされました。しかし、明治の三陸沖  
地震では岩手県で38・2mの大津波に見舞  
われたという記録があります。スーパー堤防  
の建設を何百年に一度の災害を予防するため  
に必要なのかと言って退けた蓮舫氏を批判し  
た石原都知事の意見はもつともであり、危機  
管理に対する常識を疑うことが必要になっ  
てきたと思います。長期にわたる歴史的な検証  
が不可欠です。経済においても同様のことが  
言えます。当たり前のことですが、株式投資  
や為替取引では、安く買って高く売れば儲か  
ります。しかし、そんなうまいタイミングは  
プロでもなかなか掴み切れませんから、毎月  
一定額を投資し続ける長期投資が資産運用の  
常道だと言われます。為替で言うドルコスト  
平均法の考え方です。しかし、歴史を振り返  
ると、1929年の大恐慌時から第二次世  
界大戦終結後の1950年代までの約30年  
間は、株価は地を這っておりました。この時  
期に投資を続けていても利益は確保できな

かったでしょう。また、1989年から  
2009年までの20年間を見ても、ニュー  
ヨークダウは右肩上がりですが、日経ダウは  
右肩下がりです。この時期に日本株式への投  
資を長期スタンスで続けていたら、マイナス  
になっていたことになりました。常道と言わし  
めるデータも期間をどこに設定するかで見  
方が大きく変わります。1998年夏のロ  
シア危機におけるヘッジファンドLTCM  
の破たんや2008年のリーマンショック  
の原因となったサブプライムローン問題は、  
ノーベル経済学賞受賞の経済学者や金融工学  
への過信がバブルは必ず破裂するという歴史  
的事実に敗れた事件だと言えます。このよう  
に私たちは阪神淡路大震災以降、自然におい  
ても経済においても都合の良いデータに基  
づく科学技術に対する過信は禁物であるとい  
うことをいやというほど学んできたと言えな  
いでしょうか。そして、今回の震災でのもう  
一つの教訓は危機管理におけるリーダーシッ  
プの重要性です。現場で汗をかいている人た  
ちへの配慮に欠け、十分な情報収集力も持た  
ないまま、挙国一致を理由に野党からの入閣  
を要請したり、内閣法を改正して現在17人の

閣僚を増員しようとしていたり、震災復興庁、食品安全庁、危機管理庁などの設置を検討したりする政府・民主党の姿勢は、「みんなで渡れば怖くない」的発想と思われるでも仕方がないほどお粗末なものです。今回ばかりは亀井

静香氏の「バカ足すバカはバカにしかならない、船頭多くして船、山に上るだ。」との発言に共感を覚えます。人事の要諦は適材適所の人員配置とできるだけ小さい組織だと考えています。そうでなければ臨機応変で迅速な決定ができません。そしてもう一つ大事なことは、これが一番大切なことだと思えますが、だれがトップなのか、だれが決定権者なのかが分からなくなるような組織ではダメだということです。衆知を集めることと決定を下すことは区別しなければなりません。我が国の国会と学校は安物の民主主義がはびこる傾向が強いところが似ています。阪神淡路大震災時も今回も日本国民の落ち着いた行動は世界の賞賛の的となりましたが、政府の危機管理能力の欠如は批判的的的となっています。大震災の報道で影が薄くなっているうちにNATO軍によるリビア空爆が始まりました。チュニジアのジャスミン革命から拡

大した中東・アフリカの不安定化は石油資源争奪戦も絡み世界経済への影響が懸念されます。20世紀は戦争の世紀とも言われましたが、我々が進む21世紀もまた自然現象、政治経済ともに動乱の時代の予感がします。



102

2011/03/26

## 平成23年度 入学者数確定

昨日の併願者の戻りと本日の二次試験の結果、平成23年度の新入生の数が固まりました。応募人数280名に対し397名となり、昨年度の297名をちょうど100名上回りました。昨年はあと3名で300の大台、今年も同じくあと3名で400の大台に乗るところでした。これを私は、「結果に安住せず次年度は大台を目指せ」との天の声と捉えております。しかし、中学や短大、大学を持たない単独の女子高としては健闘したと思います。入試広報担当者として日常の教育で支えた教職員の努力の結果であると嬉しく思うとともに感謝しております。特進一期生の結果も満足のゆくものでした。和歌山大学（2名）、大阪府立大学（1名）、兵庫県立大学（2名）、県立広島大学（1名）の計6名が中堅国公立に合格しました。たった6名と思われるかもしれませんが、一期生は





11名ですからこれまた健闘したと言えるでしょう。関西学院大学、関西大学、近畿大学、甲南大学、龍谷大学には複数の学部合格した生徒もおり、延べで23名の合格実績を残すことができました。この特進の実績はゼンター試験と一般試験のみであり、スポーツ推薦は入っていません。昨日、特進一期生5人が二期生と三期生を前に合格までへの経験談を話してくれました。中学卒業まで受験体制とは無縁でいた彼女たちが本校での3年間の受験勉強を通じて成長したことに嬉しい驚きを感じました。スポーツは強いが勉強はダメという従来のイメージを変えてくれまし

た。好文改革の一つの成果がまた現れました。夕方、神崎川沿いの校舎の壁に設置した合格を祝う垂れ幕をみんなで見にゆきました。阪神電車の車中からも良く見えます。昨日、併願の戻りで入学手続きに來られた方に、「公立に落ちたことが良かったと思える3年後にきつとなりますよ。」と申し上げました。進学校ではない本校を併願にされている生徒さんが目指している公立高校と比べて、生徒指導、教科指導、進路指導のどれをとっても遜色ない懇切丁寧な指導体制をとっていることを自信をもって申し上げることができます。

103

2011/04/07

### 運命は変えるもの、 希望は作り出すもの

—平成23年度入学式式辞から—

新入生のみなさんならびに保護者のみなさま、ご入学おめでとうございます。ようこそ好文学園にお越しくださいました。心から歓迎申し上げます。本日このように沢山の新人

生を迎え、盛大に入学式を挙行することができましたことを大変うれしく思いますとともに、去る3月11日の東日本大震災において被災された多くの方々々に改めて心からお見舞いを申し上げたく存じます。本校生徒会もいち早く募金活動に従事し、校内外の皆様からの義援金を被災者の方々にお届けすべく日本赤十字社に送らせていただいた次第です。震災について、様々な報道がなされ、また論評が加えられていますが、世界のメディアが一樣に称賛を惜しまないのは、被災地の人々の落ち着いたそして節度ある行動と救助者や支援者に対する感謝の言葉であり、筆舌に尽くしがたい悲しみに打ちひしがれる状況にありながらも唇をかみしめて生き抜こうとする前向きな姿勢であります。みなさんから見て右手上に掲げられた本校の校訓「穩健着実」は、考え方が穩やかでしつかりしており、態度が落ち着いて軽率でないことを意味します。また、4号館二階ロビーに阪神淡路大震災で亡くなった当時の理事長白谷晴雄先生を偲ぶミニメント・プレートがあり、理事長が好まれた「白梅は風雪に耐えて、花をつけ実をつける。人生はすべからず忍耐にあり。」とい

う言葉が刻まれています。ともに、好文学園で学ぶ生徒が優しく強い女性に育ってほしいとの先人からのメッセージであります。私はこの思いを受け止め、本校の使命を、「自立した、社会に貢献できる女性を育てる」ことだと考え、これを教育理念といたしました。そのために必要なことは、基礎学力の向上と女性としての教養とマナーの習得に他なりません。私は学校教育が社会の常識と乖離してはいけないと考えています。立派な社会人として通用する人間に育てるため、入学時から卒業後の進路を見据えた実学教育として好文学園を留意しております。みなさんは本校での三年間、この好文学園を縦糸に、勉強、クラブ活動、学校行事を横糸に、自立した人間を目指して努力を重ねてゆくことになります。みなさんの中には好文学園に入りたくて専願で来た人もいれば、本当は公立に行きたかったにもかかわらずという人もいます。とでしょう。また、好文学園でしっかり勉強して大学に行こうと決意して入学した人もいれば、中学校まで思い通りの学校生活ができず好文学園でもう一度やり直したいと思っっている人もいます。私は、挫折や失敗を

経験した人を大いに歓迎します。なぜなら、その人たちがこそ成功へのパスポートを手にしているからです。東京大学社会科学研究所教授の玄田有史さんの研究によると、就職してからの挫折体験によって働く人を、挫折を経験しなかった人、挫折を経験して乗り越えられなかった人、そして挫折を経験してそれを乗り越えた人の三種類に分類することができ、希望を持って仕事をしている割合が最も多かったのは、挫折を経験しそれを乗り越えた人でした。また、未婚者のうち、失恋という挫折を経験したことのない人ほど、恋愛や結婚に希望を持たないという統計結果も紹介されています。私自身の経験を振り返ると、大いに納得のゆく結果だと思えます。では、挫折や失敗を乗り越えるにはどうしたらよいのでしょうか。それは自分を変えること尽きます。人には自分の責任に帰することのない理由によって不幸な状況下におかれる場合もあり、そのような場合には自らの不幸を嘆き他人を責めたくありません。しかし、人生というものは不条理なものです。いつまでも他人のせいにしていても仕方がありません。自らが変身せざるを得ません。考え方を、態

度を変えていくことです。過去をいくら悔やんでもあるいは懐かしんでも決して過去に戻ることはできず、全く意味のないことです。失敗から学ぶことこそ大切であり、自分の運命は自分で切り拓く勇気を持つてください。その時初めて希望は生まれます。しかし、それをあなた方一人でやれというわけではありません。私を始め多くの先生がサポーターとしてスタンバイしています。どうぞ私たちの胸に飛び込んでください。あなた方がこれから生きてゆく世の中は不確実性に



## 新年度雑感

―変わる教員集団

4月7日、申し分のない暖かい晴天の中、397名の新生入生と約500名の保護者をお迎えし入学式を挙行いたしました。年々お父様の参加が増えてきましたが、特に今年は沢山の方がご夫婦でお越しくださいました。入学式終了後、ホームルームで担任からの話

満ち溢れています。自然現象は言うに及ばず、政治経済社会の変化は想定外の連続となるでしょう。うかうかしていると変化という激流に流されてしまいます。激流に流すべきは過去であり、未来ではありません。今日から後ろを振り向かず、私たちとともに前のみを見て進んで行きましょう。努力に勝る天才はないと私は確信しています。必ずや幸運の女神が微笑んでくれることでしょう。みなさんの今後の健闘を祈り、私の式辞といたします。

が終わった後は、校門や芝生のグラウンドは写真撮影をする人で溢れ返っていました。好文学園に入学したことを嬉しく思っているご家族が多いことを大変うれしく思うとともに、責任の重さを改めて痛感いたしました。今年度は常勤講師と非常勤講師に若手中心に18名の先生を採用し、入学式に先立ち、研修を行いました。まず、私から「好文学園が求める教師像」と題し、パワーポイントを使い約30分間話を致しました。①教師である前に良識ある社会人であること②教科指導力を磨くこと③生徒指導力の養成に努めること④校務運営に熱心に取り組むこと⑤常に学ぶ姿勢を持つことの五箇条です。私の説明の後、外部の専門講師による「初任者・若手研修」が昼休みを挟んで5時間たっぷり行われました。これは本校では初めての試みで、企業の新入社員研修の焼き直しにはならないようにとの要望を出していたものの、時間も長く少し心配しておりましたが、結果は実に良いものに仕上げられました。お辞儀の仕方から、仕事の進め方やPDCAなど基本的なことばかりでしたが、私が聞いていても飽きることがなく、また、忘れていたことを再認識させて

くれるものでした。単なるテクニクを教えるのではなく、そこに込められた意味を教え、コミュニケーションの真髄を示してくれるものでした。同席した弓道部顧問でもある生徒指導担当教頭も、「これはまさに礼法の本心と同じです。クラブ員に話す良い材料を提供してもらいました。」と、評価してくれました。本校では生徒の入学時から卒業後の進路を目指して、PDCAやホウレンソウ（報告連絡相談）などの企業で使われる言葉を取り入れた生活指導、「好文未来学」を進めています。実はそれを教える教師が自らの仕事を遂行する上で、報告連絡相談がきちんとできていなかったり、目標管理に基づいたPDCAサイクルを回すことが出来ていなかったりします。残念ながら従来は学校ではこういう研修や教育は行われていないのです。世の中の常識を知らない教師が生徒にものを教えると生徒の心に染み入る指導にはならず、この本質を理解させることも出来ず、要領だけ良い人間を作ってしまいます。仏作って魂入れず、これでは生徒の人格形成に資することあたわず、本当に生徒のためになるとは言えません。私が教師は教師である

前に良識ある社会人であるべきだと考え、学校教育が実社会と乖離してはいけないと考えるのはこういうところに理由があります。さて、私は先生方の反応を心配しながら研修につき合っていました。新卒の先生のみならずベテランの先生も真剣かつ和氣藹々の雰囲気です。受講してくれました。終わった後の感想も上々で、素直でやる気にあふれた先生方に來てもらったことができたことをこれまた嬉しく感じました。そして、その中から新一年生の初担任に選ばれた先生たちが早速この研修の成果を活かして入学式とその後のホームルームをこなしていました。新入生が多いことも嬉しいですが、新しい先生と従来からいる先生が一つの学年団を組織し、協働して遅くまで明日の用意に余念なく仕事をしている姿を見ることが出来るのもまた嬉しいものです。以前、「最近職員室の雰囲気が悪くなつたとみんなが言っています。」と、私に意見をされた人がいました。生徒そつちのけで教員どうしでくだらぬおしやべりをしていた頃を懐かしがりそれを雰囲気が良いと考えていた教員にとっては、学年運営、生徒指導、授業改善等々忙しくなつた今の職員室の雰囲気は

受け入れがたいものなのでしょう。しかし、どちらが生徒のためになるのか、どちらが教師としてやりがいがあるのか、明らかではありませんか。いよいよ今週から新年度が本格的に動き出しました。今年朝の職員室の様子も今までとは随分と違います。始業時間は8時30分ですが、今朝は7時50分には大勢の教員が職員室にいました。私はいつも8時から30分間校門に立つことにしています。生徒指導部や学年の教員が交代で立ちますが、今日は今年採用した非常勤の先生も数人が、「我々も立つことにしました。」と言つて挨拶に加わつてくれました。頼もしい限りです。数年前、率先して校門指導を始めた頃は、始業時間が8時半なのに余計なことをしてくれと言わんばかりにしぶしぶ立っていた教員もいます。8時25分ごろに悠々とやってくる教員もいたことを思い出すと隔世の感がいたします。仕事を始める時間ぎりぎりに來て、余裕をもつて仕事に取り掛かれるものでしょうか。良識ある社会人なら、仕事の始まる30分ぐらい前には職場に到着し、準備にかかるものです。まして生徒相手の教員なら、朝一で生徒の状況把握や授業準備などする必要が

あるのではないのでしょうか。準備の必要もないほど十年一日のごとく魂の入らない仕事をしてきたからこそそういう発想になつたのだと思います。今年卒業したある生徒が、卒業間際に校門で私と一緒に立つて挨拶をしてくれたことがあります。「先生、私が挨拶をしても挨拶を返してくれない人がいると、腹が立ちます。でも、しっかりと私の目を見て挨拶を返してくれるととてもうれしい気分になりますね。」わずか数分でその生徒は挨拶の意味を感じ取りました。これが分からない



ベテラン教員がいるのは残念なことです。私が挨拶が大事だといえ、目をそらして挨拶をする人がいますが、やれというからしていると、いわんばかりです。心がこもっているかどうかは高校生でもお見通しなのに。彼らにこそ上述の研修を受けていただかねばなりません。そういう教員は大概、かたくなに自分を変えようとはしません。生徒指導にしても担任業務にしても満足ゆく成果をあげていません。従って、生徒と保護者の信頼度が低いのです。最近はありがたいことに形勢は変わってきました。校長方針をよく理解し、生徒のために一生懸命頑張ろうとする教員が増え、活気が出てきました。保護者会と同窓会も学校方針に賛成してくださり今まで以上にご支援をしてくださっており、大変ありがたいと思っています。このプラスのスパイラルを上昇気流に乗せて安定軌道に持ってゆかねばなりません。コックピットで操縦桿から手を離し、コーヒー片手に副操縦士と談笑できるまでにはもう少し時間がかかります。今はまだようやく機首が上を向いたにすぎません。まだまだ気が抜けません。

105

2011/04/15

## 最悪を想定し、 楽観的に行動する

東日本大震災から1ヶ月が経過しました昨日、福島第一原子力発電所の事故に対する国際評価尺度が急速「深刻な事故」とされる「レベル7」に引き上げられ、国内外に波紋を投げかけています。「レベル7」は、チェルノブイリ原発事故と同じ最も深刻とされる範疇に入ります。事故後1週間で示した暫定評価は「レベル5」でしたから一気に二段階引き上げられたことになりました。私は原発については全くの素人で何の知識もありませんから、事故の内容を論評できませんが、この事故後1ヶ月間の推移とこのタイミングでのレベルの引き上げを聞かされると、否が応でも状況が相当悪化しているのではないかと、不安を抱かざるを得ません。菅総理は「レベル7」への引き上げを発表するともに、必要以上の自粛を止め、また被災地の産品を積極的に購入するようにも呼びかけていまし

たが、こんな矛盾する話はありません。適格な予測と「こうなつてほしい」と思う希望的観測とは区別しなくてはなりません。現政権は大本営発表の二の舞を演じているように感じます。市民運動家出身の首相が最も厳しく批判してきたであろう大本営の同じ轍を踏んでいるとは皮肉です。この点について、台湾の李登輝元総統が文芸春秋で全く同様の感想を述べておられます。原発事故については、当初から司令塔の不在が問題にされてきました。政府、東京電力、経済産業省原子力安全保安院、この三者の意思統一と窓口の一元化が全くできていないのはだれの目から見ても明らかです。東電と原子力安全保安院のトップがみな文系出身者で技術的なことについては素人だとの指摘もあります。そのような中、各マスコミに出てくる大学教授など専門家も想像でものを言わざるを得ないような状況が続く、不安が不安を呼ぶような日々が流れています。汚染水の海への放出も韓国を始め国際的な批判を浴びています。原発周辺の住民への避難勧告にも一貫性がなく、被災地の方々の忍耐にも限度があらうと思えます。論語にいわく「君君たり、臣臣たり」を我が

国では封建時代に武士の心得として「君君たらずとも、臣臣たれ」と変換したそうですが、被災者や国民の節度ある我慢強い態度が世界の称賛を一身に集めている反面、日本政府のリスク管理能力の欠如が批判を浴びている現状は、「君君たらずとも、臣臣たれ」的状况を惹起しており、烏合の衆の民主党への政権交代とは実はアンシャンレージュムだったということを露呈したと言えます。総理は、復興のための新しいポジジョンや会議を次から次に作り専門家に集まってもらって案を出してもらおうと言われますが、危機に瀕して政策の丸投げは信用を失墜する最も手っ取り早い方法だと思います。

学校においても生徒指導案件や保護者や外部からの苦情に対する初期対応が大切です。校長就任時最初に申しあげたのは、「良いことの報告は遅れてもいいから、悪いことの報告は直ちに行うよう」ということでした。これに対して、早速ある問題が起こったとき、私への報告がなかったことを問うと、「まだ事実関係もはっきりしていない段階ですし、そのうえ生徒に関する繊細なことですから、」と目をむいて怒ったベテラン教員がいます。

た。「生徒に関する繊細な問題だからこそ、校長の耳にいち早く情報を入れ、今後の対応を十二分に検討すべきではないのか。第三者から校長にその話があったとき、知りません、聞いていませんでは、学校の信用はどうなりますか。」と、その間違った考え方を直すよう厳しく指導したことがありました。事なかれ主義に慣れていると、悪い情報は結果が分かるまで隠そうとするのです。悪い情報ほどいち早くトップの耳に入れることが初期対応の基本です。悪い報告をしたら怒られると思いがちですが、失敗は誰にもあること、いかに上手にリカバリー・ショットを打つかが大事なのです。同じ失敗を何度も繰り返すことは許されませんが、失敗を恐れずチャレンジできる雰囲気は保たねばなりません。それには、失敗してもトップが責任をとってくれるという安心感がなければなりません。私は校務に関する最終責任はすべて校長にあることを十分わきまえていますから、中途半端な報告や対応は許さないので。向う傷は問いませんが、サボりは許しません。また、トップといえども専門家ではありませんから、各々の専門分野に詳しいスペシャリスト

を揃え、その意見を聞くことが大事ですが、誰の意見を聴くかはそのトップの嗅覚、センスの良し悪しにかかるといえます。専門家もイエスマンではなく時には反論する気骨ある人が大切です。但し、トップと基本理念を共有していることが条件です。そして決定はできるだけ速やかにトップが行わねばなりません。トップ以外の幹部が好き勝手なことを言いだしたり、トップを超えて指示を出すような人間が出てきたりすれば、誰がトップなのか分からなくなり、組織は崩壊します。その時は、トップが辞めるか、他が辞めるかしかなりません。

組織の大小を問わず、トップはその組織の顔でなければならぬと思います。業績の良い企業には顔の見えるトップがいます。敵も多く毀誉褒貶相半ばするところですが、石原慎太郎東京都知事や橋下徹大阪府知事には顔があります。残念ながら東京電力の社長や日本の総理大臣には顔がありません。国民への称賛の一方で、国としての日本に不安と不信が持たれるのは、顔の见えないトップが増えすぎたところに原因があるのだと思います。そしてトップにとって大切な資質の一つは、

## 小笠原流礼法の 授業始まる

「常に最悪を想定して、楽観的に行動する」姿勢だと思えます。最も有害なのは「常に希望的観測でものを言い、楽観的な対応しかない」リーダーだと思えます。

今年度から3年生の総合的な学習の時間に、小笠原流礼法を取り入れ、各クラス週1時間の授業が始まりました。先ずは小笠原流礼法につき以下「小笠原流礼法入門」から少し引用させていただきます。

「小笠原家は、初代小笠原長清に始まる清和源氏の家系で、長清は26歳の時、源頼朝の糾方（弓馬術礼法・師範となり、その後長男の長忠が伝承し、小笠原一族の惣領家となります。糾方には、心と体の両面が大切であり、どんな心も形に表れ、また形は心に影響してくる。いかなる場面でも効果的な姿勢がある」というのが、小笠原弓馬術礼法の基本です。



江戸時代には、小笠原経直が徳川家康に招かれ徳川秀忠の糾方師範となり、以降明治維新まで高家として幕府の弓馬術礼法の師範を務めました。二十代貞政は八代將軍吉宗の命により、新儀式としての流鏑馬を制定し、二十八代清務は將軍の目代となり、和宮降嫁の御用掛を務めました。」

礼法を授業に取り入れるのは私の念願でした。女子高として一流の礼儀作法を教えたいと考えていました。なぜ一流に拘ったかと申しますと、世にマナー研修はあまたありますが、付け焼刃の作法ではなく「心」を教えていただきたいからです。本校の弓道場が完成しお披露目の時、藝目の儀（ひきめのぎ）を行っていただいた弓道界の方に本校の

弓道部顧問からお願いをし、弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家、小笠原清忠様にご紹介いただいたのが昨年末のことでした。京都にお越しになった宗家を弓道部顧問とともにお尋ねし、礼法を授業に取り入れたい旨をお話ししましたところ、講師の派遣を快くお引き受けくださいました。今年2月には本校にお越しになり校内を見学して下さいました。宗家は御年68歳におなりで、中肉中背で、飾るところの全くない大変温なお人柄で、質実剛健の風を感じる方です。玄関ホールに出していたお雛様をご覧になられた折には、人形の並べ方をご指南頂きました。同窓会の玉井様からご贈頂いたお雛様を手分けして並べたものの、三人官女や五人囃子の配置が間違っておりまして。また、お内裏様とお雛様の位置も、現在では段の右側にお内裏様、左側にお雛様を置くのが主流となっておりますが、本来は左にお内裏様、右にお雛様であったとのこと。これは左側に位の高い人が来る習わしが、明治維新後、天皇、皇后が写真を撮られるとき、西洋にならって立ち位置を逆にされたことから入れ替わったのだというのを始めて教えていただきました。位の

上の左大臣が左で右大臣は右です。三人官女や五人囃子も上位者が左から並んでいます。肝心のお内裏様とお雛様が逆におわすというのは確かに違和感があります。

昨日、始まったばかりの礼法の授業を作法室で見学いたしました。さすがに三年生ということもあり、慣れない正座にもじっと我慢で挑戦していました。講師の萩本先生の授業はわかりやすく面白いと既に評判になっており、良い講師の先生に恵まれたことをありがたく思っています。



107

2011/04/21

## クラブ活動を考える

以前にもクラブ活動について書いたことがあります。新入生がクラブ見学に入るこの時期になると、改めてクラブ活動についていろいろと考えさせられます。もともとクラブ活動は盛んな本校ですが、最近では運動部に加えて、学校行事だけでなく地域のイベントにも積極的に協力している吹奏楽部を始めとし、茶道部や合唱部の活動も活発になり、女子高のクラブ活動としての厚みが出てまいりました。入学時には成績優秀者と並んでスポーツ推薦の奨学金制度があります。これは本校入学後、文武両道を以て本校の模範的生徒になってくれることを期待しての制度で、実際この制度に則って入学した大半の運動部の生徒は体育祭、文化祭、学校見学会、校外清掃など学校行事において中心的役割を果たしてくれています。欧米の学校におけるクラブ活動と日本のそれとは大きな違いがあるよ

うに思います。欧米では楽しむという側面が強いのに対して、日本では修行の場と位置付けられている感があります。かつて元ラグビー日本監督の平尾誠二さんのお話を聞いたことがあります。平尾さんは「元来スポーツとは楽しむもので苦痛であってはならない。楽しむ中から創造性が生まれる。日本のしごきのなやり方では選手は育たないし勝てない。」というような趣旨の話をされたように記憶しております。クラブ活動を通じて団体生活における規律やチームワークを学ぶことが出来ますので、組織を円滑に運営しようと考えた企業にとっては、体育会系クラブ活動に従事していた学生を採用したがる傾向が強いのです。しかし、この発想は下手をする、個人の人格形成よりも組織の論理を優先する方に比重を移すことにつながり、従順な企業戦士を造ることはできても、創造的な人間を育てることができなくなります。欧米は個人主義で個人の好き勝手が許される社会、日本は和を以て貴しの横並び主義の社会といった皮相なステレオタイプの見方もいただけません。私が本校のスローガンに掲げた「個性創造」は、実はスイスのボーディング





スクール(全寮制の学校)のHeadmaster(校長)が教育の目的を語られた中で使われた言葉、「the creation of character」を和訳したものです。この学校では世界約60か国から9歳から18歳までの子供たち約350人が学んでいます。団体生活を行っていますから規律は厳しく、ハウス(寮)対抗のスポーツや文化的イベントには熱狂します。言葉や文化の壁がトラブルを起こすことは日常茶飯事です。その中でマナーや相互理解を学んでゆき自己の確立が図られます。進路は、イギリス

やアメリカの大学を始め世界各国に散らばります。これが本当の欧米の個人主義の意味するところですよ。益々国際化の必要性が高まる日本において、このような個人主義は決して和の精神と調和できないものではないと考えます。私は、運動部、文化部ともに、本来のクラブ活動の意義を、勝つことではなく心身を鍛えること、技術の向上だけではなく心を育み自己の確立に資することだと考えており、それを目的とした指導を顧問にお願いしてまいりました。多くの顧問はその趣旨をよく理解し指導に当たってくれているお蔭で、学校全体のことを考えて行動するクラブ生が飛躍的に増え、これが学校改革の大きな推進力になっており、大変うれしく思っています。しかしながら、必ずしもすべての顧問が心を育むことの意味を十二分に理解して指導に当たっているとは言えないところもあります。やるからには勝ちたい、優秀な成績を残したいのが人情であり、そのためにどうしたらよいかを考えるのは当然のことです。しかし、そのために規律を重んじるばかり、上級生と下級生の関係が行き過ぎた隷属関係となり、上級生の言うことには絶対に従わねば

ならないという硬直的な状態が生じる場合もあります。まさに陋習と言わざるを得ません。これでは期待して入った楽しいはずのクラブ活動が苦痛に変わってしまいます。もちろん、どのクラブにおいても、大なり小なりクラブ員間でのトラブルは起こって当然です。大事なことはその時、どのような解決をするかということであり、まだまだ未熟な生徒に解決への道筋を付けられるかどうかが顧問の腕の見せ所なのです。雨降って地固まるとなるか、意思に反しクラブを辞める生徒が出ることになるか、生徒の肉体的な成長に対する影響の違いは実に大きいものがあります。ところが、各々の専門競技の専門家である顧問ほど、技術指導に偏り、人として大切なマナーや心遣いを教えることを忘れてしまいがちです。顧問のしつかりしているクラブは、上級生と下級生の関係が上手くいっており、上級生であるほど、しんどい仕事を率先して引き受け、下級生の面倒をよく見ています。そして、卒業した先輩がしょっちゅう学校に戻ってきて後輩の指導に当たっています。大抵のクラブは3年生の夏休みで引退となりますが、引退した後の行動で、そのクラ

ブの指導の良し悪しがはっきりわかります。ダメな顧問は、それを生徒のせいにします。生徒や保護者にとことん関わってはいけません。表面的な指導で終わってしまっています。また、クラブはあくまで学校の教育の一環として存在するもので、別箇独立のものとして勝手な動きをすることは許されません。学年やクラスの行事よりクラブを優先するよきな雰囲気を作ってしまうと生徒をミスリードします。全国大会で個人優勝した生徒が引退後、後輩が試合に行く朝、6時半から学校に来て後輩のためににぎりを握るようなクラブもあれば、引退を契機にクラブには顔も出さず、遊びだす生徒がいるクラブもあります。どの教員の授業でも態度を変えずきちんと授業を受けている生徒が多いクラブもあれば、クラブ顧問の担当する授業と他の教員の担当する授業とで態度が変わる生徒が多いクラブがあります。前者はクラブとしての成績もよく、後者はバツとしません。結局、勝つことばかり求めて指導しているクラブは負け、日々の個々人の心身ともの鍛錬を指導しているクラブは勝つという、誠に理にかかった結果となっています。欧米のスポーツ

は楽しむものといいましたが、楽しむとは「楽をする」という意味ではなく「心が満ち足りる」とか「豊かに富む」という意味なのです。第54回アカデミー賞作品賞受賞のイギリス映画「炎のランナー」（1981年公開）の主人公、スコットランドの宣教師エリック・リデルの走ることへの熱中にはストイックな楽しみを感じ、スポーツに対するイギリスの伝統的な考え方が良く表れていると思います。競技種目は違えども、生徒の素質に大きな違いはありません。クラスよりも濃密な時間を過ごすことになるクラブでは、このように顧問の指導の良し悪しが生徒の成長に大きな違いを生じさせます。クラブ活動の意味は考えれば考えるほどなかなか深いものがあります。欧米に比べ授業だけではなく、生活指導やクラブ活動など教師の役割や負担が大きいことは日本社会が抱える特殊性といえることもありません。しかし、それを承知で教師という道を選択したのですから、使命を果たすために最善を尽くしていただかねばなりません。

108

2011/05/10

## 生徒指導の要諦

昔、家の近くのお寺の門前に、「今月の言葉」として、「こども叱るな来た道だから、年寄笑うな行く道だから」という言葉が掲げられていました。通勤帰りに見かけたのですが、「なるほど、上手いこと言うな」と、それ以来こころに残っています。今、校長になつていわゆる生徒指導として生徒に説教をしたり、叱ったりすることがありますが、そのたびにこの言葉が頭の片隅に浮かびます。お坊さんではありませんので、にこにこ笑って一切叱らないでは済まされないのですが、その叱り方を考えるうえで大いに参考になります。それは自分のこども時代を思い出させてくれるからです。幸いにも私は学校の先生と喧嘩をしたことはありませんでしたが、親とは結構言い争いになったことを覚えています。物を投げたこともありましたし、暴言を吐いたこともありました。また、二階から飛

び降りてやると言って、本当に飛び降りかけたこともありました。いわゆるキレたという状況です。こどもは悪いとわかっていてもそれを正面から非難されると頭に血が上るものです。ところで、高校の先生は一般に教師と教員という呼び方が使われますが、教諭という言い方もあります。教授は大学の先生にのみ使います。さすがに大学生ともなれば教えを授けることができるということなのでしょうが、昨今このあたりが微妙にあやしい大学生が多くなってきました。高校生レベルでは、教えを授ける前段階として、教諭論す、すなわち、教え導く、言い聞かせて納得させることが教師の仕事なのだということではないでしょうか。例えば大声を出して厳しい言葉で叱りつけても、相手と十二分に信頼関係が構築されており、コミュニケーションが取れる場合は、それはむしろ、ここぞという時の指導法として有効です。それは、その生徒のことを思って厳しく叱っていることが当の生徒に理解できるからです。大抵そのあとの生徒の顔はすっきりとしたものになり、「先生、ごめん。頑張るわ。」等の言葉を残して笑顔で立ち去ります。しかし、そのような条件が

整っていないときの感情剥き出しの怒りは、全く逆効果です。人間ですから怒りたくもありませんが、残念ながらそれでは生徒の反感を増幅するだけです。わたしは決して生徒の機嫌を取れと言っているわけではありません。効果的な指導をすることが生徒のためになると申し上げたいのです。私も一度だけ、感情を出して怒ったことがあります、そしてそれをプロにあるまじき行為と、今でも恥ずかしく思っています。また、これが職場を離れた自分の子供に対して出来ないことにも大いに反省している次第です。やはりお坊さんのような達観の境地には程遠いのかも知れません。修行がまだまだ足りません。

109

2011/05/12

## 「想定外」VS 「想定内」

今回の東北大地震では、津波被害や原発事故に関し、「想定外」という言葉が多用されています。この言葉を聞いたとき、私は「想

定内」という言葉を懐かしく思い出しました。これは、当時、飛ぶ鳥を落とす勢いであったライブドアの堀江貴文社長が、ニッポン放送、フジテレビの買収を狙ったとき、フジ側のとつた対抗策へのコメントを聞かれたときに発した言葉で、2005年の流行語大賞にも選ばれました。相手がどんな対抗策をとってこようとともそれを打ち負かさ策は持っているという彼の自信のほどを表す言葉でした。一方、「想定外」は、当該事態が起ころとは到底予測することすらできなかったため対応の準備が出来ていなかったことへの言い訳の言葉といえるでしょう。堀江氏はその後、粉飾決算の疑いが浮上し証券取引法違反で訴えられ、先日、最高裁への上告が棄却され実刑が確定しました。自信家の堀江氏にとつても「想定外」のことであつたようです。「想定」とは、ある一定の状況や条件を仮に思い描くことをいい、予想することであり、前提として想像力が問われます。今回の震災では、過去の三陸沖地震の発生と被害状況が歴史的にきちんと検証されず、危機管理に生かされていなかったことが明確になっていきます。堀江氏については、攻めにばかり目が行

き、守りを固めることに手落ちがあったといえるでしょう。十分に想像力を働かせることが出来なかったのではないのでしょうか。震災や原発に関しては、経済合理性を優先するあまり、あえて重大な歴史的事実を無視した疑いも濃厚です。このような中で、周期的に発生している東海地震、東南海地震、南海地震の歴史的事実に鑑みて、フィリピン海プレートがユーラシアプレートに深く潜り込み歪みが増えていると考えられる相模トラフの真上に立地する浜岡原発の停止を要請した菅首相の決定は、「想定内」の対応をとったものと一定の評価がなされるべきだと思います。

さて、この想像力は教師にとっても極めて大切な要素です。学校では生徒指導上の大小様々な問題が毎日のように起こります。世間は学校に学びのコミュニティとしてあるべき論に基づく理想的な姿を期待しますが、それは経済学が市場において人々は常に合理的に行動することを前提にして理論を組み立てるのと同じであり、実態に即してはいけません。生まれも育ちも異なり、社会経験も未熟な子供たちが共同生活を行うのですから、もめ事が起きないわけがありません。その未熟

な子供たちの世界に携帯電話やインターネットが入り込み、判断基準が定まらないまま洪水のような情報に翻弄され、ことの是非を理解する前に行動に駆り立てられています。携帯メールやゲームは「待つこと」や「立ち止まって考えること」を阻害し、リセットボタンは「粘り」を奪い「あきらめ」を誘い、人を移り気にします。携帯がなかった時代であれば、「想定外」といえたかもしれないトラブルが頻発します。しかし、既にほとんどの高校生が携帯電話を所持しています。携帯電話の学校への持ち込みを許可した時、携帯での虐めが増えるのではないかといった議論もありましたが、携帯は学校以外でいくらでも使えます。虐めは学校で起こるとは限らないのです。もはや携帯は自動車同様の「許された危険」といえます。良識ある社会人としての正しい使い方を教えることの方が、学校への持ち込みを禁止するより、実際のだと判断しました。生きてゆくうえで必要なコミュニケーション能力は、人との付き合いの中で、時には喧嘩や失敗を経験することを通して身につけてゆくものです。一生かかって磨き上げてゆくものといっても過言ではありませ

ん。もめ事は起きなければそれに越したことはなく、我々も起こしそうな芽は事前に摘み取っています。しかし、それでも起きるものがあり、また、もめ事がなければコミュニケーション能力の向上は図れないとも考えることが出来ます。我々教師にとって大切な役割は、生徒間で、あるいは生徒と教師の間で、もめ事が起きた時に、双方の成長に資するような前向きな解決方法を見出すことです。そのためには生徒情報の収集、分析とともに生徒の思いや行為に対する豊かな想像力が要求されます。問題をあやふやにしたり、どちらかが納得しないまま不満を残すような解決策であつたりしてはなりません。「これ以上傷つきたくない」という理由で、時に生徒本人が、時に保護者が、問題解決に立ち会おうとせず、避けようとする場合もあります。問題の内容にもよりますが、たいいの場合は一時的な苦痛を我慢しても問題に立ち向かったほうが、新しい展望が開け良い結果につながります。大人になってゆくとこのことは苦い経験も必要なのです。最近は大人数になりきれない大人が増えているように思えます。今や学校は、本来家庭で教育して

おくべきことの再教育から始めなければなりません。初めて学校現場に立った時、挨拶をする、制服をきちんと着る、弱いものをいじめない等、当たり前のことを学校で、それも高校生に一人から教えなければならぬのだと知り、半ば驚き、半ばあきれたものです。しかし、よくよく考えてみると、教えてもらってこなかった子供たちには罪はなく、教えてこなかった我々親世代にこそ責任があると思います、甘んじてその役を引き受けることと致しました。それが今につながる全校挙げての挨拶や身だしなみの指導です。ですからこれを保護者の皆様には当たり前だと思っていたきたくはないのです。遅まきながら今からでもご家庭での指導もよろしくお願いいたしたく存じます。先日こんなメールが学校に入りました。「ラッシュアワー時に電車で割り込んで乗り込む生徒がおり迷惑しているので注意してほしい。」良いニュースより悪いニュースを歓迎する私は、このような苦言をありがたく思っています。それはその生徒に気づきを与えるチャンスを取っているからです。早速本校教師が数日にわたり当該駅プラットフォームに出向き、それらしき生徒を見つけて

注意をしました。本人は全くその意識がなかったそうです。階段から順番に並んでいる周りの状況が目に入っていなかったようなのです。しかしながら、「ラッシュアワー時にラインに並ばず割り込むようなことはしてはいけない」ということは誰がどこで教えるべきか、そして、割り込みを目撃した時にそれが先ず注意すべきか、少し考えさせられました。家庭や地域社会の教育力が低下しつつあるのではないでしょうか。電車の中で不用意にマナー違反を注意したら殴られたりするご時世ですから、君子危うきに近寄らずという風潮が蔓延するのも無理からぬところで、これが子供を益々甘やかし増長させることになっているのではないのでしょうか。鉄は熱いうちに打たなければ、矯正は難しくなり、やがては社会全体が壊れてしまいます。さて、本校では4年間の再教育の効果もあり、いよいよ今年3年生に少しレベルの高い高校生にふさわしい小笠原流礼法を教えることができるようになり、うれしく思っています。これからも私は、どんな難問が起ころうとも、「それは想定内です」と自信を持っていえる教師集団を築いてゆきたいと思いま

す。そして教師が、常にどうしたら生徒のためになるかを考え、教師間の相互理解と協力を惜しまぬ姿勢を持つことが肝要だということとを訴え続けてゆきたいと思います。それが本当に生徒のためになると信じています。

110

2011/05/18

## 「頑張る」を考える

東北大地震から2か月が過ぎ、テレビのCMから「がんばれニッポン」がようやく消えました。「ようやく」と申し上げたのは正直この種のCMに少々食傷気味になっていたからです。地震発生後いち早く英国の新聞、The Independent（インデペンデント紙）が、日の丸に「がんばれ日本、がんばれ東北」と書いたお見舞い広告を掲載した時は、日本人として感謝するとともにその素早い対応に感心したのですが、その後、我が国のテレビで流される頑張れコールには、違和感を覚えていました。被災地の過酷な状況や原

発事故の内容が明らかになるにつけその思いは益々大きくなりました。私たちは日常、最愛の家族を亡くされた方のお葬式に伺い遺族の方に哀悼の意を表するとき、「このたびは誠に愁傷様でした。お気持ちお察し申し上げます。」というような挨拶はいたしますが、

「頑張ってください。」とは言わないものです。悲しみに寄り添うことは出来ても、悲しみを乗り越えるよう叱咤激励するのは、それも全国的に人が入れ代わり立ち代わり何度も何度もやるのは、余計なおせっかきを通り越して痾に障るというものではないでしょうか。この日常とは違うハイテンションな頑張れコールのオンパレード、誰が考えたのか？阪神淡路大震災時には見られなかった現象です。

「頑張る」を広辞苑で調べてみますと、次の三つの意味が書かれています。①我意を張り通す。(まちがいないとーる) ②どこまでも忍耐して努力する。(成功するまでーる) ③ある場所を占めて動かない。(入口でーる) 政府や関電首脳は、①の意味で、被災地現場や原発で復旧支援に当たっている人々②の意味で、「頑張っている」のではないで

しょうか。しかし、被災者の中には「何をどのように頑張れというのか？将来展望と具体策を明示してくれないと頑張りようがない。」と思っておられる方も少なくないのではないでしょうか。私たちの学校現場でもこの「頑張れ」という言葉は飛び交います。私自身も結構容易に使ってしまいます。「なあ、もうちょっと頑張れよ。」と言いたくなる場面が本場に多いのです。打たれ弱く、基礎的生活習慣が備わらないまま高校生になってしまった生徒がたくさんいます。義務教育とはいえ、勉強しようがしまいが、学校に行こうが行くまいが、みんな進級・卒業できるというシステムを変えなければ、教育再生はできないように思います。大会出場や優勝目指して練習に励んでいる生徒に、「頑張れよ。応援しているよ。」と声をかければ、「有難うございます。頑張ります。」と答えてくるのが一般的ですが、人間関係で悩んでいる生徒に「頑張れよ。」と声をかけても、下を向いて「無理です。」という返事が戻ってくるのが落ちです。この場合、本人の状況をよく把握しどのようにしたら上手くゆくかアドバイスをしてあげなければ生徒は動きが取れない

まま③の頑張り方をしてしまいます。教員の仕事についても同様のことが言えます。具体的な指示をしないと①で頑張ってしまう場合があり、こちらが期待している成果が上がリません。「頑張る」を英語にすると、*work hard to do something* となり具体的です。「頑張る」を考えながら、言葉の定義を共有することがコミュニケーションにとって必要であるということを変更して痛感しました。

111

2011/05/23

## しあわせの鳥

3月に卒業した特進コース一期生の生徒が近況報告に来てくれました。彼女は入学当時からコツコツ勉強し順調に成績を上げてゆき、兵庫県立大学の看護学部へ合格した真面目な生徒です。看護師は国家試験に合格せねばならず、入学後もしっかりと勉強をしなければなりません。「今は少しホッとしています。国家試験目指してまた頑張ります。看

護師の仕事は体力もいるので、朝早くからパン屋さんでアルバイトをして体も鍛えています。」と言っていました。また彼女は、「好文学園に入って本当に良かったと思います。担任の臼谷先生は、私たちが「先生倒れないかな。」と心配するほど必死になって指導してくださいました。休みの日まで小論文の補習をしてくださった黒山先生にも本当に感謝しています。多くの先生方のお蔭で合格できました。本当にありがとうございます。」と深々と頭を下げて帰りました。この生徒に対して満足度100%を達成できたことを大変嬉しく思うとともに、特進チームの先生方にここから感謝いたしております。本校では以前にも特進コースを設置していました。しかし、具体的な目標や方法論がなく、個人の教員の力量に任せていたため、芳しい結果が得られず、コースは廃止に至ったと聞いています。それ以降、本校は勉強にはあまり力を入れない学校だとの評価が定着したとも聞きました。本校はマンガ・アニメやデザイン美術などのコース制をとっていますが、普通科の高校であり、基本はあくまで英・数・国・理・社などの主要科目です。ですからこ



の基本科目の学力をしっかりとつけることを疎かにはできません。そして、入学時より、学力も人間力も伸ばして卒業できなければ本校で学んだ意味がありません。そこで、学校改革の一環として、新たに特進コースを設置することに決めたのです。成果を確かなものとするため、受験のプロである河合塾さんと連携し、そのノウハウを吸収しながら受験指導に再挑戦しました。本校の特進に入ってくる生徒は、他のコースより合格基準点が相当高いため、基礎学力がある程度は備えた生徒で

すが、受験体制で勉強してきたわけではありません。3年間で中堅国公立や関関同立に合格するためには、教師も生徒もかなりの努力が求められました。特進チームはそれを見事に成し遂げ、一期生11名中6名が中堅国公立に合格という結果を出してくれました。特進のこの成果で本校への入学希望者が増えるとは全く考えていませんし、それを目的に特進コースを再構築したのでもありません。特進編成の目的は外部的なものより内部的なものでした。すなわち、本校の教師と在校生に「やればできる」という自信を与えるひとつの機関車役を期待したのです。残念ながらかつては、教師にも生徒にも、自分たちの学校は勉強のできない学校だという固定観念が染みついていました。そして、授業や教材の研究もなおざりになっていました。私はこの負け犬根性に無性に腹が立ちました。勉強ができる恵まれた環境に育ち、早くから受験体制で来た学力の高い生徒をとって、受験指導に長けた教師が勉強を教えたら、難関大学合格の確立は高まります。しかし、世の中には、やればできる可能性があるのに、頭から諦めていたり、挑戦の仕方がわからないまま

たりする生徒たちが沢山います。この子らの視野を広げ、高みを目指して挑戦する気概を持たすことができれば、教育における階層移動は起こらず、格差は広がるばかりです。本校の使命はここにこそあると考えています。特に入学したばかりの1年生の中には、現状に不満を抱いたままの生徒がいつもいます。こういう子たちを見ると、昔、読んだ次のような童話を思い出します。確か、「しあわせの島」というタイトルではなかったかと思えます。子供は悪さばかりし、大人は昼日向から酒を飲んで一向に働かず、荒れ放題の貧しい島がありました。大人も子供も自分たちの境遇を嘆き不満ばかりを口にしていました。この島に一人の老人がいました。ある時、この老人が、「わしは、食べ物も豊かで、人々も幸せに暮らしている島を知っているんじゃない」と、話をしました。みんなは、「その島はどこにある？その島にゆきたい。」といいました。老人は、「その島にはこの海を何日も何日も船で旅してゆかねばならない。みんなが乗れる大きな船も必要だし、みんなの食料も必要だ。」といいました。みんなは一日も早くそのしあわせの島に行きたく

て、老人に教えるを乞いながら、船を造る準備を始め、食糧確保のために荒れ果てていた田畑に戻り鋤や鍬を手にしました。それから一年たち、二年たち、みんなは、「もうこのくらいの準備で大丈夫か？」と老人に聞くと、「これではまだまだ足りない。もつと多くの食料を用意しないと途中で餓死してしまう。」と老人は答えました。島の人たちはさらに一生懸命に働き、このような問答を繰り返しながら長い年月が過ぎました。そして、老人はいよいよ歳をとり、床に臥すようになりました。焦った人々は、老人のところに集まり、「ご老人、しあわせの島はどこにあるのですか？どうかその場所を教えてください。」といいました。老人は最後の力を振り絞り答えました。「しあわせの島、それは、ここじゃよ。ここがそのしあわせの島じゃ。」老人は努力もせず不平不満ばかりを口にし、一向に働こうとしなかった人々に、希望を持たせ、それに向かつて努力することで自己改革を促し、島を再生させたのです。わたしはこのお話がとても気に入っています。満足は、成功は、与えられるのを待つものではなく自ら切り開くもの。このことを一人でも多くの生徒

に理解させたいと思っています。私の小さい時のテーマソングは水前寺清子の「365歩のマーチ」でした。古いですね。今の若い人にはわかりませんよね。でもこの歌詞が好きでした。「しあわせは歩いてこない、だから歩いてゆくんだけ。一日一歩、三日で三歩、三歩進んで二歩下がる。人生はワン・ツーパンチ、汗かきべそかき歩こうよ。あなたの付けた足跡にや、きれいな花が咲くでしょう。」

112

2011/05/27

This time is  
different?

アメリカの経済学者が、バブルの生成と崩壊や経済事象に関する歴史的検証の書として、「This time is different」というタイトルの本を昨年出版し雑誌の書評などで少し話題になりました。「今回は違う」というタイトルですが、結論は逆説的であり、「今回も違わなかった」なのです。ガルブレイス教授は



「バブルの物語」の中で17世紀のオランダにおけるチューリップバブルから現代のバブルまでの歴史を振り返り、新しい技術や金融商品が開発されると、「今までとは今回は違う」という空気が作られるが、それに騙されてはいけないというようなことを述べています。

20年間FRB議長の仕事にありマエストロ(名指揮者)といわれ、実体とかけ離れた株式投機熱に「根柢なき熱狂」と警鐘を鳴らしたアラン・グリーンズパン氏でさえ、IT革命により今までとは違う景気後退に陥らない持続的経済成長が続くとの楽観論を述べたことがあります。ましてや、我々凡人は、ちょっと目新しいモノが出てきたり、なじみのないことに出遭ったりすると、「今までとは違う」と思ってしまう、解決方法がわからなくなりかけます。実は、最近、生徒指導上の問題でこれに類するケースに遭遇しました。そうすると、「今までと違う。生徒が変わった。」と思ってしまう。しかし、よくよく話を聴き情報分析を行いますと、そのように思えた相手のリアクションは、やはり従来の生徒同様、中学校までの生活の中で、学校や教師、親、兄弟等々との人間関係の中で形成された

ものであることがわかります。そうならば、誠心誠意その生徒の心の扉を開かせるいつもの通りの指導をより深化させればよいという結論に至ります。時間はかかるかもしれませんが、けっして未知との遭遇ではないのです。

「This time is not different」なのです。しかし、こちらの気持ちになかなか理解してもらえないというのは、コミュニケーションが成立していないということであり、通じる言葉で話をしなければならいと考えますが、生徒のためを思い一生懸命に指導している教員が気の毒にも思えます。本校の特色である親身の指導の効果が出せないとなると無力感に苛まれ気持ちが沈みがちになります。ふと、大学時代に失恋したとき手に取ったバイロンの詩のタイトル、「わが心の沈むとき」を思い出し、書棚から久しぶりに取り出し開いてみました。本の裏拍子に「1977・9・21」の記載がありました。34年ぶりに開いたことになりました。「わが心の沈むとき、君は泣くと告げるのかいま一度び、くりかえせよ、美しいひとよしかし、その言葉が悲しいとおもうならば、やめよ君の胸の、痛むのを、私は好まない。」(阿部知二訳)しかし、

天は我々を見離しません。つい2日ほど前に「あの子どうしてるかな？」と当時の担任さんと話していた中途退学した生徒が、昨日、顔を見せてくれました。不思議なものです。こちらの心配する気持ちが彼女に通じ呼び寄せたようにも思えました。しばらくアルバイトをしていたのですが、高校卒業資格をとる勉強を始めることに決め、本校での履修証明書ももらいに来たのです。「あんなに良くしてくれた先生たちの期待を裏切った自分が本当に馬鹿だと思った。戻れるものなら戻りたいと何度も思った。こんなにいい学校はないってみんなに勧めている。」と後悔の念でいっぱいでした。この子は過ちに気づくのが少し遅かったのですが、ようやく気づき、やり直そうとして顔を見せに来てくれました。「卒業証書は渡せなかったけれど、好文は君の母校だから、いつでも戻っておいで。高卒認定試験合格の知らせを待っているよ。」と言って、担任だった先生と二人で玄関まで見送りました。なんだか喉につかえていた小骨が取れたようでホッとしました。そしてまた今日、一年生のお母様が、「今まで勉強ができないとコンプレックスを持っていたうちの

113

2011/06/01

## クールビズ再考

娘が、好文に入って、中間試験の結果を喜んで見せてくれました。まだ入学後二か月足らずですが、楽しく学校生活を送っています。入学させて本当に良かったと思います。」と、校長室を訪ねてくださいました。ありがたいことです。また勇気を頂きました。早速一年生の担任と学年主任に報告しました。やっぱり、「This time is not different. And did it my way.」<sup>1)</sup>。

夏場の軽装化のクールビズは、涼しい、恰好良いという意味のCoolとBusinessの短縮形<sup>2)</sup>を組み合わせた造語ですが、小泉内閣の時に提唱され、すっかりお馴染みになりました。本校の先生は、以前から服装はきちんとした人が多く、男性はほとんどみなネクタイを締めています。夏場はさすがに大変だと思ひ、ノーネクタイ、ノージャケットを認め

ています。但し、必要なときには着用できるよう、常にネクタイと上着の用意をお願いしております。ただ、政治家がクールビズを率先していることを宣伝するようにノーネクタイでテレビに映るのを見ると、どうも締めりがなく、只でさえ信頼性が低い人が多いのに、ますます軽薄に見えてしまい、いかがなものかと思っております。ところが、今年、東北大地震による福島原発事故に端を発した浜岡原発の停止や各地の原発の再稼働延期により、電力不足が深刻化の様相を呈しており、クールビズがさらに広がっています。そして、環境省地球環境局は「スーパークールビズ」と銘打って、職員に思い思いのTシャツ、ジーンズ、サンダルの着用を認めるというより推奨しており、自治体によればアロハシャツまで認めるというニュース報道に接し、「いいかげんにせい」と少なからぬ憤りを感じております。いかに暑いからと言って、政治家や官僚、役人ともあろう人々が、あまりにもけじめがなさすぎると思うのです。仕事場で、ネクタイを外し、上着を脱げば事は足りるはず。日本が亜熱帯に入ったというなら東南アジアの国々のようにユニ

フォームを制定すればまだしも、カジュアル・ウェアにするのは考えが違ふと思います。アロハシャツを着て、真面目な話ができるのでしょうか。私たちは学校できちんと制服を着るよう指導しながら、ONとOFFのけじめをつけることの大切さを教えています。勉強や仕事をする心構えが服装に出るのだと。人の上に立ち社会の指導的立場にある方々がこれでは情けないと思います。そして、けつしてカッコいいとも思えません。

2009年6月18日付の校長メッセージにて、私の考え方を発信しております。下記、原文のまま掲載いたします。

蒸し暑い季節がやってきました。背広を着てネクタイを締めての通勤、授業は大変だと思ひます。男性はノー・ジャケット、ノー・ネクタイで結構です。ただし、いつでも保護者対応等が出来る準備はしておいてください。また、生徒には制服の着用を義務付けているのですから、教員も自ずと制約を受けるべきです。授業のある日に遊びに行くのと同じようなカジュアル・ウェアはふさわしくあり

## 痩せ我慢のすすめ

ません。特に昨今女性の服装は、カジュアルとオフィシャルの境がファジーになってきていますが、学校では世間常識より一段厳しい基準で臨んでください。男性のスリッパもそろそろ考えていただきたいです。きついかか足が蒸れるとか文句を言う生徒に、上履きの後ろを踏むなど指導しています。少なくとも授業や校内を歩きまわる時は靴を履いてほしいです。外部からの来客の眼はそのあたりも見ています。公立ではなく私立として、女子校として、流石だなど思われる服装を心がけてください。教師が範を示すこと、これが大事です。

6月4日(土)、5日(日)の二日間、インターハイの出場権をかけた弓道春季大会が大阪城弓道場にて行われ、私も大阪高体連弓道専門部長として出席いたしました。本校



は、危うく二年連続で団体優勝を逃すところでしたが、ライバル校の失速に助けられ、 कारणとして優勝を手にすることができました。運も実力のうち。専門部部长として自校の生徒に賞状とトロフィーを手渡すことが出来るのはやはり嬉しいものです。本校の弓道顧問は勤続5年目、今年専任になったばかりの27歳の教諭です。前顧問によればまだまだ修行が足りないとのことですが、ものすごく努力し頑張っており将来を大いに期待しております。彼は大学を卒業後、一流都銀に入り銀行員を二年ほど経験し、本校に非常勤としてきました。採用面接時の感想は、とにかく素朴で真面目な青年という一言に尽きました。かなりくたびれた靴を履いていたのが印象的

でした。預金集めにかなり苦勞している跡が窺えました。銀行でお金を相手にキャリア・アップを図ってゆく金融マンタイプではなく、子供たちの中に入って教師として成長してゆくほうが向いている人だと感じました。本人が高校時代から弓道をやっていたこともあり、国語の教師と弓道部顧問助手から始め、常勤講師になってからは一年生の担任も持ち、弓道部顧問としてクラブ員を指導してきました。大変礼儀正しく社会常識もそれなりに備えています。今年採用した非常勤の先生の中にも企業勤務経験者がいますが、フットワークが軽いです。学校では採用時に、教職一本で来た人と他の職業についていた人とで給与に差をつけることが一般化しています。教師経験が長いからといってその人が優れた教師とは限りません。むしろ大卒後すぐに教員になって他の社会を知らない人の中には、企業に勤めた経験がある人と比べて、礼儀や社会常識が著しく劣る人がいます。さて、試合終了後の表彰のあとの部長挨拶で、スパークルビズに言及いたしました。礼に始まり礼に終わる弓道に没頭する高校生を見ながら、新聞に掲載されていた、アロハ



シャツで笑っている霞が関のお役人の顔がだいぶりました。「霞が関の官僚より君たちの方がはるかに立派です。弓道に学ぶ君たち若者が社会のそれぞれの分野でリーダーとして活躍してくれる日を楽しみにしています。」と私の気持ちを伝えました。昨年創刊された「高校弓道」magazine 創刊号に慶應義塾高等学校体育會弓術部の生徒が書いた文章が載っています。かれはこの部が理不尽であると言います。そして世の中もまた理不尽である。しかし、社会の合理性のため、個人は理不尽を受け付けなくてはならないと。さすが

慶應義塾と感心しました。慶応の生徒から貴重な教訓を得たように思います。

慶應義塾の創設者、福沢諭吉に「瘦せ我慢の説」という著作があります。幕臣であったにもかかわらず維新後新政府の高官に収まった勝海舟と榎本武揚を痛烈に批判したものです。武士としての筋を通す生き方と融通無碍な生き方、どちらが正しいのか、それは各々が抱く武士道に対する解釈と美意識の問題だと思います。しかし、責任ある立場の人にはある種の瘦せ我慢が必要じゃないかと思いません。イギリス人は砂漠でも上着を脱がないと言われます。これはイギリス紳士の真骨頂を表すものです。1999年の夏、ロンドンの金融街シティーを訪ねたことがあります。シティーは日本でいえば東京丸の内です。タクシীর窓からは夏のロンドンらしいカラフルでカジュアルな服装の人々が歩いている姿が目に入りました。それがシティーに近づくと一変しました。男女ともダークスーツで背筋を伸ばし颯爽と歩いており、さすがは国際金融の中心地だと、身が引き締まる思いをしました。シティーに対抗して造られていたウォーターフロント再開発地域のカナリー・

ワーフの高層ビルにも参りましたが、アメリカ系の金融機関が多かったせいとか、こちらは若干カジュアルな雰囲気がありました。日本でも少し前までは銀行員といえば最もお堅い職業で、ダークスーツを着るのが当然だと考えられていました。かつて三菱銀行が東京銀行と合併した時、「最初の役員会で、三菱の人はみんな白のワイシャツを着ていたのに、東銀の人はカラーシャツやストライプを着ていた。二回目の役員会ではそれが逆になっていた。」という記事が日経に載りました。これ



CITY OF LONDON

は当時、国内業務主流の三菱と海外業務主流の東銀の服装に関する感覚の違いを表す滑稽な話として伝えられました。ワイシャツの色が議論になっていったレベルでした。しかし、その後、銀行もクルーズを率先し、カジュアルジャケットで客先訪問するケースも出てきました。前の職場で融資や金利の交渉をしていた頃、こちらがスーツにネクタイをしているのに相手が遊びに行くような格好で来られたのには少なからぬ抵抗感を持ったことを思い出します。特に信用を重んじる銀行にあつては客先訪問や接客時にはスーツでネクタイを締めていただきたいと思えます。私がお客様がお越しになったら必ず上着を着ます。もちろんネクタイもきちんと締めなおします。それがお客様をお迎えするマナーだと考えています。スーパークールビズについてはマスコミも好意的です。価値観を変えてよいのではないかとの論調も見受けられます。しかし、私は世の中には変えてよいものといかないものがあり、筋やけじめはつけなければならぬと思います。そして社会において責任ある地位の人々には痩せ我慢をしてほしいと思います。

115

2011/07/07

## 『心の下流化』に ストップを

今年も早いもので半分が過ぎ、折り返しに入りました。本校では6月25日を皮切りに平成24年度入試のための学校見学会が始まりました。その一環として、先日、市内の中学校に出前授業に担当教員とともに行ってまいりました。出前授業の前に、体育館に中学三年生を集めて、各校の紹介が行われ、今回は私がトップバッターでした。校長も5年目ともなればある程度は話慣れてくるのですが、5分でPRするとなると結構難しいものです。学校の先生は話が長いと言われます。確かにそう思います。あれもこれも言おうと思うとどうしても長くなります。一生懸命が逆効果になる場合もありますので要注意です。さて、私は、昨今の生徒たちの環境や実情がわかればわかるほど「夢」や「希望」とか「頑張る」や「努力」という言葉を容易に使うことに抵抗を感じるようになりました。そし

て、あまりにも理想的なあるべき論を聞かされると興奮してしまいます。根っからの教師ではない私は、ある時は生徒目線、ある時は保護者目線で、教師を見ることがあります。私が校長就任時に定めた本校の使命は、「生徒に夢と希望を与え、自立した社会に貢献できる女性を育てる」ことであり、この信念は微動だにしておりません。しかしながら、個々の生徒に具体的にどのような指導をしてゆくべきかについては試行錯誤の毎日です。「頑張れ」と言って頑張ればこんな簡単なことではないのですが、そうはいきません。「夢を持って」と言われて夢が浮かぶというものでもありません。頑張ることや夢を持つことが目的化すると焦りが生じます。そこで私は、「高校生は学校生活を通じて、勉強でもクラブ活動でも友人関係でも失敗と挫折を繰り返しながら学びとってゆくことが大切だと思えます。」というお話をいたしました。そして、「私自身振り返ると、成功よりも失敗の方が多かったように思いますが、そこから少しでも学ぶことによつて、今この場でみなさんにこうやつてお話をしています。失敗や挫折で悩みもう一度やり直したいと思つて

いる人は是非、好文学園に来てください。私が沢山失敗談をお話しします。」と申し上げました。これが私の偽らざる気持ちです。企業を長続きさせようと思えば、倒産した会社を研究し、その会社がやったことの反対をすれば良いという話を聴いたことがあります。ヒット商品を次々に出して成功を重ねようとするのは資金力の小さな中小企業では容易ではありません。企業規模拡大に走ったばかりに過剰投資で倒産というケースもあります。規模を問わず適正に十分な利益を確保しつつ永続するほうが、経営一族のみならず従業員にもお客様にも幸せであると言えるかも知れません。人の一生もまたこれと同じように考えることが出来るのではないのでしょうか。成功談を聞きますと、「わあ、すごいな。偉い人だな」と思い、「よし、私も頑張ってみよう」と思う子供より最近では、「でも、私には無理やな」と思ってしまう子が多いように思います。その点、失敗談を聞くと、自分との共通点にうなずくことが出来、それを克服した方法を知れば、少しは自分も試してみようという気になるのではないのでしょうか。同じ目線で共感から入れることが失敗から学ぶこ

との利点だと思っています。私に続いて数校の学校紹介があり、その中である先生が、「最近は大卒でも就職率が9割程度で、仕事にあぶれた大卒が高卒の仕事にまで進出しています。そのような大卒をものともせず、本校は高卒での就職をターゲットにしており、就職率は100%です。高卒で就職し夢をかなえましょう。」というような趣旨のアピールをされました。確かに就職率だけを見ればそういうことが言えるかもしれませんが、技術系などでは高卒でも資格を取りスキルを身につけていると重宝されますから、この先生のおっしゃることは間違いではないと思います。しかし一方で、難関大学の卒業生が大手企業の就活で圧倒的に有利であることも事実です。そもそも大手の商社や金融では高卒採用はありませんし、メーカーでも工場のラインは別として、営業、企画、研究開発部門では高卒での採用がありません。大手企業で働くだけが幸せではなく、中小企業でも働き甲斐のある会社はあると思います。しかし、なかなか学生は中小企業へ行きませんが、私自身、大学卒業後、暫く大企業で働きましたが、やはり舞台も装置も揃っていません。

ただ、重厚長大からソフトパワーに産業の比重が移りつつある今、企業の規模を問うことに意味がなくなりつつあることも事実です。個別の企業における仕事内容でやりがいがあります。21世紀は知能社会といわれ知識が重要な生産要素と考えられています。そして、知識を生かし高度な判断を伴う専門的で中核的な仕事と、労働集約的な単純な仕事とに二極分解が進んでいます。従って、高等教育すなわち大学で学ぶことは益々選択の自由を広げることにつながり、専門的で中核的な業務に携われる機会を創出することになります。本校で就職する生徒の多くは販売職です。かつてのよきな事務職の求人ほとんどありません。いったん販売職で就職しても単純な仕事に飽きたらず、再度専門学校に行き直し資格を取る生徒もいます。安定性や給与面から自立を確実にするにはやはり高卒では厳しいというのが私の実感です。もともと、生徒には各々家庭の事情があり、思い通りには進路を決めることが出来ないことは重々承知しています。が、保護者ともよく話をし、また本人の努力も喚起し、奨学金制度の利用なども考慮に入



れば、かなり自由度の高い進路選択が可能となります。私が危機感を持っているのは、昨今の先進国の傾向である「親の世代よりも豊かな生活が出来ないと考える若者が増えている」ことではなく、高みを指そうとしている若者が増えていることです。フリーターやアルバイトでもそこそこ食べてゆけるのでそれでいいのではないかと、安易な生活感覚、そしてじっくり自頭を使って考えないで携帯とインターネットに依存した思考パターンです。観察力と向上心の低下と学びからの逃

避、私はこれを「心の下流化」と呼ぼうと思います。かつて阿部寛主演の「ドラゴン桜」というドラマ、ご覧になった方も多いと思います。つぶれかかった私立高校の立て直しを任された型破りの弁護士が、落ちこぼれの生徒たちにビシバシ勉強させて東大に入れるという話でした。最終回では東大に合格したにもかかわらず東大に行かず別の道を選択するという生徒も出てきました。「東大に行けば勝ち組になれる」という極めてストレートで説得力のある話で生徒を引っ張ってゆくのですが、それは一つの方便で、その過程で各々が学びを通じて負け犬根性から脱却し意識改革を遂げるわけです。「東大に行ったからといってみんなが成功するわけじゃない」とか「大卒でも就職できない学生もいるし、無理して大学に行っても意味がない」と言う人がいます。確かに最近では、大学間格差が広がるとともに、大企業になればなるほど社内での競争も激しく、一流大学から一流企業というコースは安定と成功を確保する代名詞ではなくなりました。しかし、だからと言って東大に行く価値、大卒の価値がないということにはなりません。例外のないルールはないので

ですが、例外を取り上げて本質の価値を否定するのは間違いだと思います。だいたいこのようなことを言う人に限って、ご本人は結構高学歴で社会的にそこそこの地位にいるものです。その地位にいるから見える景色もあります。そこまで登ってきていないでまだ麓でウロウロしている子供たちには、先ず、登ることを教えるべきだと思います。高さに応じた景色の良し悪しはそこまで行った時に彼らに判断させればよいことだと思います。

116

2011/07/13

## 高学歴化 就職に直結せず

労働経済白書11年版が発表され、先日新聞に掲載のタイトルでその内容の一部が紹介されていきました。大学進学率が1990年以降急速に上昇する一方で、教える内容が社会のニーズに合っていないと分析し、若者の高学歴化が必ずしも就職につながっていないと指摘しています。そして、大学の就職支援や

学生に教える内容の再検討が必要だと指摘しています。理工系に比べて人文社会系で卒業後進学も就職もしない人が多いとも言い、学科構成が社会のニーズに合っていないといえます。この記事だけを読むと、大学卒の価値が下がり、特に文科系は就職に不利だという安易な結論を招きかねません。また、文学や哲学などは役に立たず、より実務的な科目を大学で教えるべきだとの意見に勢いを与える懸念があります。規制緩和により過去20年間に大学がどんどん新設され、それに伴ってポスター・フリー（BF）偏差値が出ない、誰でも入れる）の大学が増えてきたため、学力にも社会常識にも欠ける大卒が増えてきました。以前では大学に入ることが出来ない、入る資格のない人まで大学に入れるようになったのです。一方で企業は生産人口の減少に伴う消費の減退により、採用人員は増加することはなくむしろ控えめとなりました。従って雇用における需給ギャップが拡大し、大卒すべてが就職できる状況ではなくなったわけです。従って、大学を目指すなら、教育レベルや研究開発レベルの高い大学を選ばなければならず、そのためにはしっかりと勉強

をしなさいという全く当然至極の結果となつたわけです。大学バブルが弾けたと言えるのではないのでしょうか。学科構成が社会のニーズに合っていないといいますが、即戦力に走りすぎるとスキルは身に付きますが深く考える力や想像力は置き去りになると思います。ソニーの社長を勤められ、今年4月に亡くなられた大賀典雄氏は東京芸術大学音楽部声楽科を卒業しベルリン国立芸術大学も卒業という変わり種です。ソニーの製品開発、広告宣伝に大いに貢献した経営者として高い評価を得ておられます。大賀さんは例外中の例外だと言われるかもしれませんが、範囲を狭めた実務的な勉強ばかりしていると複眼でものを見ることが出来なくなり、教養が身につかず、想像力や創造力が生まれなれないと思います。最近の大学が就職に直結することを追いつめるあまり専門学校化していることがさらに大学の質を低下させているのではないかと思います。白書をさらにインターネットから拾い読みしてみますと、最近の若者の仕事観が、「楽しく仕事をしたい」ことと「社会の役に立つ仕事をしたい」ことに比重が置かれ、「高い給与」や「失敗を恐れずチャレンジ

する」ことには関心が薄いことがわかります。これはやはり日本が基本的には豊かな成熟社会に入りかつ危機感が薄いなか、いわゆる草食系の若者が増えている証しかもしれません。心優しい若者が増えているとも言えますが、打たれ弱さは自立を阻みます。何を学ぶかではなく、何にどう学ぶかが問われているのではないのでしょうか。

117

2011/07/30

## エンジンバラ紀行

6月末、久しぶりに休暇を取りエンジンバラ大学の卒業式に参列するため5年ぶりにシベリア大陸上空を飛びイギリスはスコットランドの首都エンジンバラに向いました。関空を飛び立ち、オランダのアムステルダムで乗り換え、エンジンバラまで約15時間の長旅です。機内で、広瀬隆著『福島原発メルトダウン』（朝日新書）と藻谷浩介著『デフレの正体』（角川書店）を読みました。広瀬氏の著書から



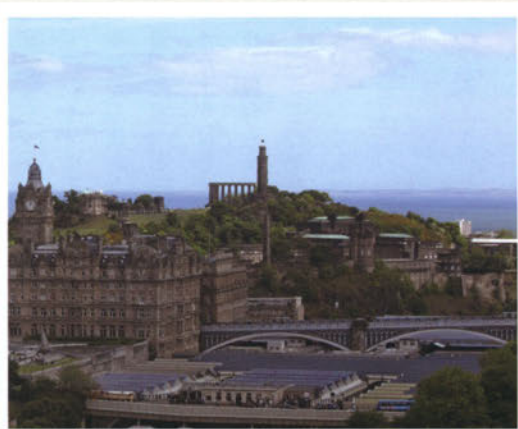
は、活断層の存在を軽視あるいは隠ぺいして原発建設が国策として行われていったことに気づかされ愕然としました。藻谷氏は我が国のデフレの正体を生産年齢人口の激減と高齢者の激増による人口問題に起因すると捉えており、経済成長を前提にした景気回復は壁に突き当たっており、量から質への転換が必要だと述べています。スイス、フランス、イタリアなど金融やファッションで世界的なブランドを確立している国を見習い、日本ブランドを再構築せよという提案には共感を覚えません。

長時間のフライトを終えて降り立ったエンジンバラは、この時期の日本では考えられないほどヒンヤリとしており涼しいを通り越して寒く、早速カバンからダウンジャケットを取り出しました。Immigration Counterでは入国管理官の男性が「入国目的はなんですか。お仕事ですか観光ですか？」とお決まりの質問。「息子のエジンバラ大学卒業式に参列のために来ました。」と具体的に答えますと、「息子さんの成績はいかがでしたか？」と、なかなかオシャレな質問が返ってきました。日本では無機質なやり取りしか行われません



が、とても温かみがありフレンドリーな感じを受けました。「So so (ますますでした。)」と答え、パスポートを返してもらい *Backstage Claim* に進みました。実はこの入国管理官の質問から日本とイギリスの大学の違いが浮かび上がってくるのです。日本の大学は入るのは難しいが出るのはやさしい、一方、外国の大学は入るのはそんなに難しくないが出るのが難しいと言われます。入学試験制度は違いますが海外でも難関大学に入るのはそう簡単ではありません。ただ、卒業は日本の大学に

比べると格段に厳しいのです。授業駒数は少ない代わり、ほぼ月一でのエッセイの提出があります。膨大な文献を読んで、異なる見解に言及しつつ自分の意見を述べる必要があります。卒論は最後の山場ですが、担当教授からダメ押しが何度も入ります。「東大法学部首席卒業」という話を聞くことはありますが、日本では卒業にランクはつけません。首席でもカツカツでも同じ学士としての卒業証書をもらいます。しかし、英国では卒業証書の中にそのランクが明記されます。ランクは、*First class honours (1st)*、*Upper second honours (2 : 1 Two one)*、*Lower second honours (2 : 2 Two two)*、*Third class honours (3rd)*、*Ordinary Degree (Pass)* の5段階です。就職や大学院進学にこの成績が大きく影響を及ぼしますので、学生たちは必死で勉強します。ただ今は英国も不景気で一流大学を出ても就職が難しい状況は日本や米国と同じです。英国には11世紀に創立されたオックスフォード大学と12世紀創設のケンブリッジ大学を筆頭に約120の大学がありますが、パッキンガム大学が唯一の私立大学であり、あとはすべて英国政府の補助を受



けており日本でいうと国立大学となります。オックスブリッジ（オックスフォード大学とケンブリッジ大学を合わせた呼称）創設以降はイングランドでの大学は19世紀までは途絶えますが、その間、中世からルネッサンス期（15世紀から16世紀）にかけスコットランドではセントアンドリュース、グラスゴー、アバディーン、エジンバラの4つの大学が生まれ（オックスブリッジとこの4つの大学を含めた6大学はAncient Universityと呼ばれる）、18世紀の啓蒙思想と産業革命を

担うこととなります。哲学者デビット・ヒューム、経済学者アダム・スミス、自然科学者チャールズ・ダーウィン、蒸気機関技師のロバート・ステイブソン、電話を発明したアレクサンダー・グラハム・ベルなどが活躍しました。明治維新において、グラスゴーやエジンバラからお雇い外国人教師を招き、日本の大学教育を確立していったという歴史もあり、日本とは縁があります。英国の大学における教育と研究のレベルは政府の厳格な調査によりランク付けされ補助金額が変わるため相対的に高く、大学間におけるDegree（学位）の水準が大きく違わないといわれています。超難関大学と言われるオックスブリッジでも卒業時の成績が低いと、他大学の上位者に就職時に先を越されると言えます。日本の大学はレジャーランドになって久しく、大学教育の改革が叫ばれています。英国の高等教育に見習うべき点が多々あるように思います。

今回は卒業式参列のためだけの訪英で、日曜日を含めて3泊4日というショートステイではありませんが、市内はゆっくり見ることができました。街の中は結構ゴミが多いです。

ゴミを捨てる人の階層はだいたい決まっております、そのゴミは掃除する人が来るまでそのままになっていると聞き、英国の階級社会を垣間見たような気がしました。もつとも最近では日本でも似たような光景に出遭うことがあります。エジンバラは街自体がユネスコの世界遺産に登録されています。大学のキャンパスは街の一角に限定されています。街の中に大学のそれぞれの建物が融合しています。近代的なビルもありますが教会と見間違えるよ



うな立派な建築物が沢山残っており歴史の重みを感じました。日本では、歴史的建造物が次々に取り壊されてゆくとともに、どこの町に行っても同じようなチェーン店のコンビニや紳士服店、パチンコ店などが軒を並べ、派手な幟と照明で趣が全く失われてしまっています。藻谷氏もその著の中で、魅力ある街づくりについて述べていますが、奈良や京都などの一部観光地を除くと、日常生活をする街においてその地域に根差した独自色を出すことは今からでは遅いような気がいたします。「日本はきれい(clean・清潔)だけど、きれい(beautiful・美しい)ではない。」と感じます。古いモノの不便さにもかかわらず良いものをながく使おうという文化が、消費文化に一扫されて「安物買いの銭失い」となってしまったように思えてなりません。短い旅でしたが、教育も街づくりも不易流行、歴史と伝統というものをながくしろにはいけないうとつくづく考えさせられました。

118

2011/08/18

## 暑中見舞い

残暑お見舞い申し上げます。

学校の先生は夏休みが沢山あっていいなと思いの方もおられるかもしれませんが、生徒が夏休みに入っても、教職員も同じように休みにはなりません。補習授業を行ったり、二期に向けての教材研究や文化祭の準備に取り掛かったりと結構やる必要があります。昨年からは土曜授業を開始した本校では、変形労働時間制を採用しており、教職員は8月1日から15日まで少し長めの夏季休暇を取っていただくことにしています。夏休みの終盤13日と14日に大阪私学展が天満橋のOMビルで行われましたが、入試広報担当以外にも数人の若手教員が積極的に協力してくれました。二日間で昨年より少し多い24000人の方が来場してくださったと聞いておりますが、本校のブースでも昨年より多くの中学生と保護者の方とお話をさせていただくこと

ができ大変うれしく思っています。本校もかつては週休二日制で、夏休みは5日間ほどでしたが、有給休暇以外に研修日と称して別休みが取れていました。実際は何も研修はせずレポートも出さなくとも休みが取れ、生徒が休めば教員も休みといった感覚で、インターハイや全国大会等クラブ活動にも奔走する教員を横目に、休みを取り放題というお気楽教員もおりました。生徒が休みの時に特に用がなければ有給休暇を取得しゆつくり体を休めていただくことは結構なことですが、それ以外に研修日を利用して一か月近くも休みを取られるなら8月分のお給料はお返ししたくないと思つたものです。教師の仕事は情熱を傾けて一生懸命にやれば尽きることなく、サボろうと思えばいくらでも楽が出来ると思います。しかし、それも今は昔となりました。形骸化した研修日を廃止し、教員の意識改革が進み創意工夫をすればするほどやるべき仕事はどんどん増えてきました。生徒指導も効果を発揮し、勉強に対する熱意も徐々に高まってきました。そして生徒数も増加に転じてきました。好循環に入ったように思います。ここで、仕事が増えてしんどいだけ

不平を言うか、しんどい中にも教師としてのやりがいを見出すか、教師人生の分かれ道だと思っています。

形骸化と言えば、夏季の暑中見舞いや年賀状、卒業式や体育祭・文化祭の案内状など、私学高校間でのやり取りがまだに行われています。本校では私が理事長校長を兼任しておりますが、私の名前を書かず、学校長殿や理事長殿、更にはそれを別々に送ってこられるハガキを見ますと、情性で出しておられるのが見え見えます。本校では私が校長に就任いたしましたして虚礼廃止の観点からこの種のものはずべて取りやめさせていただきました。

確か20年ほど前、三菱商事が年賀状を取りやめたと聞きました。企業の場合、出す相手はお客様中心ですが、同業者間ではなおさら不要ではないかと思えます。お中元やお歳暮についても考え方が変わってきています。昔は会社の上司に贈ることが一般的であったかもしれません。しかし、上司と部下の関係は基本は目標を達成するため仕事を通じてのものであり、お世話になってる、あるいはお世話しているといった感情は無用に思います。従って少なくとも社内や校内でのお中元、お

歳暮類のやり取りはしない方が良くと考えます。贈られてきた品物を返すという徹底した対応をされている方もありますが、贈り主の純粹な気持ちや配慮すると、少し失礼かなと思います。こちらからも同額の品物をお贈りすると、ずるずる続いてしまいます。丁寧に手紙で今後は御気遣いなきようにとお願いをいたして、その意図を察していただければ一番でしょうか。暑い中、何度も配達して下さる人には気の毒で悪いのですが、正直、あのピンポン、ピンポンにハンコを持って出なければならぬのは億劫ですし、不在届にまた連絡し時間指定をして受け取るのも面倒です。その点、仕事がらみでもなく、義理で送られたものでもない年賀状や暑中見舞いは、受け取って嬉しいものです。先日、休み明けに学校に行くと、デスクの上に3年前の卒業生から「校長先生」宛で暑中見舞いが届いていました。生徒からすれば「校長先生」は固有名詞のようなものですから、他校から「学校長殿」で送られてくるハガキとは意味が違います。宅配便の会社で元気に仕事をしていると書いてありました。これからも体気を付けて頑張ってくださいとも書いてあり

ました。学校に顔出しする時は電話をするので楽しみにしていただきたいとの文章で締め括ってありました。申し訳ないのですが、名前と顔が一致しなかったのが当時の卒業アルバムを持ってきてもらい確認し、早速お返事を書きました。卒業後3年経つてようやく仕事に慣れ余裕と自信が出てきたのか、忙しい日常に高校時代が懐かしくなったのか、はたまた、何か辛いことや悩みがあるのか、どんな気持ちでこの暑中見舞いを私に送ってくれたのか、思いは巡ります。早い時期に元気な顔を見せてくれることを本当に楽しみにしています。

119

2011/08/29

## おもてなしの心

夏休みも終わりに近づいた25日、本校を会場として、大阪市立中学校総合文化祭の第4ブロック音楽会が開催されました。近隣の4中学校を始め17校の吹奏楽部や音楽部による

演奏会で、1500名を超える中学生と保護者の皆様がお越しになりました。第一体育館に用意した600席の椅子は常に満席状態で、11時に淀中学校の音楽部による琴の演奏に始まった音楽会は夕方4時半に大盛況のうちを終了いたしました。この音楽会は毎年会場を探すのに苦労されているようで、淀中学校と西淀中学校の校長先生からご依頼があり、喜んで会場を提供させて頂きました。本校では近年、学校を地域に開放する施策をどんどん進めております。グラウンドの芝生化完成記念イベントとして始めた女子小学生チーム対象のキックベースボール大会も今年で3回目となりました。また、地域のPTA主催のママさんバレー大会も第一、第二両体育館を提供し行われています。今年は盆踊り大会の練習場所としても第二体育館をお貸ししました。好文学園の実態をより多くの人に知っていただこうと思って始めた地域開放ですが、生徒や教員の教育にも効果を発揮しております。本校が主催するキックベースボール大会は、ゲームの進行は各チームの顧問や審判の方々にお任せいたしておりますが、運営は本校の生徒会が主体となって行っています。



す。今年は担当ではない生徒も「私も手伝わせてください」といって参加してくれました。音楽会では前日までにグラウンドの雑草取りから看板作り、体育館のシート敷きとパイプの設置、控室に使う一般教室の掃除などをしました。沢山の中学生と保護者の方が来られると聞いて、芝生のメンテナンスでお世話になっている阪神園芸の担当者が来て、玄関先の花壇の花を入れ替え芝生も加えてくれました。本校への思いを持っていただき、折に触れサービスをしてくださることに感謝

しております。当日は、玄関での案内や演奏と演奏の間のステージのセッティングです。広報部と生徒会、吹奏楽部の顧問、運動部と吹奏楽部の生徒たちが中心となって協力をしてくれました。自分たちの学校行事ではなく外部の方々の行事にもかかわらず、笑顔でテキパキと働く生徒と教員の姿も見てとても嬉しく思いました。学校は外部との接触が極めて少ない閉鎖的な職場です。新しい試みにも消極的になりがちです。これら一連の地域開放には、インターハイや全国大会、国体などの大きな大会の運営に慣れている生徒指導担当教頭が陣頭指揮を取りその勘所を教えてくださいました。気の利いた看板をすつと用意してくれる教員もいます。学校を地域に開放することで、教員と生徒に「おもてなしの心」が芽生えてきました。

120

2011/08/30

## 夏の狂歌一句

「白河の清きに魚の住みかねて、もとの濁りの田沼恋しき」、この江戸時代の狂歌は、賄賂政治を横行させた元凶と言われた田沼意次が老中首座から失脚し、白河藩主、松平定信が実権を握り世に言う寛政の改革を断行したものの、そのあまりに厳しい儉約政策に圧迫された庶民の不満を表したものとされています。しかし、かつて賄賂政治家の代名詞とされた田沼意次とその政治に対する見直しが行われ、台頭する商人の力を活用し、重商主義経済を進展させるとともに、印旛沼の開拓事業に象徴される新田開発など積極財政を推し進めた田沼意次に対する守旧派の巻き返しという構図で捉えられています。政治家の評価は棺を蓋いて定まると言われます。しかし、総理大臣がこの5年間で6人目ともなると、棺を蓋うまでもなく評価が下せるのではないのでしょうか。城山三郎氏の小説『男子の本懐』のモデルとなったライオン宰相、浜口雄幸は、東京駅で暴漢に狙撃され重傷を負いますが、一国の首相として国会に出席し説明責任を果たすのが務めだとして、靴も履けぬ重体ながら、黒い布を足に巻いて靴に見せかけて入院したと言います。そして、その傷と

無理がたたって亡くなります。「氣力がなくなつたから」とか「私はあなたとは違うんです」とか「国民が聞く耳をもたなくなつた」とかで総理をおやめになつたにもかかわらず、政治家を続け他人のことをとやかく言つて恥じない御仁とは格が違います。次期総理の野田佳彦氏は、対抗馬であった泣き虫タレント評論家とは異なり、地道に手堅く泥臭く政治活動をしてこられたようです。新聞によりますと、幼少期の1960年、当時の社会党委員長の浅沼稲次郎氏が日比谷公会堂で演説中に刺殺された時、「政治家は命懸けなのよ」といった母の言葉を今も覚えておられるとか。また同じく暗殺されたジョン・F・ケネディ大統領の弟で、のちに兄同様暗殺されたロバート・ケネディ司法長官を尊敬する人物に挙げておられます。真面目で実直なお人柄のように見受けられます。年齢、出身大学、学部ともに私と同じことも親近感を覚え、応援したい気持ちになります。しかし、右から左まで幅広い意見を聴くといえれば聞かぬが良いのですが、この呉越同舟政党は、政権を維持することが目的としか思えず、別れたくとも別れられない政党で、このままでは

将来はありません。ロッキード事件で刑事被告人となりながら最後までキング・メーカーとして君臨した今太閤、田中角栄元総理の薫陶を受け、竹下派七奉行のひとりといわれた小沢一郎氏は、一時は財界の期待を大いに担いましたが、その異名通り壊しに壊し続けて今回も失敗、策士策に溺れるよろしくついに太閤にはなれませんでした。そもそもこの保守の権化のような政治家がどうして市民運動家や労働組合のお歴々と一緒にやっているのが分かりません。筋が通らないのです。自民党時代は派閥政治が悪の根源のように言われました。三角大福（三木武夫、田中角栄、大平正芳、福田赳夫）などという言葉は今昔で懐かしいです。政治家に毀誉褒貶はつきものですが、あの時代の政治家はそれなりの親分でしたし、政策通で哲学も持っていました。政治家の名前と似合うポジション、大臣名がボンボンと出てきました。派閥政治や、金権政治反対を唱えて派閥解消、政治を国民の手にとばかり意気込んだものの、小グループの乱立とサラリーマン化した軽量級の政治家が増え、決断できないひ弱なリーダーが統出、危機対応に立ちすくみ、財政、外交、原

## 嵐の前の静けさ？

発事故すべてにおいて適切な対応が出来ず、国民の生命財産を守る気概のない口先だけの猿芝居を見せられ続けると、江戸の庶民ならずとも狂歌の一つでも詠みたくなります。「友愛の小鳩の里に住みかねて、もとの竹なか(中)、(小)泉恋しき」

野田新内閣が発足し、経団連会長は幹事長ポストが決まった段階で拳党体制を評価し、財界は大いに期待しているという報道がなされていますが、私はこれに違和感を持っています。私の感覚では水と油を同じ容器に入れただけで民主党という異域同舟集団の矛盾を象徴する人事だと思いました。その上、緊急事態だと言いながら、門外漢と思える初入閣者が多く、特に内閣の要とされるポスト、財務大臣と外務大臣の手腕に不安を感じます。国家財政危機の折、自他ともに財政専門家

と認める総理経験者をあえて大蔵大臣に起用した例は、古くは高橋是清(軍事費削減政策が憎まれ2・26事件で凶弾に倒れる)、最近では宮沢喜一があります。「日本再生に総力を結集」、「適材適所の配置」など威勢の良い言葉が躍りますが、どう見ても危機感を正しく反映した組閣のように思えません。ただか一昔前の学校の校務分掌の決め方を見ているようです。

学校における校務分掌の決定は言うなれば組閣です。当初の校務分掌における各役職は企業における係長、課長、部長といった実績に基づくものではなく、まさに順送り人事そのもので、その上、指揮命令系統のほとんどないクラス委員のようなものでした。4年前に学校改革を開始した時、私が最重要課題として取り上げたのは、生徒指導の徹底でした。学力向上も基礎的生活習慣と学ぶ姿勢が整わなければ絵に描いた餅に終わると考えました。従って生徒指導部長には経験、実績、見識ともに最も優れた教員を配しました。他の校務分掌の主要ポストにあたる教員もその任に適し信頼のおける人選をしました。そしてそれぞれの権限とともに責任も明確にしてま

いました。そうしなければ成果の上がる仕事は期待できません。

マスコミは、野田総理の演説はユーモアもあり上手いと評していますが、正直わたしはそんなに上手いとは思いませんし、「ドジョウと金魚」の話も、生真面目さは感じますがユーモアといえるものではありません。「全員野球」(この意味自体私には良くわからないのですが)とか「ノーサイド」とかスポーツに例えた話も、党内融和を目指した内向きのメッセージに過ぎず、国民の心に火をつけるようなビジョンやメッセージがありません。マスコミもここ数年あまりに空虚な総理のスピーチを聞かされ続けたゆえに、判断基準のハードルが下がってしまったのではないのでしょうか。新総理が就任早々に経団連会長に挨拶に行かれた時の映像をテレビで見ましたが、お辞儀があまりにも丁重すぎると感じました。威張る必要はありませんが、一国の総理なのです。90度近くまで頭を下げては、新任の営業部長が取引先の社長さんに挨拶しているような感じに受け取れました。現場第一主義で地に足がついた政治活動を信条とされていることは立派だと思いますが、一

国の宰相の器に応じて、将棋の香車の成金よろしくドジョウから金魚に変わることも必要ではないでしょうか。かつて、中国の開放政策を推進した鄧小平は「黒い猫でも白い猫でもネズミを捕る猫が良い猫」だと言ひ、制度がそぐわなければ制度を変えてゆきました。

赤い資本主義と言われたゆえんです。野田新総理には、国民生活の向上と国家の安泰のため、それこそ「民主党をぶっ壊す」意気込みで大胆な政策を打っていただきたいものです。このところ詳しい報道が皆目少なくなりましたが、福島原発の処理はさらに緊急を要しているはずで、放射能は今も拡散し続けているのではないのでしょうか。汚染されたがれきの処理も無造作に他府県に広がっているとの報道も目にします。食品の安全性についての議論も喧しくなってきました。被災者は言うに及ばず、日本国民全体の健康問題が個々人の判断にまかされたまま時が経過しています。ここにも専門家の投入と素早い対策が待たれます。政治に空白は許されないと理由で総選挙を回避し現政権で最善を尽くすと言えば聞こえが良いのですが、右から左まで政治信条の全く異なる政治家が集まって

る民主党という政党をそのまま引つ張って困難を乗り切ってゆくことが出来るのでしょうか。はなはだ疑問に思います。政界再編成は不可避だと思ひます。台風12号が接近する朝の校庭の芝生で小鳥たちが餌をついばむひと時の静寂を楽しみながら、「嵐の前の静けさ？」を感じていました。

122

2011/09/08

## ちよつと これから厳しめに

夏休み、軽井沢で久しぶりに懐かしい方にお目にかかり、夕食をご一緒しながら色々とお話を伺う機会を持ってました。前田さんは私が東京で商社勤務をしていた時、大変お世話になった方でした。大学を卒業後、伊藤忠商事に勤務した私は、紙パルプ製品部製品第一課というセクションに所属し、北米・カナダ、ヨーロッパ、台湾、ブラジルなどの国々から紙製品を輸入し、国内の製紙会社や印刷会社等に販売する仕事に従事しておりまし

た。前田さんは当時、私たちが輸入していたミルクカートンストック（牛乳パックの紙容器用の紙）のサプライヤーであったアメリカの大手製紙会社ウエア・ハウザー社の日本法人の部長をされており、紙業界では一目置かれた存在でした。事務所は青山一丁目であり、私がいた伊藤忠の本社ビルがある外苑前からは歩いて10分ほどの距離で、新米の私は何かにつけ前田さんの事務所を訪れ教えを乞うておりました。海外留学経験がないとおっしゃっておられました。上智大学のご出身で英語も堪能で、和製英語の間違いや使えない学校英語を随分と直していただきました。また、オシヤレについても一言をお持ちで、アメリカ仕込みのビジネスマンの身だしなみを教えていただきました。伊藤忠退社後、阪神淡路大震災の直後に一度こちらにお見えになりお目にかかつて以来ご無沙汰しておりましたが、7月に「8月に家族旅行で軽井沢に行くので、その時期にいらっしゃるようならお目にかかりたい」と、お電話を頂き再会がなつた次第です。久しぶりにお目にかかりお互い古巣の紙パルプ業界の話題から入りましたが、最大5万8000人もいたウエア



ハウザー社の従業員が今や1万5000人まで減少し、売り上げも2兆2000億円から9000億円にまで落ちたとのこと、今更ながらも企業社会の栄枯盛衰に驚かされました。前田さんは現在70代後半になりましたが益々お元気で、その博識を買われて大学で英語と日米文化比較論を講義されておられます。その縁で数人の大学教授や非常勤講師の方々と親しくなられ、大学教育の崩壊と教育全般の劣化につきたびたび話を聞いておられるとのこと。私が教育界に転じていることから、もっぱら教育談義に花が咲きました。前田さんからは、お知り合いで、上智大学その他でフランス語の講師を勤められているフランス文学者、黒木朋興氏のお考えを交え、ご意見を伺うことが出来ました。お知り合いの大学関係者はTOEIC排斥論者だということでした。TOEICは国際的な基準だと思っておりましたが、実はそうではないとのこと。当時の通産省の役人が文科省に対抗して独自の試験を作りたいとTOEFLを作成しているアメリカの会社に依頼して作らせたものだそうで、世界中で受験者の9割が日本人と韓国人だそうです。

また、TOEFLもアメリカ留学する学生が5回ぐらい受けた平均で最低どのくらいの点数を取っていれば博士論文が書けたかを知るために統計を取る目的でやっている試験で、TOEFLで700点とれたから英語ができるというものではないと。橋本知事が英語教育に力を入れる学校に奨励金を出す決められた時、その試験がTOEICではなくTOEFLだったので、意外に思いましたが、さすがに知事、この辺の事情をご存じだったのでしよう。これで納得がいった次



第です。大学教育の危機については、大学全入時代の到来が最大の原因と考えておられません。規制緩和で大学設立が加速し、需給バランスが大きく崩れました。学生数獲得のために、大学入試制度における受験科目の削減（私学理科系に国語、現代文がない大学があり、レポートが書けないそうです）、安易なAO入試や推薦制度が乱用され入学する学生の質が下がったと嘆いておられました。そして、専門知識を学生に教えることで企業にアピールしたい大学の姿勢が大学1・2年次における一般教養科目の削減等につながり、さらなる学力低下に拍車がかかっていると言われました。私も広報の一環で昨年いくつかの大学を訪ねましたが、AO入試や指定校推薦で入った学生と一般入試を経て入学した学生とでは基礎学力に差があり、入学後の授業に困ると教授から文句が出ているという話をあちこちで聞きました。今後はAOや推薦の枠が縮小され、一定の学力がなければ大學生にはなれないという至極もつともな時代に回帰するように思います。本校において、生徒指導では自他ともに認める目覚ましい成果が上がってきました。しかし、学力向上と

いう点では特進コースと一部チュートリアルの生徒を除けば、今一つ進展しておりません。改革当初から生徒による授業評価も取り入れ、教材研究や授業スキルの向上をやかましく言っていました。生徒が寝ようがしゃべろうがお構いなしに授業を進めていた教員には良い刺激になりましたが、考えてみれば、先生の授業が上手いとか下手とかいう前に、「覚えるべきことは覚えなさい」と言わねばなりません。生徒指導との違いを考えますと、強制力の強弱ではないかと思えます。思考力を向上させることは難しくとも、その前提となる暗記はできるはずです。しかし覚えなくともペナルティがなければ覚える意欲がわかないという怠け心があるのが人間です。勉強しなくても大学に入れるというのはその最たるものでしょう。先般、運営委員会において、一般コースの生徒の基礎学力向上プログラムの見直しを検討していただくようにお願いをいたしました。従来の進級判定基準だけではなく、読み書き計算の基礎を確実なものとするために、例えば、1年生修了時までには、英語の単語と文法はここまでは必須、数学の公式はこれだけは絶対覚える等

のハードルを設定すべきではないかと考えます。かつて本校の商業科華やかなりし頃、朝早くからそろばんをはじく音がこだましていたと言います。英文を暗誦しあう声、古文の文法の活用を唱える声が聞こえるようにしなければならぬと思います。教務における学力把握のPDCAを強化したく考えております。かつて分数のできない大学生が話題になりましたが、九九が出来ない中学生もいます。ほとんどは能力がないから出来ないのではなく、覚えるべき時に覚えなかつたから出来ないまま来てしまったと考えられます。我々が小さいころ、小学校低学年で九九を覚えるのに、父親や母親と一緒に風呂に入り、言えるまで湯船から出してもらえなかつた記憶がありませんか。私は公立の中学校に通っていましたが、古文の文法の活用を覚える際、覚えられない生徒は剣道部顧問の国語の先生に竹刀でお尻を叩かれたものです。私たちが緊張と楽しさを交えながら覚えたものです。また、その頃通っていた数学の塾の先生はいつも精神注入棒を持っておられ、簡単な問題がいつまでも出来ない、ばしっと叩かれました。お金のない家庭の生徒からは

塾代をとらないような人情味のある先生でした。教室と言っても木造二階建ての長屋で一階に二部屋、急な階段を上がると二階に一部屋しかなく、夏はランニングにステテコ姿の先生がガリ版を刷ってプリントを作成していました。狭いところで数人が夜遅くまで真剣に勉強をしていましたが、おながが減ってきます。8時ぐらいになると夜泣き蕎麦屋がチャルメラを鳴らしてやってきます。そうすると先生は「みんなの分買うて来いや」と言つて腹巻からお金を出して私に渡してくれました。あの時食べたラーメンの味は今でも懐かしく覚えています。余談になりますが、家の近くの中華料理屋のラーメンがその時の味とよく似ているので最近よく食べに通っております。先日その店のおかみさんとひよんなことから塾の話になったところ、おかみさんの娘さんもその塾に通っていたとのこと、ラーメンの味が取り持つ縁を感じました。教育の「教」という字の右のつくりは、親が棒を持って子供に注意することを表しているそうです。この棒は規律を意味していると思います。私は決して体罰を肯定するものではありませんが、教育には厳しさ、ある種

の強制が必要だと思えます。誤解のなきよう申し上げますが、竹刀や精神注入棒の使用を勧めているわけではありません。ただ、私たち当時の生徒は上述の国語の先生の竹刀や塾の数学の先生の精神注入棒を体罰だと思ったこととはありませんでした。叩き方にもちやんと心が加えられていたの言うまでもありませんが、その裏にある先生の生徒に対する愛情を私たちはきちんと受け止めていました。「教」の字のへんは交差する意味を示し親子のコミュニケーションを表していると言います。要は、親と子、教師と生徒の心のつながりを前提にした厳しさあつてこそ教育の効果が期待できるのであり、愛情のない厳しさは単なる暴力であり、厳しさのない愛情は単なる甘やかしで、教育ではないということだと思えます。英語で甘やかすは spoil と言いますが、価値、効力、美しさなどを台無しにするという意味があります。同義語として spoil があり、その意味は人や物に破壊的な手段で回復できないほどの損害を与えるとあります。道徳の荒廃やマナーの劣化、基礎学力の低下は、「大海を知らぬ井の中の蛙」には緊迫感を与えないかもしれませんが、「され

ど青空の高きを知る」私は、グローバルな競争社会に出てゆくこれからの若者の人生に破壊的な損害を与えるのではないかと危惧いたします。何とかの一つ覚えのように何でもかんでも一律に判断し、体罰だ、人権侵害だと声高に叫び、過保護に、いやむしろ本当の意味で生徒の面倒をしつかりと見ずに楽をして自分の権利のみ主張し、教えることを放棄してきた付けを、今私たちは払わされているのだと思えます。日教組の元幹部が新政権における与党の幹事長となり、新政権の文科省の政務官にもなりました。これで我が国の教育改革が進めばまことに素晴らしい喜劇です。

123

2011/09/12

## スピーチは難しい

先日、「高校生のための文化講演会」(産経新聞社、一ツ橋文芸教育振興会主催、文部科学省、集英社後援)が本校で開かれ、1・2

年生678名を前に、料理研究家のコウケンテツ氏が「ごはんを作ること、食べること、そして自分の在るべき場所を見つけること」と題して約1時間お話をして下さいました。この講演は、本校でNIE(Newspaper Education)に熱心に取り組んでいる木下教諭に産経新聞社からお話を頂き実現したものです。掃除、洗濯はやるのですが料理は人任せできた私は、恥ずかしながらコウさんのお名前を存じ上げておりませんでした。コウケンテツ氏は新進気鋭の料理研究家で、本校の教員や生徒にも沢山のファンがおります。お嬢さんから講演があるとの話を聞き是非お話を伺いたいと駆けつけられた保護者もいらつしやいました。コウさんはお父さん、お母さんが韓国から日本に来られ当初は大変苦労をされたそうです。高校でテニスに目覚めプロを志すも椎間板ヘルニアになり挫折、それがトラウマとなり仕事も長続きせず職業を転々とされたそうですが、料理研究家となっておられたお母様の料理のお仕事に魅せられて自分も同じ道に入る決心をされました。また、小さいころは病弱で扁桃腺を腫らしては熱をだし、アトピーにも苦しまれたそうです

が、お母さんが作ってくださる三度のご飯のお蔭で健康になられたとのこと。講演を通じて、正しい食事の大切さと、挫折を乗り越えてこそ自分の立ち位置を見出すことが出来るということを熱心に語ってくださいました。私の息子も中学生のころ、鮮やかな赤や緑の人工着色料いっぱいのお菓子ばかり好んで食べ、じんましんや下痢に悩まされていました。食事の大切さに気づき今ではあれこれ家族に煩いぐらいアドバイスするまでになりました。そんなことを思い出しながらお話を耳を傾けておりました。そして何よりも、私が常日頃生徒たちに語っている挫折や失敗を乗り越えてこそ成功があるというまさにそのことをご自分の経験をもとにお話し下さったことが、大変有難くまたうれしく感じた次第です。ただ、問いかけをしても前の方に座っている生徒だけが反応を示し、全体として盛り上がりには欠け、今一つ生徒の乗りが良くない雰囲気戸惑われるシーンが何度かありました。体育館に700人近くが入ると真ん中から後ろの席ではせつかくのイケメンのコウさんの顔がはつきり見えません。またパワーポイントをお使いになったのですが、スク

リーンが少し小ぶりでしたので、見にくかったのです。話し手と聞き手の物理的な距離というのはやはりマイナスに働きます。ご本人も出来栄えを気にされていたご様子でしたので、講演後にコウさんに、「体育館ではなくもう少し少ない人数でアットホームな環境でお話ししていただけたのではないのでしょうか。感じていただけたのではないのでしょうか。そしてコウさんのフレッシュユで飾らないキヤラクターの素晴らしさが生徒たちにより効果的に伝わったのではないかと思います。」と申し上げました。校長室でお礼を申し上げ少し雑談した後お見送りをしようと部屋を出ましたら、数人の生徒たちが笑顔でサインを求めてコウさんの周りに集まってきました。ようやく生徒とのコミュニケーションが叶ったと感じられたのか、コウさんの表情がぱっと明るくなり、一人一人の名前を聞いて丁寧なサインをし、喜んで一緒に写真にも納まってくださいました。私もホッといたしました。私自身、校長として生徒を前に話をする機会が多いのですが、彼女らが集中力を維持できるのはだいたい10分ぐらいだろうと思っています。大人相手で、そのテーマに興味ある人が

聴きに來る講演の場合は、聴衆に先ず聞こうという姿勢があります。それでもたまには期待外れの退屈な話で居眠りをすることもありまます。大抵が経済評論家や金融機関の調査畑の方の経済見通しの話の場合です。まして、聴衆が高校生で、こちら側があえて言えば、無理に聞かせようという意図で行う場合はなかなか難しいものです。そもそも学校の先生の話というものは面白くないと相場が決まっています。掴みの部分が大事です。最初から理路整然と話し出すと、顔がうつむいてきます。「え、何の話？」と興味をかきたてないとだめです。また、「すべきだ」とか「しなければならぬ」など説教くさい話は、やんちゃな生徒は「また説教か」と思いますし、優等生タイプは、聞いているふりをしながら、「言われなくてもそんなことわかっていますよ」と小ばかにします。外部の講師の方に生徒の前で話をしていただきたいとお願いをいたしますと、学校で生徒のために話すのだから教訓的なことを言わなければならないと気負ってしまわれ、その方の本来の持ち味が出せない場合があります。先生じやない話を聞かせたいのに、先生になってしまうので

す。当初の私の話は生徒にとって新鮮であったのかもしれない。それが校長職に長くどまるに従い、校長先生のお話になってしまっているのでしょうか。自分で話をしながら「ああ、あんまり受けていないな」と感じる時があります。最初は、そう感じると余計に取り戻そうとして話が長くなりました。最近では、「あかん」と思うと、さっさと切り上げるようにし、捲土重来を期します。何事も引き際が大事ですから。今まで色んな人の講演を聞いてきました。その中で特に印象に残っているのは元通産官僚で経済企画庁長官をされ小説家でもある堺屋太一さんとジャーナリストの桜井よしこさん、そして徳川家宗家18代当主で元日本郵船副社長の徳川恒孝（つねなり）さんです。政治や経済、歴史とテーマの違いはありましたが、堺屋さんと桜井さんにはその独特の語り口と健全な批判精神に裏付けられた明確な主張にぐいぐい引き込まれました。徳川さんは実業界から身を引かれて初めてご自分の先祖の歴史を一から勉強されただけに、その新鮮な驚きが穏やかでユーモアを交えた語りに載って聴衆にも生き生きと伝わりました。結婚式の主賓の挨拶と

いうのも善し悪しがはつきり出ます。会社の上司になりますと新郎や新婦にかこつけて自分の部署の仕事内容や業績を延々と話す人がいます。会社自慢を聞きたいわけじゃないのだけれど言いたくなります。この傾向は部長クラスの人に多いように思います。もう引退されましたが大阪出身の政治家で郵政大臣や建設大臣を歴任された自民党の中山正暉（まさあき）氏はいつも挨拶の最後に、「挨拶は短く、幸せは長くと申します」と言っていて、ダジャレをいれたインパクトの利いた、それでいて教養もちりばめた短いスピーチを締めくくっておられたことを思い出します。9月17日を皮切りに12月まで数度の学校説明会を開催致します。今年はどうのお話をさせていただきますか、私の学校教育に対する考え方、信念をいかに短い時間内で印象に残るようにな中学生や保護者のみなさんにお伝えすることができるか思案のしどころです。

最近、テレビやラジオのCM、駅のプラットホームや電車内の広告に弁護士事務所の広告がやたらに増えているのにお気づきの方も多いと思います。「ほとんどが東大・京大卒の弁護士です」と高学歴を強調するものもありません。弁護士は日本でも最難関の国家試験である司法試験に合格しなければならぬ職業で、このような広告は馴染まないと考えられていたのはもう遠い過去の話になったようです。事務所の大規模化も進み専門ごとに沢山の弁護士を揃えて企業のニーズに応えるアメリカ型の「Law Firm（ローファーム）」も増えてきました。社会経験を持った優秀な人物を法曹界に送るといふ名目で始まった法科大学院と新司法試験制度により以前よりは司法試験合格者が増えた反面、司法修習を終えても勤める弁護士事務所がなく、生活基盤が築けない弁護士も増えていると聞いています。

124

2011/09/14

## 大卒受難の時代なれど

公認会計士の世界も同様で、大手の会計事務所が景気低迷により人員削減を進めており、厳しい状況です。歯科医院の数はコンビニより多いと言われ、最近では平日夜8時まであるいは土日も診療などサービス合戦の様相を呈しています。最難関の試験に合格してもそれだけで一生安泰とはいかなくなってきました。そこからまた差別化される時代になったのです。英エコノミスト誌9月3日号は「高学歴者苦悩・大学は出たけれど」というタイトルで次のように伝えています。「調査機関によれば、大学で専門の学位を有する米国人の生涯収入は平均360万ドルで高卒者より75%多くなっている。また、世界の大学進学者数を1997年と2007年で比較すると、北米22%、欧州74%、中南米144%、アジア203%各々増加しており、2007年では世界で1億5000万人が大学教育を受けておりそのうちの7000万人がアジアの学生である。そしてエリートといわれる層においてもコストの安い新興国出身者が先進国出身者の仕事をつとめたり、また、コンピューターの発達が知的労働者の仕事においても定型化できる分

野を増やし、賃金の安い海外でのアウトソーシングを促進している。新聞はインターネットに取って代われ、法律分野もコンピューター化された調査専門会社に仕事の一部が移管されている。医療でさえ、オンラインでアドバイスを受けウォルマートに開設されたヘルスセンターでサービスが受けられるようになってきている。すなわち知的労働における分業化が進んでいる。」この記事は最後を次のような趣旨で結んでいます。「アダム・スミスの工場長がピンの製造を18工程に細分化したように、企業は知的労働をどんどん細分化するようになってきた。こうした変化は間違はなく知的労働者の生産性を高め、知的労働者はそれぞれの得意分野に集中し、つまらない仕事を外注できる。しかし、知的労働の再編は次世代の大卒者の生活を極めて居心地悪く、予測不可能なものにしてゆく。」アダム・スミスのピン工場の話は、産業革命が始まり分業化が進みつつあるとき『国富論』のなかで語られたものです。スミスは「生涯すべてをいくつかの単純な作業だけに費やす人は、理解力や想像力を発揮する機会に恵まれず、愚かで無知になってしまう。」と言い、「不活

発な精神はまともな会話を楽しんだり、それに加われないばかりか、寛容で高貴で優しい感情をも抱くことが出来なくなってしまう。」とも述べています。勉強し知識を高め技術を習得することで物質的にも精神的にも豊かになれるというのがアダム・スミスの考えでした。科学技術の発展と高学歴化は仕事を単純な業務と中核的な業務とに二極分化させてきました。その中核的業務においてさらに分業化が進んでいると言えます。この分業化、専門化については、スペシャリストばかりになりジェネラリストがいなくなると木を見て森を見ざるがごとし現象が起り、物事が制御不能に陥るといふ弊害も考えられ、議論の余地があります。

リーマンショック後の金融危機が長引いており、欧米先進国のソブリン・リスク（国債の信用危機）に発展し、景気回復が期待薄の中、世界的に大卒の就職が厳しい状態はまだ当分は続きそうですが、勉強すること学ぶことが物心両面での豊かさにつながるということとは人間の長い歴史に鑑みれば不変の真理だと言つて良いと、私は思います。専門を極めることも大切ですが、土台としての教養

調査データから  
読み取るべき深層

を養うことを忘れては、偏った人間になり、  
本当の危機に際して対応できないのではない  
かと思います。

9月26日の朝日新聞に、「ベテラン教員、  
すり減る意欲1万人調査」という見出しの記  
事が掲載されていました。社団法人国際経済  
労働研究所と日本教職員組合の共同調査によ  
るもので、管理職ではない組合所属の現場の  
先生と企業従業員の実感を比較したものに  
なっています。教員では「今の仕事が好き  
い」と思う人は、30歳未満80%、30代75%、  
40代67%、50歳以上では59%と年齢が上がる  
ほど低下しています。「今の仕事を続けたい」  
と思う人は、30歳未満と30代の76%が50歳以  
上になると55%に急落。また、「今の仕事に  
生きがいを感じる」人も30歳未満の74%が50  
歳以上では62%に低下しています。一方、企

業の従業員の場合は、仕事に生きがいを感じ  
る割合は、年齢が上がるほど増加する傾向が  
見て取れ、教員とは逆の結果が出ています。  
そしてまた、教員は年齢が上がるほど将来に  
夢の持てない人や、憂鬱な気分を感じる人の  
割合が増える傾向が見られたとも報告されて  
います。この結果を裏返すと、50歳以上の教  
員の41%は仕事が好きとは思っておらず、  
45%が仕事を続けたいとは思わず、48%が仕  
事に生きがいを感じていないということにな  
ります。教員の仕事は企業人とは異なり、年  
齢による差はほとんどありません。担任を  
持つて、授業を行い、クラブ活動を指導し、  
校務分掌を担当するという一連の仕事を30歳  
未満の教員も50歳以上の教員も同じように  
行っています。そうであるなら、例えば30歳未  
満で若くともやる気満々の教員に担任やクラ  
ブ指導をしてもらえる生徒と、意欲も無くな  
り憂鬱な気分の50歳以上の教員に担任を持た  
れクラブ顧問になられた生徒とでは天と地の  
差が出てしまうではありませんか。いや、ま  
さにそうなのです。もともと若気の至りとい  
うように、気持ち先行で経験がないだけに思  
慮分別を欠く場合もあります。しかし、意

欲、やる気があるならば、失敗から学ぶ姿勢  
も生まれます。「意志あるところに、道は開  
ける (There is a will, There is a way)」と  
いうではありませんか。そして、教師の意欲  
や気持ちに生徒はとて敏感に反応します。  
双方のコミュニケーションが十分に出来てい  
ない段階ではお互い理解し合うことが出来  
ず、生徒は反発から入ります。特に長年学校  
や教師から上っ面だけの面倒を見てもらっ  
てきた生徒は学校や教師というものに信頼を置  
いていませんし、敵意さえ持っています。こ  
のような生徒たちの心を開かせることが出来  
るかどうかが教師としての適正を判断する一  
番の関門だと、私は思います。上述の研究所  
の研究員は「教員は年齢が上がるほどストレ  
スを感じ、熱意だけではカバーしきれず燃え  
尽きるリスクが高まっている。特に中学校は  
生徒が思春期を迎え、関係を結びにくくなっ  
ている。部活動の顧問などで忙しい事情もあ  
る。」とコメントしています。また、「一人で  
抱え込まず、それぞれの得意技を生かしチー  
ムで指導する態勢が重要だ。特に年配の男性  
教員には管理職や同僚が配慮し、話しやすい  
職場づくりを心がける必要がある。」と話し

していると結んでいます。学校の態勢や管理職が各々の教員に対して親身の指導や相談に乗らず教員の成長を阻むケースもあり、すべてを教員個人の責任に帰すことは出来ないことも確かです。しかし、なぜ、50歳以上に意欲低下の割合が多く出ているのでしょうか。企業では、主任、係長、課長、部長と役職が上がるにしたがって仕事の権限と責任が変わってゆきます。一般的に権限が大きくなるとその分責任も重くなりますが、やりがいも出てくるものです。従って、企業人では年齢が上がるほど満足度が高まる傾向があります。先にも述べましたが、企業とは異なり、学校では教頭と校長などの管理職を除けば多くの教員は年齢に関係なく同列で、仕事内容も変わリません。新人教師の時から定年退職に至るまで、生徒の自立を促し、幸せな人生を歩める手助けをすることのみが教師の仕事です。年齢とともに地位が上がり権限や責任が大きくなる企業とは異なり、変化のない仕事と捉えられないこともありません。私自身も、積んでも積んでも崩れる河原の石積みだと思いい、意気消沈することもあります。これを長年経験すれば意欲がすり減るというのも理解

はできません。教師の使命を全うするのは非常にしんどいものがあります。何分相手がそれぞれ成育歴の異なる子供で、その子供たちに人生の指針を示そうとすれば、教師自身の人生が問われることとなります。どんな失敗をし、どんな挫折を味わい、どのようにそれを乗り越えてきたのか、そしてそこから何を学び、どんな夢を持っているのか、これをいつでも年齢に応じて語れる者でなければ、教師は務まらないと思います。教師の仕事を年交代わり映えのしないルーティンワークだと考えたその時から年齢に関係なく老いが始まるのではないのでしょうか。50代は二極化しているとも言われます。生徒指導や授業経験が豊富で、老練なまさに「ベテラン (veteran)」の域に達した素晴らしい教員も沢山いますが、その一方で、ただ単に教員歴が長いだけの教員もいます。私立は生徒急増期に公立の補充として沢山の生徒を受け入れ、経営としては黙っていてもたくさん生徒が来てくれたのですから楽だったでしょうし、教員の給料や一時金も高い時代が続きました。銀行の不倒神話のように、学校はつぶれないというのが常識であったと思います。そんな時代で

も一生懸命に教師道を極めようと生徒に向き合ってきた教員もいたのですが、お気楽に過ごしてきた教員も生き残りました。しかし、少子化の影響で競争が激しくなってきました。生徒指導でも授業でも生徒の将来を慮りしつかりした教育をしなければ外部評価が下がり学校もつぶれる時代になりました。にもかかわらず、指導を受けても自分を変えようとはせず、いつまでもかつての楽な時代に郷愁を感じている人がいます。変化に対応しようとしなないので。この厳しい状況に適切に対応をしつつある学校に勤める若手教員は、早いうちから仕事を通じて苦しさとそのあとにくる楽しさの洗礼を受けます。だからこそ安易な気持ちで教員になった若者は耐え切れずやめてゆくのでしょうか。それでも残ってゆくのは、ベテランへの候補生です。かつてバブル経済全盛のころ、都銀の支店長が「最近の若い者は、現地も見ずに土地の担保があるから融資の決裁をお願いしますと書類上の確認だけで頼んでくるのです。困ったものです。」と嘆いていました。このような甘い仕事大量の不良債権を生み銀行の倒産につながりました。それから一転審査が厳しくなっ



## 文化祭を終えて

たのですが、企業社会では良くも悪くも実体経済の影響を比較的早く受けます。しかし、学校社会ではその動きの鈍さが際立ちます。私はこの調査結果からこのように考えているのですがいかがでしょうか。

昨日の尼崎アルカイックホールにおける舞台公演に引き続き、本日は校内での文化祭、好文明華祭が行われ、先ほどの表彰式を以って無事に終了しました。3年前、「生徒が楽しんでいけばそれでいいじゃないですか」というような安易な考え方でやっていた文化祭の抜本的改革の必要性を痛感し、高校生としてお客様に見ていただいても恥ずかしくない完成度の文化祭を再構築するように生徒会主任にお願いをしました。文化祭は単なる面白おかしいお祭り騒ぎではなく、日頃の学業やクラブ活動などの成果が示されるものでなけ

ればなりません。生徒の意識がよほど高い学校でなければ、生徒たちの自主性に任せていただいただけではどうしても安きに流れてしまいました。クラス担任やクラブ顧問による適切なアドバイスとモニタリングが必要です。ハードルを少し高く設定し、それを一緒に飛び越える努力が出来る教員が生徒を伸ばすことが出来ます。私が赴任したころはその教師としての大事な役割を放棄していたと言わざるを得ないような状況でした。私の強い要望を受けて考え出されたのが、アルカイックホールという外部の施設を利用した舞台公演と校内での展示や模擬店中心の2本立てで行うという名前も新たになった「好文明華祭」です。3年目の今年、舞台、展示ともに内容が随分と良くなったというのが実感です。一回目が終わった後も、二回目が終わった後も改善点をどんどん出しました。初日のアルカイックでの舞台公演に気をとられて、二日目の校内での展示があまりにもお粗末になっていたのです。運営委員会等で具体的なクラス名を挙げて改善するよう何度も要望しました。この間の生徒会主任を始めとする教員の意識改革とリーダーシップに心から敬意を表し感謝する

ものであります。当初は合唱中心であったアルカイックでの舞台公演が今年は演劇が目白押しでした。演劇には自分たちでストーリーや衣装を考えるという作業が必要で相当頭を使います。生徒たちのチャレンジング・スピリットを感じました。時間が10分で短いこともあり、起承転結のストーリー展開に持ち込むのが難しく展開が単純すぎたり総花的になつたりと課題が残りました。しかしそのなかでも6月に行われた修学旅行を上手く取り入れてミュージカル仕立てに作り上げるという担任の機転の利いたアドバイスを取り入れたクラスの出来栄は素晴らしかったと思います。この担任のクラスは昨年も演技の不得手な生徒の役回りも実によく考え、クラスに団結力をもたらしてくれました。校内展示は少しおとなしめではありましたが、手の込んだ作品もあり、担任の指導力を窺い知ることができました。特進コースも特進らしい英語のスピーチと歌を披露してくれました。特進は勉強時間が多く、なかなか特別な準備ができません。日頃の成果をそのまま表せるイベントとして私が提案したものがようやく実現されました。グラウンドの芝生に設置された

舞台上スピーチが始まると、生徒もお客様も真剣なまなざしで聞き入っていたのがとても印象的でした。「学校が変わった」と感じて頂けたのではないのでしょうか。文化祭の実行委員には様々な担当があり、アルカイツクホールでは前日のリハーサルから教員は大忙しです。舞台照明やスモークなど演出はホール専属の専門スタッフの方々がやってくれます。準備不足や急な変更をしたクラスがあり、時間が遅れお叱りを受けました。初年度も段取り不足から随分と迷惑をかけましたが、その教訓を生かして昨年は比較的スムーズに行きました。今年はまだ元に戻ってしまったようです。これも担任の指導力が問われるところだと思います。かつては校内で行われる文化祭の当日、職員室に残っている教員が沢山いましたが、意識改革を進めた結果、今ではみんなが生徒とともに文化祭を盛り上げていきます。非常勤の教員までが自発的に参加してくれました。意気込みが伝わってきました。校内を歩き回って様子を観察しております。様々な景色が目に入ってきます。文化祭開催中は外部から色々なお客さんが沢山来られますので、不都合がないかどうか常に目を

光らせておく必要もあります。担当として割り当てられた仕事が終わる、手があけば見回りでもゴミ拾いでもいくらでもやることはあるのですが、それが出来る教員と出来ない教員がいます。自分のクラスのこと、顧問をしているクラブのこと、そして当日の担当の仕事と八面六臂の活躍をしている人もいれば、与えられた仕事だけを無難にこなせばそれでいいと思っているような動きの人もいます。お客さんかと思間違えるような行動の人もおおり、いまだに昔の陋習から脱却していないと思える場面もあり残念でした。しかし、そういう行動が目につくということはそれが異常だと感じるほど多くの教員の動きが良くなった証拠でもあります。世の中には、給料以上の仕事をしている人、給料に見合った仕事をしている人、そして給料以下の仕事しかしていない人、この3タイプが存在すると言われます。先の好文本で「ベテラン教員、すり減る意欲」という見出しの朝日新聞記事を取り上げましたが、本校では改革に着手して以来、以前とは見違えるほど前向きに生徒指導や教科指導に取り組み、若手の良き手本となってくれている教員が50代にもいま

す。その一方でどう見ても給料以下の仕事しかしていないとしかいえない人もまだ少数ながらいるのも事実です。生徒のために必死で走り回っている教員が気の毒に思えてきます。「これで同じ給料?」「いや」「これで給料が倍も違うの?」と考えると。現にそう感じている教員も大勢いることと思います。私の学校改革のモットーである「努力するものが報われる学園づくり」を何としても実現したいと意を新たにいたすところです。



## ちぐはぐな日本

先日のあるテレビ番組で、小学校の先生たちが児童を授業に集中させるために、新聞に穴をあけてそこから口を出しながら新聞を読んだり、教科書をわざわざ逆さまに持って読み始めたりして注目を喚起してから授業に入るという手法がとられていることを紹介していました。このような小細工までして笑いを誘い授業に集中させるというのは邪道ではないかと思いましたが、すかさず司会の所ジョージさんが「こんなことまでする必要あるのかな。勉強とは苦痛でいいんじゃないの？」というような趣旨の発言をしてくれました。また、気軽に図書室を利用できるようにと、床にカーベットを敷いて沢山の児童が寝転がって本を読んでいるシーンも紹介されてきました。これを見て、きちんと座って授業を受けることが出来ない生徒が増えていく原因の一端を垣間見た気がいたしました。

彼らは児童を授業に集中させよう、本を読む癖をつけようと一生懸命なのでしょうが、いかにせん、やり方が間違っていると言わざるを得ません。教師の努力は必要です。「わかる授業」を展開し「できる」を実感させることでその教科へのやる気を生じせしめ授業を真面目に受けられるようにすることこそプロの教師としての仕事であることは言うまでもありません。しかし、子供の機嫌を取るような手法で勉強に向かわせる癖をつけてしまうと、「あの先生の授業は面白くないから、受ける気がしない」と平気で言う生徒を増産してしまいます。勉強というものは本来自分で四苦八苦しながらやるもので、教師はその手助け、道案内ができるだけです。にもかかわらず、やる気のない子供が勉強をしない理由に授業が面白くないことを挙げ、すべてを教師の責任に帰するとしたら、本末転倒です。三つ子の魂百までと言います。小さい時に学ぶ正しい姿勢をきっちり教えなければなりません。そのためにはある程度の強制は必要だと思います。武道や茶華道を例にとるまでもなく、型を身に着けることはまさに堅苦しいことです。

テレビ東京で月曜から金曜の夜11時から放送されているワールドビジネスサテライトは私が長年見ているニュース番組で、現在5代目のキャスターとして小谷真生子さんが司会を務めています。先日の特集で、企業が積極的に教育に関与する一例として中部地方のある学校が紹介されていました。この学校は数年前に中部財界の大企業が中心となって英国のボーディングスクールに倣い、将来の日本を担うリーダーを作ることを目的に設立された全寮制の中高一貫の男子校です。私は以前、開校直前のこの学校のある中小企業経営者団体の視察で訪れたことがありました。施設は近代的で贅沢すぎるほど立派なものでしたが、海岸の埋め立て地に立地しており樹木も少なく無味乾燥感は拭えず、いかにも企業の発想という感じがしました。また、街から遠く、隔離された施設という感じもいたしました。海外のボーディングスクール同様に寮をハウスと呼んでおり寮長であるハウスマスターが管理します。特徴的な点はハウスマスターとは別に賛同企業から若手社員が出向し、フロアマスターとして生徒の面倒を見るというものでした。今回の番組でもこのフロ

アマスターにスポットを当てていました。企業で働いている若手社員が生徒の悩みに応えたり、進路決定にアドバイスをしたりします。本校でもKBJ48（好文実学48項目）をつくり実社会で働く場合に基本となるハウレンソウやPDCAの考え方を学校生活にも生かそうとしておりますので、実社会の仕組みを生徒に教えることができる点では意味があると思いますが、悩み多く多感な思春期の中高中生に接するには企業の論理では通用しない側面が多く、やはり生徒心理に精通した教師の方が適任だと思います。寮を見学した時、すべてが個室でしたので、その理由を尋ねましたら、「いじめが起きないように」との答えが返ってきました。見学が終了した後、名古屋駅のホテルで、学校設立の中心的役割を果たした賛同企業で日本有数の大企業の会長を交えた懇親食事があり、その席で、「私の知っているスイスのボーディングスクールでは低学年では2人部屋が標準で時には二段ベッドで4人部屋、5人部屋というものもあります。大学受験を控えた高学年になってようやく1人部屋が当たります。国籍の違いも私たちと同じ部屋で生活する中で切磋

琢磨することも成長に必要な経験だとの位置づけでしたが、」と申し上げたところ、その会長さん、怪訝な顔をされたのを今でも覚えています。企業ではトラブルやクレームが発生しないよう対策を打つことを第一に考えます。しかし、教育ではある程度のトラブル発生は所与のものと考え、それを乗り越えさせてゆくなかで学ばせることに重点を置きます。それが将来、実社会に出た時に自分の頭で考えて困難を乗り越えられる人間を作ることにつながります。初等教育や中等教育の段階での過剰な企業的発想の持ち込みは逆効果になると思います。先日亡くなったアップルの元CEO、スティーブ・ジョブズ氏はスタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチの最後を「Stay hungry, Stay foolish.」という言葉で締めくくっています。あまり早い時期から小利口になりすぎると創造力が培われないのではないのでしょうか。この学校がモデルとして思いきイートン校は、以前好文木でも触れたように英国の名門パブリックスクールでオックスブリッジへ多くの卒業生を送り、社会の各分野でのリーダーを育ててきた学校であり、ノーブレスオプリージと

いう言葉で表される高い地位にあるものほれにふさわしい責任を負うという考え方が貴族階級を中心に受け継がれてきた英国社会の伝統に深く根差しています。そういった階級意識が極めて薄く、またそのような階級のな日本にイートン校と同じ制度を導入することはできませんし、日本流にアレンジしてしまおうとちぐはぐなものになります。ますます国際化が進む世界の状況を鑑みると、グローバルな視野に立ったリーダーを育てる教育は大切であると思います。しかし、最近の異常なまでの英語教育への過熱ぶりにも言えることですが、日本でやって効果が上がるのと、外国に行って現地を経験して効果が上がることを一緒にしたのではならないと思います。日本と外国との文化や伝統、生活様式、考え方の違いを考慮に入れなければなりません。本当に英語でのコミュニケーションができるようになるためにはTOEICで何点以上とかいうようなことではなく、一定期間、イギリスやアメリカで勉強なり仕事なりをしながら生活をし、イギリス人やアメリカ人のものの考え方や習慣を理解することが必要です。また、かつて企業においても海外留

学を奨励したものの、アメリカの名門大学院でのMBA取得者をそれに見合った処遇が来ず、外資系に転職させてしまうことが頻繁に起きました。これは欧米の企業は大学院や大学院卒の人間にアナリストやマネジャーなど専門的なスキルを求めて即戦力として雇用しようとする傾向が強いのに対して、日本では学部にかかわらず採用をして各々の企業の中で教育して育ててゆく傾向が強く、成果主義の導入が進んでいるとは言うものの欧米に比べればまだまだ年功序列的発想が残っていると思います。そして通年採用が一般的な欧米と新卒採用が基本の日本との違いもあります。会社への帰属意識にも違いがあるように思います。スキルアップや高収入を得るためのステージと割り切って考えるか、そのコミュニティの一員であることに安心感を持つか。欧米の優れた点は素直に認め学ばねばなりません、それが成り立っている背景には欧米の歴史やものの考え方があります。それを理解せず、そしてまた制度設計を根本的に変えずにその一部だけを採用しようとするばいたるところにちぐはぐさが生じると思います。最近のテレビ番組を見ながらこんなこ

とを思った次第です。

128

2011/10/23

## 高1ギャップ

10月17日の日経新聞教育欄に大妻女子大学の酒井教授が「高校中退、実態は深刻」というタイトルで、文科省の統計結果では浮かび上がらない実態を把握できる新たな調査の必要性を訴えています。文科省が8月に発表した「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によれば2010年度の中途退学者は全国で5万3千人余りであり、10年前の10万9千人余りから半減しており、中退率も2・6%から1・7%に減っています。この数字には転学者が含まれていないのです。転学は元の高校をやめると同時に次の高校に切れ目なく通い続けることを言います。全日制の普通高校に通いきれない生徒の多くは単位制や通信制に転学するケースが多いです。また、退学数を出す場合に全校生徒

の中で1年間に転退学した数を出す場合と、ある年度に入学した生徒が卒業時に何人減っていたかを見る場合とでは数字に大きな隔たりが出てきます。後者の方が大きくなります。東京都立全日制高校で2007年5月の1年生の数と2009年5月の3年生の数の差を計算したところ8・1%の減少となっています。先の1・7%という数字とは大きな開きがあります。また、入試偏差値55を境にそれ以下の学校の中退率が高まります。44以下では18・6%と高い数値を示す一方、60以上では1・1%と極めて低い数値です。これは当然の結果だと思います。偏差値の高い高校に入学した生徒は学習意欲も高く生徒指導上の問題も少ない生徒が大半です。偏差値が低くなるほど学習意欲も低く、問題行動を起こす率も高まります。この記事では中退率を減らすためにどうすべきかまでは踏み込んで論じられていませんが、それが最も大切な課題だと思っています。「高1ギャップ」という言葉があります。これは勉強も指導も義務教育の中学までとは異なり、一歩進んで自律を求められる高校生活に馴染めない現象のことを言います。高校に

なると必要出席日数や教科ごとの欠課時数、欠点というハードルが課されます。さぼって学校に行かずとも勉強せず成績が悪くともほとんど実質的に進級、卒業できてしまう中学校までとは状況が変わります。従って、中学までの感覚が抜けないと高校生活を全うできず、転退学やむなしとなってしまいます。ということは、高校での指導の良し悪しを論ずる以前に高校入学までに基礎的生活習慣の確立がなされていないところに大きな問題があると言えます。かつてベルギーを訪れた時、かの地の小学校では成績不振で落第するとその学校にはおれず別の学校に変わらなければならぬと聞きました。小学校ですら落第があるのに驚きました。それに比べると日本は甘すぎはしないでしょうか。基準や特殊要因による救済策は考えるとしても、小さいころから努力を教えることは必要です。どうも日本はいつも例外を引き合いに出して原理原則をはずしがちではないかと感じます。また、社会が学校に負担をかけすぎているとも感じます。責任転嫁ととられることを恐れ、なかなか教員の口からは言いにくいことですが、本来家庭で教育をすべきことまで学校に要求

するという風潮は頂けません。何か事が起ると学校の責任と言わんばかりのマスコミ報道が教師を委縮させ、事なかれ主義に走らせ、隠ぺい体質を生み、悪循環に陥っているのではないのでしょうか。子供を教育する義務を負うのは親であり親の委任を受けて親では出来ない部分を親に代わって行うのが学校です。親の出来る義務を履行せずすべてを学校に任せるとするのは親としての責任放棄ではないのでしょうか。私は、保護者会などの機会をとらえてはご家庭での教育をしっかり



やっていたかどうかのようにお願いを致しておりません。大阪府においては橋下知事の下、学力低下を改善しようと競争原理を導入する施策が様々考えられています。競争に参加する以前の基礎的生活習慣の確立策を初等教育に遡って考えることが先決だと思います。挨拶や身だしなみ、整理整頓が出来て初めて勉強に向えるはずで。その土台をすつ飛ばすと、ますます落ちこぼれとモラル無き優等生を作るだけだと思います。ソニーの創業者、故井深大氏はその著「幼稚園では遅すぎる」のなかで次のように述べています。「本当に必要なのは、知的教育よりも、心の教育であり、私が問いたかったのは、そのために母親が果たす役割の大切さだったのだ。」そして、人間の能力や性格は遺伝的要素が強いのではなく、ゼロ歳から三歳までの時期に形成され、親の働き掛けがある環境下で育てること、子供を見守る姿勢こそが大切だと説いています。本人が挫けかけた時に、親の見守りがある子と無い子の差には歴然たるものがあります。親の見守りには優しさだけではなく厳しさも必要であり、親自身の強さと忍耐力が試されます。我々教師はこの親の見守りが

## 高1ギャップ Part 2

あってこそ指導の効果を発揮することが出来るのです。経済状況の厳しい時代が続いており生活に余裕が持てないご家庭も多くなってきます。見守りたくとも物理的、精神的にそれができないという状況もあり、親業の大変さを痛感いたしますが、どの時代にも厳しい状況はあります。何も今が特殊な時代ではないはずで、踏ん張っていただきたいと思えます。私たちもまた、保護者の皆さんを精一杯応援したいと思っています。

先の好文中で、高校中退が多い原因に「高1ギャップ」があるということを上掲、高校入学以前の家庭や学校での教育を見直す必要性に言及させていただきました。そこで今回は高校としてそのギャップをどう埋めてゆくかについてお話をしたいと思います。今や高校進学率は98%で中学卒業生がほぼ全員

が高校に進学します。従って必ずしも高校でしっかりと勉強しようという意欲を持った生徒ばかりが進学してくるわけではありません。「高校ぐらい出ておかないと、就職も出来ないから」と、親や中学校の先生から言われて仕方なく進学という生徒も結構いるのが現実です。また昨今は、精神的な苦痛から通常の登校が出来ず、長期に亘り学校を休んでいた、学校に來ても教室には入れず保健室で過ごしたりする中学生も増えていきます。他人とのコミュニケーションが上手く取れなく、共同生活に馴染めない原因は、いじめや友人関係で失敗したなど様々です。保護者にもその理由が良くわからない場合もあります。しかし、このような生徒の中にも環境が変わればやり直せるのではないかと、何とか高校でもう一度頑張りたいと思つて進学しようとする子もいます。そこで多くの学校ではそれぞれの入試基準に照らし合わせながら入学を認めています。そして、高校に入学し新しい環境下で原因が取り除かれた場合、期待通りに元氣を取り戻しみんなとともに学校生活を送れる生徒もいれば、やはりトラウマが癒えず教室に入れないあるいは登校できない生

徒もいます。このような生徒がどの学校でも増えてきていますので、別室登校を認める学校も多くなりました。この別室登校をクラスに入れるまでのリハビリ期間と捉えあくまで出席日数や欠課時数の基準は変えない場合と、別室での授業等でも正規のものと同等に見做し進級を認める場合とがあります。前者の場合は万一クラスに戻って授業を受けられない状態が長期に亘ると進級が出来なくなります。後者の場合には進級基準などの見直しが必要となり「一国二制度」が全日制高校として妥当かどうか議論の分かれるところであります。しかしいずれにせよ私学はこの高校でも休んでいる生徒を放っておくことはなく、担任が家庭訪問をしたり、保護者面談を繰り返したりなどして登校しクラスに入れるよう努力しているのではないかと考えます。そしてもう一つは、勉強より遊びに気が向いており、生活が乱れてしまっている生徒への対応です。本校ではこの4年間の生徒指導の抜本的改革を通じてこのようなまさに典型的な「高1ギャップ」にはまっぴらである生徒の再教育に力を注いできました。縁あって本校に入学した生徒です。成長させて卒業させたいと

の思いからです。先ずは、今年で5年目に入った校門での挨拶です。この時に身だしなみの注意も行います。4年前とはすっかり様変わりし、ほとんどの生徒が適切な身だしなみで登校してくるようになりましたが、1年入学時には中学校の癖が抜けず、スカートのウエストを折って丈を短くしてはいたり、スカートのファスナーを緩めたり、ブラウスの第一ボタン、時には第二ボタンまで外して胸を大きく開けたりして登校してくる生徒が何人かいます。これを小まめに注意し、クラスと名前を書かせ、一定の回数になると生徒指導部に呼んで話をします。遅刻指導も同様に徹底しています。指導が一定の回数になった生徒は8時登校し窓拭きや花壇の水やりを手伝うことになっています。一緒に校門に立つて挨拶をすることもあります。ただし、これを単なる罰としてやらせたのでは意味がないのです。このとき必ず担任も一緒に行動し、窓を拭きながら花に水をやりながらいろいろ話をします。机を挟んでお説教をするのとはまた違う状況での生徒とのコミュニケーションを図る大切な時間なのです。花への水のやり方、雑草の抜き方、雑巾の絞り方、い

くらでも教えることはあります。話題満載の時間なのです。この時間を上手に使える教師は生徒の心を掴むことが出来、生徒も教師の熱意を受け止めます。従って指導が入ることになります。私はいつも校門で挨拶しながらこの様子も見えています。生徒より早く来て生徒を待ち受け、一緒に作業をする教員と、生徒より後に来て生徒がやっているのをただ見ている教員と。「寝ていて人を起こすな」です。挨拶、身だしなみ、時間厳守は勉強や仕事に向かうための基本です。ここから徹底的にやり直しているのです。授業中の態度についても、体調が悪いわけではないのに授業を聞く態度が取れず、机にうつ伏して寝ている生徒は起こしますし、おしゃべりや勝手な行動をして注意しても聞かぬ場合は、授業の妨げになりますからイエローカードを生徒指導部に提出します。私は時々不意に教室に入り寝ている生徒の肩をたたきます。これは教師に対するメッセージでもあります。教員の授業の上手下手は生徒の授業態度を見れば一目瞭然です。いくら一生懸命に板書して説明していても多くの生徒が机にうつ伏しているようでは授業として成り立っていません。生徒

を起こしめせずに授業を続けているのは自分の持ち時間をこなすことしか考えておらず、生徒にわからせてできる喜びを味あわせたいという熱意がないと言えます。イエローカードが溜まると生徒指導部での指導を行います。このイエローカードを導入するとき、「生徒を売るようでいやだ」という意見もあつたと聞きましたが、浅はかだなどと思いません。これには二つの意味があるのです。当該生徒の行動が直るまで注意をし続けていると5分、10分と時間が過ぎ真面目に授業を受けようとしている他の生徒をながく待たせることになってしまいますから、一、二回口頭で注意してダメなら授業を進め、カードを切って指導は後に回すということがひとつ。そして、何度も同じような注意を受けても態度が直らないと何枚もこのカードが溜まります。そこで生徒指導部の指導が入ることで、その生徒の抱えている悩みや苦しみをより早く察知することが出来、迅速な対応ができるということが二つ目の、そしてこれがこの制度の眼目なのです。実際、この制度を導入してから生徒対応が早まりその分やり直してきている生徒が増えました。



生徒間のトラブルや各々の問題行動については担任から生徒報告書を上げてもらうことにしました。この報告書には担任、学年主任、教務担当教頭、生徒指導担当教頭、そして校長のハンコ欄があります。すなわち当該関係者間で生徒情報の共有化を図り、適切な指示が出来るようにしたのです。それまでは、担任や学年主任段階で対応がなされ、その対応が必ずしも十分ではなかったために欠課時数をオーバーしたり、生徒が学校を続ける意思を喪失したりした結果、転退学やむなしとなった後で私のところへの最終報告となったケースがありました。生徒本人も保護者も学校の対応に不満を持ったまま転学されるというケースほど情けないことはありません。例え転退学がやむなしとなっても、生徒も保護者も学校の対応に満足していただければ、とことん生徒にかかわったとは言えません。私自身その話が今一つ納得できず、自ら直接当該生徒と保護者にもう一度話を聞き直したこともありました。生徒報告書の活用を始めてからは、生徒の状況を適切に把握でき、必要な段階で必要な人が指導に入れるようになり、中退率がぐっと下がってま



いりました。どうしても我慢して学校を続けることが出来ないという生徒も残念ながらおられます。大抵はやめてから後悔をするのです。が、若気の至りと申しましようか、その時はしんどいことから逃げたい一心でそれがわかりません。担任、学年主任、生徒指導担当教頭そして校長である私が、総力で生徒本人と時には保護者とも何度も何度も向き合い、時には叱り時には励まし時間をかけて学校に向かわせようとしても転退学を余儀なくされる場合があります。しかし、お互い本音で話し

合ったので根っこのところでは分かり合えたと思っっています。そういう手のかかった生徒のことはいつまでも頭に残るものです。つい最近も、最後まで一緒に引つ張って面倒を見た生徒指導担当教頭と「あの子どもどうしてるかな？」などと話をしていたら、その二、三日後に本人がひょっこり訪ねてきました。実は気になっていたので少し前にお母さんに手紙を差し上げたところ、元気に働いているとお返事を頂いておりました。「私はどうしても気持ちを立て直して早起きして登校し勉強することが出来なかったけど、先生たちには感謝している。働くのはものすごく大変やわ。一日も休んでないよ。今思うと学校にいた方がよっぽど良かった。後輩にはこの学校を絶対やめたらあかんと言うわ。」と言いました。「だから言ったじゃないの。」と私。元氣そうな彼女の顔を見て学校でその笑顔を作れなかった悔しさを感じると同時に、新たな道を前向きに歩き出したことに安心をいたしました。本来ならば入学した本校を卒業してほしかったことは言うまでもありません。しかし、人生という山に登るのに必ずしも道は一つとは限りません。回り道しても頂上に

立って自立した女性になってくれれば良いと思います。本校を卒業させることはできませんでしたが、本校で過ごした日々は決して無駄ではなかったと思っています。今では制靴のローファアの踵を踏んでいる生徒はおりませんが、校内ばきの上靴の後ろを踏んでいる生徒はたまに見かけます。スカートのジッパーを緩めてはいている生徒も数人はいま  
す。見つけると私はきちんとはくように注意を致しますが、知ってか知らずか、見過ごしたまま生徒と話をしている教員がいます。これはダメです。4年間の努力が水の泡になってしまします。もう二度と悪貨が良貨を駆逐するようなことを許してはいけないと思いま  
す。この点では、元ニューヨーク市長のジュリアーニ氏が唱えた「割れ窓理論」は的を射  
ています。少しでも手を抜くと学校が昔に戻ります。とにかく生徒指導は継続と積み重ね  
が大事です。掃除も少し油断するとなおざり  
になりがちです。先日学校見学会の朝、廊下を見回ると、掃除が不十分でした。女子高  
ですから生徒の髪の毛が埃と絡まって隅に溜  
まりやすいのです。床にはローファアの踵の  
黒い跡があらこちらについていました。擦

れば容易にとれました。翌日の運営委員会で掃除を徹底するようにお願いいたしました。そして、「何をどのようにするのが完璧な掃除の仕方であるかを具体的に指示し生徒と一緒にやってください。」と申しました。PDCAを回すには具体的な指示が必要であることを再度確認した次第です。

最近、本校は若い教員を増やしています。若いうちから担任を持たせ、校務分掌で汗をかいてもらっています。そして、学年主任や教頭、校長から頻繁に指示とアドバイスを出して教育しております。生徒や保護者に対する気づきのセンスを養うことが教師としての将来を決めます。「高一ギャップ」を埋めるためには一にも二にも懇切丁寧な生徒指導が必要であると思います。中学時代不登校であった生徒が本校入学を機にやる気を取り戻し、放課後の補習を受けて京都産業大学や近畿大学に進学しました。入学当初、勉強意欲のかけらもなく、何度も服装や授業態度で注意をされていた生徒が多かったクラスが卒業時には最もまとまりのあるクラスとなり、ほぼ全員が進学、就職を決めました。クラブでの指導も含め、これには実に多くの教員が関

わりました。「教師が変われば生徒が変わる」ということを確信いたしました。鉄は熱いうちに打てと申します。

私は、「高一ギャップ」を生徒にとっても教師にとつてもともに成長できる真剣勝負のチャンスを与えてくれるものだと前向きに捉えたいと思います。

130

2011/11/01

## 浪速の茶会

10月29日(土)、浪速高校さんのお茶室「洗心亭」の茶席披きにお招きいただき、本校茶道顧問と生徒を連れてお祝いに参上いたしました。このお茶室は去る3月13日に竣工を挙行された浪速武道館の二階に作られたもので、大広間と庭園が付いた実に立派なもので、茶室は襖に替えて杉の板目に古事記の世界が板戸絵として描かれています。浪速高校が神道の学校であることから理事長・校長である木村智彦先生が特に拘られたと伺いまし

た。連れて行った茶道部部長の3年生に感想を聞きましたところ、「凄かったです。圧倒されました。」との言葉が返ってきました。全くその通りでした。一高校の茶室抜きとは思えぬ構成と心配りには感服いたしました。表千家の方々による茶室での本席、弓道場射場での立礼席、そして点心席。立礼席の花籠に活けられた草花は、当日の朝、勉強合宿施設の多聞尚学館のある千早赤坂村から採ってきたと伺い、木村先生の教育トライアングル構想（多聞尚学館、ふくろうスタジアム、浪速武道館の三施設充実による教育効果の向上）にかける思いの深さを感じました。引き出物には「洗心」の字焼き付けの瀬戸焼茶碗を頂戴いたしました。木村先生と私はほぼ同じ時期に校長に就任しました。そしてともに厳しい財政状況下で学校改革を始めました。偏差値の違い、共学校と女子高の違いはありますが、木村校長から多くのことを学ばせて頂いており、大変尊敬を致しております。舌鋒鋭い切り口は時には反感を買うこともあるようですが、生徒に対する深い愛情と教育に対する使命感の裏返しであると思います。校務運営におけるマネジメントについても公

立、私立を問わず多くの校長が思っておられることを大胆果敢に実行されているにすぎないと思います。しかし、思うことは誰にもできずそれが実行に移すことは勇気がいります。孤軍奮闘という言葉が時に似あう方もかもしれません。楠正成ゆかりの千早赤坂村の多聞尚学館に勉強合宿をしている生徒の激励にしばしば足を運ばれるのも頷けます。浪速高校さんはいよいよ新校舎の建設に取り掛かられました。益々のご発展をお祈りいたします。

さて、本校は小規模ながらも一足先に弓道場の建設、新校舎の建設、グラウンドの天然芝生化を完成いたしました。贅沢を言えばきりがありません。必要な教育環境の整備はほぼ整ったと言えます。これからはソフトパワーの充実にさらに力を入れなければなりません。すなわち、担任力、教師力の向上です。先の好文木でも述べましたように、本校は「高1ギャップ」の解消を通じて自立をめざし、負のスパイラルに歯止めをかけることをその使命と考えておりますが、これは進学校の教師よりはるかに高い人間力が求められます。失敗にめげず生徒と向き合おうと真剣に

努力をしている教員が確実に増えていることに好文の未来は明るいと確信しております。

「いつの日か浪速武道館に負けない音楽ホールと茶室を備えた芸術棟を建設したい」、これは夢のまた夢でありましょうか。いや、夢は見れるものではなくかなえるもの。浪速の茶会で決意を新たにいたしました。

131

2011/11/10

## 時代劇の衰退

42年間続いた時代劇ドラマ「水戸黄門」が視聴率の低迷により今年限りで打ち切りとなり、NHKの大河ドラマを除くとこれで民放の時代劇はなくなること。京都府と京都市が時代劇の継続を民放に要望したそうです。私は御爺さん子で、小さい時、祖父の膝に乗りながら時代劇を見て育ったせいか、今でも時代劇が好きです。そんな私に娘は、「いつも同じような話を、よくもまあ飽きもせず見るね。」と言います。わたしは、「大平

総理も時代劇をよく見ていたって言うよ。」と反論します。演説の際「あゝ、うゝ」と前置きして話を始める癖があったことから、大平正芳氏は、「あゝうゝ宰相」と、またその風貌から「鈍牛」とも呼ばれ、愛嬌ある総理でしたが、1980年の総選挙の最中に心労で倒れ急死しました。私が大学のころで、敗色濃かった自民党が大平総理の弔い合戦で勝利した選挙でした。さぞかし大平総理も「この印籠が目に入らぬか」で思い通りに事を運べたらどんなに楽かと幾度も思われたことでしょう。池波正太郎の「鬼平犯科帳」には罪を犯してしまった人間や弱い者への惻隱の情が、また北原亞以子の「慶次郎縁側日記」は、江戸庶民の親子、夫婦、同僚の日常における人情の機微が、巧みに描かれており、見終わった後も余韻が残ります。一国の総理として義理と人情の板挟みの政界にあつて難局に臨んだ大平さんが時代劇好きだったというのはわかるような気がいたします。山本周五郎の「栄花物語」は、8代將軍吉宗にその才を見いだされ9代將軍家重の小姓から出世し10代家治の治世に老中首座となり権勢を誇った田沼意次の生涯を描いた小説です。

商人の力が強まるなか、農業中心の経済を重商主義に転換すべきと考えた田沼は、外国との交易や蝦夷地開発、株仲間の結成、印旛沼の開拓事業など積極的な投資を行うとともに思い切った人材登用を行い経済の活性化を図ろうとするのですが、身分制度を重んじる守旧派は面白くありません。田沼政治に賄賂が横行しているとの批判の聲が高まります。長男の若年寄田沼意知が殿中で暗殺されたことをきっかけにさすがの権勢にも陰りが見え始め、折からの天変地異による凶作により農村が荒廃し一揆が頻発、意次はついに職を辞すこととなります。永らく田沼意次には賄賂政治家との汚名が着せられていましたが、実は開明的な政治家であり、守旧派の中心、松平定信らによる仕組まれた中傷により失脚したとの説が有力になっています。芸能生活50周年記念特別企画でこの田沼意次を森繁久弥が好演していました。ドラマの最後で、職を辞した意次が屋敷の縁側に立ち庭を眺めながらしみじみと、側女のお滝に次のように語る場面が実に印象的でした。「もう忘れるほど昔から、来る年も来る年も、今年こそ花を見ようと思ひながら見る事ができなかった。考

えてみると庭の花を見るとまもなくあった。これはご奉公大事というより私自身の好みかもしれない。これからも生きている限りこういう生活が続いてゆくことだろう。こういう生活のほかに私には生きることができないのかもしれない。」改革には抵抗が付きもの。一途に推し進めようとするれば人の誤解を生むこともあるでしょう。そして抵抗勢力の執拗な個人攻撃にも曝されることがあります。「燕雀安んぞ鴻鵠の志をしらんや」とも言いましょうか。マスコミによる意図的な報道で形勢逆転となれば、「民は勢いにつくも義につくもの少なし」。(ルネッサンス期イタリヤの政治思想家ニッコロ・マキヤベリ)

最近もある事件を報じる新聞記事とテレビニュースを見て、このことを痛切に感じました。この件に関するインターネットのブログにはまさに言いたい放題の書き込みで、面と向かって正々堂々と論陣を張れなかった者が弱みに付け込んでこごごばかりに攻撃している様は実におぞましい限りです。携帯やインターネットのブログでの生徒間のもめ事も増えています。それを戒めるべき立場の人間と思しき方々の卑劣さにあきれ果てます。

## 教員の身だしなみに ついて

携帯サイトやインターネットブログの殺伐とした、荒涼たる風景からは人としての誇りや品格のかけらも感じられません。このような風潮が広まる中、時代劇が姿を消してゆくのもむべなるかなの感を強く致します。水に落ちた犬を叩くような義理・人情の薄い世の中にはしたくないものです。

先日の放課後、ある生徒から次のような訴えを聞きました。「私たち高校生は学校には勉強をするために来ているので、オシャレをする必要はなく、髪を染めたり、ピアスをつけたり、スカートを短くしたりしてはいけないということをも十分理解した上で、申し上げたいのですが、」と前置きし、「指導する側の先生が、茶髪であったり、顔を動かせばブラブラ揺れるぐらいのピアスをしたり、膝上のミニスカートを穿いたり、厚化粧をしたりさ

れるというのはいかがなものなのでしょうか。ちよつとおかしいと思うのですが。先生にそれを言うと、先生と生徒は立場が違うと一蹴されたのですが納得できません。先生の服装にも規則を設けてください。」とのことでした。この生徒は1年生で、入学当初は少し反抗的などころがありました。新任の担任が本人の話をじっくりと聴いて生徒理解に努めてくれたお蔭で、だんだんと心を開き、私にも気軽に話かけてくれるようになったのです。「君の言うことはもつともだね。会社員でもお金を扱い信用第一の銀行マンの服装は他に比べると保守的なのが慣例となつている。教師にも同じことが言えるね。教壇に立つのに華美な服装や過剰な化粧や装飾品は必要ないよね。以前にこのことは言つてあるけれども、再度機会を見つけて先生方に言うことにする。ただ、大人なので規則制定までは必要ないと思う。」と答えました。そこで好木の本場を借りて私の見解を示そうと思います。

既に一昨年、クールビズに関する考え方を教員に伝えたメッセージのなかで、「特に昨今は女性の服装においてカジジュアルとフォーマ

ルの境がファジーになっていますが、教員は世間常識より一段厳しい基準で対応してください。」とお願ひをしておりましたが、この機会にもう少し詳しく述べてみたいと思います。本校の教員は従来から服装に関してはきちんとしている方だと思います。男性教員の場合は基本的にスーツですから迷うことが少なく楽です。紺とグレーのスーツに白のワイシャツと黒の靴下と黒の靴があればネクタイを替えることで十分コーディネートができます。たまには気分を変えて茶色のスーツや紺のブレザー、カラーシャツなども結構でしょう。私は、教師だから御洒落をする必要がないとは思いません。御洒落を広辞苑で引きますと「みなりや化粧を気のきいたものにしよ



うとつとめること。」とあります。TPOに合わせたふさわしい身なりと化粧を身を以て示していただけるならそれに越したことはないと思うのです。たとえば入学式や卒業式では1年生や3年生の学年団の男性教員は略礼服を着用するのが相応しいでしょう。私もこの職に就いてから礼服を着る機会が増えたので、ちょっと勉強をしました。この

場合日本では白のネクタイをする人が多いのですが、洋服の本場の欧米ではグレーかグレーあるいは黒と白のストライプあたりが使われます。外国人から見ますと黒服に白のネクタイの軍団は異様に映るそうです。これは我々日本人間でも同様のイメージを持つているでしょう。靴は黒の内羽根式のストリートチップが最もフォーマルだそうです。一番シンプルな紐靴で、靴屋さんで礼装用と言えは出してくれます。もちろん普段に履くことも一向に構いませんから、一足は持つておくとして便利です。最近はおしゃれな組み合わせとして平素に紺やグレーのスーツに茶色の靴を合わせるケースもあります。礼装では靴は黒以外はダメです。担当学年以外の先生は略礼服を着るまでの必要はないと思いますが、校

内挙げての式典ですから、濃紺かチャコールグレー（濃い鼠色）のスーツにおとなしめのネクタイと黒の靴が良いと思います。

さて、難しいのは件の生徒が指摘した女性教員の身だしなみです。本校は女子高ですから女性教員の身だしなみもまた生徒へのお手本になりますので、正しい意味での御洒落を心がけていただきたいと思えます。式の時は着物でも洋服でも結構ですが、華やかな中にも厳肅さが漂う雰囲気にならないような派手な出で立ちは本校のモットーであるグレイス（上品、しとやかさ）からもかけ離れてしましますので注意が必要だと思えます。平素の服装は、男性とは違い、スーツで通す必要はありません。ブラウスやセーターとパンツやスカートで全く問題ありませんが、落ち着いた色やデザインを選んでいただくのが妥当だと思います。アクセサリーも最小限でシンプルなものが良いと思えます。髪を染める場合もお化粧も少し控えめが望ましいです。過日、本校で中学校のイベントを開催した時、ある中学校の引率の先生が茶髪に赤のブラウスと黒のフリルの付いた短めのスカートに黒の網タイツを穿いておられたのにはビックリ

させられました。学校で誰も注意しないのだろうかと思いました。本校の生徒による授業評価でいつも最も高いランクにいる教員は、いつも明るくきちんと挨拶をし、颯爽として身だしなみのセンスも大変良い女性の先生です。身だしなみのセンス、授業のセンス、生徒や保護者とのコミュニケーションのセンス、すべて関連があるように思えます。センスを磨くということはそれだけ対象に関心がなければできません。件の生徒の心を開いてくれた教員もセンスが良いことは言うまでもありません。

133

2011/12/01

## 『やさしむ』からの逃走

11月27日の大阪府知事・大阪市長のダブル選挙において、大阪維新の会の松井一郎氏と橋下徹氏が当選を果たし、既成政党に対する失望と景気の低迷が長引く大阪の閉塞感の打破を求めた結果だと受け取られています。私

はこの選挙結果は「やさしさ」に疲れた」国民の「やさしさ」からの逃走」の意思表示の一例ではないかと思えます。自然環境の悪化を食い止め資源を大切に使うために「地球にやさしい」という言葉が使われますが、これは裏を返せば消費生活に慣れきった我々に我慢せよということに人々に厳しいということに他なりません。しかし、財政再建を、増税や経費節減で関係者からの反発を買うからと言って財政にやさしい政策などと言うわけにはまいりません。政治や経済政策においては「やさしさ」ではなく、「公正さ」が追及されるべきだからです。経済学の基礎編で需要供給曲線を習います。両曲線が交差したところで商品の価格や労働の対価である賃金が決まると考えます。この前提には完全競争市場の存在があります。多数の売り手と買い手の存在、商品の均一性、情報の完全な公開、平等なアクセス、自由な参入等が条件となります。そしてこのような状況下で決まる価格や賃金を公正なものと考えます。従って、大地震などの自然災害下での生活必需品の便乗値上げは強い立場の売り手と選択の自由のない弱い立場の買い手の間で価格が決められる

ことから公正な価格とは言えないとの議論になります。労働市場で需要と供給が一致するように賃金が調整するならば、失業も欠員も起こらず、解雇も離職も発生しないことになりませんが実際はそうならないことからサッチャー論が生まれ、これを唱えた3人の経済学者が昨年のノーベル経済学賞を受賞しました。この理論のなかで、目の前の取引条件を受け取るかどうかを賃金で測ったものを留保賃金と呼んでおり、留保賃金以上の提示があれば受けるが、それ以下なら次の機会を待つということが起こります。失業保険や生活保護が手厚くなればその分、留保賃金水準が切り上がるということになり、病氣や怪我ではなく働こうと思えば働けるにもかかわらず働かないという人が出てきます。片方でより低い賃金で汗水流して働いている人がいることを考えると、このような状況は公正とは言えなくなります。すなわち、失業保険や生活保護という弱者救済策、言い換えれば弱者への社会からのやさしさが公正さを歪めるという弊害が出てまいります。この話、先週、1年特進コースの好文パーソナルファイナンス講座の授業でも致しました。バブル崩壊以降、競

争や格差あるいは強さというものに対する嫌悪感が広がり、平等や弱さというものに対する配慮へと大きく社会の舵がきられた様になっています。弱者救済や平等の確保それ自体は当然で正しいことですが、やさしさも行き過ぎると甘えを生じさせてしまいます。さて、今回の選挙の争点になっていた大阪府の職員基本条例と教育基本条例は、「職員や教員にやさしい(甘い)」現状への強烈な一撃だと思えます。府教委が猛反発している教育基本条例案を一読してみますと、前文における「教育行政からあまりに政治が遠ざけられ、教育に民意が十分に反映されてこなかった結果生じた不均衡な役割分担を改善し、政治が適切に教育行政における役割を果たし、民の力が確実に教育行政に及ばなければならぬ。教育の政治的中立性や教育委員会の独立性」という概念は、従来、教育行政に政治は一切関与できないかのように認識され、その結果、教員組織と教育行政は聖域扱いされがちであった。」との記述からは、戦前の軍国主義教育アレルギーから、国家や政治家が教育論を避けて通っているのをよいことに、日教組による積極的な介入を許した結果、生徒

の自立と社会貢献を第一目標に置くのではなく、一労働者感覚の教師による教師のための学校に成り下がってしまい、その結果、生徒の学力のみならずモラルと意欲の低下を引き起こし、教育の荒廃を見るに至ったとの認識を読み取ることが出来ます。従って、前文以下の各項目においてもその修正主義が色濃く表れています。基本理念では自由と規範、権利と義務、自己責任の意識を持った人を育てることに止まらず郷土愛や愛国心、グローバル競争に対応できる人材育成にまでかなり具体的などころまで敷衍しています。また、知事が府教育委員会との協議を経て、高等学校教育において実現すべき目標を設定するとしています。校長・副校長の任用に関して公募制をとり、基準としてマネジメントの高さを第一に挙げているところにも目標管理とPDCAの考え方がしっかりと見て取れます。人事評価により給与に明確な差異をつけ、人事評価で2回連続Dであった教員が分限手続きの対象となることで、出来る教員と出来ない教員の差別化を図っています。また、保護者の項目を設け、家庭教育の責任と重要さにも言及しています。子供の教育を担

うべき学校と家庭それぞれの責任を明確にしていると思います。この条例案に対して府教委は競争原理の導入は教師の意欲を削ぐもので、短期間では現れない教育の効果を数値のみで規定しようとするものだとの批判があるようですが、一つには教師側の視点に立っているということ、二つには測定可能な目標とそうでないものを一緒にして論じていることに問題があるように思います。百ます計算で確実に計算力をつけることと人格の陶冶を同列に論じるわけにはゆきません。校長の公



募制についてもマネジメント能力だけでは校長の職は務まらず、教育理念と熱意が必要なのは言うまでもありません。では、教師畑で昇進してきた校長がみんな理念や熱意をもっていえるのでしょうか。教師がみな生徒の将来を考えて情熱をもって対応しているのでしょうか。もしそうなら、世に学校や教師にに対する不信感を持った若者が沢山いるのはどういふわけなのでしょう。か。「教師にやさしい」学校は「生徒に厳しい」学校だったのではないのでしょうか。一生懸命やっている校長や教師もいることは間違いありません。そのような教師のいる学校は何等か変化してきていますが、それは少数派なのではないのでしょうか。教師の仕事は確かに大変です。しかし、それを理由に結果としてきちんと子供に向き合えていないことの言い訳にきたつけが回ってきたのではないのでしょうか。「額に汗して成果なしではだめだ」との苛立ちを突きつけているのです。20世紀の社会思想家、エーリッヒ・フロムはその名著『自由からの逃走』において、中世の封建社会から解放され自由を獲得した近代人が、その自由ゆえに孤独感や無力感に苛まれ、その



## 理想と現実

結果、反民主主義の権威主義、独裁に傾斜していったと分析しています。この条例案にもまたそれが出てきた背景となっている今の教育現場の実情、社会の状況に類似性を感じます。社会は振り子と同じで右へ左へと揺れるものだと思います。今回の揺れも当然だと思います。ただ、あまり揺れが大きすぎて糸が切れないようにはしなければならぬと思います。

2013年の大学新卒者採用シーズンの幕が上がりました。経団連は「採用選考に関する倫理憲章」を改訂し、採用広報活動解禁日は2ヶ月遅れの12月1日となりました。来年度の3月まで企業による会社説明会等の広報活動が行われ、4月からは選考活動期に入り面接等が行われます。正式内定日は10月1日以降となっています。

週刊ダイヤモンドは12月10日号で、「就職に強い大学ランキング」の特集を組んでいます。これを読みますとますます大学が就職予備校となったことがはつきり致します。入試偏差値の高い大学は就職人気企業100社への就職率ではトップに位置しますが、就職率全体で見ますと必ずしも高くはないという結果になっています。中小の中堅以下の大学でもその専門性を生かして高い就職率に結びつけているところもあります。昨今の不景気を背景に、警察官、自衛官、消防士、保育士や幼稚園教諭など資格職の希望も増え、それに特化している大学もあります。大学そのものが生き残りをかけて就職率向上に血道をあげている姿が浮かび上がってきます。面倒見の良い大学では首都圏へのバスツアーから保護者への手紙作戦など至れり尽くせりの気の使いようです。学生数の多い大学のキャリアセンターでは手が回らず、就活ノウハウを伝授する企業の良いお得意様になっています。学生数が500人に満たない千葉県のある大学はそのシラバスゆえに「最高学府とは思えない低レベルの授業を行う大学」として有名になっています。ネット掲示板にも多数の

書き込みがあります。偏差値もボーダーフリーで、入学初年度の選択授業に「原稿用紙の使い方」、「整数の計算」、「アルファベットの読み方」などが並んでおり、いくらリメディアル教育とはいえ、小、中学生レベルの内容には確かに驚かされます。他の大学においても、レポートを出させれば小学生の日記レベル、教授に友達言葉で話しかける学生、テストを無断欠席した学生に自宅まで足を運んで様子を聞く教員、クラス担任制を採る大学など多いそうです。「便所飯」という言葉があります。みんなと一緒に食事がとれず、トイレの個室で隠れて昼食をとる行為のことです。各地の大学のトイレで「トイレでの飲食禁止」の張り紙が散見されるとか。仲間づくり支援事業を展開する大学もあるそうです。学生の甘えと大学の過保護もここに極まれの感があります。大学生になるには無理のある人が大学を名乗るには少々首をかしげる大学に入学している現状が作り出している悲喜劇の数々です。ある有名大学就職担当者には次のように語っています。「学生は2・3・3・2に分かれ、最上位の2割は商社でも銀行でも受かります。ネットやブログの不

確かな情報に惑わされず、OB訪問や会社訪問を通じて生の情報を取り、キャリアアセンターにはほとんど顔を出さず自分で動きまわす。キャリアアセンターに来ては失望する会社の社員になった後の話を質問してきます。それに引き替え苦戦する学生は面接のコツばかり聞いてきます。真ん中の3割はキャリアアセンターにちよつと背中を押してもらえらることを期待しています。下の3割はどうしたらいいかわからず泣きついて来たり、何とかならないと思って動かない学生。下の2割は動きもし化します。」高学歴化にも収獲通減の法則が当てはまりますが、通減を通り越して劣化に入ってしまった。高等教育の役割を根本から問い直すべき時に来ていると思います。先日、「高1ギャップ」について述べましたが、これが解消されないまま、大学生になり社会人になってゆく若者が増えているのでしょうか。一流大学卒業生にも入社式に母親がついてくるケースがあるとは、よく聞く話です。配属についても注文を付けてくるという話も某都銀の支店長から聞いたことがあります。小さい時から本気でしっかり叱られた

ことがなく、やさしく甘えかされて育った結果ではないでしょうか。「ゆとり教育」の問題点はすべてを性善説で考えていたことではないかと思えます。詰め込み式の受験競争で消耗させず、余裕をもって勉強させ、教養を身につけ個性を発揮させて創造性豊かな子供を育てようという考え方そのものは決して悪くはありませんが、向学心にあふれる児童、生徒と熱意あふれる教師の存在を前提としたこのモデルは、教科書を薄くし教える内容を簡単にした結果、基礎学力が低下しただけではなく、楽に慣れた子供たちは教養や創造力開発に向かうどころか、テレビ、インターネット、ブログに向かい、コミュニケーション能力を喪失し、学歴インフレと実力デフレが同居するという当初の意図とは全くかけ離れた事態を招いてしまったと思います。大阪府教育基本条例案における知事の権限の強化は政治からの中立性が日教組に上手に利用されてしまったことへの意趣返し感が強く、趣旨は十分理解できるものの手段において行き過ぎがあると思います。しかし目標管理や人事評価についての学識経験者からの批判には同調できかねるところがあります。以前に

も申し上げましたが、企業では年齢に応じて昇進し、職務内容も変わり責任も権限もだんだん大きくなってゆきます。ところが、教員は、学卒の新人であろうが定年前のベテランであろうが仕事内容は、担任業務、教科指導、生徒指導など全く同じです。新人より経験を積んだベテランのほうが担任業務、教科指導、生徒指導においてより深みがあり優れていると考えるのが当然ですが、残念ながら必ずしもそのようにはなっていないのが現実です。大学を卒業して初めて教壇に立った新人教師の授業が20年も30年も教鞭をとっている教員の授業より上手な場合があります。学校では企業に比べ研修や教育システムが充実していないとも言われますが、企業においても研修が多くなったのは最近で、私が商社に勤めていたころ、新入社員研修以外に研修を受けた記憶はありません。日々の仕事の中で先輩や上司から指導されていました。鍋蓋組織の学校では上司と部下といった関係が構築されてこなかったため、日常の仕事の中で適切な注意や指導というのが入りにくい環境があります。また、企業の場合は個々人の業績が売上げや利益など測定可能でありそれを

比べることが容易にできます。ところが学校ではよほどの問題教員で、生徒や保護者からの苦情が頻発することでもない限り、その良し悪しが表に出にくいのです。また例えば、該であつてもきちんとした指導がなされず、該当業務を外すなど苦情が来ないようなポジションにおいてしまうことで、結果として当人に楽をさせるだけで終わっているケースがないでしょうか。企業ならお客さんとトラブルになり営業に向かない社員は別の部署に回すことができます。その部署でしっかり働いてもらうことも可能です。しかし、教師の場合には担任業務でも授業でも生徒指導でも生徒にかかわることが仕事の大半を占めていますのでこの配置転換が難しいという事情があります。生徒に迷惑をかけると生徒がかわいそうだからとの判断が働き、そうでない仕事に回しますと、同じ給料でダメ教師ほど楽ができるという不公平が起きます。きちんと指導しそのうえで同じ業務をやってもらい、何度も同じ過ちを繰り返し、特に生徒や保護者に迷惑をかける事案の繰り返しの場合はどこかで退場願うというのが妥当だと考えます。従って、D評価が連続2回続いた場合分限

手続きの対象となるという基本条例の案は取り立てて批判されるべきものではないと思います。むしろ成果が見えにくいことをもって教育の成果は測れないとかみんな一生懸命にやっているので相對評価はなじまないとかいう話にすり替えられてきたことこそとんでもない悪平等です。こんな理屈がまかり通っているのは真面目に必死で努力している教員が報われません。上述の大学就職課担当者の話にもあるようにどんな組織集団にも2・6・2あるいは2・3・3・2（このほうがより現実的だと感じます）の原則は当てはまりません。成果ははつきりと出ているのです。それを見ようとしていないだけなのです。その成果とは生徒の満足度です。満足度など測れないと思われるかもしれませんが、日本でもGNP（国民総生産）ならぬGNH（国民総幸福量）を測ろうというご時世です。生徒による授業評価もその一つですし、何より生徒や保護者の生の声が一番信用できます。従って管理職は率先して教員の授業力、生徒指導力を見なければなりません。こういうと管理強化で意欲が減退するというのですが、放っておいては生徒が迷惑し、生徒を育成す

ることができなくなります。見られて恥ずかしくない授業や生徒指導を行っている教員にとっては痛くも痒くもない話だと思います。「よくやっていますね」との声掛けでむしろさらにやる気が出るのではないのでしょうか。頑張っている人を認め褒めること、そうでない人には気づかせ適切な指導をしてレベルアップさせることこそ管理職の仕事であり、まさに公平な校務運営といえるのではないのでしょうか。審議会の委員や大学教授の方々はみんな自分と同じような高い意識を持っているとお考えになっていないかと思えますが、現実はそのとおりではありません。前横浜市長の中田宏氏の『政治家の殺し方』という本が話題になっています。横浜市役所改革に乗り込んだ中田氏への凄まじい抵抗が手に取るようにわかります。この中で、中田氏が、「自分は死にたいとは思わなかったが、自殺する人の気持ちがあった。」と書いておられますが、実は楽天家の私も全く同じことを思ったことがあります。生徒のために一生懸命に頑張っておられる校長や教頭はたくさんおられます。私も、書かれた本を通じてあるいは直接お尋ねしてお話を伺うなど、随分とア

ドバイスを頂戴いたしました。自戒の念を込めて申し上げるなら、管理職はもっと勇気を持たなければならぬと思います。

135

2011/12/13

## 保護者会

入試広報活動も佳境に入った昨日の日曜日、今年度9回目の入試説明会を実施いたしました。300名超の参加があり盛会のうち幕を閉じました。特に今回は保護者会のみなさまのご協力とご活躍により、説明会終了後のレストランでの懇談会が有意義なものとなったと思います。いつも説明と見学や体験がすべて終了しますと、ホッと一息入れて頂けるように、レストランで簡単なお菓子とお茶のサービスをさせて頂いております。この時に質問や個別相談に応じさせて頂いたのですが、昨日は本校の在校生の保護者の皆さんが、中学生やその保護者の方に積極的に声をかけて感想を伺ったり、質問に答えたり

してくださいました。

説明会にお越しくださった中学生の保護者のなかには、「来年の保護者会の役員を引き受けたい」と少し気の早いものの有難いお申し出をしてくださった方もいらっしゃいました。傍で見えておりましても大変活気のある景色で、うれしく思うとともに、日ごろお仕事もお持ちのお母さま方が多い中、せっかくのお休みの日曜日を返上して、説明会のお手伝いを買って出てくださいました保護者会の皆様には心から御礼を申し上げたく存じます。以前の本校では同窓会や保護者会の皆様との関係はいささか遠慮気味のところが、学校に足をお運びいただく機会もそう多くはありませんでした。校名を好文学園に変える前年の学校見学会で、毎回前列にお嬢様と一緒に陣取り熱心に私の話に耳を傾けておられる保護者がいらつしやいました。「校長先生のお話を楽しみにしています」と声も掛けてくださり、話す私も気合が入るとともに毎回違う話をしなければならず少々苦勞をいたしました。この方は、翌年、新生、好文学園第一期生の保護者会の役員を引き受けてくださり、お嬢様が3年生になった昨年、会長になられ

ました。好文学園をとてても気に入ってくださり、従来の保護者会の殻を破り、積極的に学校行事への参加や提言を行ってくださり、私の学校改革に多大なご理解とご支援を賜りました。その後を引き継がれた現会長ならびに役員の皆様もさらにパワーアップされ頼もしい学校の応援団となってくださいました。誠に感謝に堪えません。私は理事長を兼務しておりますので本校には理事長室はありません。校長室は職員室の続きの間で、会議用のテーブルを置いています。隣は生徒相談室です。新校舎建設の折、機能を重視した結果この配置に落ち着きました。昨年、会議室に使っていた旧理事長室を二つに分けて、同窓会室と保護者会室として提供させていただきました。あまり広いスペースではありませんが、窓から芝生のグラウンドが見下ろせ、新校舎も一望できます。気兼ねなく学校に来て打ち合わせ等していただけるようになります。保護者会室で会議が終わると職員室から入られて校長室に気軽にお越しくださいます。この風通しの良さを私は大変うれしく思っております。そして、もっともつと沢山の保護者の方が気軽にいつでも学校に来てい

## 師走

ただけたら有難いと思っています。私は生徒と保護者の生の声を少しでも多く聞きたいのです。時には学校の従来の方や教員の対応についての不満もいただきます。これが一番有難いのです。そこに学校改革のヒントがあるからです。教員も保護者も願いは同じ。生徒（子供）が幸せになれるよう自立を果たさせることであり、「それは本当に生徒（子供）のためになるか」を行動基準とする限り、教員と保護者のコミュニケーションはきちんと成り立つと考えています。和気藹々の雰囲気の中で積極的に改革に資する提言をしてくださる保護者会の存在は好文学園の新たな魅力の一つとなると存じます。どうぞこれからもよろしくお願いをいたします。

今年も残すところわずかとなりました。今日の三者懇談が終わると、明日の終業式で、

二期期が終了します。もともと特進コースは28日まで特別授業がありますし、来年度入試の個別相談に来校される方もありますので、それまで学校は開けています。先週土曜日、今年最後の入試説明会を初めて体育館で開催しました。400名を超す参加があり、一回の参加数としては近年では最高となりました。吹奏楽部と合唱部によるクリスマスソングメドレー、そして保育コースの生徒たちのハンドベルで中学生と保護者の皆さんを歓迎しました。レストランでは茶道部員が着物姿でお茶の接待をしてくれました。着物は同窓会のみなさんがご家庭で眠っていたものを寄贈してくださったもので、着付けまでお手伝いくださいました。本場にありがたく感謝申し上げます。会場の設営と片付け、校内外の清掃等、全クラブが協力して行ってくれました。約500名の生徒たちの働きにより今年の入試説明会を盛会のうちに締めくくることができました。みなさん誠にご苦勞様でした。

今日の午後、2年前の卒業生が3人で賑やかに訪ねてきてくれました。私が校長になりたての頃のあの伝説の保育（され）コースの生



徒達です。とにかく手を焼かされた子たちだけに可愛いさもひとしおです。短大に進んだ二人は来春の就職が決まったそうです。就職難の今どき立派なものです。4年制大学に行った子は春休みにオーストラリアに語学研修に行くと言っていました。「今は何かプレゼントを買ってあげるより、一生懸命勉強をするのが親孝行だと思おう」と殊勝なことを言っておりました。3人とも元気で活き活きと学生生活を謳歌している様子で大変うれしく思いました。

3・11東北大地震に、原発事故、相次ぐ中東の独裁政権の崩壊、ユーロ危機と、内外ともに危機に翻弄された2011年でした。一日昨日になって北朝鮮の金正日総書記の死去が

伝えられ朝鮮半島情勢の先行きも懸念されます。アメリカ発の金融危機がヨーロッパの国債リスク問題に飛び火し、新興国も巻き込む大収縮に向かっていきます。グローバル化の負の部分が一挙に噴出した形です。閉塞感が世界を覆っているように感じられます。今は10

年どころか1年先も読めず、企業も以前のよ  
うな長期計画が立てられない、立てても意味  
をなさない時代です。だから、まずは目の前  
の仕事に励むことが大切だと言えそうです。

教育界は今や数少なくなった護送船団方式の  
保護下にあります。少子化と高学歴化の波  
に洗われどうやらこのままではやっていけな  
くなってきたと思います。だからこそこの5  
年、ひたすら学校改革を進めてまいりまし  
た。「人に好かれようと思って仕事をするな。  
むしろ半分の人間に積極的に嫌われるように  
努力しないと、ちゃんとした仕事はできねえ  
ぞ。」とは、吉田茂の懐刀、白洲次郎の言葉。  
しかし、誰しも人に嫌われたいと本心から思  
う人はおらず、私としてそう思ってやってきた  
わけではありませんが、結果はそうだったか  
もしれません。改革とはそういうものだと思  
います。しかし、有難いことに懇談を終わっ

た保護者の方々から口々に「この学校に入学  
させて本当に良かったと思っています。」と  
いう声を聞かせていただくことができました。  
目の前の生徒に精一杯関わってゆくこと  
の積み重ねとその深度が学校の命運を分ける  
時代に入ったと感じます。

「トちいさな光が歩んだ道を照らす希望のつ  
ぼみが遠くを見つめていた 迷い悩むほど人  
は強さを掴むから夢を見る凜として旅立つ  
ちだの雲を目指し♪」

「坂の上の雲」の主題歌Sand Alone の一節  
が思わず口をついて出ました。

137  
2012/01/06  
新春に思う

始業式は10日ですが、特進コースは今日5  
日から授業が再開されました。3年生はもう  
来週末がセンター試験です。今日は朝から、  
お世話になっている銀行さんに新年の挨拶に  
伺った後、大阪天満宮で特進コース生徒の合

格祈願をし、各々に合格鉛筆を買って戻りま  
した。一人一人に鉛筆を配りながら、「試  
験って本当にいやなものだ」と、三回も大学  
受験を経験した自分の過去を思い出すととも  
に、生徒たちの合格を心から願った次第で  
す。さて、年末年始のマスコミの論調には

暗いものが多く、衰退、停滞、崩壊などの文  
字が躍っています。昨年来のユーロ危機で  
ユーロは11年ぶりの安値を付け100円を  
割りました。日経平均も29年ぶりの安値引け  
で年を越しました。日本は失われた20年でデ  
フレ下の円高が止まりません。ユーロ消滅、  
1ドル50円を唱えるエコノミストのみが予想  
が当たりつつあると意気軒昂です。サラリー  
マンとしてバブル期を東京で過ごした私は  
ラッキーだったかもしれません。生まれた時  
から停滞しか知らない若者は本当に気の毒で  
す。彼らに向かって、日本の将来は明るい  
と、無責任なこととはとても言えません。休命中、  
『This time is different』の邦訳本『国家は破  
綻する―金融危機の800年』（カーメン・  
ラインハート&ケネス・ロゴフ著日経BP  
社）を読みました。「今回はちがう」シンド  
ロームの危うさが、800年に亘る世界各



国における銀行破綻、国家破綻の歴史的データから読み取ることができません。対外債務のみならず国内債務における異常な増大が必ず国家財政の破綻を引き起こしてきたという歴史的事実は、「日本だけはちがう」とは言えないとの警告を発しているように思えます。株のバブルがはじけた場合は比較的短期間でリバウンドしていますが、不動産のバブルの場合は戻りまでかなりの期間を要しています。今回の金融危機がアメリカのサブプライムローンに端を発し、ヨーロッパ各国の国

債の信用不安に至り、グローバル化の負の連鎖が先進国から新興国まで全世界に波及しそのような様相を呈しており、1930年代の世界大恐慌に匹敵する第二次大収縮になると著者は予測しています。トンネルを抜けるとそこはまた次のトンネルだったという状態がまだ続くと思うと、気分は益々陰鬱なものになります。太平洋戦争直後、坂口安吾は『墮落論』を書きました。「半年のうちに世相は変わった」から始まるこの小論は、変わったのは世相の表皮だけであり、人間の本質は変わっていないと言います。武士道や天皇制も人間の弱点に対する防壁であり、墮ちる道を堕ちきることによって、自分自身を発見し、救わなければならず、政治による救いなどは上皮だけの愚にもつかない物であると。彼は人間そのものに創造的破壊を求めていたのだろうと思います。全くジャンルも時代も違うこの二冊の本の根底には歴史は人間が作るものでありその本質は変わらないという共通認識があるように感じます。バブルの発生と崩壊を繰り返す経済は生流転であり、落ちるところまで落ちることによって再生されるという長い歴史の教訓は、その主人公である人

間そのものにも当てはまることだと思えます。グローバル経済危機に際し、政治のリーダーシップが世界的に問われる2012年、日本の次期リーダーにふさわしい上位3人に、石原慎太郎氏、橋下徹氏そして小泉純一郎氏を選ばれたとのアンケート結果があります。政治に決断力のある人物が望まれています。私も橋下氏には大いに共感するところがあります。しかしながら、あまり大きな期待は抱いておりません。橋下氏個人にはなく政治というものに期待が持てないのです。大きな歴史の流れの中で、社会の劣化や経済の悪化を押しとどめるのが精いっぱいである一人の政治家の力で反転上昇を望むことは無理なように思えるのです。教育の目的を、失敗と挫折を乗り越え自分自身を発見し、自らが自らを救うという自助の精神の育成であると考えたら、少なくとも私はそう考えているのですが、先行きがいかに暗く陰鬱であろうとも、考えようによれば一本調子の上り坂の時代より下り坂の時代のほうが人間力を試すには面白く、まさに教育の真価が問われる時代だと思えます。とかく日本人は国頼み、会社頼み、他者頼みの傾向

が強く、テレビのインタビュアーを聞いていても「してもらわないと困る」という発言しか聞こえてきません。「国を支えて国に頼らず」、これは北康利氏の福沢諭吉伝のタイトルですが、安吾に言わせれば、貴族や武士も

天皇というより上位の権威を作り上げその権威を借りて自己を正当化するという日本人の古来からの知恵というか性癖というか、これを壊そうとしたのが織田信長であったのでしようが、この癖は先の敗戦を経た明治145年の今日に至っても変わっていないのかもしれない。しかし、今、世界をグローバル化という怪物が徘徊しています。この怪物によって我々は個々人が否応なしに自力更生の道を歩まねばならなくなると思いますが。天満宮で引いたおみくじは末吉。「星を見て進む船のごとし」とあり、「月が雲に隠れることもあるがいずれ晴れる」「願いはかない難いが心配はいらない」とのご託宣。幸い凶が出なかつたからというわけではありませんが、明智光秀のように大吉が出るまで引き続けることはせず、「めでたさも中くらいかなおらが春」を甘受しようと思えました。「憂さ」ことのなこの上に積もれかし限りあ

る身の力ためさん」、まだまだ当分はこの座右の銘、私は手放せそうにはないなと思った次第です。

138

2012/01/27

## 「学校評価は 進学率で決まる」は 正しいか？

東大を頂点とした難関大学への進学率が高校評価の最大の要因であることは言を俟ちません。春先の週刊誌の特集や経済雑誌におけるランキング発表など既にご案内の通りです。私も高校で兵庫県下の進学校に入りました。塾の先生は、この高校にさえ入れば大抵は大丈夫だからと言われました。実は慶応の付属高校も完全に合格圏内に入っていたのですが、そちらは受けずにこの進学校に挑戦し、合格を果たしました。その結果、私は二浪する羽目になりました。その責任は本気で受験勉強をしなかつた私自身にあったことは言うまでもありませんが、今考えるとあの時、慶応の付属高校に入っていたら学部を問

わなければストレートに慶応大学に進学していたらと思うます。ただそれがその後の私の人生にとってプラスになったかどうかはわかりませんが、それはさておき、当時、私はこの進学校で、進路指導や補習など受けた記憶がありません。センター試験どころか共通一次試験もまだなかつた時代ですが、国公立や難関私学あるいは理科系、文科系に分かれたコース編成などもなく、みんな勝手に勉強していました。京大を第一志望にする生徒が多く、私学は滑り止めでしか受けません。私はそういう雰囲気の中でボーと3年間を過ごしていました。その環境に浸っていたら京大は無理でもどこかそれなりの大学には行けるだろうという何とも愚かな考えで。卒業





後、東京での予備校生活を始めました。理系のセンスにかける私には5教科では荷が重すぎましたので、得意の3教科に絞り早稲田一本で、初めて大学受験に向かって本格的な勉強を始めたのでした。

昨年ようやく一期生が卒業した本校の特進コースから少数ながら和歌山大学や大阪府立大学などの中堅国公立や関西学院や関西大学などの難関私学に合格者を出せるようになりました。河合塾と連携し、シラバス、教材、授業方法を研究し、進路指導も個別に行っていました。私からも、難関大学に行くメリツトについて折に触れデータを示しつつ何度も話をしてきました。もし、私もこのような指導をしてくれる高校に入っていたら、現役で大学合格していたらと思うと思います。本校の生徒は、有名な進学校に入学した生徒とは異なり、中学時での偏差値はそれほど高くありませんし、大学受験に対する知識やモチベーションも持ち合わせていません。それを3年間かけた懇切丁寧な受験指導により、成果を出すことができました。生徒も教師もともによく頑張ったと思います。もしこの生徒たちが当時の実力相応の公立高校に入学して

いたとしたら、ここまで丁寧な受験指導を受けることができたでしょうか。塾や予備校に通うことなく、成果を得られたでしょうか。高校時代の私と同じような運命を辿る確率が高かったのではないのでしょうか。とはいっても、本校においても特進コースの合格基準点は他のコースよりかなり高めに設定をしていますので、入学時の基礎学力はある程度身につけていることが条件になっています。従って難関大学への進学に限れば、いかに補習や進路指導に力を入れようとも、やはり生徒の基礎学力がものを言い、正直なところ高校入学時点での基礎学力の度合いにより3年後に合格できる大学がほぼ決まると言っても過言ではありません。勉強というものは知識の積み上げなので一朝一夕に伸びるものではありませんし、学力を伸ばすには基礎的な生活習慣の確立など、その前提条件が整備されていないければならないからです。

こう考えてまいりますと、放っておいても自分で勉強する癖のついている生徒がほとんど超進学校、学校が精神面でも学力面でも強くサポートすることで学力を上げてゆく程度の進学校、そして、高校入学時の学力では

3年間での難関大学合格は無理なレベルの生徒を受け入れる学校に大別されます。三番目は学力レベルによりさらに細かく分けることが出来ます。これは学校がそういうレベルだからというよりもそういうレベルの生徒が現実にいるからそれらを受け入れる学校ができていると考えるのが妥当でありましょう。偏差値の低い学校に行くのが嫌なら必死で勉強し高い学校へ行けということになりますし、間に合わなければ今のレベルに合う学校に行くしかないのです。そして学力相応の学校を選ぶ場合に最も大切なことは、自分を変化させてくれる学校であるかどうかです。学力が身につくような教育をしてくれる学校であるのか、マナーや身だしなみ、社会人としての常識を身につけさせてくれる学校であるのかどうか。但し、生徒本人が自分をより良い方向に変化してゆこうという気持ちを持たなければ意味がありません。生徒を受け入れる学校側から考えますと、すべての学校が進学実績を競うことに意味があるのか、学校としての存在意義はそれ以外にあるのではないのか、学校の評価は難関大学への進学実績で決まるというのは間違いではないかと思わざるを得

ないのです。まだわずか5年間の校長経験ではありますが、3年間で低い学力を高めることは容易ではありませんが、生活習慣や物の見方、考え方を変えることが出来たケースはたくさんありました。見方、考え方が変われば生き方が変わります。その陰には、意識改革と校務におけるPDCAの導入による教員集団のためぬ努力があります。極論を承知で申し上げますと、超進学校の教師は楽です。生徒が自発的にどんどん勉強しますし、塾や予備校にも進んでゆきます。生徒と保護者の自助努力で進学実績を高く維持できます。本校の教師はそんなに楽ではありません。勉強でも生活態度でも先ずモチベーションを生み出すことから行わねばなりません。そしてそのモチベーションを上げてゆかねばなりません。しかし、ここにこそ学校の最も大切な機能があると思います。ただ、これは進学率と違って測定しデータ化して数字で示しにくいいため、また派手さがないために、なかなか良さを理解していただけません。今朝、阪神電車に乗って学校に参ります時、電車の中で何人かの本校の生徒を見ました。服装も態度もまったく問題なく、安心して千船

駅で電車を降り階段を下りかけましたところ、下から上がってくる別の学校の生徒とすれ違いました。ふと足元を見ますと、寒いからでしょう、スカートの下にジャージを穿いています。いわゆる埴輪ルックです。後ろから来る本校の生徒は格が違うぞと嬉しくなり自然と背筋が伸びました。しかし、以前の大阪福島時代はこんな埴輪ルックの生徒が沢山いました。見つけるたびに、みつともないから脱ぎなさいと指導をして回ったものです。残念ながら今の好女生を知らない方の中にはまだまだ以前の福島女子時代のイメージを強く持っている人が沢山おられます。百聞は一見に如かずなのですが、まだまだ広報活動が行き届いていません。先日も大阪市のある中学校の先生がお越しになり、「ほんまにこの3〜4年で学校が変わりましたな。昔は酷かったもんな。私も来てみてわかりましたんで、保護者も連れてきたんですわ。そんなら一発で好文を気に入ってくれて、あの子入学しましたやろ。30代から4代のお母ちゃん連中の中には昔の悪いイメージを持つてる人が多いんですわ。とにかくたくさんの方に学校へ来てもらわなあかんわな。中学の先生にも

きてもらわな。イメージ変えるにはまだちょっと時間かかるやろけど。応援してるよ。」大変ありがたいお言葉を頂き感謝いたしております。昨日、3年生最後の好文未来学講座を、女優の三林子さんの講演で締めくくらせていただきました。最初、少しおしゃべりをしていただきましたが、「そのおしゃべりをする子、静かに聞かないのだったら出ていきなさい」と一喝。「自分の部屋や家さえ片付けられない人間は一流にはなれない」、「日本の伝統文化の文楽や歌舞伎を見る国立劇場や歌舞伎座で、いい年をした着物姿の女性がベットポトルからがぶ飲みをしているが、パリのオペラ座ではこんな景色は見られない。下層階級のする真似を人前で堂々とするその精神が情けない」、「芸人は舞台では汚い言葉を使って恥をさらしてお金を稼いでいるが、楽屋では実に礼儀正しく上下関係が厳しい、そんなことも知らずに日常生活で同じ汚い言葉で話しているんじゃないですか」等等など、迫力ある講演で溜飲が下がりました。全く同感であります。お金のあるなしではなく、女性として、人としてプライドを持つことをこれからも恐れず怯まず教えてゆき

## 大学の秋入学を 考える

たいと思いました。そして、地元から認知される学校へ、努力と変化をきちんと伝えてゆけるよう広報活動のテコ入れ、強化が改革6年目を迎える今年の最重要課題だと決意を新たに致しました。

東大が大学の秋入学への移行検討を打ち出し、旧帝大や早慶がはやくも同調、企業や政府も支援の方向と伝えられています。グローバル化の波が高等教育にも押し寄せており、海外から優秀な学生と教員を呼び込み国際競争力を強化しようとの趣旨です。S & P、ムーディーズ、フィッチなど大手格付け会社により、先進各国の国債のレーティングが下げられ、経済危機に拍車をかけていますが、世界の大学ランキングにも代表的な評価機関があり、毎年 World University Rankings を発表しています。週刊ダイヤモンドに掲載さ

れた2009年のThe Times Higher Education THE-QSによる上位20校は、トップのハーバード大学を筆頭に米国が13校、ケンブリッジ大学以下、英国が5校、オーストラリア、カナダ、スイスが1校ずつで(同率20位)、スイス以外はすべて英語圏です。東大が22位に京大が25位にランクされています。米国の圧倒的優位と英国の二番手は不動です。2010年にこの会社はQSとTimes Higher Educationに分かれて別々の評価をするようになりましたので、評価方法には若干の違いはありますが凡そ次のような項目が挙げられています。教育の水準、研究のレベル、論文の引用数、産学協同による成果、留学生の割合、外国人教授陣の割合など。これらの項目はすべて同等の比率ではなく、教育水準や研究レベル、論文引用数には各々40%から20%と高い配点が割り当てられています。2011年から2012年にかけてのランキングを調べましたところ、QSでは東大が25位、京大が32位、Times Higher Educationでは東大が30位、京大が52位となっています。順位が年々低下していることをことさら卑下する風潮がありますが、

妥当なのでしょうか。私が昨年卒業式に訪れた1583年設立の英国エジンバラ大学を例にとりますと、QSでは20位、Times Higher Educationでは36位にランクされています。東大、京大のTimes Higher Educationにおける項目ごとの得点をエジンバラ大学と比較してみます。Teaching (Learning Environment) では、エジンバラ63対し東大86・1、京大76・4、Research (Volume, Income, Reputation) ではエジンバラ61・4に対して東大80・3、京大72です。教育環境や研究評価では東大と京大はエジンバラ大学より高い評価を得ており、決して世界の大学の中で見劣りはしていません。ところがOverall Scoreとなるとエジンバラ72に対して東大74・3、京大64・8とその差が縮まります。その理由は他の項目にあります。Citation (Research Influence) 項目でエジンバラ92・3に対して東大69・1、京大56・3、そしてInternational Outlook (Staff, Students and Research) 項目でエジンバラ79・8に對し東大はわずか23、京大は21・1なのです。即ち、世界の主要学術誌に掲載される論文引用数や大学内における学生や教授陣の国

際化で大きく水をあけられているというところがわかります。ちなみにアジア地域で東大に次ぐ2位で世界ランキング34位の香港大学はOverall Score 72・6で、International Outlookが83・7、アジア3位で世界ランキング40位のシンガポール国立大学は、各々70・9と93となっており、国際化の点で非常に高く評価されています。ともに旧英国植民地で英語の普及率は日本とは比較になりません。入学時期を秋に変えることに関し、高校卒業と入学までの期間の使い方（ギャップ・ターム）や就活との関係が話題に上っておりますが、本来、欧米では大学合格が決まった後、一年間入学を延期し、その間に世界旅行をしたり、ボランティア活動や企業でインターンシップに従事したりして社会経験を積むことをギャップ・イヤーと呼んでいます。また、大学卒業後もすぐに就職せず、この時点でギャップ・イヤーをとる場合もあります。企業による採用が新卒にこだわらず、かつ通年採用であるから可能なことでそれを認める文化があります。単に秋入学に変更することで高校卒業の3月から大学入学の9月までの空白期間を埋めようというギャップ・タームの発想とは

異なります。そして最も肝心なことは、授業を英語で行わねばならないということ。本気で国際競争力を高めるために優秀な外国人学生や教員を招こうとするなら、理科系はすべての学部で文科系も日本文学を除けばほとんどの学部でやらねば意味がなく、一般の日本人学生や教授陣がそれに対応できるのか大いに疑問です。高等学校までの英語教育にもかわることで、かなりハードルが高いと思います。大学の秋入学移行は大学入学時期を国際標準に合わせるというテクニカルな問



題では済まず、日本の英語教育自体を大きく変えなければならず、相当の覚悟と理念をもって進めなければならぬと思います。私たちの英語が受験英語から脱却して使える英語にならないのは、日常生活において英語を使う必要がなかったからです。大学で授業を英語でやるとなれば、大学に行きたい人は否が応でもそれに耐えうる英語力をつけねばなりません。日常生活での英語の普及状況の違いを考えると、香港やシンガポールと同等のレベルに持つてゆくことは至難の業だと思えます。それに、大学での授業がすべて英語になるとしたら、なんだか外国人御雇教師によって講義がなされていた明治維新に逆行りしてしまうことになります。このランキングを気にしすぎるあまり、日本の独自性を考慮に入れずに国際化を進めることはいかがでしょうか。ドイツの大学やフランスの大学が英語で講義を行っているのでしょうか。大学の国際化それ自体の必要性と方法論をしっかりと吟味する必要があると思います。

## 仕事の流儀

最近少し感心したことがありました。出張報告書に閱してのことです。大変異例のことではありましたが、2名の非常勤講師に広島県立高校で行われた「学びの共同体」公開授業研究会に参加してもらいました。この2名は昨年4月に採用したばかりで、一人は新卒、一人は卒業後数年塾の講師をしていました。二人とも大変前向きでやる気があり、授業もなかなかしつかりとやっております、生徒の評価も上々です。そこで、今年の4月から常勤講師にすることに決めました。以前にも述べましたが、昨今は「高一ギャップ」の解消が重要課題となっており、そのためには、授業に興味を持って参加させることが必要となります。教師が黒板を前に一方的に講義する形式では、考えようとしていない子はわからないまま時間が過ぎてゆくだけで、これが積み重なると、机にうつ伏してお休み状態となりま

す。「学びの共同体」の特徴は簡単に申し上げますと、教師による一方向型の授業を、先ず机の配列をコの字型に変え、授業の随所に4人一組のグループを作らせ10分程度で一つの問題についての回答を話し合わせ、その結果を発表させるという形態に変えるところにあります。教師には質問しにくくとも友達なら遠慮せずに関わる場合があり、また、数人でアイデアを出し合ったり、わかる子がわからない子に教たりすることを通じてお互いに考える時間が生まれます。一度、数学の授業でトライアルでやってみたことがありますが、生徒には概ね好評でした。私は、この「学びの共同体」型の授業が最良であるとか、かならず本校の生徒に合うとか言っているわけではありません。勉強に対するモチベーションがない生徒や基礎が抜け落ちている生徒に従来通りの授業をやっているモチベーションも生まれなければ、基礎学力もつきません。方法を変えてみるべきなのです。にもかかわらず十年一日のごとく同じことをやって、「ダメだ、ダメだ。」と嘆いているようでは進歩がありません。この方式を導入しようとすれば、机の配列を変えるだけでなく、授業の

教材や進め方、グループ分けのタイミングなど、随所に創意工夫が必要になるのですが、それが面倒だからなかなかやろうとしないのだと私は見えています。今回、この若い非常勤講師を研究会に派遣したのは、柔軟な頭で、新年度からこのやり方を本校なりにアレンジして導入するリーダー役を担ってほしいと考えたからです。二人から報告書が上がってきました。1月27日(金)に研修に行かせたのですが、一人は2月1日付のレポートを2月1日の今日、持ってきました。もう一人は1月27日付を30日(月)にもってきました。土、日を挟んでいきますから2月1日でも決して遅くはありません。まして、非常勤、それも去年大学を卒業したばかりの新人です。27日付のレポートを提出したのは大学卒業後数年塾講師をしてから本校に来た20代後半の教員です。内容も非常によくできていました。研修が終わったその夜のうちにレポートを仕上げたと聞きました。こう言いますと、「そりゃ、非常勤なんだから、担任も校務分掌もないんだから時間はいくらでもあるわな。」との、つぶやきが聞こえてくるのは百も承知です。そして、そういうことを言う人間に

限って、時間が出来ても気の利いた仕事ができ  
ないものです。

生徒には自発性を持ってとか自分から進んで人の嫌がる仕事もやれとか偉そうなことを言うのですが、「それは命令ですか？」とか「それは私の仕事ではありませんから、」という誠に後ろ向きな発言を何度も聞かされてきた私から見れば、彼らは気持ちが良いほど実に前向きです。朝の校門指導にも自発的に参加してくれています。「非常勤に校門指導までさせている」と解釈している向きもあるやに聞いておりますが、私は非常勤の彼らに校門指導を指示したことは一度もありません。昨年、採用直後に、校門に立っている私のところに来て、「私たちも立たせていただいでよろしいでしょうか。」と、聞いてきたのです。「いや、それは非常勤の仕事ではないから許可できません。」と言って、若者のせつつかくのやる気を削ぐほど官僚的な野暮なリーダーでは私はありません。教師の仕事内容は年齢に関係なく同じだということは何度も申し上げてきました。ですからベテランだから優れているとは限りません。仕事への取り組み方、熱意が大事なので

す。京都大学産官学連携本部イノベーション・マネジメント・サイエンス研究部門客員准教授の瀧本哲史氏が、これから社会に旅立つあるいは旅立ったばかりの若者へのメッセージとして『僕は君たちに武器を配りたい』（講談社）というタイトルの本を書いています。この本の中で、瀧本氏は、グローバル化とIT化が進む中で、高学歴ワーキングプアが生まれてきている背景に「コモディティ化」があると述べています。「コモディティ化」とは、市場に出回っている商品が、個性を失ってどれをとっても大差がない状態のことを言います。「会社員、研究者、営業マン、教師、といった具合に、同じような能力を持った人間であれば、今やっていることをほかの誰かと交換しても、変わり映えしない労働力になることが、個人のコモディティ化である。」瀧本氏はこれから日本で生き残る4つのタイプを、マーケット、イノベーション、リーダー、インベスターとし、生き残れない2つのタイプを、トレーダーとエキスパートととらえています。単にモノを右から左に動かすことで利益を得てきたトレーダーや専門性と高いスキルが売りのエキスパート

はインターネットの普及によってコモディティ化が進んでいます。商品に付加価値をつけて、マーケットのニーズに合わせて売ることが出来るマーケットや新しい仕組みを作り出せるイノベーションこそが価値があります。日教組が推し進めてきた教師労働者論は、まさに自らをコモディティ化してきたわけで、社会主義、共産主義的発想の面目躍如たるものがあります。担任力や授業力で差別化できる教師には、マーケットとイノベーションの要素が不可欠です。商品ならコモディティ化されても安ければ購入する消費者もいるかもしれませんが、コモディティ化された教師はいただけません。とりあえず当たり障りなく授業をやり、校務も表面的にこなし、細く長く職に留まることだけを考えているような教師では、生徒に十分な学力を付けることも、人としての成長をさせることもないまま、中退あるいは卒業を迎えさせてしまうことになり、それではあまりにも生徒と保護者に申し訳ないではありませんか。本校においてもマーケットやイノベーションと位置づけられる教員を一人でも多く育ててゆかなければならないと思います。若手教員にはこの本の一読

## 歪められた『好文 学園女子高等学校、 校長の理念』

を勧めたいと思います。そして教師として通用する仕事の流儀を体得してほしいと思います。出来れば、担任、教科指導、校務分掌すべての分野で余人をもつては代えがたいと言われる教員になっていただきたいと思いません。

「ある女性のブログによると、去年この学校の教員として内定していたが、直前になって、特に仕事に支障のない障害が発覚したところ、それを理由に内定を取り消したという。噂では、この校長兼理事長は、病気の障害を抱えた教職員や生徒は、すぐに解雇、退学させるという。「健常者だけの学校作りを」というのが、校長兼理事長の理念らしい。仕事、学校生活に支障のない病気等でも、発覚するとすぐに解雇、退学させるらしいので、就職、入学を考えている人は、良く

考えたほうが良いのかもしれない。まあ、これはあくまで噂なので真相はわかりませんが、校長の理念を覚えておくといいでしよう。」これは、インターネットで好文学園と入れて検索すれば出てくるあるブログに書かれている内容そのままです。火のないところに煙は立たないと申しますので、読んだ人はきつと何かあったのだらうと思うことでしょう。まさにその通りで、内定を取り消したのことは事実です。しかし、その理由や背景は全く事実と異なります。内定を取り消した理由の記載をしていたことが判明したからです。そして、それが判明したのも、内定後暫らくしてからの本人からの告白によるものだったのです。本人がわざわざ告白してきたということは、その事実を隠したまま採用されることに一抹の良心の呵責を感じたからではないのでしょうか。また、採用後でその事実がわかったとき、問題にならないかを心配したからでもありません。もし、本人が応募時にその事実を正しく申告していたとしたら、一旦採用通知を出してそれを取り消すなどと言うことにはならなかったと思います。この虚

偽申告の当該事実が病気というべきものなのかどうか門外漢の私にはわかりません。障害とさえいえる障害になるのでしょうか。個人情報ですからこれ以上は詳しいことは申しません。但し、私は、病気や障害を理由に教職員を解雇したり生徒を退学に追い込んだりする考えなど全く持ち合わせておりませんし、またそのようなことをした事実は天地神明に誓ってありません。このブログの問題点は当人の話を聞いただけで相手方である当方への事実関係の聞き取りと検証もなく、伝聞推定のみに基づき、想像でストーリーを描き、噂なので真相はわからないと言いつつも、結論のところではそれが私の理念であると決めつけているという全く論理矛盾も甚だしいところにあります。「努力するものが報われる学園作り」という私のモットーを、「健常者だけの学校作りを」という言葉で汚すとは言語道断であり、悪意を感じずにはおられません。このような無責任な発言がさも事実であるかのようにインターネットで配信され不特定多数の人の目に触れ、その思考に影響を与えることは実に恐ろしいことだと思います。このような事例は他校においても度々起こっている

ることと思います。最近では2chなど裏サイトでの言いたい放題がまかり通りこのようなネガティブな書き込みを含めて学校や企業のイメージダウンにつながるサイトをチェックして削除するビジネスが出来てきました。先日もパンフレットが送られてきました。IT産業の「顧客創造」もここまで来ると、マツチポンプ（自分で火をつけて、自分で消す）と言う他ありません。生徒間でも携帯メールやブログをめぐり虐めやトラブルが絶えませんが、学力の低下と無関係ではないと思います。最近のこどもはいわゆるボキャ貧（言葉を知らない）で、文章で物事を説明することが不得手です。単語しか言えません。論理的思考どころか、それ以前に言葉を知らないのですから表現も稚拙です。判断力のないものに危険なものを持たせることがトラブルの元になっていますが、さりとて学校内での携帯の使用を禁止することはできても、自宅での携帯の使用やインターネットへのアクセスを制限することなどできず、抜本的な解決にはなりません。我々は道具を取り上げるのではなく、正しく使えるように、子供たちに判断力を付けることに力を注いでゆかねば

なりません。まずは人の気持ちを忖度することを学ばせる必要があります。そのためには人の話をよく聴く癖をつけることです。「聴く、見る、話す」の順番を守ればコミュニケーションは上手くゆくのですが、自分の言いたいことを「話す」ことばかりに気がいつて、見ようとも聴こうともしない傾向があります。また、本気で叱られたことがなく、誤った権利意識だけで物を言う人間も多くなりました。これらは生徒に限ったことではありません。世の中は不条理なものなのですが、とかく何かにつけYesかNoかはつきりさせないと気が済まなくなっています。

先日、卒業を控えた3年生にご講演をいただいた女優の三林京子さんが、面白いことをおっしゃっていました。「我々は自然界になり直線に囲まれて生活しているので、丸みを帯びた人間関係が希薄になっている。四角いベッドで四角い布団に包まれて眠り、起きれば四角い鏡で顔を見、四角い携帯で話し、四角いパソコンで仕事をする。」直線でできている四角や三角では気持ちも尖がります。インターネットで調べれば答えはすぐに見つかります。電子辞書を使えばいちいち重い辞書

を引く手間が省けます。文章もワードで素早く完成します。お蔭で私は漢字や英語が読めなくても書けなくなりました。手書きの手紙からは書き手の気持ちを感ずることができません。ワードの文字からはそれがありません。ですから、真意を伝えるためにはなお一層、言葉の力を借りねばなりません。最近では携帯で時間がわかりますから時計をしなくてもよいのですが、私は相変わらずの時計派です。以前は丸型の手巻きを使っていたのですが、あわてて勢いよく巻き上げると壊れてしまう代物で、修理が頻繁になり最近はお蔵入りです。それに替えて今はこれも円形ですが自動巻きを使っています。休みが続けばらく腕から外して机に置いておくと、3日目ぐらいには止まってしまっています。着けるときに、テレビで時間を合わせて振って動かす面倒が生じますが、この作業でONとOFFのけじめをつけられますし、時間の経過を改めて感ずることが出来ます。IT化の功罪を問われれば、「功」は利便性の向上、効率化、生産性の向上と言ったところでしょう。「罪」は、人々から「待つこと」を奪ったということだと思います。「待てない」人間は、心に



## 「常識」について

ゆとりが生まれず、熟慮して結論を出すことができません。反射的に反応し、意思疎通を欠きその結果攻撃的になります。このITという極めて便利な進んだ技術を正しく使いこなすためには、資格偏重から教養へ、直線的思考のキャリア教育ではなく、リベラル・アーツに重きを置いた丸みのある教育こそが必要ではないかと思えます。

2月6日の朝日新聞夕刊一面トップに、大阪維新の会が府議会に提出した教育基本条例案に関して、「有形力」体罰と境目は?と題した記事が載っていました。記事には、教育基本条例案に「(教員は)教育上必要があるときは、必要最小限の有形力を行使して児童生徒に懲戒を加えることができる」という条項があるが、殴る、けるなどの行為とは区別するため「体罰は加えることができる」と

い」との一項を入れているということ、学校教育法は体罰を禁じているものの、指導との線引きが難しいため、2007年に文部科学省はその基準となる指導方針を通知し、有形力の行使は一切が体罰として許されないものではないと位置づけたということが書かれています。小見出しには「維新条例案最小限の行使認める」、「暴れる生徒の対応想定」とあります。学校現場では保護者のクレームも増加し、体に触れることには慎重になっており、「遠回りでも言葉で諭すのが最良だ」という意識が定着しており、政治が困難な現場に目を向けてくれたことはうれしいが、体罰容認と取られ、力に頼らぬ指導が混乱する可能性もある。」と心配する50代の男性中学教諭のコメントも載せています。その下には、「手出したら終わり」との見出しで、「現役教師に聞く」と題し、10年以上荒れる生徒と向き合ってきた40代の男性高校教諭の話が続きます。校舎内の廊下で男子生徒がたばこをくわえようとしているのを見たところ、見られたことに気付いた生徒がたばこを持った手をポケットに隠すのが見えたそうです。そこで手を出せ出さないで押し問答になりました。

この教員は、「条例はこんな時、有形力を使い、ポケットの中の手を引つ張り出すことを認めようと思うのだが、自分はそんなことは絶対にしたくない」と思い、彼はその生徒を別室につれてゆき、たばこを吸おうとしたそのことよりも、良くないことを見つけたのにそれを認めようとしなかった態度が許せないということを懇々と説いた結果、この生徒はポケットから手を出したばこを差し出したと言います。彼は、生徒に手を出すことは「お前には言葉が通じない」と言う態度に他ならず、動物扱いされた生徒は益々荒れることとなる。教師の目的は現場を押さえ、罰することではない。」と述べています。夕刊とは言え、この記事がどうして一面トップなのか、教育欄でしっかり論じたほうが深みが出たのではないかと思いました。また、「有形力行使支持派」対「不支持派」という対立構図とも見える紙面の作り方にはある種の意図を感じます。それはさておき、生徒指導に関して良い材料を与えてくれていますので、生徒指導部にコピーを配り、この記事を読みながら議論してくれるよう依頼致しました。私はこの問題の要点は次の二つだと考え

ます。①生徒の人としての成長を願ひ「叱る」のか、生徒の行為に腹を立てて「怒る」のか。②生徒との間に十分なコミュニケーションが成り立っているのか。人間の感情や行為は理屈通りにはまいませんし、マニュアルで対応できるものでもありません。プロとしての機転とかセンスというものがものを言います。しかし、残念ながら最近では、「そんなことぐらい常識だろう。」と、一蹴したくなるものが間々あります。常識と言うものは国や文化によって異なりますし、政治、経済、社会の変化によっても変わると言えるかもしれません。道徳観やマナーに関する常識と制度やシステムに関する常識とは異なります。前者には議論の余地がありませんが、ダメだとはつきり言えない大人が増えていきます。後者には議論の余地があります。例えば、新卒一括採用と既卒も含めた通年採用の違い、あるいは、年功序列の終身雇用と成果主義との違いなどは、日本と欧米の企業風土と労働市場における考え方の相違です。ここには根底に経済的な損得勘定が働いており、その妥協点を見つけることとなります。しかし、生徒を育て導くことは、制度やシステム

ではなく損得勘定は入る余地がありませんし、入れるべきではありません。その根底には愛情がなければなりません。愛情が動機であるならば、たとえ場合によって強制力を働かすことがあっても、自ずとその行為は受容範囲に収まり、その愛情が伝わるなら、生徒は理解します。私はこの愛情とは生徒に対する愛情であると同時に、自分自身に対する愛情でもあるのではないかと思います。「子供は来るな来た道だから、年寄笑うな行く道だから」と言います。失敗や挫折を乗り越え努力を続けている教師でなければ自分のキャリアを肯定的に反省し、自分を愛し、生徒を愛することなどできないと思います。教育においては愛情を基盤にした万国共通の常識すなわち、一般的知識とともに理解力、判断力、思慮分別があるとと言ってもよいのではないのでしょうか。志を持った真面目で生徒思いの教師は沢山いますが、親の過保護あるいは放任、企業やマスコミの利益至上主義による許された危険（使うことは禁止できないが使い方によっては危険を伴うモノ）の氾濫、コモディティ化した教師（好文本「仕事の流儀」をご参照ください）、ころころ変わる文部行

政が、彼らの行く手を遮っています。私たちは彼らの行く手を正しく照らさねばなりません。「真理は単純にして平凡である」という我が恩師の言葉が脳裏に蘇ってまいりますとともに、「口で言うより手の方が早い、馬鹿を相手の時じゃない♪」美空ひばりのヒット曲「柔」の歌詞が自然と口をついて出てきます。

143

2012/02/20

## 大学開国

19日の日曜日は、専願者の教材と制服の購入日でした。同時に、特待生を集めて、その趣旨と心構え等をお話する機会でもありました。私は、特進コースの専願者と併願者に対して、次のような話をいたしました。「ここ数年の世界情勢を見ると、まさに不確実性の時代だと言えます。グローバル化の波が押し寄せてきており、企業は優秀な外国人の採用を増やしつつあります。東大の秋入学も国

際化をめざし優秀な留学生を集めようとして  
います。学歴社会と言うと日本では否定的な  
響きがありますが、世界はみんな学歴社会で  
あるのが現実です。みなさんは、日本人とだ  
けではなく世界の人々と競争しなければなら  
ない厳しい時代に直面しているのです。一流  
大学に入り一流企業に入れば定年まで安泰と  
言う時代は終わり、その時々には自分の頭で考  
えて変化に対応してゆかねばなりません。し  
かし、その土台となるのはやはり基礎学力で  
す。基礎がないところに応用力は生まれませ  
ん。いわゆる人間力、すなわちコミュニケーション能力や表現能力などは多くの実体験と  
センスが要求されますが、学力は積み重ねる  
ことのでかかなりの部分伸ばすことが出来ます。  
やればやっただけの結果が出るのです。みな  
さんはこの基礎学力の向上にこれからの3年  
間挑戦することになります。好文学園の特進  
コースはみなさんをサポートする万全の体制  
と実績を持っています。どうか安心して本校  
で学んでください。」生徒も保護者の方々も  
大変熱心に聞いてくださいました

「秋入学、変革のうねり」と題した記事を載  
せています。欧米の一流大学に比して国際化  
に著しく後れを取っている東大の焦りと危機  
感に経済界も共鳴しています。8面には国際  
教養大学学長の中嶋嶺雄氏と経団連教育問題  
委員会共同委員長の石原邦夫氏のインタ  
ビュー記事があります。ともに国際化の必要  
性を訴えています。そして15面を見ると、  
「外国人留学生存在感じわり」と題し  
2013年採用に向けての動きが載ってい  
ます。企業はグローバル人材獲得を狙い、プ  
レゼン力、語学力、学習意欲に優れた外国人  
が日本人のライバルとなりつつあります。さ  
らに23面の教育特集には「高校の課題を聞  
く」シリーズ④で、高校生の勉強時間がここ  
10年で急減しており6割の生徒が家でほとん  
ど勉強していないことが報告されています。  
国立大財務センター教授の金子元久氏は、大  
学全入時代を迎えて、特に学力中位層が勉強  
しなくなっており、自ら学ぶ習慣が身につい  
ていないと言います。一日の朝刊に大学、企  
業、高校の3方面から考察された教育に関す  
る記事がこれだけ一挙に掲載されるのは、珍  
しいなと思いつながり読んだ次第です。

東大の危機感克服のためには優秀な外国人留  
学生と教員を呼び寄せねばならず、英語での  
授業は必須となりますし、海外の大学との単  
位の互換性も必要です。今の制度では海外の  
一流大学で取得した単位が日本の大学ではほ  
とんど認められないというおかしな状態に  
なっています。また、リベラルアーツを重視  
し、幅広い教養やディベートやプレゼン力を  
養い、自ら学ぶことを主としている欧米と、  
実学、資格取得に重きを置く傾向が強く、教  
授の講義が中心で、就職予備校化している日  
本との格差には大きいものがあります。ま  
た、企業においても、創造力や既成概念にと  
らわれないチャレンジ精神ある人材がほしい  
という割には、実際に入社してみると旧態依  
然たる日本的和の精神が重んじられる杭は  
打たれるのが常態ではないでしょうか。建前  
と本音があまりにも違いすぎているのではな  
いでしょうか。高校生は勉強しなくても、高  
望みをしなければ指定校推薦やAO入試で  
ほとんど大学に行けるのですから、勉強しよ  
うというモチベーションがありません。この  
ような高校生の現状を見ると、学者や大企業  
経営者の期待は雲の上の話のように聞こえて

しまいます。なんだか教育界全体が押し寄せ  
るグローバル化の波に浮足立っているような  
気もいたします。その割には東大も秋入学移  
行は5年後をめどにと考えているようで、こ  
れだけ変化の激しい時代に合って少し悠長す  
ぎやしないかとも思います。

私は、国際化で大切なことは自らを十分知っ  
たうえで世界の土俵に立つことだと思いま  
す。まず、日本語での授業がきちんと成り立  
つこと、小学校から高校までの基礎学力の向  
上を図ることが先決ではないかと思えます。  
改革につきものの上っ面だけのシステム変更  
は、仏作って魂入れずになってしまいう例は枚  
挙にいとまがありません。本気で教育の国際  
化に踏み切るとなると、対応できる大学と出  
来ない大学、出来る大学に行ける学生とそう  
でない学生に、今以上の格差が生じると思  
います。そうなるとダメな大学はどんどん淘汰  
され、大学進学率は下がるかもしれません。  
ついに日本の大学も黒船来航の時を迎えたよ  
うです。幕末維新の折は、江戸時代における  
武士階級のみならず庶民においても読み書き  
そろばん等の教育水準が諸外国に比べて高  
く、十分な教育的蓄積があり、それが明治維

新を支えたと言われていますが、はたして21  
世紀の飽食の時代の日本はいかがなもので  
しょうか。大学開国の道のりはかなり厳しい  
ように思えます。

144

2012/03/01

## 凛として旅立つ

### あなたに

—平成23年度卒業式式辞より—

3年生の皆さん、卒業おめでとうございま  
す。保護者の皆様にも心からお祝いを申し上  
げます。

さて、皆さんが本校に入学した2009年  
の4月7日の入学式において私は、三つのこ  
とを申し上げました。一つは、強いものや賢  
いものではなく、変化に対応できるものだけ  
が生き残れるということ、二つ目は、近道を  
せずにあえて遠回りをするることによって生ま  
れる無駄の効用、そして三つ目は、努力する  
ほうがしないより成功する確率が高くなる  
ということでした。3年間の高校生活を通し  
て、これらのことを少しは実感できたのでは

ないでしょうか。

振り返ってみますと、みなさんが入学したこ  
の2009年は1月に、アメリカで  
「Change」を掲げたバラク・オバマ氏が大統領  
に就任しました。日本では9月に政権交代  
により鳩山民主党政権が発足しました。アメ  
リカが、日本が、そして世界が変革に希望を  
託しました。しかしながら、2008年の  
リーマンショックに端を発した世界的な金融  
危機による景気後退と格差拡大は一向に解決  
の糸口を見出すことが出来ないままギリシャ



の財政危機に引き継がれ、今や全ヨーロッパを巻き込むユーロ危機へと深化しており、反格差運動も世界的な広がりを見せています。我が国においても、長引く円高・デフレが企業収益の悪化を招き、企業の海外移転を促進し、ユニクロを展開するファーストリテーリングやパナソニック、イオンなど日本人採用を控え優秀な外国人を正社員として採用する企業が増えつつあります。東京大学は海外からの優秀な留学生と教員を獲得し国際競争力を高めるために欧米に倣い5年後をめどに秋入学に移行する検討を始めました。旧帝大や早慶など他大学も追従の意向を表明しています。本気で優秀な外国人を呼び込もうとするなら、欧米の一流大学レベルの講義とディスカッションを英語でやらねばなりません。そうなると、日本人学生の英語力を香港やシンガポール並みに高めなければならないと思います。今のうちに大学に入れたみなさんはラッキーだったと言える日が来るのかもしれない。このような経済や教育における変化は、我が国が名実ともに押し寄せるグローバル化の波に向かって競争社会に船出すること意味します。日本は先進国の中でも際立つ

て少子高齢化が進んでおり、生産や消費など国の活力にマイナスの影響を与えつつあり、国内市場が縮小するなか海外に目を向けざるを得ません。女性の社会進出も益々期待される場所ですが、優秀な外国人の雇用が増えるとなると、当然競争は厳しくなります。みなさんはこのような時代を生きぬいて行かねばならないということをしつかりと認識してください。それぞれの職場において、容易に代替がきかない、すなわち、あなたでなければその仕事は任せられないと言われる人材に



なつてください。そのためには常に学ぶ姿勢と創意工夫が必要となります。変化の激しいこれからの時代は過去の成功体験が役に立たなくなることもあり得ます。自分の頭でしっかりと考えて人生を切り拓いて行つてください。右肩上がりの成長期であれば、みんなと同じことをしていれば無難に生きることができました。場合によれば何もしないことが一番良いということもあつたかもしれませんが。しかし、これからの不確実性の高まる時代は、何もしないことこそがリスクになります。失敗や挫折を恐れることなく、果敢に挑戦してください。成功から学べることは少なく、失敗から学ぶことは多いのです。失敗を乗り越えることによって展望が開け、夢が持てるのです。人生に夢があるのではなく、夢が人生を作ります。「まことに小さな国が、開花期をむかえようとしている」という書き出しから始まる小説『坂の上の雲』で、司馬遼太郎は、ヨーロッパ先進国に追い付こうと近代国家樹立を目指し国際社会に漕ぎ出した20世紀初頭の日本と日本人の姿を描きました。100年後の現在21世紀の初め、高度成長期を経て成熟社会へと変貌を遂げた日本

## 小中学校の 留年を考える

は、再び新たなグローバル化の洗礼を受けようとしています。そのような中で、今、みなさんはまさに、人生の開花期を迎えようとしているのです。行く手は決して平坦ではなく多くの困難が待ち構えていることと思います。迷い悩みながらも強さを掴み、一だの雲を指して坂道を駆け登って行つてくださいます。凜として旅立つみなさんに幸あれと祈りつつ私の式辞といたします。

昨日、第63回卒業証書授与式が挙行されました。平成19年に学校長に就任しましたので私にとっては5回目の卒業式でした。いつもなら学年主任に任せている前日の予行演習に、私も参加し、昨年から導入した小笠原流礼法の講師の萩本先生に、歩き方、賞状の渡し方を正式に教えて頂きました。当日の国歌、校歌、「仰げば尊し」、そして「蛍の光」

の斉唱も吹奏楽の音に負けないぐらい大きな声で歌っており、非常に気持ち良い式でした。式が終わった後で、大阪府からお越しくださいましたご来賓からも「素晴らしい卒業式でしたね。聞き分けの良い子ばかりではないでしょうから、ご苦労も多かったと思いますが、実に立派に教育されましたね。感動しました。」と、有難いお言葉を頂戴いたしました。地元中学校の校長先生からも「好文さんは年々良くなりレベルが上がりますね。以前とは全然違いますね。」と、これまたお褒めを頂き嬉しい限りでした。3年間の教育の成果が卒業式に端的に表れたものであり、教員の弛まぬ努力と生徒の頑張りの賜物であったと思います。改革5年の節目にふさわしい凛とした式であったと大変満足致しております。さて、橋下大阪市長が小中学校にも留年があつてしかるべしと発言し、物議を醸しておりますが、私も以前から市長と同様の思いを持っており、好文木でも少し触れております。先日、生野区にある私学の高校にお邪魔し、大ベテランの校長先生にお教えを乞うてまいりましたが、その先生ももう少し小中学校の教育をしっかりとしてほしいと嘆いておら

れました。橋下市長の提案には学力の向上と言う点が強調されているので、学校教育で必要なことは学力だけではなく、総合的な人間力や個性を伸ばすことだという反対意見が出てくるのですが、橋下市長はそのようなことは百も承知だと思えます。容易に測定しやすい学力と言うものが教育のすべてではないにしても重要な部分を占めているということは古今東西不変であると思えます。それがあまりにも疎かにされてきたからこういう発言となつて出てきたのだと思います。実際、小中学校でもっとしっかり教育してほしいと思つている高校教師や校長は多いと推察いたします。以前、分数が出来ない大学生が話題になりましたが、高校でも九九がきちんと見えなかったり、アルファベットが書けなかったりする生徒もいるのが実情です。小学校4年生ぐらいの算数から勉強し直さないといけない子は結構います。その能力があるにもかかわらず、やるべき時にやらずに來てしまった結果できないというケースが多いと判断できません。九九などは小学校低学年でマスターしていなければ、中学で教え直しはしてくれませぬ。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」

となつてしまいます。教育の基礎部分は強制がなければ成り立ちません。多くの学識経験者の先生方は、ご自分の小さいころを忘れてか、あるいはみなさん極めて優秀で小さいころから向学心に燃えておられたのか、勉強が元から好きな子は少なく、勉強とは辛抱と根気だということを度外視しておられるのではないのでしょうか。また、詰め込みでは創造力は生まれにくいし、論理的思考や自己表現力を養う教育が出来ないと意見も散見されますが、それは一定レベルの基礎学力があるという前提で成り立つ議論です。昨年亡くなった住生活グループの創業者、潮田健次郎氏は、経営者の中でもひととき勉強家でしたが、小さいころ体が弱く長期間サナトリウムでの療養生活を余儀なくされ学校に行けませんでした。友達からノートを借りて勉強したと言います。2008年の日経新聞「私の履歴書」のなかで、「基礎知識がないと本を読んでも理解できない。入口を突破させることが教育と言うものなのだろう。」と述べています。潮田氏には私が商社勤務していたころ何度かお目にかかりましたが、「日本の紙の消費量はどのくらいなの?」「そのうち輸入紙の割

合は?」など私が所属していた紙パルプ部門関係の質問が矢継ぎ早に飛んできたことを思い出します。最近、勉強が出来ないあるいは成績がとれない理由に教師の教え方の悪さを挙げる生徒が増えました。私が生徒であった時も確かに色々なタイプの先生がいました。先生の教え方が悪いから勉強が出来ないとは思いませんでした。潮田氏の例を挙げるまでもなく、そもそも勉強は自分でやるものでし、出来るもので、わからないところを聞くと言うのが本筋だと思います。それが、教えてもらわないといけない、出来ないとなり、ついには教え方が悪いから出来ないというところに至ってしまいます。本来、勉強は自分の将来のためにするものであって、人から言われたから仕方なしにするものではありません。お客さん感覚の生徒や保護者が増えたのには、教育にも需給バランスが働いているからでしょう。しかし、教室を見廻っておりますと、もう少し工夫できないのかなと思わざるを得ない気の入らない授業をやっております、本人に注意をすることもありますが、生徒をお客さん扱いするのは間違いですが、自らの職責を果たす意味で、教員は常に授業

力に磨きをかけることを心掛けてほしいものです。また、学力だけではなく、基礎的生活習慣やマナーについても家庭との協力を強め、徹底してほしいと思います。これが整っていないから勉強に身が入らないのです。三つ子の魂百までと申しますが、鉄は熱いうちに打たねば、鈍のままでは使え物にならなくなります。これは小学校での徹底が必要だと思います。児童のみならずその親にも理解を求めねばならない場合も多く、小学校の先生も大変だと思いますが、そこは校長のリーダーシップの発揮が望まれるところでは。先日、あるメガバンクの支社長とお会い致しました時、最近、銀行でも若者の鬱が増えていて困っているとお話を伺いました。企業における鬱というと、ノルマ絶対主義や過剰労働が原因だとの論議に向かうのですが、どうやらそういった話ではなさそうでした。仕事が期限までに出来なかったから会社に出ると叱られそうで、会社に足が向かないなどの些細な理由で休んでしまうそうです。それもその電話を支社長に直接かけてきて心切を切々と訴えるそうです。支社長によればどの支店にも何人かはこのようなひ弱で気ままと言え

るような若者がいるそうです。メガバンクの社員ですから、一流大学出身者がほとんどでしょう。大学の国際化も結構ですが、こんな状態で、優秀な外国人留学生と英語で打打発止とディスカッションやディベートが出来るのでしょうか。現実と理想のギャップが大きすぎやしませんか。教育の基本である強制と厳格さがあまりにもなおざりにされた結果、過保護が大手を振って歩いているような状態に歯止めをかけなければ、日本人の精神的衰退がますます進みます。国民の精神的な衰退が延いては国全体の衰退につながることは歴史的必然です。古代ローマの崩壊は外部要因ではなくローマ人たちが自身で国を守る意思を喪失したからですが、その原因の一つとして、市民に無償で与えられた食料と娯楽があげられ、それを揶揄して「パンとサーカス」と言われました。教育が産業化し、「パンとサーカス」が持ち込まれるようになってはおしまいです。留年はそのアンチテーゼと捉えるべきでしょう。3月号の文芸春秋の特集記事「日本の自殺」を読みながら、こんなことを思った次第です。

146

2012/03/21

## 教育資本論

今日3月17日は3学期の終業式でした。学校行事の大晦日です。これが終わると新年度が始まる4月まで英気を養いながら準備に入ります。今年は終業式にもう一つの式が加わりました。卒業判定会議で保留となった生徒の特別指導が完了したことを受けて、その子のためのミニ卒業式を行ったのです。厳しい環境下に育った生徒でしたが、最後の二週間にわたる特別指導の中で、読後感想を話し合う教員とのディスカッションで、彼女が「痛みや悲しみに自分を投げ込む」と言ったとき、「もうこれで指導は終わりにしても良いな」と思いましたとの学年主任の言葉は大変印象的でした。自分の境遇を理由に困難から逃げようとしてきた生徒が、ようやくここに至り現実を直視し、立ち向かおうとの決意を新たにした瞬間であったのでしょう。規定に抵触することをもって原級留置すなわち留年

としたなら、経済的な問題から退学を余儀なくされることがわかっていました。境遇に配慮し、規定を曲げて卒業認定をすれば、規定が規定でなくなり、同じような境遇の子でも頑張っている子もおり公平を失うのではないかとこの意見も当然ながら聞かれました。しかし、このまま転退学となれば、本校の3年間で何も与えることがなく、中途半端な指導のまま社会に出すこととなり、本当にその子のためにはなるのだろうか。そしてまた、そんな中途半端な指導しかできなかったという悔いが教員団にも残るのではないのか。卒業判定の職員会議では活発な意見が交わされました。公平の観点からあくまで規定に則り原級留置とすべきだとの意見に傾きかけた時、一人の教員が立ち上がり、「欠果時数は確かに規定を越えていますが、成績は取れています。通信制に行けばあとわずかな単位取得で数か月で卒業が認定されるでしょう。このような状況の生徒に、本校の規定に抵触するからと言う理由で、卒業を認めないと今の場で判断することが、好文学園の正義と言えるでしょうか。」と意見を述べました。この発言は規定順守と教育的効果の狭間で悩む



多くの教員の愁眉を開いたように思いました。二時間に及ぶ判定会議を締めくくるべく、私は結論を出しました。担任と学年団が主となって彼女の心に少しでも火をつけられるような内容の濃い特別指導をすることを条件に、保留としたのです。

年に一度本校でご講演を頂いている近畿大学法学部教授の北口末広先生は、資本には経済資本、社会関係資本、文化資本、感情資本の四つがあり、教師によって変えることができるのは文化資本と感情資本だと言われます。これは教育による階層移動と同じ意味です。

北口先生は、人権とは自己人生コントロール権であるとも言われます。自己実現を可能にする権利と言い換えることが出来、自己実現の要素は、自己認識、自己決定、自己変革、社会参加、社会変革から成ります。好文学園の正義とは何か？それはまさに、北口先生の言葉を借りるなら、生徒の自己実現の第一歩として、自己認識から自己変革に至るプロセスを踏ませること、これを通じて文化資本と感情資本を注入することに他ならないと考えます。卒業判定会議が好文版白熱教室になったことは本校教員が真剣に一人一人の生

徒の前途を考えて、教育の意味を問おうとした証であり、十二分に会議の意義を果たし得たものと考えます。そしてまた、対象生徒が「痛みや悲しみに自分を投げ込む」と語った時、彼女は自己認識と自己決定を経て、自己変革の戸口に立ったのではないか、特別指導を通じて本校の教員は彼女に感情資本を吹き込むことが出来たのではないかと思うのです。そして、本校にもマイケル・サンデル（白熱教室のハーバード大学教授）がいたことは何よりもうれしいことでした。

147

2012/04/07

## 「挫折力」を 身に付ける

—平成24年度入学式式辞から—

新入生のみなさん、保護者のみなさま、入学おめでとうございます。今年度も363名の沢山の新入生を迎えることができ、大変うれしく思います。新入生の皆さんには、期待と不安に胸を膨らませての初登校であったと思いますが、私たちはみなさんが高校生活

に一日も早く慣れるようにしっかりとサポートしますのでどうぞ安心してください。

さて、成年即ち大人とみなされるのは二十歳からと法律で決められていますが、欧米の大半の国々に倣い成人年齢を十八歳に引き下げようと言う議論もあり、義務教育を終えて高校に進んだみなさんは大人への準備期間に入ったと言うことができます。従って、みなさんは、この三年間で肉体的にも精神的にもしっかりと自己を鍛えなければなりません。

そのためにはまず基礎学力をしっかりと身に付ける必要があります。そして、もう一つ、女性としてのマナーと教養の修得が求められます。それはあなた方自身が社会に出て活躍するためのものであると同時に、いずれ母親となるあなた方が自分の子供を立派に育て上げるために必須の条件なのです。本校ではスローガンに個性創造を掲げています。この個性と言う言葉は往々にして自分の我が儘を通すための理由に使われがちですが、ここで言う個性とは、生まれ持った身体的特徴や性格などの先天的なものを指しているのではなく、ありません。基礎、基本をしっかりと身に付け、原理原則、常識を理解した上で、初めて花開

く独創的な表現や考え方を指します。基礎が出来た上で初めて造られる後天的なものなのです。かのピカソやシャガールの独創的な絵画技法も実は精緻なデッサン力があればこそ編み出されたものなのです。好文学園では、基礎、基本をしっかりと学んでもらうとともに、一年次から卒業後の進路を見据えた好文未来学を通じて実社会に即応できる考え方を教えてゆきます。やがて皆さんが出てゆく社会は益々不確実性が高まっています。変化が激しく、昨日まで正解だと考えられていたことが、今日はそうではなくなります。今までのやり方が通用しないこともあります。そうになると、自分の頭でしっかりと考えて、知恵を働かせることが必要となりますが、知恵は、知識の集積がなければ生まれません。従って、社会に対する基本的な知識や良識と言ったものを先ず勉強することが必要になるのです。また、失敗や挫折を恐れることなく、新しいことに果敢に挑戦する勇氣を持たねばなりません。ただし、いくら恐れるなど言っても、ただ単に失敗や挫折を繰り返すのでは意味がありません。大事なことは、その失敗や挫折から学ぶことなのです。

昨年の東日本大震災により発生した東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会委員長に就任した東京大学名誉教授の畑村洋太郎さんは、失敗を恥と考えず、これを真正面から受け止めることで多くのことを学んできた自分自身の経験をもとに、「失敗学」を生み出しました。また、傾きかけた企業の再生に取り組んだ産業再生機構のトップを務めた富山和彦さんは、挫折を愛し、乗り越え、活かしてゆく力を「挫折力」と呼んでいます。失敗のないところには成功もありません。



ん。順風満帆に来たエリートほど危機に瀕した時には弱いということは、昨今の政治、経済を取り巻く諸状況を見れば納得がゆきます。失敗や挫折を経験する者こそ幸いです。ですから、若いみなさんは、勉学にクラブ活動にそして学校行事にと積極的に挑戦し、失敗や挫折から学ぶことでストレスに対する抵抗力すなわち「挫折力」をつけてください。私自身も、中学受験での失敗、大学受験での失敗、総合商社勤務時代での失敗など数多くの失敗を経験してきました。そして今に至るも小さな失敗は絶えず起こしておりますが、それらから学び次に活かして、今日があるのだと思っています。だからこそ、みなさんが挫折や失敗に打ちひしがれた時、傍にいて支えたい、立ち直す手助けがしたいと思っています。悩んだ時は遠慮せずいつでも校長室のドアを叩いてください。みなさんの相談に乗ります。

石の上にも三年といえます。途中で簡単に諦めないでください。入学したからには何が何でも卒業を目指して日々研鑽を積んでください。最後に、少し長くなりますが、今年卒業した生徒からのメッセージを紹介します。国



立和歌山大学と関西学院大学に合格した生徒が手作りのクッキーを持って校長室に挨拶に来てくれました。後で見ますとそのクッキーの袋に手紙がはさんであり、次のように書かれています。「好文学園で三年間過ごさせて、本当に良かったです。先生たちの手厚さにびっくりしました。また、私達の意見が届きやすく最高の環境で勉強することが出来ました。好文で学んだことを活かし、社会に貢献できる女性になれるよう頑張ります。「やればできるは魔法のことば」と「変化に対応で

きる者が一番強い」という校長先生のお言葉をいつも意識しています。好文学園が大好きです。有難うございました。」また、私が外出し部屋に戻ると校長先生へと書かれたカードが机の上に置いてありました。就職が決まった生徒からのものでした。「三年間、大変お世話になりました。思えば一年のころから校長先生にはご迷惑とご心配ばかりおかけしました。どんな小さな事でも気にかけてくださって本当にうれしかったです。好文学園に来て本当に良かった。いままでありがとうございますございました。」

今日ここに集ったみなさんが、三年後、同じこの場所から元気に卒業してゆく姿を見送ることができるとを楽しみにしています。みなさんの健闘を祈りつつ、私の式辞といたします。

148

2012/04/26

## 春爛漫から初夏の趣



ここ一兩日で随分と暖かくなったと思っていましたら、24日には、大分で30度を記録し真夏日になったそうです。最近、春と秋があつという間に過ぎ去り一気に夏と冬に突入する感じで季節が進みます。合服の出番がほんとうに少なくなってきました。この季節、花粉症に悩まされる人も多いのですが、樹木や草花が芽吹きの時を迎え、新緑が目眩しく、自然のエネルギーを感じる事ができ、気持ちも前向きになります。本校にはもともと樹木が少なく、大きな木もありませんでしたので、4年前の新校舎建設をきっかけに、緑の環境整備に乗り出しました。新たにクス、カシ、サクラ、モミジなど植樹をしましたが、木陰を作るそれなり的大木になるには

数十年かかるでしょう。その時、私はいませんが、沢山の生徒と教職員が枝を広げた大木の下で語り合う光景を想像すると楽しくなります。木々の成長に合わせて、本校も益々発展してゆきたいものだと思っています。グラウンドの芝生化を終え、花壇の整備も昨年から急速に進みました。これには保護者会と同窓会のご支援を頂きました。その花壇で今、芝桜がピンクの花を咲かせています。その中にスズランが小さな白い花をつけ、可憐な姿を浮かび上がらせています。美術の時間、校庭



のあちらこちらで写生を楽しむ生徒の姿が見られます。お昼休みに、芝生の上でお弁当を広げる生徒も多くなり、その景色は極めて自然なものとなりつつあります。

生徒の第一回進路調査結果の報告を見ると、1年生と2年生では大学・短大・専門学校への進学希望が75%、就職希望が21%となっています。3年生では進学が80%で就職は15%です。これは4月初めの調査結果ですが、年度末には進学希望者が増える傾向にあります。高卒での就職は求人数、職種ともに減少しており、進学したほうが有利だと言う現実をキャリア教育の中で認識する結果です。今春卒業した3年生は77%が進学し、就職は11%になりました。本校のある西淀川区には府立高校と市立商業高校がありますが、そのホームページを拝見しますと、4年制大学への進学はそれぞれ7%と12%ほどで、就職が44~45%となっています。一方、本校は33%が4年制大学に進んでいます。本校も元は商業高校であり、普通科に変わってからも就職する生徒が多かったため、そのイメージをお持ちの方々は、本校は今でも就職向きだとお考えになっておられるようですが、ここ数年



です。すっかり進学者が多い高校になりました。昨日は、特進コース以外のコースから、指定校推薦ではなく一般入試や公募推薦、AO入試で大学進学を目指す新2年生向けのチュートリアルの説明会を行いました。これは放課後に受験に必要な科目の補習と大学選択など個別指導を行うシステムです。特進コースだけでなく他のコースからも中堅大学を目指そうと言う生徒が少しずつ増えてまいりました。花壇の芝桜同様に、学校に、勉強する雰囲気広がるよう、あの手この手の思案を胸に、初夏を迎えようとしています。

## コンビニの海外展開 加速から半歩先を 読む

今日の日経新聞朝刊は、大手コンビニエンスストアの海外店舗数が2012年に5万を超え、中小を含む国内の店舗数を逆転する見込みとなったと報じています。海外での事業展開は中国、韓国、インドネシア、フィリピンなどアジア諸国中心で8割近くを占めるとのこと。この記事を読んで、「コンビニお前もか」の思いを致しました。

戦後の高度経済成長は、大衆消費社会を招来し、スーパーマーケットが急成長しました。1972年、流通革命の総帥、中内功氏率いるダイエーは三越百貨店を抜き、小売売上高トップに立ちました。そして、1980年には小売業で初めて売上1兆円を達成しました。ちょうどこのころから日本は株と土地の価格の上昇によるバブル景気に突入しました。私が大学を卒業し総合商社に就職したのがまさにその時期1981年でした。

1979年、ハーバード大学のエズラ・ヴォーゲル教授が「Japan as Number One」を書き、1986年にはソニーのファウンダー盛田昭夫氏が「Made in Japan」を刊行、日本経済絶頂期の観がありました。しかし、1990年初頭まで続いたバブル景気も、平成の鬼平こと三重野日銀総裁の不動産融資の総量規制発動によりあえなく崩壊し、それ以降現在に至るまで失われた20年が続いています。その間、日本では少子高齢化が急速に進み生産年齢人口は1995年の8717万人をピークに減少に転じ、その翌年1996年には小売販売額がピークアウトしました。自殺者が年間3万人を超えたのは1998年からです。このころからスーパーの時代が終わり、コンビニ全盛時代になったように思います。確かにその名の通りコンビニは便利ではありますが、百貨店からスーパーへそしてコンビニへと主役が移るとともに生活に余裕や幅がなくなり、無味乾燥で効率一点張りの感じを受けるのはこの時代には贅沢と言うものでしょうか。

このコンビニの記事の隣に「巨大地震、どう備えるか」の特集があり、全店舗が関東地方

に集中している食品スーパー大手のマルエツの専務の「本社の代替機能を関西などに置くことはできない。対策には限界があり、頭が痛い」とのコメントが載っています。日本は少子高齢化と言う人口問題から来る消費の減退と、活動期に入ったとされる巨大地震の発生と言う自然現象からの脅威にさらされ、人も企業も否応なく海外志向を強めなければならない時代に入ったのだと痛感いたします。こうなりますと、世界共通言語の英語は不可欠の武器となりますが、その武器も異文化とのコミュニケーション能力の裏付けがなければ、機能しません。そのためには先ず自己認識が必要であり、歴史観と国語力を養ううえで英語となると思います。幕末に次ぐ第二の開国とも言えるかもしれない大きなうねりがひたひたと押し寄せているように思うのですが、高1ギャップや不登校、メンタルな弱さが目立つ子供が増えている現状を見ますと、このギャップを埋めるのに失敗すると、格差拡大を許すこととなり、非常な焦りを感じます。

## 「家庭教育支援条例」の意味するところ

大阪維新の会の大阪市議団が、子育て支援や児童虐待防止などを目的とした「家庭教育支援条例」を市議会に提出する方針を決めました。DVや育児放棄など悲惨な事件で犠牲になる子供たちが多く、世も末だと思っただけに、維新の会としてはさもありなんの感を強くするとともに、村上春樹氏の小説『1Q84』に出てくるリトルピープルが頭をよぎりました。私は、リトルピープルがある種の思想的な権力と言うイメージでとらえています。保護者に対し保育園や幼稚園での「1日保育士・幼稚園教諭体験」を義務化するなどの条項を盛り込むようですが、親子育てに対する心構えと言うものは人のふみ行うべき道としての基礎の基礎と言える道徳的なもので、法律による外面的強制力で規定すべきものではないと思います。本校には保育進学コースがあります。実際に保育園や幼

稚園に向いているの体験も行っていきます。私は、本校のこの保育進学コースに入ってくる生徒に、「君たちは保育コースじゃなくて、保育されコースだよ」と、よく冗談交じりに言うのですが、いよいよ親も保育コースでリメディアル教育となれば、本当に世も末です。

野生ではなく動物園で飼育されている動物が赤ちゃんを産んでも子育てが出来ず、飼育係が子育てを教えると言うことがあります。科学技術が進歩した豊かで便利な世の中とは、動物園と同じなのかもしれません。多少厳しい、不便な環境にあれば、人は努力したり工夫するようになりますが、贅沢さえ言わねばとりあえず、そして、てっとり早く、飲み食いできる状況下では、努力したり工夫したりしようと言う気持ちが退化してしまうのでしょうか。そして、コンピュータゲームにおけるリセット感覚は心の痛みや肉体的苦痛と言った感覚を麻痺させ、自己本位の考え方になり、他者を思いやる心が生まれず、命の尊さにも気が付かず、人に感謝することもない、そして何より自分を大切にしない。そのような人間として壊れてしまった感情を法律

による規制で正常に戻すことはできないと思います。

上田紀行氏は『生きる意味』（岩波新書）のなかで、1997年神戸で起きた小学生殺傷事件の犯人、酒鬼薔薇少年の提示した「透明な存在」と言う言葉を取り上げています。「透明」とは、他者から受け入れられるために「自己透明化」していった人間の「透明」さであり、自分自身をかけがえのない存在だと感じる事が出来ない、自分自身を愛し、誇りに思うと言う自尊心を持たない若者であると、分析しています。また、ルース・ベネディクトの言う「人の目」を気にする「恥の文化」が縮小してしまい、「人の目」が気にならなければ何でもやってしまうというのが現在の日本人の姿ではないかとも言います。予備校時代、講師の先生が授業中に、女性が人前で大きな口をあけてものを食べたり、化粧をしたりするのは恥ずかしいことだと言っていたことを今でも覚えていますが、最近では電車の中で大口開けてパンをかじるのは、堂々と化粧をするのは、私は、校内を歩きながら、スカートをたくし上げて下にはいているスパッツや体操ズボン直す生徒に、「恥ず

かしいからやめなさい」と注意したり、すぐに廊下に座り込む生徒に、「見苦しいからやめなさい」と注意したりしてきました。最初はみんなきよんとしていました。何が恥ずかしいのか、どうして見苦しいのかわからなかったのです。まさに決定的に欠けているのは「自尊感情」、すなわち「感情資本」なのです。

家庭でも学校でも、「感情資本」や「文化資本」を十分に注入されないまま育って親となれば、当然子育てなどできようはずもありません。今、このような親と子の拡大再生産が行われているのです。教育の重要性をこの点からも認識するとともに、機能不全に陥ってしまった家庭や地域コミュニティの再生が急務だと思います。進んだ文明を押し戻すことはできませんが、経済効率優先のライフスタイルの転換も必要なかもしれません。条例で規定するような種類の話ではないと思います。





ドリョクニマサルテンサイナシ  
努力に勝る天才なし



〒555-0013 大阪市西淀川区千舟 3-8-22  
TEL.06-6472-2281 FAX.06-6472-2365  
URL.<http://www.koubun.ed.jp/>